開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa101
講義コード	2A2100100
講義名	アラビア語初級Ⅰ
担当者名	冨永　正人
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅰ(前期)では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	入門レベル(CEFR A1)のアラビア語を聞いて、読んで、話して、書く練習を中心に行います。また、アラブの文化に関する色々な視聴覚資料を観察し、自らの文化と比較しながら考え、クラスメイトと互いの意見を共有し、言語と文化への洞察力を養っていきます。履修生のみなさんには、自らテーマを決め、関連する情報や動画などを探し、積極的に情報共有を行うことを期待します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	① アラビア語を使って、以下の読み書きができる。 1)自分の名前を書くことができる。 2)短いテクストを書き写すことができる。 3)スマホやタブレットでアラビア語入力ができる。 4)アラビア語のLINEスタンプを読むことができる。 5)音声で身につけた表現を読むことができる。 6)アラビア語で書かれた国名や地名を読むことができる。 ② 以下のタスク遂行に必要なアラビア語を使うことができる。 1)挨拶ができる。 2)自己紹介ができる。 3)家族や友人を紹介できる。 4)地元や行ったことのある場所を紹介できる。 ③ アラブの文化に関する知識と関心を高める。
授業形態	演習
授業方法	教科書を週に1課のペースで進めます。毎回の授業では、以下のような活動を行います。 ① 聞く:教科書のダイアローグの内容や、教師やクラスメイトの発言を聞いて理解する。 ② 読む:教科書のダイアローグを音読する。 ③ 書く:教科書のダイアローグのディクテーション。 ④ 話す:教科書のダイアローグをもとに、クラスメイトと自分について話す。 ⑤ 文化:生のアラビア語素材を読み解いたり、写真や動画などを視聴する。
授業計画	【第1回】アラビア語ってどんな言語？ ／ アラビア文字とアルファベット 【第2回】自分の名前をアラビア語で書く、アラビア語で書かれた日本地図を読む 【第3回】「名前は～です」(教科書1課) 【第4回】「～の出身です」(2課) 【第5回】「お元気ですか」(3課) 【第6回】「これは～です」(4課) 【第7回】ダイアローグの音読テスト① 【第8回】「～は近い/遠いです」(5課) 【第9回】「この～は～です」(6課) 【第10回】「～に行きました」(7課) 【第11回】ダイアローグの音読テスト② 【第12回】表現できるようになったことの確認 【第13回】インタビュー試験、筆記試験
事前・事後学修	① 教科書付属の音声をよく聞いて、繰り返し音読しましょう。 ② 語句や文を、何度も書いて、しっかり身につけましょう。 ③ 自分に関する作文をし、使えるようにしましょう。 ④ 関心を持った文化トピックについて、自分で調べてみましょう。
成績評価方法・基準	ダイアローグの音読:20% ダイアローグのディクテーション:20%

	自己表現作文:20% インタビュー試験:20% 授業への取り組み:20%
教科書・指定図書	竹田敏之著『ニューエクスプレスプラス アラビア語』白水社
履修上の留意点	この授業では、ペアワークやグループワークを通じて、クラスメイトと協力しながら学んでいきます。遅刻したり、欠席したり、課題をやらなかったりすると、クラス全体の学習の進行を妨げてしまいます。クラスという小さなコミュニティの一員として、責任を持った行動を期待しています。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa102
講義コード	2A2100200
講義名	アラビア語初級Ⅱ
担当者名	冨永　正人
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅱ(後期)では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	初級レベル(CEFR A1～A2)のアラビア語を聞いて、読んで、話して、書く練習を中心に行います。また、アラブの文化に関する色々な視聴覚資料を観察し、自らの文化と比較しながら考え、クラスメイトと互いの意見を共有し、言語と文化への洞察力を養っていきます。履修生のみなさんには、自らテーマを決め、関連する情報や動画などを探し、積極的に情報共有を行うことを期待します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	① アラビア語を使って、以下の読み書きができる。 1)よく知っている表現を書き取ることができる。 2)パソコンでアラビア語入力ができる。 3)短いアラビア語の文を読むことができる。 4)アラブ世界の地図を読むことができる。 5)デザイン化された装飾文字から、知っている言葉を見つけることができる。 ② 以下のタスク遂行に必要な単純なアラビア語の文を使うことができる。 1)簡単な質問をしたり、答えたりできる。 2)どこに住んでいるか、何をしているか述べることができる。 3)体験や感想を述べることができる。 4)したいことや予定を述べることができる。 ③ アラブの文化に関する知識と関心を高める。
授業形態	演習
授業方法	教科書を週に1課のペースで進めます。毎回の授業では、以下の活動を行います。 ① 聞く:教科書のダイアローグの内容や、教師やクラスメイトの発言を聞いて理解する。 ② 読む:教科書のダイアローグを音読する。 ③ 書く:教科書のダイアローグのディクテーション。 ④ 話す:教科書のダイアローグをもとに、クラスメイトと自分について話す。 ⑤ 文化:生のアラビア語素材を読み解いたり、写真や動画などを視聴する。
授業計画	【第1回】春学期に学んだダイアローグと語彙の復習 【第2回】「(兄弟/姉妹)がいます」(教科書9課) 【第3回】「どちらの出身ですか」(9課) 【第4回】「～したことがありますか」(10課) 【第5回】「アラビア語を勉強しています」(11課) 【第6回】「～に住んでいます」 【第7回】「～を知っていますか」(12課) 【第8回】「～ので、アラビア語を勉強しています」(12課) 【第9回】「～したいです」(13課) 【第10回】「～は～より～です」(14課) 【第11回】「～と思います」(14課) 【第12回】表現できるようになったことの確認 【第13回】インタビュー試験、筆記試験
事前・事後学修	① 教科書付属の音声をよく聞いて、繰り返し音読しましょう。 ② 語句や文を、何度も書いて、身につけましょう。 ③ 自分に関する作文をし、使えるようにしましょう。 ④ 関心を持った文化トピックについて、自分で調べてみましょう。
成績評価方法・基準	ダイアローグの音読:20% ダイアローグのディクテーション:20% 自己表現作文:20%

	インタビュー試験：20% 授業への取り組み：20%
教科書・指定図書	竹田敏之著『ニューエクスプレス アラビア語』白水社
履修上の留意点	この授業では、ペアワークやグループワークを通じて、クラスメイトと協力しながら学んでいきます。遅刻したり、欠席したり、課題をやらなかったりすると、クラス全体の学習の進行を妨げてしまいます。クラスという小さなコミュニティの一員として、責任を持った行動を期待しています。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa103
講義コード	2A2100300
講義名	アラビア語初級Ⅲ
担当者名	平野　貴大
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	この授業は、アラビア語を一から学んでいくものです。特に文字の読み書きと、基礎的な文法を学びます。 まずは文字の読み書きの練習から始めます。アラビア語は英語のようなローマ字ではなく、独自のアラビア文字で書かれます。アラビア文字は組み合わせで形が変わったりして、最初は慣れるのに時間がかかるかもしれません。ですが、一度覚えてしまえば、暗号のような文字がローマ字と同じように意味のあるものとして感じられるはずです。 外国語を学上では文法の理解は不可欠です。そこで、文字を覚えた後は、名詞の使い方、文章の作り方、そして動詞の使い方を学んでいきます。ここまで来れば、後は自分のことをアラビア語で簡単に説明できるようになるでしょう。
科目の到達目標（理解のレベル）	アラビア語アルファベットの28文字を問題なく書けるようにします。また、それぞれの文字の発音を学んでいきます。その後は、名詞について学びますが、名詞には男性名詞と女性名詞があります。この違いは最後の文字を見ればすぐにわかるので、名詞の性別の見分け方、文の中での使い方を勉強していきます。その後に、名詞を並べて簡単な文章を作れるようにします。最後に簡単な動詞を学んで、動詞を使った文を作れるようにします。
授業形態	演習
授業方法	この授業は講義と演習の両方であると考えてください。まず、こちらから文法の説明をします。その後で実際に演習するという形です。 指定の教科書をベースにしながら、受講生のペースに合わせてゆっくり進めていきます。授業では前回までに習ったことを復習することから始めて、大切なことは繰り返し復習します。授業はこちらからの一方的なものにならないようにし、毎回受講生とのコミュニケーションを心がけます。これを通じて、1人1人に適切な指導をします。
授業計画	【第1回】イントロダクション この授業の方針、評価方法の説明、受講生の関心を聞く、など。 【第2回】アラビア文字の読み書き： 最初の14文字を実際に書いて発音練習。実際に手で書いてみて、綺麗に書けるように練習する。 【第3回】アラビア文字の読み書き： 残りの14文字を実際に書いて発音練習。実際に手で書いてみて、綺麗に書けるように練習する。 【第4回】アラビア文字の読み書き 文字と文字をつなげて書けるようにする。実際に手で書いてみて、綺麗に書けるように練習する。 【第5回】挨拶、名詞をつなげて文をつくる 教科書1課「ようこそ」から学んでいき、挨拶を覚える。 【第6回】名詞をつなげて文をつくる、自己紹介 教科書2課「あなたは東京出身ですか」。1人称、2人称を学ぶ。 【第7回】名詞の格、名詞の性 教科書3課「お元気ですか」、男性名詞と女性名詞 【第8回】名詞の格、名詞の性別 教科書4課「彼女の名前はファーティマです」3人称の表現を学んでいく。 【第9回】定冠詞alと不定の違い 教科書5課「おはようございます」、母音記号も学んでいく。 【第10回】「AはBである」、「AはBではない」、「AはBですか？」 教科書6課これらの基本的な文を読んで内容を理解できるようにする。 【第11回】動詞の完了形 教科書7課「アラビア語を学んだことがありますか？」 【第12回】未完了形の練習 【第13回】文法テストと答え合わせ これまでに習った内容の確認。進み具合にもよるが教科書では最初から第7課くらい。

事前・事後学修	予習は余力のある方以外はあまりしなくて構いません。むしろ、アラビア語は初めて習う言語ですので、復習を大事にしてください。毎回の授業ではこちらで重要事項は解説し、板書でも示します。それをノートにメモしてもらい、次の授業までに見直してきてください。 また、成績評価に課題を入れています。課題はmanabaかプリントで配布しますので、それを取り組み提出してください。わからないことがあれば、いつでも質問してください。
成績評価方法・基準	平常点　40% 課題　20% 期末試験　40% 平常点は出席点ではなく、授業への取り組みです。私語、授業中のスマホ等の使用、別の授業の課題に取り組むなど、は一度であっても大幅に減点します。また、欠席や大幅な遅刻は減点対象とします。 課題はそれまでの内容の復習として文法問題を出したりします。課題の出来だけではなく、期限内にきちんと提出できているかも課題の評価の対象としています。 文法テストはこれまでの内容が理解できているかを試す筆記試験です。
教科書・指定図書	教科書：竹田敏之『ニューエクスプレスプラス　アラビア語』白水社、2019年。 参考書：新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年。
履修上の留意点	初めて学言語ですので、一度でも休むと、次の授業がたいへんかもしれません。もし何かわからないことがあれば、いつでも気兼ねなく質問してください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa104
講義コード	2A2100400
講義名	アラビア語初級Ⅳ
担当者名	平野　貴大
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	この授業は、前期で学んだアラビア語文法の基礎をもとに、動詞を使った文章を中心に文法を学んでいきます。 後期のは前期の内容を発展させるものです。そのため、最初の2回の授業では文字の書き方からもう一度復習し、前期までの内容を定着させていきます。英語は過去形、現在形、未来形と3つの時制がありましたが、アラビア語の動詞の時制は完了形と未完了形の2つです。この2つの時制の使い方を覚えれば、アラビア語の文章はだいぶ読めるようになります。授業では教科書の表現だけではなく、皆さんも楽しく読めるような文章をたくさん紹介したいと思います。文の読み方にも慣れながら、アラビア語の動詞の時制、名詞の格変化、数の表現などを学んでいきます。
科目の到達目標（理解のレベル）	アラビア文字は何でもきちんと、また、きれいに書けるようにします。そして、単語を並べて文を作れるようにし、相手に何かを質問したり、相手からの質問に否定で答えたりができるようにします。また、動詞を使った文を読み書きできるようにします。この様な文法・表現を学ぶことで、最終的には簡単な文を読んで理解できるようにします。 アラビア語の時制を使い分けて、主に過去を表す完了形、主に現在・未来を表す未完了形の活用を教科書を見ずにできるようにします。
授業形態	演習
授業方法	この授業は講義と演習の両方であると考えてください。まず、こちらから文法の説明をします。その後で実際に演習するという形です。 指定の教科書をベースにしながら、受講生のペースに合わせてゆっくり進めていきます。授業では前回までに習ったことを復習することから始めて、大切なことは繰り返し復習します。授業はこちらからの一方的なものにならないようにし、毎回受講生とのコミュニケーションを心がけます。これを通じて、1人1人に適切な指導をします。
授業計画	【第1回】イントロダクション 文字の書き方、母音記号の付け方から確認していく。前期に習った内容で苦手な部分を確認。 【第2回】完了形、前置詞 8課「あなたに兄弟はいますか？」完了形、前置詞、「～を持っている」 【第3回】完了形、前置詞 9課「私たちはいまピラミッドのまえにいます」主語が複数の場合の完了形 【第4回】動詞の完了形、前置詞の復習 練習問題、作文、日訳 【第5回】男性複数 10課「私たちはいまピラミッドのまえにいます」前半 【第6回】女性複数 11課「日本には多くの大学がありますか」 【第7回】動詞の未完了形 11課および12課「コシャリを食べたことはありません」 【第8回】動詞の未完了形 13課「「サラーム」書店に行きたいです」 【第9回】～したい 14課「どちらがより近いですか」 【第10回】比較級・最上級 14課から。 【第11回】未完了形と比較級・最上級の復習 【第12回】文法試験 【第13回】文法試験解説、総復習
事前・事後学修	予習は余力のある方以外はあまりしなくて構いません。むしろ、アラビア語は初めて習う言語ですので、復習を大事にしてください。毎回の授業ではこちらで重要事項は解説し、板書でも示します。それをノートにメモしてもらい、次の授業までに見直してきてください。 また、成績評価に課題を入れています。課題はmanabaかプリントで配布しますので、それを取り組み提出してください。わからないことがあれば、いつでも質問してください。

成績評価方法・基準	平常点　40% 課題　20% 期末試験　40% 平常点は出席点ではなく、授業への取り組みです。私語、授業中のスマホ等の使用、別の授業の課題に取り組むなど、は一度であっても大幅に減点します。また、欠席や大幅な遅刻は減点対象とします。 課題はそれまでの内容の復習として文法問題を出したりします。課題の出来だけではなく、期限内にきちんと提出できているかも課題の評価の対象としています。文法事項は時間を空ければどうしても忘れてしまうものですから、定期的に課題を出していきます。 期末試験はこれまでの内容が理解できているかを試す筆記試験です。
教科書・指定図書	前期と同じ教科書です。 教科書：竹田敏之『ニューエクスプレスプラス　アラビア語』白水社、2019年。 参考書：新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年。
履修上の留意点	この授業でわからなかったことがあれば、また、前期を受講していなかったり、前期のことでわからないことがなどあれば、いつでも気兼ねなく質問してください。 一度欠席すると追いつくのが難しいかもしれないので、毎回の出席をお願いします。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa201
講義コード	2A2101100
講義名	アラビア語中級Ⅰ
担当者名	川上　かおり
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
授業の内容	初級の学習を踏まえ、アラビア語の広まりとその文化的、宗教的影響力について確認する。28文字からなるこの文字と言葉が15億をこえるイスラーム世界の共通語となっていることからアラビア語の学習にはアラブ諸国の文化やイスラームや慣習について理解を深めることが重要である。会話においてもそうした文化的背景が確認できる表現を取り上げて学習する。初級で学んだ文字について、アラビア語独特の発音を中級でも何度でも繰り返して練習する。文法面では基本形動詞の完了形、未完了形、接続形、要求形、命令形、否定動詞ライサ、カーナ(be動詞にあたる)、派生形動詞の完了形、未完了形の活用と用法を学び、平易な文が読み書きできるようになることを目指す。
科目の到達目標 (理解のレベル)	初級段階で学んだ基本事項を復習し、文字の発音についてはより正確に発音でき、母音記号の仕組みを把握すること。アラビア語による授業内での挨拶、授業を進めるうえで必要な表現に慣れ、求められていることに対応できすようになる。文法に関しては、数の仕組み、単数、双数、複数、複数に関しては性の区別、これらをしっかり理解することが重要である。数の概念を使った時間、曜日、年月日、などの表現を動詞とともに使いこなせるようになることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	履修生の理解度、慣れぐあいを確認しつつ、テキストと視聴覚教材を使ってなるべく多くの音声を聞いてリスニングと会話の練習を行い、文法事項も説明する。初級で練習しているが、再度日本語にはない音(サード、ダード、カーフ、アイン、ガインなど)や日本人には同じ音に聞こえる音(サードとスィーン、ダードとダール、ザーとザーイなど)の区別についても練習する。また動詞が加わる文法説明とライティングの練習にも十分時間をかけて行う。
授業計画	受講生の語学力、理解度を確認しながら進めていくが以下の予定となる。 【第1回】自己紹介。これまでの学習事項と授業の進め方を確認。 【第2回】会話文の読解、単語、【文法】完了形 【第3回】会話文の読解、単語、【文法】未完了形 【第4回】会話文の読解、単語、【文法】否定動詞ライサ 【第5回】会話文の読解、単語、【文法】カーナ 【第6回】会話文の読解、単語、【文法】接続形 【第7回】会話文の読解、単語、【文法】短形 【第8回】会話文の読解、単語、【文法】命令形 【第9回】会話文の読解、単語、【文法】派生形 【第10回】会話文の読解、単語、【文法】派生形 【第11回】会話文の読解、単語、【文法】数詞 【第12回】会話文の読解、単語、【文法】序数 【第13回】総復習・振り返り

事前・事後学修	各自の興味やタイプ(視覚型／聴覚型)を意識して、各自が設定したアラビア語学習の目標に向かって取り組み、授業に臨むこと。各自の夢に向かって楽しんで取り組み、チェックリストで達成率を確認しながら語学力を強化する。アラビア語を学習できる場はまだ多くはない。会話、文法ともにしっかり練習し、ノートにとり、復習できるようにしておくこと。分からないことがある場合はいつでもよいので授業時に、またはメールで問い合わせること。質問は歓迎する。
成績評価方法・基準	総合評価(60%)とミニテスト(20%)課題提出(20%)で評価する。 総合評価では授業中の態度、積極的参加、出席率、予習復習をどれだけきちんとやってきたか、課題の単語をどれだけ暗記できたか、アラビア文字で表記できるようになったか、発音が正確になったかどうかを評価する。学んだ単語を語彙として定着させ、文法を理解して、例文に倣った応用文を作れるかどうかもポイントなる。課題提出については、単語や文法の練習問題を期日内に提出いるかどうかで評価する。
教科書・指定図書	文法テキスト『アラビア語の法則』 http://arabiya.d.dooo.jp/index.htm
履修上の留意点	欠席をしないこと。プリントをきちんと整理して、予習・復習を欠かさず、単語を暗記して、会話力をのばすこと。 アラブ世界や日本に関するいろいろなニュースに注意を払い問題意識を高める努力を怠らないこと。 アラブ音楽や、トレンディな話題やアラブ料理など文化について折に触れ紹介するので、違いや共通点の発見を楽しみながら、学習すること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa202
講義コード	2A2101200
講義名	アラビア語中級Ⅱ
担当者名	川上　かおり
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきることは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
授業の内容	中級Ⅰの学習を踏まえ、アラビア語の広まりとその文化的、宗教的影響力について再度確認する。28文字からなるこの文字と言葉が15億をこえるイスラーム世界の共通語となっていることからアラビア語の学習にはアラブ諸国の文化やイスラームや慣習について理解を深めることが重要である。会話においてもそうした文化的背景が確認できる表現を取り上げて学習する。文字については、アラビア語独特の発音を本授業でも何度でも繰り返して練習する。文法面では基本形動詞の完了形、未完了形、接続形、要求形、命令形、否定動詞ライサ、カーナ(be動詞にあたる)、派生形動詞の完了形、未完了形の活用と用法を、数詞、助数詞の使い方を復習、確認し、比較級や条件詞の使い方などを加えアラビア語会話の運用能力と読解力の向上を図る。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ネイティブの発想に基づく基本文法の理解を踏まえ、様々な動詞のバリエーションを使った基本会話を運用できることを目標とする。そのためにアラビア語文法の全体像をこの授業で把握すること。動詞の様々なバリエーション、未完了形をもとにした接続形や要求形の使用方法は再度取り上げるので願望や否定表現のバリエーションとともにしっかり理解すること。また条件文や形容詞から派生する比較級と最上級の使い方についてもしっかり理解すること。
授業形態	演習
授業方法	履修生の理解度、慣れぐあいを確認しつつ、テキストと視聴覚教材を使ってなるべく多くの音声を聞いてリスニングと会話の練習を行い、文法事項も説明する。初級、中級Ⅰで練習しているが、再度日本語にはない音(サード、ダード、カーフ、アイン、ガインなど)や日本人には同じ音に聞こえる音(サードとスィーン、ダードとダール、ザーとザーイなど)の区別についても練習する。また動詞が加わる文法説明とライティングの練習にも十分時間をかけて行う。
授業計画	受講生の学習事項を確認して進めるが以下の予定となる。 【第1回】これまでの学習事項の理解度の確認。 【第2回】否定動詞ライサとライサを使った会話練習。「Aは、Bである」型文の否定の仕方 【第3回】タイムマシン『カーナ号』。カーナを使った会話の練習。「Aは、Bである」型文の過去 【第4回】ガイルとそれを使った会話の練習。「Aは、Bである」型文のライサを使わない否定の仕方 【第5回】疑問詞の種類と使い方。(何、だれ、どこ、いつ、どうして、どうやって、いかなるなど) 【第6回】願望・必要・予想とそれを使った会話の練習。動詞接続形の使い方の確認 【第7回】比較級・最上級とそれを使った会話の練習。形容詞から比較級の作り方とその他の比較方法 【第8回】接続詞とそれを使った会話の練習。(ワ、ファ、スンマ、ラーキン、ワラーキンなど) 【第9回時間】条件文とそれを使った会話の練習。(イザー、イン、ラウ、など)　インシャーアッラーの使い方 【第10回】前置詞・副詞とそれを使った会話の練習。所有表表現に使う前置詞について 【第11回】数詞の使い方。数える対象となっている名詞の性と数詞の関係、数詞と格変化 【第12回】序数詞の使い方。時刻・日・曜日・月・年月日、季節表現の使い方の確認。 【第13回】自己紹介から願望表現まで、学習会話の復習と文法事項の確認
事前・事後学修	各自の興味やタイプ(視覚型／聴覚型)を意識して、各自が設定したアラビア語学習の目標に向かって取り組み、授業に臨むこと。各自の夢に向かって楽しんで取り組み、チェックリストで達成率を確認しながら語学力を強化する。アラビア語を学習できる場はまだ多くはない。会話、文法とも

	にしっかり練習し、ノートにとり、復習できるようにしておくこと。分からないことがある場合はいつでもよいので授業時に、またはメールで問い合わせること。質問は歓迎する。
成績評価方法・基準	試験(70%)と課題提出(30%)で評価する。 試験では単語の発音がより正確になったかどうかを確認する。履修生それぞれの願望や希望、また条件文を含む表現が使いこなせているかどうか、適切な動詞の変化を用いているかどうかががポイントとなる。また数詞については本授業でもその使い方がより正確になったかどうかを確認し評価する。課題提出については、文法の理解を確認するために出された課題をきちんと終えて提出しているかどうかで評価する。
教科書・指定図書	文法テキスト『アラビア語の法則』 http://arabiya.d.dooo.jp/index.htm
履修上の留意点	欠席をしないこと。テキストの音声を繰り返し聞いて、会話力をのばすこと。 アラブ世界や日本に関するいろいろなニュースに注意を払い問題意識を高める努力を怠らないこと。アラビア語圏の地理や歴史、社会についても学び、国際人にふさわしい教養を培う。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa203
講義コード	2A2101300
講義名	アラビア語中級Ⅲ
担当者名	平野　貴大
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
授業の内容	この授業では初級で学んだ文法事項をもとに、もう少し細かいところまでを学んでいきます。毎回テーマに沿った文法事項を学び、それに関する問題文を解いていきます。まずは、動詞の完了形と未完了形までを簡単に復習していきます。その後は、初級より細かい表現を学び、アラビア語の確かな知識を身につけていきます。最後には簡単な読み物を読んでいきます。 アラビア語を学ぶに際して日本語の教科書だけ見ていても興味が薄くなってしまうかもしれませんが、この授業ではサウジやモロッコといったアラブの国で使われている外国人用、子供用の教科書も適宜参照していきます。これらの教材を通じて、アラビア語の知識だけなく、アラブの国々の文化に関する知識も深めていきます。
科目の到達目標（理解のレベル）	アラビア文字の筆記は当たり前のようにできるようにします。そして、母音記号のついた文章であれば、内容はわからなくともとりあえず音読することはできるようにします。ここまで来れば、アラビア文字の読み書きは習得したと言えます。次にアラビア語の初級文法を問題なく理解し、アラビア語の易しい文章に自分で母音記号をつけられるようにします。母音記号がきちんと付けられれば、もう文章を読むことができます。半期の授業を通じて、文章を読んで理解できるようにします。
授業形態	演習
授業方法	授業はこちらからの一方的なものにするのではなく、教員と受講生の間の対話形式をとります。そのため、1回の授業で何度も教員と受講生がやりとりし、全員の理解を深めていきます。このような形式によって、各受講生の得意な部分や苦手な部分を判断し、各人に応じた指導も行います。 授業では、テキストを読みながら、全員で文法がどうなっているか、文の意味がどのようになるかを考えていきます。初めて習う文法事項は時間を割いて丁寧に説明していきます。
授業計画	【第1回】オリエンテーション 文字の読み書き、動詞の完了形と未完了形の活用など、初級で学んだことの確認 【第2回】初級の授業の内容の復習 名詞文、動詞文、時制、に関する文法問題を解きながら、文を読んでみる。 【第3回】外国人が学ぶアラビア語 インドネシア教科書1巻 【第4回】外国人が学ぶアラビア語 インドネシア教科書2巻 【第5回】外国人が学ぶアラビア語 インドネシア教科書3巻 【第6回】会話の文を読解 サウジアラビア教科書：pp. 20−23 自己紹介などの表現を学んでいく。そこから、アラブ文化も学ぶ。 【第7回】会話の文を読解 サウジアラビア教科書：pp. 24−26 自己紹介などの表現を学んでいく。そこから、アラブの国名なども学ぶ。 【第8回】会話の文を読解 サウジアラビア教科書：pp. 39−40 自己紹介などの表現を学んでいく。そこから、外国人に対するアラビア語教育の状況も学ぶ。 【第9回】アラブ人の名前、仕事 サウジアラビア教科書：pp. 39−40 自己紹介などの表現を学んでいく。そこから、アラブの名前や仕事の言い方などの表現を中心に学。 【第10回】完了形の復習 動詞の完了形を総復習して、定着を図る。さまざまな文脈で練習する。 【第11回】未完了形の復習 動詞の未完了形を総復習して、定着を図る。さまざまな文脈で練習する。 【第12回】モロッコの小児用教科書　読解 モロッコで小さい子供たちのために売られている学習書を読んでいく。そこから、イスラームとモロッコ文化を学ぶ。 【第13回】モロッコの小児用教科書　読解 モロッコで小さい子供たちのために売られている学習書を前の授業から続けて読み進める。そこから、イスラームとモロッコ文化を学ぶ。

事前・事後学修	予習は余力のある場合のみで構いませんので、復習に時間を割いてください。アラビア語は日本人には馴染みのあまりない言語です。しばらく勉強期間を空けてしまうと、また思い出すのに時間がかかると思います。そのため、毎回の授業の内容を何度も見直し、文法事項、表現を身につけていってください。 成績評価の一部として課題を出しますので、それを提出期限までに提出してください。辞書があるとやりやすいので、課題の中の単語を調べてきてください。
成績評価方法・基準	平常点　40% 課題　30% 期末試験　30% 平常点は出席を前提として授業への取り組みを評価します。授業中の私語、立ち歩き、授業とは別のものに取り組む、スマホの使用、などは1度であっても大幅に減点します。 習った文法事項の定着のために、定期的に課題を出します。課題では、どれくらいできているか、提出期限を守れているかなどを、評価します。 期末試験は、この授業で学んだことが定着しているかを確認するものです。
教科書・指定図書	なし
履修上の留意点	シラバスにあるインドネシア、サウジアラビア、モロッコの教科書などはこちらで準備し、配布します。 その他、受講生の人数によっては、関心のあることに合わせて上の内容を変更することがあります。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa204
講義コード	2A2101400
講義名	アラビア語中級Ⅳ
担当者名	平野　貴大
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
授業の内容	この授業では初級で学んだ文法事項をもとに、もう少し細かいところまでを学んでいきます。受講生の中にはアル・ジャズィーラという名前を聞いたことがあるかもしれません。アル・ジャズィーラとは中東で最も大きな影響力を持つ放送局の1つです。この授業ではアル・ジャズィーラの運営するアラビア語学習サイトを教材とします。各回の授業の内容は会話文の読解、および、そのリスニングです。リスニング教材を利用しますが、文法事項をしっかりと学んでいきます。前期までに学んだ動詞の活用以外にも、動詞の派生形というものも存在します。このような発展的な文法事項を日頃よく使うような会話表現から学んでいき、苦労なく使えるように練習していきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	アラビア語のあいさつ表現、簡単な会話表現を理解し、自由に使えるようにします。日常会話の文を読み解くことによって、会話に必要な文法を身につけます。 各回の文章の読解を通じて、アラビア語文法の理解を深めていきます。そして、会話文や易しい読み物を自ら読解し、その意味を理解できるようにします。そして、授業で復習として以前に扱った素材を取り上げた際には、教員や他の受講生に対して、文法的な説明をできるようにします。
授業形態	演習
授業方法	授業はこちらからの一方的なものにするのではなく、教員と受講生の間の対話形式をとります。そのため、1回の授業で何度も教員と受講生がやりとりし、全員の理解を深めていきます。このような形式によって、各受講生の得意な部分や苦手な部分を判断し、各人に応じた指導も行います。 授業では、テキストを読みながら、全員で文法がどうなっているか、文の意味がどのようになるかを考えていきます。初めて習う文法事項は時間を割いて丁寧に説明していきます。
授業計画	【第1回】オリエンテーション：以下、各課の名前の英語訳を記載 前期の復習 【第2回】Nice to meet you 読解、練習問題、文法説明 【第3回】Who are you? 読解、練習問題、文法説明 【第4回】My family 読解、練習問題、文法説明 【第5回】2回目4回目までのテキストのリスニング、ディクテーション 【第6回】Filling a Library Card, An Arabic Language Teaching Center 読解、練習問題、文法説明 【第7回】An Arabic Language Teaching Center, Why learn Arabic? 読解、練習問題、文法説明 【第8回】Why learn Arabic? 読解、練習問題、文法説明 【第9回】アルジャズィーラ学習ページの中の新聞記事から選んで読解 【第10回】At the Passport Office 読解、練習問題、文法説明 【第11回】A (travel) ticket 読解、練習問題、文法説明 【第12回】アルジャズィーラ学習ページの中の新聞記事から選んで読解 【第13回】11回、12回のリスニングとディクテーション
事前・事後学修	予習は余力のある場合のみで構いませんので、復習に時間を割いてください。アラビア語は日本人には馴染みのあまりない言語です。しばらく勉強期間を空けてしまうと、また思い出すのに時間がかかると思います。そのため、毎回の授業の内容を何度も見直し、文法事項、表現を身につけていってください。 成績評価の一部として課題を出しますので、それを提出期限までに提出してください。辞書があるとやりやすいので、課題の中の単語を調べてきてください。

成績評価方法・基準	平常点　40% 課題　30% 期末試験　30% 平常点は出席を前提として授業への取り組みを評価します。授業中の私語、立ち歩き、授業とは別のものに取り組む、スマホの使用、などは1度であっても大幅に減点します。 習った文法事項の定着のために、定期的に課題を出します。課題では、どれくらいできているか、提出期限を守れているかなどを、評価します。 期末試験は、この授業で学んだことが定着しているかを確認するものです。
教科書・指定図書	本授業ではアラブ圏でとても大きな影響力を持つ通信社アルジャズィーラのアラビア語学習ページをもとに進めます。 https://learning.aljazeera.net/en/lessons/level/beginner
履修上の留意点	何かわからないことがあれば、いつでも質問してください。 欠席は他の受講生の負担にもなりますので、なるべく出席してください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa205
講義コード	2A2101500
講義名	アラビア語中級Ⅴ
担当者名	岡崎　弘樹
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	外国語初級を一通り学習した学生がその知識をさらに確かなものにしていく実践的な学習が、表現能力の訓練である。ここでは、簡単な日常の事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とし、各言語独自の言い回しや言葉の使い方などを中心に学び、作文力や会話能力の向上を目指す。
授業の内容	1)テキストと映像を使って会話能力の向上を図る授業を行う。初級で学習した基本文法事項を踏まえつつ必要があれば、再度丁寧に繰り返して説明をする。 2)主に視聴覚教材を通じて旅行に必要なアラビア語会話を学習する。ホテルから町へ出るためのスタッフとの会話、レンタカーを借りる時の会話、体調を崩した時の会話、商談で事務所を訪問するときの会話、食事に招待されたときの会話などを取り上げ、状況に即した重要表現を学習する。また毎回関連する文法事項についても学習する。 3)余力がある場合には、アニメーションのーシーンを取り上げ、さらなる会話の応用表現を実践的に学ぶ。日本のアニメのアラビア語版(「キャプテン翼」や「ちびまる子ちゃん」)、あるいはアラブ諸国で制作されたアニメを用いる予定。
科目の到達目標 (理解のレベル)	1)学生が、アラブ人の文化的背景を理解し、アラビア語独特の表現とその意図を理解したうえで基本会話ができることを目標とする。アラブ人は挨拶を大切にする人々であり、見知らぬ人とも自然に挨拶を交わす。こうした表現をアラブの文化的背景を理解して使えるようになることと、アラブ人の感情と密接につながっている宗教的な背景を有する表現にも理解を深めることが目標となる。 2)さらにネイティブと実際に会話する時には決まりきった話題に留まることはあり得ないことから、アニメーション教材を用いて想定外の話題や状況にも対応できるような実践的な表現を学ぶ。
授業形態	演習
授業方法	1)対面可能な場合は対面で授業を実施する。 2)適宜小テストやアラビア語ライティングを実施し、提出。講師やTAによる添削を受ける。小テストに関しては新出の単語やイディオム、ならびに文法事項(規則動詞・不規則動詞の活用8パターン)などについて問う。アラビア語ライティングについては、実際に遭遇する場面に応じた文章の作成を試みる。
授業計画	初級の理解度を確認して行うが、メインの題材については以下の予定となる。またKristen Brustad, Mahmoud Al-Batal, and Abbas Al-Tonsi著のAl-Kitaab fii Ta'allum al-'Arabiyya with DVD: A Textbook for Beginning Arabic, Part 1 (2nd ed.), Georgetown University Press, 2004の第1課～第7課の中から授業にふさわしい題材を選ぶ。余力に応じて、アニメーションのーシーンを切り取った教材も用いる。 【第1回】 初級の復習 【第2回】 ホテルから町へ出かける際のフロントでの会話①。単語と文法事項の確認。 【第3回】 ホテルから町へ出かける際のフロントでの会話②。会話内容の確認と練習。 【第4回】 レンタカー事務所での専属スタッフとの会話①。単語と文法事項の確認。 【第5回】 レンタカー事務所での専属スタッフとの会話②。会話内容の確認と練習。 【第6回】 医者にかかる際、同伴スタッフと医者との会話①。単語と文法事項の確認。 【第7回】 医者にかかる際、同伴スタッフと医者との会話②。会話内容の確認と練習。 【第8回】 アポイントを取り事務所を訪問する際の会話①。単語と文法事項の確認。 【第9回】 アポイントを取り事務所を訪問する際の会話②。会話内容の確認と練習。 【第10回】 友人にレストランの食事に招待された際の会話①。単語と文法事項の確認。 【第11回】 友人にレストランの食事に招待された際の会話②。会話内容の確認と練習。 【第12回】 アラブ世界の観光地を巡る際の会話応用編①(東アラブ編:ピラミッド、パルミラ) 。

	【第13回】 アラブ世界の観光地を巡る際の会話応用編②(北アフリカ編:フェズ、カスバ)。
事前・事後学修	1)授業前の予習では新出の単語や表現に関して自分なりに調べ、訳出する。その際、自分の理解した部分と、理解できなかった部分をしっかり把握する。 2)授業後の復習においては、学習事項を振り返り、書写、発音を繰り返して練習しておくこと。音声については、指定するサイトにアクセスし、発音を繰り返し練習すること。また添削を受けた小テストを必ず見直し、適切な形で書けるように練習すること。 3)アラビア語が使用されている国々や地域を紹介したサイトやアラビア語が使われている関連の情報や映画を紹介するので、それらを教材として見て問題意識を高めておくこと。
成績評価方法・基準	授業中の書き取りや会話テスト40%、最終試験60%で評価する。会話テストは、履修生間でロール・プレイをして会話を再生できるかどうかがポイントとなる。単語テストは、会話に使用された単語に加えてテキストに示された関連単語と表現にも対応できるかどうかがポイントとなる。文法テストは、初級で学んだ文法事項(規則動詞・不規則動詞の活用8パターンなど)を把握するとともに、本講義の各課で説明した文法事項とその応用について理解できているかどうかがポイントとなる。
教科書・指定図書	教材は、随時プリントで配布するか、あるいはmanabaで配信する。
履修上の留意点	1)「文法を理解し文章を読むことは可能だが、とにかく話すのが苦手」というのが日本のアラビア語学習者にしばしばみられる特徴のようです。恥を捨て、授業中にとにかくアラビア語で声に出して話すよう努力してください。 2)テレビの国際ニュースあるいは新聞の国際欄に日常的に触れ、現在何が起こっているのかについて関心を高めておいてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAa206
講義コード	2A2101600
講義名	アラビア語中級VI
担当者名	岡崎　弘樹
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	より高度な事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とする。学習の仕方は、外国語中級Vと変わりはないが、作文では、より上手な文章作りができるよう学習し、会話では、適切な言葉や慣用表現が上手に使えるように練習していく。
授業の内容	1)受講生のこれまでの学習内容と理解度、また関心事項を確認してから決めることになるが、アラブ世界の価値観とアラブ・イスラーム文化にふれる内容の会話例文を含むテキストを学習する。アラビア語の学習教材の中から現地学習者用に作成されたテキストを取り上げることになる。日本にいながら留学生の生活を身近に感じられるテーマを選び、現地の生活や学習方法についても説明を加えながら読解力と表現力の強化を図る。 2)余力がある場合には、アニメーションのーシーンを取り上げ、さらなる会話の応用表現を実践的に学ぶ。日本のアニメのアラビア語版(「キャプテン翼」や「ちびまる子ちゃん」)、あるいはアラブ諸国で制作されたアニメを用いる予定。
科目の到達目標 (理解のレベル)	1)学生が、まとまったアラビア語の文を読み、全体の意味を把握できるようになることを目標とする。使われる動詞も基本3語根動詞と不規則な活用をする特殊な動詞と多岐にわたってくるが、これら動詞の特徴と活用を見極めることができなければならない。また動詞先行文と名詞先行文における動詞の人称活用の区別についても理解を深めることが求められる。単語に関しては、派生形の仕組みを理解し、派生形から3語根を選び辞書の項目を見出すことができるようにならなければならない。 2)さらにネイティブと実際に会話する時には決まりきった話題に留まることはあり得ないことから、アニメーション教材を用いて想定外の話題や状況にも対応できるような実践的な表現を学ぶ。
授業形態	演習
授業方法	1)対面可能な場合は対面で授業を実施する。 2)適宜小テストやアラビア語ライティングを実施し、提出。講師やTAによる添削を受ける。小テストに関しては新出の単語やイディオム、ならびに文法事項(代表的な不規則動詞やその時制の変化、仮定法、否定など)について問う。アラビア語ライティングについては、実際に遭遇する場面に応じた文章の作成を試みる。
授業計画	受講生の理解度を確認しつつ進めていくが、以下のような予定となる。またKristen Brustad, Mahmoud Al-Batal, and Abbas Al-Tonsi著のAl-Kitaab fii Ta'allum al-'Arabiyya with DVD: A Textbook for Beginning Arabic, Part 1 (2nd ed.), Georgetown University Press, 2004の第1課～第7課の中から授業にふさわしい題材を選ぶ。余力に応じて、アニメーションのーシーンを編集した教材も用いる。 【第1回】 これまでの学習内容と理解度の確認。テキストの内容と構成について説明。 【第2回】 テキスト第1課「スライマーンの現地留学①」。テーマの解説と単語の説明。 【第3回】 テキスト第1課「スライマーンの現地留学②」。本文の読解と文法事項の説明。 【第4回】 テキスト第1課「スラーマーンの現地留学③」。練習問題と音読、書き取り。 【第5回】 テキスト第2課「アフマドの腹痛の病院①」。テーマの解説と単語の説明。 【第6回】 テキスト第2課「アフマドの腹痛と病院②」。本文の読解と文法事項の説明。 【第7回】 テキスト第2課「アフマドの腹痛と病院③」。練習問題と音読、書き取り。 【第8回】 テキスト第3課「友人たちのスークでの買い物①」。テーマの解説と単語の説明。 【第9回】 テキスト第3課「友人たちとスークでの買い物②」。本文の読解と文法事項の説明。 【第10回】 テキスト第3課「友人たちとスークでの買い物③」。練習問題と音読、書き取り。 【第11回】 テキスト第4課「サウジアラビア王国について①」。テーマの解説と単語の説明。 【第12回】 テキスト第4課「サウジアラビア王国について②」。本文の読解と文法事項の説明。

	【第13回】 テキスト第4課「サウジアラビア王国について③」。練習問題と音読、書き取り。
事前・事後学修	1)授業前の予習では新出の単語や表現に関して自分なりに調べ、訳出する。その際、自分の理解した部分と、理解できなかった部分をしっかり把握する。 2)授業後の復習においては、学習事項を振り返り、書写、発音を繰り返して練習しておくこと。音声については、用意された音声ファイルを通じて、発音を繰り返し練習すること。また添削を受けた小テストを必ず見直し、適切な形で書けるように練習すること。 3)アラビア語が使用されている国々や地域を紹介したサイトやアラビア語が使われている関連の情報や映画を紹介するので、それらを教材として見て問題意識を高めておくこと。
成績評価方法・基準	授業中の書き取り・オーラルテスト40%、最終試験60%で評価する。オーラルの会話テストは、履修生間でロール・プレイをして会話を再生できるかどうかがポイントとなる。単語テストは、会話に使用された単語に加えてテキストに示された関連単語と表現にも対応できるかどうかがポイントとなる。文法テストは、以前に学んだ文法事項(代表的な不規則動詞やその時制の変化、仮定法、否定など)を把握するとともに、本講義の各課で説明した文法事項とその応用について理解できているかどうかがポイントとなる。
教科書・指定図書	教材は、随時プリントで配布するか、あるいはmanabaで配信する。
履修上の留意点	1)「文法を理解し文章を読むことは可能だが、とにかく話すのが苦手」というのが日本のアラビア語学習者にしばしばみられる特徴のようです。恥を捨て、授業中にとにかくアラビア語で声に出して話すよう努力してください。 2)テレビの国際ニュースあるいは新聞の国際欄に日常的に触れ、現在何が起こっているのかについて関心を高めておいてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi101
講義コード	2A2200100
講義名	インドネシア語初級 I
担当者名	小笠原　健二
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。I(前期)では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	本講座は、これからこの言葉を学んでみたいと希望する初学者を対象にした読本のクラスです。しかし、講義の当初から書物が読めるわけではありません。読本にいたるまでの助走訓練が大切になることでしょう。こうした見地から、本講座では、インドネシアの日常生活に最低限必要とされる読解力の習得をめざしますが、その授業内容は発音ならびに基本的な文章構造を理解することが中心となります。この基礎を踏まえた上で、読本に必要な基本的な文法の知識を充実させることになります。教本の第5課まで進む予定でおります。 インドネシア語はアルファベットで表記する言語であり、その発音はローマ字読みとなります。文章構造は英語に準じており、私たち日本人にとっては学びやすい言語と言えましょう。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話してみたく思います。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本講座の授業を通じて、インドネシア語の歴史的背景と言語的特徴が理解できます。これに続いて、発音と基本的文章構造を理解できるようになります。これらの学習を通じて、平易な文章を正しく読むために必要とされる基本的文法事項の習得を目標とします。そのため、本講座では発音ならびに基本的な文章構造を理解することが中心の授業内容となります。この基礎を踏まえた上で、読本に必要な基本的な文法の知識を充実させることになります。
授業形態	演習
授業方法	本講座では、インドネシア語教科書の各課にある文法事項をしっかりと学び、その内容を十分に理解したのちに練習問題を解くことになります。さらに、各課でポイントとなる重要事項を盛り込んだ課題にも挑戦してもらいます。その課題の内容は、日本語文をインドネシア語文に訳出してもらうものです。教員は学生のつくった文章を添削し、これを返却することで、学生のインドネシア語運用能力をさらに高めます。学生は確認、修正しながらインドネシア語の文構造を理解できるようになります。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話してみたく思います。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
授業計画	【第1回】イントロダクション 内容:今後の授業運営についての説明。 【第2回】言語と文化(1) 内容:インドネシア語の歴史的背景を、植民地支配を中心とした世界史的視野から説明する。 【第3回】言語と文化(2) 内容:インドネシア社会の構造的特徴を説明し、そこにおける二人称の重要性を指摘する。 【第4回】インドネシア語の特徴(1) 内容:英語との比較を通じて、いかにインドネシア語が学ぶに容易な言語であるかを説明する。 【第5回】インドネシア語の特徴(2) 内容:基本的な文章構造を説明することで、インドネシア語の特徴をまとめる。 【第6回】文字と発音 内容:①母音　②子音　③二重母音　④注意すべき発音を中心に説明する。 【第7回】基本的表現(1) 内容:日常生活を送る上で欠かすことのできない最重要の挨拶表現を学習する。 【第8回】基本的表現(2) 内容:平易な構造の文章を用いて、すぐさま使える自己紹介文(名前、住所、出身、仕事など)を作成する。 【第9回】人称代名詞 内容:基本的な人称代名詞を学ぶことと併せて、最も重要な二人称の用法5点について説明をする。 【第10回】指示代名詞 内容:基本的な指示代名詞を学ぶことと併せて、文章の句切り方法、アクセント、付加疑問文を説明する。 【第11回】疑問詞 内容:インドネシア語の作文作業を通じて、基本的な疑問詞を学ぶ。さらに疑問詞の特殊用法も学習する。 【第12回】数詞 内容:基数詞を億の単位まで言えるようにし、併せて序数、助数詞、分数についても説明する。 【第13回】総括、質疑応答 内容:これまでに学習してきた内容を大所高所から俯瞰することで、インドネシア語の体系的理解へと導く。

事前・事後学修	授業は教科書に沿って進むので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。 本講義の単位数を授業外学習に換算すると、指定テキストの冒頭から第5課の範囲に相当します。予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での積極的な学習態度（平常点）と定期試験の評価によります。 平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）を中心にして評価を行います。定期試験は中間試験と期末試験を実施し、学習に対する理解程度を判定します。平常点を30%、定期試験点を70%として最終評価を行い、60%以上を得点することで、本講座の合格点に達することとなります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
教科書・指定図書	教科書：小笠原健二、V.R.クマラニングルム『新版 一冊目のインドネシア語』東洋書店新社、2016年。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAI102
講義コード	2A2200200
講義名	インドネシア語初級Ⅱ
担当者名	小笠原　健二
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅱ(後期)では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	前期に引き続き、基本的な文法事項を、教科書を中心にして学習します。ここでは、前期で学習した初級レベルの基礎をもとに、文章読解に必要とされる文法事項をさらに学び深めます。こうした見地から、本講座では、インドネシアの日常生活に最低限必要とされる読解力の習得をめざしますが、その授業内容は基本的な文章構造を理解することが中心となります。この基礎を踏まえた上で、読本に必要な基本的な文法の知識をさらに充実させることになります。教本の第10課まで進む予定でおります。 学期後半では、インドネシアの笑い話、なぞなぞといった簡単な読物を読解し、さらにインドネシア語技能検定試験(E級)の読解問題に挑戦してみたく思います。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話してみたく思います。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	このクラスでは、これまでに習得した文章構造の知識、文法事項の知識、獲得した語彙を総動員して、簡単な読物が読解できるようになります。こうした読解が可能となることで、インドネシア人が日々楽しむ笑い話やなぞなぞ、あるいは平易な物語(民話や童話など)を読むことができます。こうした能力をそのまま援用することで、インドネシア語技能検定試験(E級)の読解問題が理解できるレベルになりましょう。この技能検定試験は公式的な履歴書にも記載が可能な資格試験になっております。
授業形態	演習
授業方法	本講座では、前期と同様に、インドネシア語教科書の各課にある文法事項をしっかりと学び、その内容を十分に理解したのちに練習問題を解くことになります。さらに、各課でポイントとなる重要事項を盛り込んだ課題にも挑戦してもらいます。その課題の内容は、日本語文をインドネシア語文に訳出してもらうものです。教員は学生のつくった文章を添削し、これを返却することで、学生のインドネシア語運用能力をさらに高めます。学生は確認、修正しながらインドネシア語の文構造を理解できるようになります。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話してみたく思います。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
授業計画	【第1回】イントロダクション 内容:今後の授業運営についての説明、manabaとZoomの使用活用方法についての説明。 【第2回】総復習 内容:前期で学んできた第5課までを、文章構造の理解を中心にて俯瞰的総復習する。 【第3回】時刻 内容:時刻の表現の仕方を、3種類学習する。これに伴い、時刻表現に関わる重要な付帯事項を説明する。 【第4回】時間 内容:時間単位の表現、時間量の尋ね方、時間量を表す前置詞、熟語的表現を学習する。 【第5回】年月日、曜日 内容:年号、月名、曜日名、年月日・曜日の発話順序、年月日・曜日の尋ね方、X年前・X年後の言い方を学ぶ。 【第6回】その他の日時関連表現 内容:「今日の昼」の3種類の言い方、去年・今年・来年の言い方、日時関連表現における付帯事項を説明する。 【第7回】定期試験 内容:定期試験(中間試験)を実施し、試験後にその内容について解説を行い、併せて質疑応答も実施する。 【第8回】語根動詞、ber-動詞 内容:動詞を3種類に区分し説明する。ここでは語根動詞とber-動詞の基本的用法・意味を説明する。ber-については、動詞以外の用法も解説する。 【第9回】me-動詞 内容:me-動詞が5種類から成ることを説明し、そのそれぞれの相違点を明らかにする。me-動詞を取り除く作業を行うことで、辞書の引き方を学ぶ。 【第10回】命令文、依頼文 内容:命令文の特徴を理解することで、依頼文の各種表現を学ぶ。とりわけTolong-とMinta-について詳説する。 【第11回】読物(1) 内容:これまで学習してきた文章構造、文法事項、基本的語彙に関わる知識を総動員することで、平易な内容の笑い話、なぞなぞを読解する。 【第12回】読物(2) 内容:これまでの知識を総動員することで、最新のインドネシア語検定技能試験E級に実際に出題された読物を読解する。 【第13回】定期試験 内容:定期試験(期末試験)を実施し、試験後にその内容について解説を行う。併せて総括、重要表現の復習、質疑応答も行う。

事前・事後学修	前期と同様に、授業は教科書に沿って進むので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。 本講義の単位数を授業外学習に換算すると、指定テキストの第6課から第10課の範囲に相当します。予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での積極的な学習態度（平常点）と定期試験の結果（試験点）によります。 平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）を中心にして評価を行います。試験点では、試験内容を点数化し、理解程度を判定します。平常点を30%、試験点を70%として最終評価を行い、60%以上を得点することで、本講座の合格点に達することとなります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
教科書・指定図書	教科書：小笠原健二、V.R.クマラニングルム『新版 一冊目のインドネシア語』東洋書店新社、2016年。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi103
講義コード	2A2200300
講義名	インドネシア語初級Ⅲ
担当者名	フェロニカ R.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅲ(前期)では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	インドネシア語はアルファベットで表記する言語であり、その発音はローマ字読みとなります。文章構造は英語に準じており、私たち日本人にとっては学びやすい言語と言えましょう。 この言語を効率的に習得すべく、まず初めにプリント教材を複数回にわたり音読し読み込むことで、発音とアクセントの指導を行います。その後、重要語彙・新出語彙の意味と用法を確認し、併せて重要文法事項についての解説を行います。以上の作業を完了させた後で、それらの語彙・文法事項を用いて、日本語文からインドネシア語文への作文練習を行います。この作文練習を通じて、インドネシア語の文章構造をより深く理解することができます。その後、グループに分かれて対話練習を行い、さらにロールプレイを繰り返し行うことで、インドネシア語の会話能力の向上をはかります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	プリント教材を用いて、インドネシア語の動詞と名詞を中心にした語彙力・文法力の増強を図ります。この作業を通じて、日常生活で頻出する定型的文章を習得することができます。さらに、この定型的文章を、対話練習とロールプレイ練習を通じて円滑に運用することで、双方向の会話力(すなわち発話力と聴解力)を養うことができます。別言すれば、インドネシア語技能検定試験E級レベルの会話力育成を到達目標にできるということです。
授業形態	演習
授業方法	本講座では、受講生に可能な限り多くのインドネシア語を聞いてもらい、可能な限り多くの発話をしてもらうことを心がけたく思います。講師から受講生への一方通行の授業ではなく、双方向の授業にしたく思います。授業の前半では、まず新出語彙と文法事項を説明し、その後作文練習を行います。これにより、インドネシア語の文章構造をより深く理解してもらいます。授業後半では、対話練習とロールプレイ練習を中心に据え、会話力を養います。これらの学習を通じて、インドネシア語の総合力を養います。
授業計画	【第1回目】イントロダクション 内容:今後の授業運営についての説明。 【第2回目】Perkenalan 内容:自己紹介(挨拶、私の名前は～、私は～に住んでいます、私は～出身です、等) 【第3回目】Ini-itu 内容:指示代名詞、人称代名詞 (これは～ですか、それは誰ですか、彼はインドネシア人です、等) 【第4回目】Keluarga-1 内容:家族(私は3人兄弟です、私の父は教師です、母は主婦です、家には2匹のネコがいます、等) 【第5回目】Keluarga-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの家族について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第6回目】Aktivitas-1 内容:日常生活(私は6時に起きます、朝～を食べました、昼に～へ行きました、～まで2時間かかります、等) 【第7回目】Aktivitas-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの日常生活について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第8回目】Kamar-1 内容:部屋(私の部屋は狭いですが清潔です、部屋には～があります、～がありません、部屋の壁は～色です、等) 【第9回目】Kamar-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの部屋について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第10回目】Rumah-1 内容:家(私の家は～にあります、家の前には～があります、～がありません、駅から家までは～、等) 【第11回目】Rumah-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの家について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第12回目】Kantin 内容:学食(～を食べます、ここには～があります、～と食事をします、ここでは何がおいしいですか、等) 【第13回目】総括、質疑応答 内容:これまでに学習してきた内容を大所高所から俯瞰することで、インドネシア語の体系的理解へと導く。
事前・事後学修	事前にプリント教材を配布するので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文

	法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での学習態度と課題の提出状況（平常点）、ならびに各回のプレゼンテーション内容と会話試験（プレゼンテーション点）によります。 平常点を30%、プレゼンテーション点を70%とします。平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）と提出課題の内容を中心に評価を行います。プレゼンテーション点では、発表された内容と期末に実施する会話試験を点数化します。合計60%以上を得点することで、本講座の合格点となります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
教科書・指定図書	各回プリント教材を配布します。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAI104
講義コード	2A2200400
講義名	インドネシア語初級Ⅳ
担当者名	フェロニカ R.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅳ(後期)では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	前期と同様に、インドネシア語を効率的に習得できるように十分な配慮を行います。 まず初めにプリント教材を複数回にわたり音読し読み込むことで、発音とアクセントの指導を行います。その後、重要語彙・新出語彙の意味と用法を確認し、併せて重要文法事項についての解説を行います。以上の作業を完了させた後で、それらの語彙・文法事項を用いて、日本語文からインドネシア語文への作文練習を行います。この作文練習を通じて、インドネシア語の文章構造をより深く理解することができます。その後、グループに分かれて対話練習を行い、さらにロールプレイを繰り返し行うことで、インドネシア語の会話能力(聴解力と発話力)の向上をはかります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	プリント教材を用いて、インドネシア語の動詞と名詞を中心にした語彙力・文法力の増強を図ります。この作業を通じて、日常生活で頻出する定型的文章を習得することができます。さらに、この定型的文章を、対話練習とロールプレイ練習を通じて円滑に運用することで、双方向の会話力(すなわち発話力と聴解力)を養うことができます。別言すれば、インドネシア語技能検定試験E級レベルの会話力育成を到達目標にできるということです。
授業形態	演習
授業方法	受講生に可能な限り多くのインドネシア語を聞いてもらい、可能な限り多くの発話をしてもらうことを心がけます。講師から受講生への一方通行の授業ではなく、双方向の授業にしたく思います。授業の前半では、まず新出語彙と文法事項を説明し、その後作文練習を行います。これにより、インドネシア語の文章構造をより深く理解してもらいます。授業後半では、対話練習とロールプレイ練習を中心に据え、会話力を養います。これらの学習を通じて、インドネシア語の総合力の向上を図ります。
授業計画	【第1回目】イントロダクション 内容:今後の授業運営についての説明、前期に学習してきた内容の総復習、ならびに質疑応答。 【第2回目】Hobi-1 内容:趣味(私の趣味は～です、月曜日に講座があります、～で行います、～と一緒に楽しみます、等) 【第3回目】Hobi-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの趣味について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第4回目】Musim di Jepang-1 内容:日本の季節(日本には四季があります、春には桜が咲きます、花見をします、雪合戦をします、等) 【第5回目】Musim di Jepang-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの好きな季節について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第6回目】Musim di Indonesia 内容:インドネシアの季節(インドネシアには雨期と乾期があります、雨期には何の果物がおいしいですか、等) 【第7回目】Banjir di Indonesia 内容:インドネシアの洪水(いつ洪水が起きますか、被害はどの程度ですか、犠牲者は何人ですか、等) 【第8回目】Aktivitas di Rumah 内容:家での日常生活(テレビを観る、本を読む、インターネットで動画を観る、携帯電話で音楽を聞く、等) 【第9回目】Toko Batik-1 内容:ジャワ更紗の店(更紗の服を買いたい、試着をしたい、服のサイズや色を選ぶ、支払う、等) 【第10回目】Toko Batik-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの買い物について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第11回目】Tempat Wisata di Bali-1 内容:バリ島の観光地(バリには寺院がある、美しい海岸がある、おいしい～がある、～のお土産がある、等) 【第12回目】Tempat Wisata di Bali-2 内容:プレゼンテーション(それぞれの学生が自らの最近の旅行について発表をする。その後その内容について質疑応答を行う) 【第13回目】総括、質疑応答 内容:質疑応答、これまで実施してきたプレゼンテーションの講評。

事前・事後学修	事前にプリント教材を配布するので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での学習態度と課題の提出状況（平常点）、ならびに各回のプレゼンテーション内容と会話試験（プレゼンテーション点）によります。 平常点を30%、プレゼンテーション点を70%とします。平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）と提出課題の内容を中心に評価を行います。プレゼンテーション点では、発表された内容と期末に実施する会話試験を点数化します。合計60%以上を得点することで、本講座の合格点となります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
教科書・指定図書	各回プリント教材を配布します。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi201
講義コード	2A2201100
講義名	インドネシア語中級Ⅰ
担当者名	ハフサリ D.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
授業の内容	本授業は、履修者の会話や作文、発表における各能力強化を目指す授業である。会話については、指定テキストを用い実践的フレーズを修得していく。フレーズには「空港で使えるフレーズ」、「市内への移動で使えるフレーズ」、「フロントで使えるフレーズ」、「ホテルの部屋で使えるフレーズ」、「屋台で使えるフレーズ」、「レストランで使えるフレーズ」、「ショッピングで使えるフレーズ」、「伝統工芸品を買う際のフレーズ」、「支払いの際に使えるフレーズ」、「博物館や美術館で使えるフレーズ」、「観光スポットで使えるフレーズ」などを予定している。他方作文・発表は、テキスト掲載のフレーズや会話ダイアローグその他を基にテーマを定め、教員指導の下簡単なプレゼンを準備する。テーマは「空港」、「ホテル」、「レストラン」、「ショッピング」、「観光」などになる。これら2種類の取り組みを通じて、初級までに学習した表現や単語を用い、自分の意見を伝え相手の意見をきくという簡単な会話、それらを簡単な文章に整理できるようになる。
科目の到達目標（理解のレベル）	初級授業の際は並行して学習する文法事項に沿う形で基礎会話の修得に努めた。本科目においても、受動態、関係代名詞、各種接辞など中級文法に注意する姿勢は同様だが、日常生活で使われている様々なフレーズを学習することを通じ、現地での生活をする際に困らない会話力（サバイバルなレベル）からややフォーマルな場面での会話力を履修者が修得できるよう指導することが目標である。インドネシア語検定といった視点からすると検定E～D級レベル基礎会話力が身につくことが期待される。
授業形態	演習
授業方法	先ず会話については、指定テキスト掲載の各フレーズ（空港、ホテル、レストラン、ショッピング、観光、日常生活、トラブル、オフィスで）の中から教員が選ぶ具体的なフレーズや会話ダイアローグを学ぶプロセスを通じ、簡単な応用会話で履修者が自分で使えるように指導する。続く作文・発表においては、授業の初めに履修者数に応じグループ分けすると共にプレゼン予定（スケジュール）を定める。各グループは、スケジュールに沿い教員が会話で選ぶフレーズなどにヒントを得てテーマを定め小作文を作成、教員の添削指導を経て発表する。プレゼンでは教員が履修者の発音や会話表現についてコメントするので、終了後履修者はそれらコメントを基にプレゼン内容を復習する。
授業計画	[第1回]ガイダンス、授業内容と方法の説明 [第2回]「空港で使えるフレーズなど」学習、グループ分け及びプレゼン予定発表 [第3回]「市内への移動で使えるフレーズなど」学習 [第4回]「フロントで使えるフレーズなど」学習 [第5回]「ホテルの部屋で使えるフレーズなど」学習 [第6回]「屋台で使えるフレーズなど」学習、プレゼン第1回「空港、ホテル、レストラン」 [第7回]「レストランで使えるフレーズなど」学習 [第8回]「ショッピングで使えるフレーズなど」学習 [第9回]「伝統工芸品を買う」学習、プレゼン第2回「レストラン、ショッピング」 [第10回]「支払いの際に使えるフレーズなど」学習 [第11回]「博物館や美術館で使えるフレーズなど」学習 [第12回]「観光スポットで使えるフレーズなど」学習、プレゼン第3回「ショッピング、観光」 [第13回]まとめ、質疑応答 ＊なお状況により学習するフレーズやプレゼンのテーマはテキスト範囲内で変更あり得る。
事前・事後学修	授業前にテキスト該当箇所を読み、必要とされるフレーズや会話ダイローグにおける各種表現を理解しておくことが不可欠である。文法事項で気になる部分がある場合、日本人教員文法授業指定のテキストもあわせて目を通すことが望ましい。そのうえでグループ別プレゼンで発表する小作文をよく相談してまとめること、プレゼン中の会話（質疑）に備えることなどが事前学習の要となる。他方事後学習としては、プレゼン発表後教員から指摘された修正点などコメントに基づき小作文や発表時の会話表現について見直す作業がある。
成績評価方法・基準	◆小テスト・小レポート40%　◆プレゼン小作文＋発表50%　◆平常点10% 小テストや小レポートは、履修者がどの程度授業で学習した会話フレーズや特定表現を理解しているかを教員が見定めるために実施する。授業の進捗状況に応じ適宜行う予定である。次いでグループ単位でまとめることになるプレゼン小作文および発表状況は成績評価において最も重要な部分なので真剣に取り組んで欲しい。グループ全体への評価となる小作文と異なり、発表状況では履修者個々の能力差を見定める評価となる。つまり発表時発音の正確さ、続く質疑において、質問を理解し適切な表現を用いて答えているか否か、文法的に問題が無いかどうかなどを見て評価するからである。最後に授業時履修者の授業参加や積極的姿勢はそのまま平常点に反映される。
教科書・指定図書	■欧米アジア語学センター、深尾康夫、ディアー・ハフサリ「基礎からレッスンはじめてのインドネシア語」ナツメ社、2021年 ■教員配付プリント 他にインドネシア語中級Ⅲ～Ⅳで使用する下記資料を参考書として用いる。 ■深尾康夫＆ディアー・ハフサリ「ビジネス/生活で使えるインドネシア語ダイアローグ」三修社、2016年 ■佐々木重次編「最新インドネシア語小辞典第1.5版」Grup sanggar、2020年

履修上の留意点	辞書は指定辞書を用いる。ネット辞書の使用は、必ず指定辞書で単語を確認することを条件として認めるが、基本的に予習時の参考用にすぎない。履修者は、指定辞書を用いず携帯スマフォで検索閲覧可能なネット辞書だけに頼りすぎないよう努める。 指示連絡や課題レポートの回収などは、教室、メール、manabaを通じて行う。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi202
講義コード	2A2201200
講義名	インドネシア語中級Ⅱ
担当者名	ハフサリ D.
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきることは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
授業の内容	本授業は、春学期中級Iと同じく履修者の会話や作文、発表における各能力強化を目指す授業である。会話については、指定テキストを用い実践的フレーズを修得していく。フレーズには春学期で学習した各フレーズに加え「現地の人との会話で使えるフレーズ」、「友人宅訪問の際に使えるフレーズ」、「友人宅ディナーで使えるフレーズ」、「結婚・披露宴で使えるフレーズ」、「体調が悪いときに使えるフレーズ」、「旅行中のトラブルで使えるフレーズ」、「紛失や盗難、交通事故などが発生したときに使えるフレーズ」、「打合せの準備に使えるフレーズ」、「打合せで使えるフレーズ」、「社内の会話で使えるフレーズ」、「その他実用的なフレーズ」などから教員が適宜取捨選択して行うつもりである。他方作文・発表は、テキスト掲載のフレーズや会話ダイアローグその他を基にテーマを定め、教員指導の下簡単なプレゼンを準備する。テーマは「日常生活」、「トラブル」、「オフィス」などになる。これら2種類の取り組みを通じて、これまで学習した表現や単語を用い、自分の意見を伝え相手の意見をきくという簡単な会話、それらを簡単な文章に整理できるようになる。
科目の到達目標（理解のレベル）	初級授業の際は並行して学習する文法事項に沿う形で基礎会話の修得に努めた。本科目においても、受動態、関係代名詞、各種接辞など中級文法に注意する姿勢は同様だが、日常生活で使われている様々なフレーズを学習することを通じ、現地での生活をする際に困らない会話力（サバイバルなレベル）からややフォーマルな場面での会話力を履修者が修得できるよう指導することが目標である。インドネシア語検定といった視点からすると検定E～D級レベル基礎会話力が身につくことが期待される。
授業形態	演習
授業方法	先ず会話については、指定テキスト掲載の各フレーズ（空港、ホテル、レストラン、ショッピング、観光、日常生活、トラブル、オフィスで）の中から教員が選ぶ具体的なフレーズや会話ダイアローグを学ぶプロセスを通じ、簡単な応用会話で履修者が自分で使えるように指導する。続く作文・発表においては、授業の初めに履修者数に応じグループ分けすると共にプレゼン予定（スケジュール）を定める。各グループは、スケジュールに沿い教員が会話で選ぶフレーズなどにヒントを得てテーマを定め小作文を作成、教員の添削指導を経て発表する。プレゼンでは教員が履修者の発音や会話表現についてコメントするので、終了後履修者はそれらコメントを基にプレゼン内容を復習する。なお履修者数によりプレゼンはグループ単位ではなく個人単位に変わることもあり得る。その場合添削指導を含め教員の対応は履修者個々に行われることになる。
授業計画	[第1回]ガイダンス、授業内容と方法の説明、グループ分け及びプレゼン予定発表 [第2回]「現地の人との会話で使えるフレース」学習 [第3回]「友人宅訪問の際に使えるフレーズ」学習 [第4回]「友人宅ディナーで使えるフレーズ」学習、プレゼン第1回「日常生活など」 [第5回]「結婚・披露宴に関わるフレーズ」学習 [第6回]「体調が悪いときに使えるフレーズ」学習 [第7回]「旅行中のトラブルで使えるフレーズ」学習 [第8回]「紛失や盗難、交通事故など発生したとき」学習、プレゼン第2回「日常生活、トラブルなど」 [第9回]「打合せの準備に使えるフレーズ」学習 [第10回]「打合せで使えるフレーズ」学習 [第11回]「社内の会話で使えるフレーズ」学習 [第12回]「その他実用的なフレーズ」学習、プレゼン第3回「オフィス」 [第13回]まとめ、質疑応答 ＊なお状況により学習するフレーズやプレゼンのテーマはテキスト範囲内で変更あり得る。
事前・事後学修	授業前にテキスト該当箇所を読み、必要とされるフレーズや会話ダイローグにおける各種表現を理解しておくことが不可欠である。文法事項で気になる部分がある場合、日本人教員文法授業指定のテキストもあわせて目を通すことが望ましい。そのうえでグループ別プレゼンで発表する小作文をよく相談してまとめること、プレゼン中の会話（質疑）に備えることなどが事前学習の要となる。他方事後学習としては、プレゼン発表後教員から指摘された修正点などコメントに基づき小作文や発表時の会話表現について見直す作業がある。
成績評価方法・基準	◆小テスト・小レポート40%　◆プレゼン小作文＋発表50%　◆平常点10% 小テストや小レポートは、履修者がどの程度授業で学習した会話フレーズや特定表現を理解しているかを教員が見定めるために実施する。授業の進捗状況に応じ適宜行う予定である。次いでグループ単位でまとめることになるプレゼン小作文および発表状況は成績評価において最も重要な部分なので真剣に取り組んで欲しい。グループ全体への評価となる小作文と異なり、発表状況では履修者個々の能力差を見定める評価となる。つまり発表時発音の正確さ、続く質疑において、質問を理解し適切な表現を用いて答えているか否か、文法的に問題が無いかどうかなどを見て評価するからである。なお履修者数によりプレゼンがグループ単位では無く個人単位に変わることもある。その場合小作文も履修者個々に評価することになる。最後に授業時履修者の授業参加や積極的姿勢はそのまま平常点に反映される。
教科書・指定図書	■欧米アジア語学センター、深尾康夫、ディアー・ハフサリ「基礎からレッスンはじめてのインドネシア語」ナツメ社、2021年 ■教員配付プリント ＊他にインドネシア語中級Ⅲ～Ⅳで使用する下記資料を参考書として用いる。 ■深尾康夫＆ディアー・ハフサリ「ビジネス/生活で使えるインドネシア語ダイアローグ」三修社、2016年 ■佐々木重次編「最新インドネシア語小辞典第1.5版」Grup sanggar、2020年

履修上の留意点	辞書は指定辞書を用いる。ネット辞書の使用は、必ず指定辞書で単語を確認することを条件として認めるが、基本的に予習時の参考用にすぎない。履修者は、指定辞書を用いず携帯スマフォで検索閲覧可能なネット辞書だけに頼りすぎないよう努める。 指示連絡や課題レポートの回収などは、教室、メール、manabaを通じて行う。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi203
講義コード	2A2201300
講義名	インドネシア語中級Ⅲ
担当者名	深尾　康夫
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
授業の内容	本授業は、日本人教員とネイティブ教員によるチームティーチング授業の日本人教員担当部分である。当初初級文法の復習（語根動詞、Ber動詞、Me動詞、Me-i動詞、Me-kan動詞、Memper動詞、命令依頼表現、受動態構文など）が行われる。その後、中級文法（関係代名詞、接辞pe-/per-、接辞-an、接辞pe-an、接辞per-an、接辞ke-an、接辞ter-など）の解説に進む。その後教室で配付ないしマナバで配信するプリント（エッセイ）の読解和訳を指導していく。エッセイはインドネシアでの日常生活をトピックとする内容だが、読解和訳を通じインドネシア社会や文化に対して理解を深めていくことになる。また授業内容に応じ、適宜、映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどDVD教材やインターネットを通じた映像を鑑賞する。
科目の到達目標（理解のレベル）	本科目の到達目標は、先ず初級授業で学んだ基礎文法の上に中級文法を学習し、履修者がより複雑な文章を理解し作れるようにすることである。特に初級授業の最後で学んだ受動態は関係代名詞の構文において重要な役割を担うので、その理解は確かなものにしたい。次にエッセイの読解和訳を行うことで、これまで学習してきた文法事項を文章全体の中で自然に理解する力を備えさせることである。同時に単語力を強化することも重要な目的となる。なお語学レベルに限るとインドネシア語検定E～D級合格程度の力を目指す。
授業形態	演習
授業方法	当初教員がテキストに沿い文法を解説、プリントを配布ないしmanaba経由配信し、復習/応用問題に取り組む。中級文法解説終了後の読解和訳は、配付されたプリントのエッセイを予習、授業で報告、講師の指導を受け、翌週授業時にレポートを提出する形で進む。読解和訳をしながら、さらに必要と思われる基礎文法について、テキストや練習問題プリントの一部を利用しながら補足説明する。初級文法の復習、中級文法の解説と並行し、適宜理解度を確認するための小テストや課題レポートを指示する。
授業計画	【第1回】授業概要説明、初級文法復習1（語根動詞、Ber動詞、Me動詞） 【第2回】初級文法復習2（Me-i動詞、Me-kan動詞、Memper動詞） 【第3回】初級文法復習3（命令依頼表現） 【第4回】初級文法復習4（受動態文） 【第5回】中級文法解説（関係代名詞） 【第6回】中級文法解説（関係代名詞＋受動態） 【第7回】中級文法解説（その他の関係代名詞） 【第8回】中級文法解説（各種接辞、pe-/per-/-an） 【第9回】中級文法解説（各種接辞、pe-an/per-an/ke-an/ter-） 【第10回】読解「アディです」、読解「学生です」、補足文法解説 【第11回】読解「日本人です」、読解「私の部屋」、「家族」、補足文法解説 【第12回】読解「フルーツ」、読解「インドネシア料理」、「学生生活」 【第13回】第1回から第12回の復習と知識の確認
事前・事後学修	当初事前学習としては、テキスト該当箇所に目を通しながら配付ないし配信済み練習問題プリント他に再度取り組む形の初級文法復習を推奨する。他方中級文法解説においては、文法事項がより複雑なのでテキスト該当箇所を一読する程度の予習で十分である。むしろ事後学習の方を重視している。具体的に中級文法解説では、毎回の授業で学習した内容についてテキストや練習問題を点検すること、補助的に配付ないし配信した問題プリントの解答に努めることにより理解を確実なものにして欲しい。なお読解和訳は事前に配布ないし配信のプリント（エッセイ）予習が不可欠であり、授業での報告後レポート提出になるので、その作業がそのまま復習となる。授業時に教員から指摘された修正コメントをよく思い出してレポートを整理することが履修者の復習として重要である。
成績評価方法・基準	◆小テスト・小課題50%　◆読解レポート提出40%　◆平常点10% 初級授業内容を復習する小テストやエッセイ型課題（エッセイを読解し内容に関する設問に答える形式）、中級授業内容を復習する小テストないし課題を予定している。特に関係代名詞と受動態、各種接辞（pe-/per-/-an/pe-an/per-an/ke-an/ter-）を用いる構文について重点的に行う。上述の通り筆記試験は実施しない形で履修者の評価が定まるので、指示をよく理解し小テストや課題の作成、提出に取り組んで欲しい。なお授業時履修者の授業参加や積極的姿勢はそのまま平常点に反映される。

教科書・指定図書	[教科書] ◆深尾康夫＆ディア・ハフサリ「ビジネス/生活で使えるインドネシア語ダイアローグ」三修社、2016年 ◆佐々木重次編「最新インドネシア語小辞典第1.5版」Grup sanggar、2020年 ◆配布プリント
履修上の留意点	辞書は指定辞書を用いる。ネット辞書の使用は、必ず指定辞書で単語を確認することを条件として認めるが、基本的に予習時の参考用にすぎない。履修者は、指定辞書を用いず携帯スマフォで検索閲覧可能なネット辞書だけに頼りすぎないよう努める。 指示連絡や課題レポートの回収などは、教室、メール、manabaを通じて行う。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi204
講義コード	2A2201400
講義名	インドネシア語中級Ⅳ
担当者名	深尾　康夫
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
授業の内容	本授業は、日本人教員とネイティブ教員によるチームティーチング授業の日本人教員担当部分である。インドネシア語検定過去問他のプリントを用い、受講者が初級から中級までに習得した文法を基に、エッセイ、単語、表現、発音などに関する各種設問を解答していけるよう丁寧に指導する。E級～D級レベルの過去問を用いる。具体的にはE級レベルから始めてD級レベルへと、履修者の理解状況を確認しながら難解度をゆっくりと上げていく。掲載の各エッセイはインドネシアや日本での日常生活における様々なトピックである。またトピックに関連する事柄について、映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどDVDやインターネットを通じた映像を鑑賞して背景知識の取得にも努める。
科目の到達目標（理解のレベル）	本科目の履修者は、初級授業を含め1年半にわたり文法と会話を中心にインドネシア語を学習してきた。このような過程を経て得た知識と経験を基に、履修者の読解力、構文力、単語力を一層強化することが目標の1つめである。インドネシア語検定過去問を読み解く作業はこれに資することは間違いない。2つめの目標は、履修者が日常会話だけでなくややフォーマルな場での会話を行う際に、それが可能になるよう基礎固めをすることである。なおレベル的にはインドネシア語検定E～D級レベルを目指している。
授業形態	演習
授業方法	検定過去問（E級～D級）他のプリントを履修者に配布ないしマナバ経由配信する。プリントは、様々なトピックからなるエッセイ、内容に関係する設問、内容とは無関係の文法的設問から構成されている。履修者はこのプリントを次回授業までに予習し、授業開始時に教室でレポートとして提出する。教員は適宜履修者を指名し報告（エッセイの和訳や設問への解答）を求め、報告内容にコメントする。なお授業開始初期に文法の復習課題を指示する。
授業計画	【第1回】授業内容説明、検定過去問他プリント配布 【第2回】検定過去問01（Mina belajar bahasa Jepang「ミナは日本語を学ぶ」） 【第3回】検定過去問02（Di kantin「学食で」） 【第4回】検定過去問03（Mencari baju untuk pacar「彼氏の服を探す」） 【第5回】検定過去問04（Mencoba buah durian「ドリアンの実にトライする」） 【第6回】検定過去問05（Kue basah「生菓子」） 【第7回】検定過去問06（Makan dengan tangan「手で食事する」） 【第8回】検定過去問07（Kue dari Jepang「日本のお菓子」） 【第9回】検定過去問08（Rumah nenek「祖母の家」） 【第10回】検定過去問09（Pertama kali ke Osaka「初めての大阪訪問」） 【第11回】検定過去問10（Belajar tari Indonesia「インドネシアの踊りを学ぶ」） 【第12回】検定過去問11（Kimono Jepang「日本の着物」） 【第13回】全体まとめ、講師コメント
事前・事後学修	事前学習としては、授業時のレポート提出及び報告に備え検定過去問プリントの予習が不可欠である。これまでの授業で用いたテキストや辞書を使い確実に準備する。とりわけエッセイの和訳は、意味を正確に把握することと、理解したインドネシア語を日本語として他者が聞いて不自然ではない状態に直す（意訳）という2つの作業が求められる。事後学習としては、返却されたレポート内容を点検し、同じような間違いを犯さないよう注意することが重要である。
成績評価方法・基準	◆課題レポート（検定過去問）60%　◆授業時報告状況20%、◆文法復習課題他10%　◆平常点10% 基本的に筆記試験は実施しない。つまり履修者の成績評価は各種課題の採点結果や授業時の報告状況によって定まる。履修者は授業の際ないしマナバを通じて伝えられる教員の指示をよく理解し課題の作成、提出、報告に取り組んで欲しい。特に検定過去問レポートの割合が大きいことに注意する。なお授業時履修者の授業参加や積極的姿勢はそのまま平常点に反映される。
教科書・指定図書	教科書： ◆配布プリント（インドネシア語技能検定過去問E～D級）他 ◆佐々木重次編「最新インドネシア語小辞典第1.5版」Grup sanggar、2020年 ◆深尾康夫＆ディア・ハフサリ「ビジネス/生活で使えるインドネシア語ダイアローグ」三修社、2016年
履修上の留意点	辞書は指定辞書を用いる。ネット辞書の使用は、必ず指定辞書で単語を確認することを条件として認めるが、基本的に予習時の参考用にすぎない。履修者は、指定辞書を用いず携帯スマフォで検索閲覧可能なネット辞書だけに頼りすぎないよう努める。 指示連絡や課題レポートの回収などは、教室、メール、manabaを通じて行う。

更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi205
講義コード	2A2201500
講義名	インドネシア語中級Ⅴ
担当者名	小笠原　健二
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を一通り学習した学生がその知識をさらに確かなものにしていく実践的な学習が、表現能力の訓練である。ここでは、簡単な日常の事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とし、各言語独自の言い回しや言葉の使い方などを中心に学び、作文力や会話能力の向上を目指す。
授業の内容	本講座では、初級で培った発音の仕方、アクセントの置き方、文章構造の理解、文法事項の知識、獲得した語彙を用いて、実際の新聞・雑誌に掲載された文章を読解します。作文では、教員が作成する日本語文（インドネシアで多用される定型的表現）をインドネシア語文に直します。そしてこれら教材を基にして、その内容に関して簡易な議論や意見交換を行い、これを通じて会話の能力を高めることになります。これらの作業を実施することで、さらに一層、文章構造の理解や文法の知識を深め、中級レベルの語彙を獲得し、聴解力を訓練することになります。教材は2～3回の授業で一話完結する程度の内容を予定しています。さらにインドネシア語の総合力を高めるという見地から、インドネシア語技能検定試験にも挑戦してみたく思います。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話しいたします。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
科目の到達目標（理解のレベル）	この講座の授業を通じて、これまでに習得した文章構造の理解、文法事項の知識、獲得した語彙を総動員して、中級レベルの読物が読解でき、文章を作ることができ、そして会話ができるようになります。これらの学習を通じて、インドネシアの日常生活で多用される表現を読解し、作文し、そして発話することが可能となりましょう。インドネシア語技能検定試験のE級ならびにD級問題を理解し、この技能検定試験に合格できるレベルになりたいと思います。
授業形態	演習
授業方法	本講座では、それぞれの読解・作文・会話のプリント教材を学習しながら、そのプリントにおける文法、文章構造、語彙などを理解するよう努めます。さらに、各プリントでポイントとなる重要事項を盛り込んだ課題にも挑戦してもらいます。その課題の内容は、日本語文をインドネシア語文に訳出してもらうものです。教員は学生のつくった文章を添削し、これを返却することで、学生のインドネシア語運用能力をさらに高めます。学生は確認、修正しながらインドネシア語の文章構造や文法事項をさらに深く理解できるようになります。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話してみたく思います。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
授業計画	【第1回】イントロダクション 内容：今後の授業運営についての説明。 【第2回】読解：インドネシア建国五原則Pancasila（1） 内容：第1節　パンチャシラが誕生した歴史的背景、パンチャシラの具体的な内容を読解する。 【第3回】同上（2） 内容：第2節　パンチャシラと共産主義の関係を、9月30日事件ならびにパンチャシラ神霊力記念日に引き寄せて読解する。 【第4回】作文：日常生活で使われる表現（1） 内容：挨拶表現（こんにちは、ご機嫌いかがですか、お出かけですか、新年おめでとうございます、日本へようこそ、等）を作文する。 【第5回】同上（2） 内容：時間、時刻表現（いま何時ですか、どれくらい時間がかかりますか、3分後に出かけます、等）を作文する。 【第6回】同上（3） 内容：困ったときの表現（助けてください、頭痛薬を買ってきてください、警察に連絡してください、等）を作文する。 【第7回】読解：民族芸能Wayang dan Ramayana（1） 内容：第1節　WayangとRamayanaが成立した歴史的背景、庶民の娯楽としてのWayang とRamayanaについて読解する。 【第8回】同上（2） 内容：第2節　WayangとRamayanaがインドネシア社会で生きながらえてきた理由を、庶民の精神性の側面から読解する。 【第9回】作文：日常生活で使われる表現（4） 内容：ショッピングでの表現（これはいくらですか、値引きしていただけますか、高すぎます、等）を作文する。 【第10回】作文：日常生活で使われる表現（5） 内容：病気・怪我をした際の表現（右手を怪我しました、お腹で痛みます、血液型はA型です、等）を作文する。 【第11回】インドネシア語技能検定試験E級 内容：これまでの知識を総動員することで、最新のインドネシア語検定技能試験E級に実際に出題された問題を解く。 【第12回】インドネシア語技能検定試験D級 内容：これまでの知識を総動員することで、最新のインドネシア語検定技能試験D級に実際に出題された問題を解く。 【第13回】総括、質疑応答 内容：これまでに学習してきた内容を大所高所から俯瞰することで、インドネシア語の体系的理解へと導く。

事前・事後学修	授業はプリント教材に沿って進むので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。本講義の予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での積極的な学習態度(平常点)と定期試験(試験点)によります。 平常点では、授業に取り組む姿勢(たとえば質疑応答の頻度など)を中心にして評価を行います。試験点では、中間試験と期末試験を実施し、学習内容の理解程度を判定します。平常点を30%、試験点を70%として最終評価を行い、60%以上を得点することで、本講座の合格点に達することとなります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
教科書・指定図書	各回プリント教材を配布します。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAi206
講義コード	2A2201600
講義名	インドネシア語中級Ⅵ
担当者名	小笠原　健二
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	より高度な事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅴと変わりはないが、作文では、より上手な文章作りができるよう学習し、会話では、適切な言葉や慣用表現が上手に使えるように練習していく。
授業の内容	本講座では、前期と同様、これまでに培った発音の仕方、アクセントの置き方、文章構造の理解、文法事項の知識、獲得した語彙を用いて、実際の新聞・雑誌に掲載された文章を読解します。作文では、教員が作成する日本語文(インドネシアで多用される定型的表現)をインドネシア語文に直します。そしてこれら教材を基にして、その内容に関して簡易な議論や意見交換を行い、これを通じて会話の能力を高めることになります。これらの作業を実施することで、さらに一層、文章構造の理解や文法の知識を深め、中級レベルの語彙を獲得し、聴解力を訓練することになります。教材は2～3回の授業で一話完結する程度の内容を予定しています。さらにインドネシア語の総合力を高めるという見地から、インドネシア語技能検定試験にも挑戦してみたく思います。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話しいたします。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	前期と同様ですが、この講座の授業を通じて、これまでに習得した文章構造の理解、文法事項の知識、獲得した語彙を総動員して、中級レベルの読物が読解でき、文章を作ることができ、そして会話ができるようになります。これらの学習を通じて、インドネシアの日常生活で多用される表現を読解し、作文し、そして発話することが可能となりましょう。インドネシア語技能検定試験のE級ならびにD級問題を理解し、この技能検定試験に合格できるレベルになりたいと思います。
授業形態	演習
授業方法	本講座では、それぞれの読解・作文・会話のプリント教材を学習しながら、そのプリントにおける文法、文章構造、語彙などを理解するよう努めます。さらに、各プリントでポイントとなる重要事項を盛り込んだ課題にも挑戦してもらいます。その課題の内容は、日本語文をインドネシア語文に訳出してもらうものです。教員は学生のつくった文章を添削し、これを返却することで、学生のインドネシア語運用能力をさらに高めます。学生は確認、修正しながらインドネシア語の文章構造や文法事項をさらに深く理解できるようになります。 語学の学習とあわせて、言葉の背景をなす社会事情についても、時間の許すかぎりお話してみたく思います。インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるよう、より多くビデオを観る予定でおります。
授業計画	【第1回】イントロダクション 内容:今後の授業運営についての説明。併せて前期の総復習を行う。 【第2回】読解:インドネシアの民主主義(1) 内容:第1節　植民地支配から独立インドネシアへ至るまでの歴史的背(とりわけ民族主義運動)について読解する。 【第3回】同上(2) 内容:第2節　西洋社会とは異なったインドネシア固有の民主主義を、インドネシア人の心性の視点から読解する。 【第4回】作文:人間関係で使われる表現(1) 内容:近隣関係における表現(おすそ分けです、スラムタンを行います、ゴトン・ロヨンとは何ですか、等)を作文する。 【第5回】同上(2) 内容:相手への配慮の表現(すみませんが、できましたら、お差し支えなければ、等)を作文する。 【第6回】読解:インドネシアの文化的特徴(1) 内容:第1節　インドネシア人が重視する価値観スラムット、道徳ルクンを通じて文化的特徴を読解する。 【第7回】同上(2) 内容:第2節　文化的特徴を、政治・経済的特徴との関連から論じた文章をとりあげ読解する。 【第8回】定期試験 内容:定期試験(中間試験)を実施し、試験後にその内容について解説を行い、併せて質疑応答を実施する。 【第9回】作文:発展的表現(1) 内容:慣習、儀礼に関連した表現(慣習法と近代法の違いは何ですか、ムシャワラとは何ですか、等)を作文する。 【第10回】作文:発展的表現(2) 内容:地理、歴史に関連した表現(何のために歴史を学ぶのですか、ジャワ原人がいたのはいつの時代ですか、等)を作文する。 【第11回】インドネシア語技能検定試験E級 内容:これまでの知識を総動員することで、最新のインドネシア語検定技能試験E級に実際に出題された問題を解く。 【第12回】インドネシア語技能検定試験D級 内容:これまでの知識を総動員することで、最新のインドネシア語検定技能試験D級に実際に出題された問題を解く。 【第13回】定期試験 内容:定期試験(期末試験)を実施し、試験後にその内容について解説を行う。併せて総括、重要表現の復習、質疑応答も行う。

事前・事後学修	授業はプリント教材に沿って進むので、予習を十全に行い、授業に臨んでください。少なくとも新出語彙を確認すること、どのような内容が扱われるかを確認することが肝要となります。疑問点等は授業中または授業後に随時受け付けるので、積極的に質問をしてください。復習については、文法事項が比較的平易であるため、語彙の習得に意識を集中することが重要となります。授業後に適宜「課題」を出しますので、これを行うことでしっかりと授業内容を復習し、確実に理解を深めてください。本講義の予習・復習には各1時間が必要となります。
成績評価方法・基準	成績の評価方法は、授業内での積極的な学習態度（平常点）と定期試験の結果（試験点）によります。 平常点では、授業に取り組む姿勢（たとえば質疑応答の頻度など）を中心にして評価を行います。試験点では、試験内容を点数化し、理解程度を判定します。平常点を30%、試験点を70%として最終評価を行い、60%以上を得点することで、本講座の合格点に達することとなります。授業に三分の二以上出席していることが、単位取得の前提条件となります。
教科書・指定図書	各回プリント教材を配布します。
履修上の留意点	教員からの連絡を確認するためにも、亜大ポータルやmanabaを常に確認する習慣を身につけてください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh101
講義コード	2A2800100
講義名	ヒンディー語初級Ⅰ
担当者名	村山 和之
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅰ(前期)では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	この授業では、まずナーガリー文字の表記と発音の仕組みの解説をする。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、ヒンディー語特有の音韻について、日本語や英語と比較対照して解説し、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。単語としての表記と発音の関係の規則を解説し、単語のつづりとしての書き方を練習する。文字と発音の基礎が終わった後の授業では、教科書に含まれる文法事項の基礎を確認し、各自が主体的に、本文の朗読と訳読・練習問題の解答作り・日本語の文のヒンディー語への翻訳などの作業を行う。内容としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を理解するように努める学習である。仕上げとして、新しく学んだ文法事項を含む文の和訳と作文などの課題を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業の目標は、履修学生が、ナーガリー文字の表記と発音から始まり、教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につけることである。ナーガリー文字の表記については、履修学生が、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟することを目標とする。履修学生が単語としての表記と発音の関係の規則を理解することを目標とする。さらに履修学生が、初級レベルのヒンディー語の例文・会話・文章などを自力で読解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	対面式授業で、教科書『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』と授業支援システム(manaba)に掲載された解説・例文・練習問題・確認テストを教材とする。文字の表記と発音を学んだ後、教科書と manaba の教材の音読練習、文法解説などを行う。教科書の本文については、ネイティヴ・スピーカーの音声を聴いて練習する。文法の理解度を確認しながら、初級レベルの和訳・作文を取り入れ、課題を各回実施する。授業中に分担された練習問題の解答を履修学生が板書し、それぞれの解答を黒板上で添削する。授業の後半で、各履修学生に確認テストの解答をノートに書くように指示する。履修学生一人一人のノートを授業中に添削採点し、記録する。
授業計画	【第1回】デーヴァナーガリー文字・母音の表記と発音。デーヴァナーガリー文字についての解説。文字の歴史と特徴。11種の母音字の発音と書き順の練習を行う。 【第2回】子音の表記と発音。33種の子音字の配列と特徴。有気音と無気音。反り舌音の練習。子音字の発音と書き順の練習を行う。 【第3回】母音記号と鼻母音化記号。母音記号の解説。母音記号付きの11種の文字 ka ～ kau の発音と書き方の練習。鼻母音化記号の解説。 【第4回】鼻子音記号と子音字に含まれる母音a。鼻子音記号の解説。鼻子音記号付きの単語のつづりと発音記号。子音字に含まれる母音a の解説。つづりと発音記号。 【第5回】文字のまとめ。「Ⅵ.文字のまとめ」の表を見ながら発音を聞く。表にある単語のつづりと発音記号を書いて練習する。 【第6回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第1課 1.語順 2.人称代名詞。第1課の練習問題と確認テストを実施する。解答の手助けとして『ニューエクスプレス・ヒンディー語』の巻末の単語リストと manabaに掲載された『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を使用する。第7回以降の課題についても同様である。 【第7回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第2課 1.名詞の単数形と複数形。2.形容詞の単数形と複数形。第2課の練習問題と確認テストを実施する。 【第8回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第3課 1.後置詞の種類と後置格変化。第3課の練習問題と確認テストを実施する。 【第9回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第4課 2.命令形と依頼形。アープ「あなた」に対応する命令形「(あなたは)～してください」の練習問題と確認テストを実施する。 【第10回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第4課 3.後置詞 カー と代名詞属格の解説。後置詞「カー」と代名詞属格の練習問題と確認テストを実施する。 【第11回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第5課 1.目的語と後置詞「コー」2.代名詞の融合形。1.目的語と後置詞「コー」2.代名詞の融合形の練習問題と確認テストを実施する。 【第12回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第5課 3.「必要です」の解説を読む。3.「必要です」の練習問題と確認テストを実施する。 【第13回】『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』第6課 1.未来形1.未来形のうち1人称単数主語と3人称単数主語の文を学ぶ。練習問題と確認テストを実施する。
事前・事後学修	毎回、語学面の予習・復習を期待する。添削された課題のまちがっていた所を確認し、次の課題提出に備えることが復習であり、また予習にもなる。新しい文法事項について、解説に加えて多くの例文を示した教材を各回事前に manaba に掲載する。教科書の巻末の単語リストと manaba に掲載された語彙集を使い、語句を調べることが予習になる。また、自分で内容を推量し和訳・作文を行うことなども予習として大切である。各回添削された練習問題・確認テスト・課題の正解を反復して覚えることが復習として必要である。
成績評価方法・基準	教科書『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』と manaba に掲載された教材の読み書き、質問に対する反応など授業への集中度と教科書と manaba に掲載された『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を用いて調べ授業中に解答した練習問題・確認テスト、合わせて13回分の添削採点で平常点を算出する。全13回の授業の内容を集約し、重要な事項から総合的に出題した学期末の試験を実施する。評価基準は、学期末の筆記試験の点数が67%、平常点が33%の比重として総合し、最終的な成績を算出する。

教科書・指定図書	教科書：町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』（白水社、2020年）ISBN 978-4-560-08862-3。
履修上の留意点	毎回の確認テスト・課題を提出することはもちろん、十分に予習・復習することが必要である。 単なる言語学習に終わらず、南アジア地域の歴史や文化に対する好奇心を抱き、その情熱を行動であらわそうと努力する姿勢を期待する。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh102
講義コード	2A2800200
講義名	ヒンディー語初級Ⅱ
担当者名	村山　和之
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅱ(後期)では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	この授業では、まずナーガリー文字の表記と発音の仕組みの復習をしながら、各課の本文を読む練習を行う。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、ヒンディー語特有の音韻について、日本語や英語と比較対照して解説し、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。各自が主体的に、練習問題の解答作り、ヒンディー語の読み物の本文を日本語に訳す練習、日本語の文をヒンディー語に翻訳するなどの作業を行う。内容としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を理解するように努める学習である。仕上げとして、新しく学んだ文法事項を含む文の和訳と作文などの課題を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業の目標は、履修学生が、ナーガリー文字の表記と発音から始まり、教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につけることである。ナーガリー文字の表記については、履修学生が、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟すること。履修学生が、単語としての表記と発音の関係の規則を理解すること。さらに履修学生が、初級レベルのヒンディー語の例文・会話・文章などを自力で読解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	対面式授業で、教科書『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』と授業支援システム(manaba)に掲載された解説・例文・練習問題・確認テストを教材とする。文字の表記と発音を学んだ後、教科書と manaba の教材の音読練習、文法解説などを行う。教科書の本文については、ネイティヴ・スピーカーの音声を聴いて練習する。文法の理解度を確認しながら、初級レベルの和訳・作文を取り入れ、課題を各回実施する。授業中に分担された練習問題の解答を履修学生が板書し、それぞれの解答を黒板上で添削する。授業の後半で、各履修学生に確認テストの解答をノートに書くように指示する。履修学生一人一人のノートを授業中に添削採点し、記録する。
授業計画	【第1回】教科書『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』の p.64 第7課 1.一般動詞の現在表現の解説と例文と練習問題。仕上げとして 1.現在表現の確認テストの解答を作成する。解答の手助けとして教科書『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』の巻末の単語リストと manaba に掲載された『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を使用する。第2回以降の課題についても同様に単語リストと語彙集を使用する。 【第2回】教科書 p.68 第8課 1.コピュラ動詞の過去形の解説と例文と練習問題。仕上げとして 1.コピュラ動詞の過去形の確認テストの解答を作成する。 【第3回】教科書 p.68 第8課 2.一般動詞の完了分詞の解説と例文と練習問題。仕上げとして 2.一般動詞の完了分詞の確認テストの解答を作成する。 【第4回】教科書 p. 69 第8課 3.他動詞の完了分詞と主語の解説と例文と練習問題。仕上げとして 3.他動詞の完了分詞と主語の確認テストの解答を作成する。 【第5回】教科書 p.76 第9課 1.未完了表現と完了表現の解説と例文と練習問題。仕上げとして完了表現のうち過去の習慣の確認テストの解答を作成する。 【第6回】教科書 p.80 第10課 1.進行表現の解説と例文と練習問題。仕上げとして進行表現のうち現在進行形・過去進行形の確認テストの解答を作成する。 【第7回】教科書 p.80 第10課 2.不定詞の名詞的用法の解説と例文と練習問題。仕上げとして 2.不定詞の名詞的用法の確認テストの解答を作成する。 【第8回】教科書 p.86 第11課 1.「人の身に～が起こる」の解説と例文と練習問題。仕上げとして 2.予定、必要、強制の確認テストの解答を作成する。 【第9回】教科書 p.87 第11課 2.予定、必要、強制の解説と例文と練習問題。仕上げとして3.「必要です」の確認テストの解答を作成する。 【第10回】教科書 p.90 第12課 2.ワーラーの使い方の解説と例文と練習問題。仕上げとして 2.ワーラーの使い方の確認テストの解答を作成する。 【第11回】教科書 p.98 第13課 1.比較表現の解説と例文と練習問題。仕上げとして 1.比較表現の確認テストの解答を作成する。 【第12回】教科書 p.103 第14課 2.受身表現の解説と例文と練習問題。仕上げとして 2.受身表現の確認テストの解答を作成する。 【第13回】教科書『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』の第7課から第14課までの総復習。添削された練習問題・確認テスト・正解のチェックと応用。学期末試験に備えた解説を受けての勉強。
事前・事後学修	毎回、語学面の予習・復習を期待する。添削された課題のまちがっていた所を確認し、次の課題提出に備えることが復習であり、また予習にもなる。新しい文法事項について、解説に加えて多くの例文を示した教材を各回事前に manaba に掲載する。教科書の巻末の単語リストと manaba に掲載された語彙集を使い、語句を調べることが予習になる。また、自分で内容を推量し和訳・作文を行うことなども予習として大切である。各回添削された練習問題・確認テスト・課題の正解を反復して覚えることが復習として必要である。
成績評価方法・基準	教科書『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』と manaba に掲載された教材の読み書き、質問に対する反応など授業への集中度と教科書と manaba に掲載された『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を用いて調べ授業中に解答した練習問題・確認テスト、合わせて13回分の添削採点で平常点を算出する。全13回の授業の内容を集約し、重要な事項から総合的に出題した学期末の試験を実施する。評価基準は、学期末の筆記試験の点数が67%、平常点が33%の比重として総合し、最終的な成績を算出する。
教科書・指定図書	教科書:町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』(白水社、2020年) ISBN 978-4-560-08862-3。

履修上の留意点	毎回出席することはもちろん、毎回十分な予習・復習が必要である。 単なる言語学習に終わらず、南アジア地域の歴史や文化に対する好奇心を抱き、その情熱を行動であらわそうと努力する姿勢を期待する。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh103
講義コード	2A2800300
講義名	ヒンディー語初級Ⅲ
担当者名	岡口　良子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅲ(前期)では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	ヒンディー語初級を学ぼうとする学生にとっては、ヒンディー語を表記するデーヴァ・ナーガリー文字と発音は初めて視聴すると思われるので、ネイティブのヒンディー語に触れる為にできる限り視聴覚教材を使用する。 それとともに、初級では基礎文法が非常に大切ですので、教科書に含まれる文法事項の基礎をしっかりと学んで確認していく。各自が主体的に、本文の朗読と訳読・練習問題の解答作り・日本語の文のヒンディー語への翻訳などの作業を行う。内容としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を理解するように努める学習である。授業では新しく学んだ文法事項を含む文の和訳と作文の課題を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は、まず、デーヴァ・ナーガリー文字の表記と発音をしっかりと身につけた後に、単語レベルでの表記と発音を身につける。 教科書に記載の基礎文法事項(人称代名詞とコピュラ動詞、名詞の単数形と複数形、主格形と後置格形、命令形と依頼形など)を理解し運用する能力を身につける。さらに初級レベルのヒンディー語の例文・会話・文章などを自力で読解する能力と、作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	教科書で文字の表記と発音を学んだ後、文法の理解度を確認しながら、初級レベルの作文を取り入れる。和訳・作文などの課題を各回実施する。教科書と授業支援システム(manaba)で配布された練習問題を教材とする。初めに講師が教科書で基本的事項を解説したのちに、学生が自分で、練習問題を解いていく。 必要に応じて、授業内でヒンディー語の歌を視聴する。
授業計画	【第1回】デーヴァナーガリー文字・母音の表記と発音 「母音字と子音字」音読と文字の書き方練習。 【第2回】子音の表記と発音(その1) 「子音字」の「破裂音」について、音読と書き方練習。 【第3回】子音の表記と発音(その2) 「半母音、歯擦音、声門摩擦音」「ヌクターをつけた子音字」の音読と書き方練習。 【第4回】母音記号と鼻母音化記号 「母音記号」「母音記号付きの11種の文字(ka～kau)」「鼻母音化記号」の音読と書き方練習。 【第5回】鼻子音記号と子音字に含まれる母音a 「3.鼻子音記号」の音読と書き方練習。 【第6回】第1課　人称代名詞とコピュラ動詞の現在形 第1課の会話文の音読練習と練習プリント 【第7回】第2課　名詞・形容詞(主格)の単数形と複数形 第2課の会話文の音読練習と練習プリント 【第8回】第3課　代名詞と名詞の後置格形 第3課の会話文の音読練習と練習プリント 【第9回】第4課　命令形、後置詞「カ」と代名詞属格 第4課の会話文の音読練習と練習プリント 【第10回】第4課　3.後置詞「カ ka」と 4. 所有表現 第4課の会話文の音読練習と練習プリント 【第11回】第5課 1.目的語と後置詞「コ ko」2.代名詞の融合形 第5課の会話文の音読練習と練習プリント 【第12回】第5課　3.「必要です」 第5課の練習プリントの「必要です」の表現に関する問題練習 【第13回】第6課　未来形 第6課の会話文の音読練習と練習プリント
事前・事後学修	解いた練習問題の答は、必ず確認することが重要です。間違った箇所は、必ず自分でもう一度練習し直して、疑問な点があれば、講師に直接、または、メールなどを利用しながら、質問をする。初級では基礎の積み重ねが大事なので、分からないことを放置しないように心がける。また初級

	では、予習よりも復習が大切です。教科書と練習プリントを繰り返し見直しと音読をする。
成績評価方法・基準	授業の第1～5回(母音字と子音字、母音記号、鼻母音化記号、鼻子音記号他)は、文字の練習課題の提出の有無で採点をする。第6～13回まで(人称代名詞とコピュラ動詞、男性名詞と女性名詞、単数形と複数形、形容詞・主格の単数形と複数形、後置詞と後置格形、命令表現、所有表現、未来形)は、毎回、確認テストを行う。 第1～5回までの提出状況と、第6～13回の確認テストの採点を合計して評価をする。
教科書・指定図書	教科書:町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』(白水社、2020年) ISBN 978-4-560-08862-3。
履修上の留意点	授業に出席することはもちろん、繰り返しの書き取り練習、音読練習と復習が必要です。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh104
講義コード	2A2800400
講義名	ヒンディー語初級Ⅳ
担当者名	岡口　良子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅳ(後期)では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	このヒンディー語初級Ⅳでは、まず前期の復習をした後に、さらに次の段階の文法事項の学習に進んでいく。教科書の第7課から第10課までの文法事項(現在表現、過去の言い方、他動詞完了分詞と主語、未完了表現と完了表現、進行表現、不定詞の使い方)を順を追って学ぶ。各自が主体的に、本文の朗読と訳読および練習問題の解答作りをする。 さらに日本語の文をヒンディー語に翻訳する作業を行う。必ず、手書きの練習を繰り返して、スペルをしっかり覚える。また、音読を繰り返し行う。 ヒンディー語の歌の視聴は引き続き、必要に応じて行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ヒンディー語初級Ⅳを学ぼうとする学生は、教科書の基礎文法事項(一般動詞の現在表現、念をおす表現、コピュラ動詞の過去形、一般動詞の完了分詞、他動詞完了分詞と主語、未完了表現と完了表現、「～と思われる」「～が手に入る」、進行表現、不定詞の名詞的用法)を理解し、運用する能力を身につける。さらに初級レベルのヒンディー語の文章を自力で読解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	毎回、文法事項の説明と質疑応答を行ってから、練習プリントで練習問題を学生がなるべく自力で解く。さらに解いた答えの確認および訂正を行う。 語学の授業なので、学ぶ側の能動的な参加を前提としたものとなる。文字の発音と文のイントネーションなど、ヒンディー語の音声上の特徴を覚えるための朗読練習を行う。また、文法の理解度を確認しながら、積極的に初級レベルの会話や作文の演習を取り入れる。
授業計画	第1回　文法の復習 「人称代名詞とコピュラ動詞」「男性名詞と女性名詞」「名詞と形容詞の単数形と複数形」「後置詞と後置格形」 第2回　文法の復習 「命令形と依頼形」「後置詞kaと代名詞属格」「所有表現」「目的語と後置詞ko」「代名詞の融合形」「必要表現」「未来形」「不確定未来形」 第3回　第7課「一般動詞の現在表現」文法の説明と練習。 第7課の練習プリントの該当問題の練習 第4回　第7課「念をおす表現」「未完了現在形の発展問題」 第7課会話例文の音読練習と練習プリント 第5回　第8課「コピュラ動詞の過去形」「一般動詞の完了分詞」文法の説明と練習。 第8課練習プリントの該当問題の練習 第6回　第8課「他動詞完了分詞と主語」文法の説明と練習。 第8課練習プリントの該当問題の練習と会話例文の音読。 第7回　第9課「未完了表現と完了表現」文法の説明と練習。 第9課練習プリントの該当問題の練習。 第8回　第9課「～と思われる」「～が手に入る」文法の説明と練習。 第9課練習プリントの該当問題の練習と会話例文の音読。 第9回　第10課「進行表現」文法の説明と練習。 第10課練習プリントの該当問題の練習。 第10回　第10課「不定詞の名詞的用法」文法の説明と練習。 第10課練習プリントの該当問題の練習と会話例文の音読。 第11回　第11課「人の身に～が起こる」文法の説明と練習。 第11課練習プリントの該当問題の練習。 第12回　第11課「予定・必要・強制表現」文法の説明と練習。 第11課練習プリントの該当問題の練習と会話例文の音読。 第13回　第7課から第11課までのまとめ問題。 文法事項の確認と音読を中心に、復習を行なう。

事前・事後学修	予習：その日の授業範囲の教科書を読み、何について学ぶのか、大まかに把握しておく。 復習：その日に学んだ内容を繰り返し見返す。教科書の各課の例文とプリントの練習文の読み書きを繰り返し行う。教科書に付いているCDを繰り返し聞きながら、音読をする。慣れてきたら、日本語の意味を考えながら音読をする。なお、教科書に振ってあるカタカナでなくデーヴァ・ナーガリー文字を見て、音読するように心がける。
成績評価方法・基準	第1回から第13回まで、毎回、授業の終わりに確認テストを行ない、それらの採点結果を合計して成績評価を出します。 なお、第1回と第2回の授業は春期の復習となりますが、語学の性質上、秋期の学習の土台となるので、秋期の範囲の評価に含めます。
教科書・指定図書	教科書：町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』（白水社、2020年）ISBN 978-4-560-08862-3。（前期で使用したものを引き続き使用）
履修上の留意点	（1）前期で学んだ内容（教科書ニューエクスプレスヒンディー語の第1課から第6課）を身につけていること （2）予習復習をすること。練習プリントの答えは必ず確認して、間違えた箇所を正す。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh201
講義コード	2A2801100
講義名	ヒンディー語中級Ⅰ
担当者名	村山 和之
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
授業の内容	この授業では、まずナーガリー文字の表記と発音の仕組みの復習をしながら、各課の本文を読む練習を行う。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、ヒンディー語特有の音韻について、日本語や英語と比較対照して解説し、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。各自が主体的に、練習問題の解答作り、中級レベルのヒンディー語の読み物・会話テキスト・映画の台詞を日本語に訳す練習、日本語の文をヒンディー語に翻訳するなどの作業を行う。内容としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を理解するように努める学習である。仕上げとして、新しく学んだ文法事項を含む文の和訳と作文などの課題を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業の目標は、履修学生が、ナーガリー文字の表記と発音から始まり、教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につけることである。ナーガリー文字の表記については、履修学生が、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟すること。履修学生が、単語としての表記と発音の関係の規則を理解すること。さらに履修学生が、中級レベルの文法を理解して中級レベルのヒンディー語の例文・読み物・会話・映画の台詞などを自力で読解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	各履修学生のヒンディー語の理解レベルを確認した上で、対面式授業で、授業内に配られたプリントを教材とする。テキストの音読と文法事項の解説をした後、文法の理解度を確認しながら、中級レベルの和訳・作文を練習問題として実施する。授業中に分担された練習問題の解答を履修学生が板書し、それぞれの解答を黒板上で添削する。授業の後半で、各履修学生に確認テストの解答をノートに書くように指示する。履修学生一人一人のノートを授業中に添削採点し、記録する。ヒンディー・ウルドゥー語映画を教材に使うことも検討中である。
授業計画	【第1回】ヒンディー語の教科書の読解(1) テキスト:『スポード・バールティー』より。仏陀の話(前)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第2回】ヒンディー語の教科書の読解(2) テキスト:『スポード・バールティー』より。仏陀の話(後)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第3回】ヒンディー語の教科書の読解(3) テキスト:『スポード・バールティー』より。遊びと仕事(前)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第4回】ヒンディー語の教科書の読解(4) テキスト:『スポード・バールティー』より。遊びと仕事(後)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語のの本文の朗読と和訳を行う。 【第5回】ヒンディー語の教科書の読解(5) テキスト:『スポード・バールティー』より。自由への最初の闘争(前)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語のの本文の朗読と和訳を行う。 【第6回】ヒンディー語の教科書の読解(6) テキスト:『スポード・バールティー』より。自由への最初の闘争(後)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語のの本文の朗読と和訳を行う。 【第7回】【第6回】ヒンディー語の会話書の練習(1) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第1課 あいさつ 【第8回】ヒンディー語の会話書の練習(2) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第2課 空港で 【第9回】ヒンディー語の会話書の練習(3) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。3課 ホテルのフロントで 【第9回】ヒンディー語の会話書の練習(4) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。4課 ホテルにチェックインする 【第10回】ヒンディー語の会話書の練習(5) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。5課 ホテルにインドの知人が来る 【第11回】ヒンディー語の会話書の練習(6) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。6課 食事をいただく 【第12回】ヒンディー語の会話書の練習(7) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。7課 お茶をいただく 【第13回】絵本『スポード・バールティー』、『やさしいヒンディー会話』第1課から第7課までの総復習。添削された練習問題・確認テストの正解のチェックと応用。学期末試験に備えた解説を受けての勉強。
事前・事後学修	毎回、語学面の予習・復習を期待する。添削された課題のまちがっていた所を確認し、次の課題提出に備えることが復習であり、また予習にもなる。新しい文法事項について、解説に加えて多くの例文を示した教材を各回事前に manaba に掲載する。manaba に掲載された2種の語彙集を使い、語句を調べることが予習になる。また、自分で内容を推量し和訳・作文を行うことなども予習として大切である。各回添削された練習問題・確認テストの正解を反復して覚えることが復習として必要である。

成績評価方法・基準	manaba に掲載された読み物のテキスト、会話のテキスト、映画の台詞の読み書き、質問に対する反応など授業への集中度と教科書と manaba に掲載された『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を用いて調べ授業中に解答した練習問題・確認テスト、合わせて13回分の添削採点で平常点を算出する。全13回の授業の内容を集約し、重要な事項から総合的に出題した学期末の試験を実施する。評価基準は、学期末の筆記試験の点数が67%、平常点が33%の比重として総合し、最終的な成績を算出する。
教科書・指定図書	教科書：読み物のテキスト『サンボード・バールティー』、会話のテキスト『やさしいヒンディー会話』、映画の台詞は、PDFファイルとして manaba のコンテンツに添付する。 辞書として用いる『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』は、PDFファイルとして manaba のコンテンツに添付する。 初級で使用した教科書、町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』（白水社、2020年） ISBN 978-4-560-08862-3 を併用する。
履修上の留意点	毎回出席することはもちろん、毎回十分な予習・復習が必要である。 単なる言語学習のみに留まらず、南アジア地域の歴史や文化に対する好奇心を抱き、その情熱を行動であらわそうと努力する姿勢を期待する。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh202
講義コード	2A2801200
講義名	ヒンディー語中級Ⅱ
担当者名	村山　和之
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきることは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
授業の内容	この授業では、まずナーガリー文字の表記と発音の仕組みの復習をしながら、各課の本文を読む練習を行う。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、ヒンディー語特有の音韻について、日本語や英語と比較対照して解説し、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。各自が主体的に、練習問題の解答作り、中級レベルのヒンディー語の読み物と会話のテキストの本文を日本語に訳す練習、日本語の文をヒンディー語に翻訳するなどの作業を行う。内容としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を理解するように努める学習である。仕上げとして、新しく学んだ文法事項を含む文の和訳と作文などの課題を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業の目標は、履修学生が、ナーガリー文字の表記と発音から始まり、教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につけることである。ナーガリー文字の表記については、履修学生が、インド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟すること。履修学生が、単語としての表記と発音の関係の規則を理解すること。さらに履修学生が、中級レベルの文法を理解して中級レベルのヒンディー語の読み物・会話文などを自力で読解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	各履修学生のヒンディー語の理解レベルを確認した上で、対面式授業で、授業内に配られたプリントを教材とする。テキストの音読と文法事項の解説をした後、文法の理解度を確認しながら、中級レベルの和訳・作文を練習問題として実施する。授業中に分担された練習問題の解答を履修学生が板書し、それぞれの解答を黒板上で添削する。授業の後半で、各履修学生に確認テストの解答をノートに書くように指示する。履修学生一人一人のノートを授業中に添削採点し、記録する。ヒンディー・ウルドゥー語映画を教材に使うことも、履修学生の修学度と情熱をみて適宜選択する。
授業計画	【第1回】ヒンディー語教科書の読解(1) テキスト:『サンボード・パールティー』。リンカーンの髭(前)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第2回】ヒンディー語教科書の読解(2) テキスト:『サンボード・パールティー』。リンカーンの髭(中)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第3回】ヒンディー語教科書の読解(3) テキスト:『サンボード・パールティー』。リンカーンの髭(後)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第4回】ヒンディー語教科書の読解(4) テキスト:『サンボード・パールティー』。石に書かれた詩(前)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第5回】ヒンディー語教科書の読解(5) テキスト:『サンボード・パールティー』。石に書かれた詩(中)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第6回】ヒンディー語教科書の読解(6) テキスト:『サンボード・パールティー』。石に書かれた詩(後)。「ヒンディー語・日本語 基礎語彙集」を用いて、語句の意味を調べ、ヒンディー語の本文の朗読と和訳を行う。 【第7回】ヒンディー語の会話書の練習(1) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第8課　自分のことを話す(その1) 【第8回】ヒンディー語の会話書の練習(2) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第9課　自分のことを話す(その2) 【第9回】ヒンディー語の会話書の練習(3) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第10課　デリー見物 【第10回】ヒンディー語の会話書の練習(4) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第11課　バスに乗る 【第11回】ヒンディー語の会話書の練習(5) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第12課　列車に乗る 【第12回】ヒンディー語の会話書の練習(6) テキスト:『やさしいヒンディー会話』。第13課　道を尋ねる 【第13回】『サンボード・パールティー』『やさしいヒンディー会話』第8課から第13課までの総復習。添削された練習問題・確認テストの正解のチェックと応用。学期末試験に備えた解説を受けての勉強。
事前・事後学修	毎回、語学面の予習・復習を期待する。返却された課題のまちがっていた所を確認し、次の課題提出に備えることが復習であり、また予習にもなる。新しい文法事項について、解説に加えて多くの例文を示した教材を各回事前に manaba に掲載する。manaba に掲載された2種の語彙集を使い、語句を調べることが予習になる。また、自分で内容を推量し和訳・作文することなども予習として大切である。各回添削された練習問題・確認テストの正解を反復して覚えることが復習として必要である。
成績評価方法・基準	manaba に掲載された読み物のテキスト、会話のテキストの読み書き、質問に対する反応など授業への集中度と教科書と manaba に掲載された『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』を用いて調べ授業中に解答した練習問題・確認テスト、合わせて13回

	分の添削採点で平常点を算出する。全13回の授業の内容を集約し、重要な事項から総合的に出題した学期末の試験を実施する。評価基準は、学期末の筆記試験の点数が67%、平常点が33%の比重として総合し、最終的な成績を算出する。
教科書・指定図書	教科書：読み物のテキスト『サンボード・バールティー』、会話のテキスト『やさしいヒンディー会話』は、PDFファイルとして manaba の課題のコンテンツに添付する。 辞書として用いる『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』は、PDFファイルとして manaba のコンテンツに添付する。 初級で使用した教科書、町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』（白水社、2020年）　ISBN 978-4-560-08862-3　を併用する。
履修上の留意点	毎回出席することはもちろん、毎回十分な予習・復習が必要である。 単なる言語学習のみに留まらず、南アジア地域の歴史や文化に対する好奇心を抱き、その情熱を行動であらわそうと努力する姿勢を期待する。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh203
講義コード	2A2801300
講義名	ヒンディー語中級Ⅲ
担当者名	岡口　良子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
授業の内容	ナーガリー文字の表記と発音の仕組みの復習をしながら、各課の本文を読む練習を行う。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。各自が主体的に、練習問題の解答作りを行なう。 内容としては、インドを訪れた日本人が出会うであろう場面を中心にした会話文について学ぶ。
科目の到達目標（理解のレベル）	学生は、ナーガリー文字の表記と発音および教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につける。文字の表記に関しては、学生がインド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟し、単語としての表記と発音の関係の規則を理解する。さらに中級レベルの文法を理解して、会話文を自力で理解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につける。
授業形態	演習
授業方法	配布プリントまたは授業支援システム（manaba）に掲載された会話のテキストを教材とする。テキストの音読と文法事項の解説をした後、文法の理解度を確認しながら、中級レベルの和訳・作文を練習問題として実施する。授業の後半で、確認テストを行う。
授業計画	【第1回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（1） 第1課　あいさつ「こんにちは」 【第2回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（2） 第2課　空港で「見てください」 【第3回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（3） 第3課　ホテルのフロントで「いらっしゃいませ」 【第4回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（4） 第4課　ホテルにチェックインする「私の予約は入っていますか？」 【第5回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（5） 第5課　ホテルにインドの知人が来る「ここにお座りください」 【第6回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（6） 第6課　食事をいただく「では、いただきましょうか？」 【第7回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（7） 第7課　お茶をいただく「お茶をどうぞ」 【第8回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（8） 第8課　自分のことを話す（その1）「あなたは日本人ですか？」 【第9回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（9） 第9課　自分のことを話す（その2）「インドにいつからいらっしゃいますか？」 【第10回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（10） 第10課　デリー見物「私はラージガートに行きたいです」 【第11回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（11） 第11課　バスに乗る「バス番号25に乗ってください」 【第12回】テキスト：『やさしいヒンディー会話』の練習（12） 第12課　列車に乗る「どの列車がラクナウへ行きますか？」 【第13回】テキスト：『やさしいヒンディー会話』の練習（13） 第13課　道を尋ねる「この近くに郵便局はありますか？」
事前・事後学修	予習：新しい文法事項について、各回事前に配布されたプリントを読んで、自分で分かる箇所と分からない箇所をあらかじめ確認しておく。分からない箇所については、授業中に質問する。 復習：各回添削された練習問題・確認テストの正解を反復して覚える。
成績評価方法・基準	第1回から第13回までの各授業で行なった確認テストの採点結果を合計して、成績の評価を出します。 具体的には、毎回の確認テストの持ち点を100点として、間違った箇所1つについて2点をマイナスしていきます。最終的に全合計点を13で割って、平均点を出して、それを評価点とします。

教科書・指定図書	会話のテキスト『やさしいヒンディー会話』は、プリントまたはPDFファイルとして manaba のコンテンツに添付する。 初級で使用した『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』 および、町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』(白水社、2020年)　ISBN 978-4-560-08862-3　も併用する。
履修上の留意点	毎回出席することはもちろん、毎回十分な予習・復習が必要である。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh204
講義コード	2A2801400
講義名	ヒンディー語中級Ⅳ
担当者名	岡口　良子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
授業の内容	ナーガリー文字の表記と発音の仕組みの復習をしながら、各課の本文を読む練習を行う。ナーガリー文字の表記については、インド系文字の特徴を理解し、音節の表し方に習熟するため、手書きでの書き取りを繰り返し行う。また発音については、実際に自分で発音できるように繰り返し練習する。各自が主体的に、練習問題の解答作りを行なう。 内容としては、インドを訪れた日本人が出会うであろう場面を中心にした会話文について学ぶ。
科目の到達目標（理解のレベル）	学生は、ナーガリー文字の表記と発音および教科書に含まれる基礎文法事項を理解し運用する能力を身につける。文字の表記に関しては、学生がインド系文字の特徴を理解し、単独の母音字と子音字に母音記号を加えた音節の表し方に習熟し、単語としての表記と発音の関係の規則を理解する。さらに中級レベルの文法を理解して、会話文を自力で理解する能力と、ヒンディー語の作文能力を身につける。
授業形態	演習
授業方法	配布プリントまたは授業支援システム（manaba）に掲載された、会話のテキストを教材とする。テキストの音読と文法事項の解説をした後、文法の理解度を確認しながら、中級レベルの和訳・作文を練習問題として実施する。授業の後半で、確認テストを行う。
授業計画	【第1回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（1） 第14課　郵便局で「航空便で何ルピーですか？」 【第2回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（2） 第15課　電話をかける「もしもし、ソーハンさんはいますか？」 【第3回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（3） 第16課　ショッピング（その1）「私に指輪を見せてください」 【第4回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（4） 第17課　ショッピング（その2）「キロあたり何ルピーですか？」 【第5回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（5） 第18課　レストランで「何を召し上がりますか？」 【第6回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（6） 第19課　映画を見に行く「映画を見に行きましょうか？」 【第7回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（7） 第20課　結婚式を楽しむ「なんと喜ばしいことでしょう！」 【第8回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（8） 第21課　お祭りの日に「色水をかけているのです」 【第9回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（9） 第22課　医者にかかる「どうしましたか？」 【第10回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の練習（10） 第23課　別れのあいさつ「また必ず来てください」 【第11回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の追加練習（1） 第24課　コピュラ動詞の過去形「昨日どこにいましたか？」 【第12回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の追加練習（2） 第25課　未完了過去形「10年前の話」 【第13回】テキスト『やさしいヒンディー会話』の追加練習（3） 第26課　他動詞の完了分詞「昨日見た映画の話」
事前・事後学修	予習：新しい文法事項について、各回事前に配布されたプリントを読んで、自分で分かる箇所と分からない箇所をあらかじめ確認しておく。分からない箇所については、授業中に質問する。 復習：各回添削された練習問題・確認テストの正解を反復して覚える。
成績評価方法・基準	第1回から第13回までの各授業で行なった確認テストの採点結果を合計して、成績の評価を出します。 具体的には、毎回の確認テストの持ち点を100点として、間違った箇所1つについて2点をマイナスしていきます。最終的に全合計点を13で割って、平均点を出して、それを評価点とします。

教科書・指定図書	会話のテキスト『やさしいヒンディー会話』は、プリントまたはPDFファイルとして manaba のコンテンツに添付する。 初級で使用した『ヒンディー語・日本語 基礎語彙集』『日本語・ヒンディー語 基礎語彙集』 および、町田和彦『ニューエクスプレス＋ヒンディー語』(白水社、2020年)　ISBN 978-4-560-08862-3　も併用する。
履修上の留意点	毎回出席することはもちろん、毎回十分な予習・復習が必要である。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh205
講義コード	2A2801500
講義名	ヒンディー語中級Ⅴ
担当者名	岡口　良子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を一通り学習した学生がその知識をさらに確かなものにしていく実践的な学習が、表現能力の訓練である。ここでは、簡単な日常の事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とし、各言語独自の言い回しや言葉の使い方などを中心に学び、作文力や会話能力の向上を目指す。
授業の内容	ヒンディー語中級Ⅴでは、インドの国民的二大叙事詩の一つである「ラーマーヤナ」を、子供向けにアニメーションとして制作した作品のシナリオで読んでいく。授業の回数が限られているため、学ぶ箇所は長い物語の一部分だけとなるが、これらの場面を知ることで、「ラーマーヤナ」の概要が分かるように編集してある。 初級の復習をしつつ、さらに新たな文法事項も学ぶ。また、辞書を引くための準備として、テキスト「ラーマーヤナ」専用の語彙集で単語を引く練習を行う。 授業の進め方としては文法と語彙の解説を中心とした講義を受けた後に、自力でヒンディー語を訳せるように努める学習である。
科目の到達目標 （理解のレベル）	ヒンディー語中級Ⅴでは、ヒンディー語の文章をその内容を理解しながら正確な発音で読むことが第一段階の到達目標である。さらに初級で学んだ文法事項に加えて、中級レベルの文法事項（後置詞の様々な意味、複合動詞、与格構文、予定・必要・強制表現、過去完了形、複文など）を理解することが第二段階の目標である。 会話文・物語などの学習を通して、中級レベルの文法の理解と読解力・作文力・会話力の向上を目標とする。
授業形態	演習
授業方法	初級の文法事項を確認しながら、未習の中級レベルの文法事項を学んでいく。プリント教材（アニメーション「ラーマーヤナ／ラーマ王子伝説」のシナリオ）を使用して会話文・物語などの語句解釈・内容把握、日本語訳などを行う。 DVDで映像を視聴しながら、授業支援システム（manaba）で事前に配布された教材を読んでいく。各回のテキスト範囲の単語の意味を確認した後に、本文を訳す。また、本文の音読も行なう。
授業計画	【第1回】学習の仕方の説明とテキスト[1]始めのナレーション DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第2回】[2]羅刹退治の支援要請 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第3回】[3]ターラカーの森 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第4回】[4]ヴィシュワーミトラ聖仙の神授の武器 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第5回】[5]父の死を告げられたラーマ DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第6回】[6]パラタの決意 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第7回】[7]シュールパナカーの求婚 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第8回】[8]スィーター誘拐 ① DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第9回】[9]スィーター誘拐 ② DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第10回】[10]スィーターの捜索 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第11回】[11]ランカー島の偵察 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第12回】[12]ハヌマーンはスィーターを救いに来たと告げる DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。 【第13回】[13]和平協定の申し出 DVDで映像を視聴後、本文の音読、単語確認、和訳。

事前・事後学修	予習：本文の音読をする。デーヴァ・ナーガリー文字にはアルファベットが振ってあるが、なるべくデーヴァ・ナーガリー文字を見て発音するように心がける。 次に単語帳で、単語プリントに記載されている単語の意味を調べる。さらに本文訳をしてみる。単語帳を使い、語句を調べて、内容を推測することが大切です。 復習：毎回必ず、自分が予測した和訳と異なった訳の箇所や分からなかった箇所を確認して見直しておく。
成績評価方法・基準	第1回から第13回まで、毎回授業の終わりに確認テストを行ない、その採点結果を合計して、成績評価を出します。 なお【第1回】の単語調べは初めてなので、授業中に、単語調べのやり方などを説明しながら、クラス全体で一緒に行ないます。
教科書・指定図書	教材テキストは、プリントまたは授業支援システムを通じて配布します。①テキスト「ラーマーヤナ／ラーマ王子伝説」 ②「ラーマーヤナ／ラーマ王子伝説 単語帳」 ③「ラーマーヤナ／ラーマ王子伝説 単語プリント」。また、初級で使用した『ニューエクスプレス・ヒンディー語』も参考として使います。 第1回目の授業で詳しい説明をしますので、第1回目の授業には、初級で使用した「ニューエクスプレス・ヒンディー語」だけを持って来て下さい。
履修上の留意点	この科目を履修するには、 ヒンディー語初級を履修したことを前提とする。 毎回の単語調べの予習と、テキスト本文の音読と和訳の復習が必要である。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAh206
講義コード	2A2801600
講義名	ヒンディー語中級VI
担当者名	岡口　良子
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	より高度な事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とする。学習の仕方は、外国語中級Vと変わりはないが、作文では、より上手な文章作りができるよう学習し、会話では、適切な言葉や慣用表現が上手に使えるように練習していく。
授業の内容	ヒンディー語映画"Koi mil gaya"(2003)「何かが見つかった」のシナリオを読む。この映画は、障害のある青年と宇宙人との交流を描いた物語である。青年は、心無い者たちから酷くいじめられながらも、友人たちと母親に支えられて成長する。そして、研究材料にされそうになった宇宙人を救うために全力を尽くす。 授業では、初級で学んだ文法事項を確認しつつ、さらに難易度の高い文法事項を学習する。 また、発音と文のイントネーションなど、ヒンディー語の音声上の特徴を覚えるために視聴覚教材を使用し、朗読練習を行う。各自が主体的に、ヒンディー語から日本語への翻訳作業を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は、デーヴァ・ナーガリー文字で表記された文を音読できるようになることが、1番目の目標である。さらに、辞書を引いて単語の意味を調べることができ、本文中では、その単語のどの意味が適切かを判断でき、適切な訳をすることができることが2番目の目標である。 教科書「ニューエクスプレス・ヒンディー語」と配布のプリント教材に含まれる基礎文法事項を十分に理解して、運用する能力を身につけることを目標とする。
授業形態	演習
授業方法	ヒンディー語映画の映像(DVDまたはyoutube)を視聴後、本文の音読の練習をする。単語プリントに記載されている単語の意味を辞書で調べる。さらにシナリオ文の翻訳を行う。 テキストの音読や翻訳を学生が自力で行えるように促す。 主となるテキストは、配布プリントまたはmanabaのコンテンツ欄で配布するファイルを使用する。また、初級で使用した教科書「ニューエクスプレス・ヒンディー語」も併用する。
授業計画	【第1回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[1] 「サンジャイが宇宙人との交信に成功」、<歌その1>「この鳥たちを見て」 【第2回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[2] 「ニシャーとの出会い」 【第3回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[3] 「お母さんに諭される」 【第4回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[4] 「ニシャーの謝罪」、<歌その2>「僕はこっちへ行った」 【第5回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[5] 「お花のプレゼント」、<歌その3>「何かが見つかった」 【第6回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[6] 「エイリアンを捜しに」 【第7回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[7] 「エイリアンをかくまう」 【第8回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[8] 「エイリアンの名前はジャードゥー」、<歌その4>「ジャードゥー」 【第9回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[9] 「ローヒトの失意」、<歌その5>「何も不完全でも、完全でもない」 【第10回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[10] 「ジャードゥーが危ない」 【第11回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[11] 「カーン警部の包囲」 【第12回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[12] 「カーン警部の部下スクワーニーが味方に」 【第13回】"Koi mil gaya"(何かが見つかった)[13] 「ジャードゥーの贈り物」
事前・事後学修	予習:その日の授業範囲の課の単語プリントで単語の意味を調べる。次に、調べた単語プリントを参考にしながら、シナリオ本文をヒンディー語文からの日本語文に訳す。分からない部分については、「どこが分からないか」を自分で把握しておく。 復習:その日に学んだ課のヒンディー語の文を3回繰り返して音読する。そして、仕上げには、黙読しながら、頭の中で日本語訳を確認する。

成績評価方法・基準	第1回から第13回まで、毎回授業の終わりに確認テストを行ない、その採点結果を合計して、成績評価を出します。 なお【第1回】はこのテキストは初めてなので、授業中に、単語調べのやり方などを説明しながら、クラス全体で一緒に行ないます。
教科書・指定図書	シナリオと単語プリントは、プリントまたは、manabaのコンテンツ欄のファイルで配布する。 初級で使用した「ニューエクスプレス・ヒンディー語」。
履修上の留意点	ヒンディー語初級及び、ヒンディー語中級前期を履修したことを前提とする。 毎回の予習は、単語プリントの空欄がある単語について、語彙集などを使って意味を調べておく。さらにテキストの本文を音読して、大体の本文訳を推測してみる。 復習は、授業で確認したことを、特に自分の推測とは違っていた箇所について注意しながら、和訳を頭に置きつつ音読をする。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv101
講義コード	2A3000100
講義名	ベトナム語初級 I
担当者名	グエン トゥアン
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。I (前期)では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	基礎ベトナム語を焦点として、発音、ベトナム語の構造、疑問代名詞、名詞、動詞、形容詞、人称代名詞、副詞、数字、時間の事の簡単な会話、簡単な文法、文の構造、リスニングを学ぶ。学生の日常生活の簡単な話題について会話と作文をする。 次のトピックを学習します:挨拶、自己紹介、位置を示す単語と文、東、西、南、北、肯定的な質問、名誉、形容詞の単語による質問と回答、名詞による質問と回答、動詞による質問と回答 、過去、現在、未来の動詞の形、数、職業を尋ねる方法、比較語は等しい、最上級、その他、時間、日、月、年、動詞の方向の単語などについて尋ねて答える方法など。 上記の学習内容を通して、学生は、短い会話、読解、教科書での聴解を通して、ベトナムの文化、歴史、社会について学びます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	簡単なベトナム語で日常や大学の活動などについて、話したり書いたりすることができます。 このコースの最後に、学生はあなたの名前は何ですか？などのトピックについて、簡単なベトナム人と会話したり、話したり、聞いたりすることができます。今どこで勉強していますか？ あなたの学校は何ですか？ あなたの国籍は何ですか？ 何を専攻していますか？ ベトナム人は難しいですか？ ベトナムに行ったことはありますか？ 今何時ですか？ あなたの誕生日は何ですか？ 天気、健康、そしてカウント。数え方は非常に複雑で、覚えにくく、間違えやすいので、生徒は数え方、序数、会話について多くを学び、復習し、数に関連する文脈を理解します。
授業形態	演習
授業方法	各課のテーマとなる文法を説明、発音練習、教師と学生のQ－A形式の文型練習、学生同士のQ－A形式の文型練習、絵や写真を使用しての文型練習、学習した文型を使っての作文。 教科書の中で各授業が宿題があります、毎週宿題をやって下さい。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業 の時、すぐ練習が出来ること。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、 クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい
授業計画	【第1回】 第1課:Bài 1: Chữ cái, phát âm– Letters, pronunciation. 4–22 29 chữ cái, nguyên âm, phụ âm, các dấu–thanh điệu, phát âm, cấu trúc của tiếng Việt. 文字、発音, 、ベトナム語の構造、声調、 (1) 【第2回】 Bài 2: Chữ cái, phát âm– Letters, pronunciation. 4–22 29 chữ cái, nguyên âm, phụ âm, các dấu–thanh điệu, phát âm, cấu trúc của tiếng Việt. 文字、発音, 、ベトナム語の構造、声調、 (2) 第2課: Chữ cái, phát âm 文字、発音,ベトナム語の構造、声調 (2) 【第3回】 第3課: Bài 2: Chào hỏi, họ tên, quốc tịch – greeting, name, nationality 22–42 Tên là gì? Người nước nào? quốc tịch nước nào? ạ, đại từ nhân xưng, là, không phải là. (1) 【第4回】 第4課:Bài 2: Chào hỏi, họ tên, quốc tịch – greeting, name, nationality 22–42 Tên là gì? Người nước nào? quốc tịch nước nào? ạ, đại từ nhân xưng, là, không phải là. (2) 【第5回】 第5課:Bài 5: Bạn học ở đâu? Where are you studying? 42–73 ở đâu? ở,,,/ có phải là,,,không? Có phải ,,,,là,,,không? ,,,có phải không? từ loại/ này, kia, ấy, đó/ nào, gì, ai / vì sao?–vì,,,/ (1) 【第6回】 第6課:Bài 6: Bạn học ở đâu? Where are you studying? 42–73 ở đâu? ở,,,/ có phải là,,,không? Có phải ,,,,là,,,không? ,,,có phải không? từ loại/ này, kia, ấy, đó/ nào, gì, ai / vì sao?–vì,,,/ (2) 【第7回】 第7課:Bài 7: Tiếng Việt có khó không? Is Vietnamese difficult? 73–98 ,,,thế nào, có,,,,không? Danh từ, động từ, tính từ, trạng từ– Noun, verb, adjective, adverb–/ rất, quá, lắm, hơi, không,,,lắm, vãi, hơi bị/ có+động từ+không? đã, đang, sẽ~/ (1) 【第8回】 第8課:Bài 8: Tiếng Việt có khó không? Is Vietnamese difficult? 73–98 ,,,thế nào, có,,,,không? Danh từ, động từ, tính từ, trạng từ– Noun, verb, adjective, adverb–/ rất, quá, lắm, hơi, không,,,lắm, vãi, hơi bị/

	có+động từ+không? đã, đang, se~/ (2) 【第9回】 第9課：Bài 9: Anh đã đi Việt Nam bao giờ chưa? Have you ever been to Vietnam? Số đếm-- Cardinal number. 98-138 ,,,đã,,,bao giờ chưa? /Số đếm/ nghề nghiệp/ câu hỏi mấy, bao nhiêu/ so sánh bằng, hơn, nhất/ hết, mất/ có thể ,,,được không? (1) 【第10回】 第10課：Bài 10: Anh đã đi Việt Nam bao giờ chưa? Have you ever been to Vietnam? Số đếm-- Cardinal number. 98-138 ,,,đã,,,bao giờ chưa? /Số đếm/ nghề nghiệp/ câu hỏi mấy, bao nhiêu/ so sánh bằng, hơn, nhất/ hết, mất/ có thể ,,,được không? (2) 【第11回】 第11課：Bài 11: Bây giờ là mấy giờ? what time is it now? 139-167 Thời gian giờ, ngày, động từ có hướng: đi ra, vào, lên, xuống, sang, đến/ khi nào, bao giờ, lúc nào?/ 時間、日、月、年、何時？何日？何月？何年？いつ？(1) 【第12回】 第12課：Bài 12: Bây giờ là mấy giờ? what time is it now? 139-167 Thời gian giờ, ngày, động từ có hướng: đi ra, vào, lên, xuống, sang, đến/ khi nào, bao giờ, lúc nào?/ 時間、日、月、年、何時？何日？何月？何年？いつ？(2) 【第13回】 復習、テスト
事前・事後学修	ベトナム語に関するニュースや文化などに日頃から興味をもって接してほしい。 また、宿題など教員から提示された予習・復習をしっかり行うこと。 教科書の中で各授業が宿題があります、毎週宿題をやって下さい。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業 の時、すぐ練習ことが出来るの事。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい。
成績評価方法・基準	・前期終了時の期末試験：70% 授業のとき、積極的な参加して、質問を答えて、会話をして、宿題をちゃんとやって、ちゃんとした態度で、礼儀正しく、欠席が少ないこと。 各授業、頑張って遅刻しないのこと、授業の途中、ちゃんとした態度になること。 先生を尊敬するの事。 遅刻と欠席の時、先生にちゃんと説明すること、宿題をやっていない時、ちゃんとを理由を説明すること。 ・毎回課される宿題、会話授業への積極性：30%
教科書・指定図書	『Tieng Viet hang ngay A(毎日ベトナム語—A)』 川口健一、グエントゥアン作成プリントを配布。
履修上の留意点	毎回課される宿題をしっかりする。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業の時、すぐ練習が出来ること。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv102
講義コード	2A3000200
講義名	ベトナム語初級Ⅱ
担当者名	グエン トゥアン
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅱ(後期)では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	基礎ベトナム語を焦点として、発音、簡単な会話、簡単な文法、文の構造を学ぶ。学生の日常生活の簡単な話題について会話と作文をする。初年度の2学期では、オリンピックを見る、スポーツの練習、自然の保護、環境、私の通常の日、お正月の休日、幸せな生活、健康的な生活などのトピックを学びます。 上記のコンテンツでは、動詞と副詞の能動的および受動的などの関連する文法の問題を学び、語彙と時間の表現、数字、位置を示す単語、上、下、隣、後、前、命令を確認します必要、しなければならない、すべき、すべきではない、できない、禁止する、空間と時間の距離についての言葉。 学生は、会話、読解、コロナ病、環境保護、健康トレーニング、お祭りやテトホリデーについての言葉など、最新のトピックについての聞き取りを学びます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	簡単なベトナム語で日常や大学の活動などについて、話したり書いたりすることができます。 このコースを修了すると、学生は簡単な会話、読解、聴解、東京2020オリンピックの観戦などのトピックについてのディスカッションを行うことができます。スポーツの練習、サッカー、卓球、バレーボール。環境汚染、プラスチック廃棄物、大気汚染、自然保護; 私の通常の日、学生と会社の従業員の毎日の仕事と勉強のスケジュール。テトの休日、年明けの寺院への行き方、ラッキーマネー、コロナ時代の幸せで健康な暮らし方などの内容。
授業形態	演習
授業方法	各課のテーマとなる文法を説明、発音練習、教師と学生のQーA形式の文型練習、学生同士のQーA形式の文型練習、絵や写真を使用しての文型練習、学習した文型を使っての作文。前期と同じ方法。 生徒たちはクラスで、質問を答える、質問を作る、間違い文書を直す、読解、リスニング、エッセイを書く、二人の組で会話練習すること。 私のemail: mtuanbao@gmail.com Mobile phone:090.9327.5428
授業計画	【第1回】 第1課: Bài 1: Xem Thế vận hội thể thao-Watch the sports Olympics. Động từ thể bị động, chủ đông, được, bị/ của/ trạng ngữ một cách/ thời gian tuần, tháng, năm, mùa/ số thứ tự/ thôi, vậy thì, thế à, thế thì, thật ra là (1) 【第2回】 第2課: Bài 2: Xem Thế vận hội thể thao-Watch the sports Olympics. 168-207 Động từ thể bị động, chủ đông, được, bị/ của/ trạng ngữ một cách/ thời gian tuần, tháng, năm, mùa/ số thứ tự/ thôi, vậy thì, thế à, thế thì, thật ra là (2) 【第3回】 第3課:Bài 3: Luyện tập thể thao- practice sports Vị trí trong, ngoài, trên, dưới, phương hướng đông, tây, nam, bắc,/ có thể, cần, phải, nên, muốn/ đều, cả, những, vừa,,vừa,,/ hả,,, (1) 【第4回】 第4課: Bài 4: Luyện tập thể thao- practice sports-207-236 Vị trí trong, ngoài, trên, dưới, phương hướng đông, tây, nam, bắc,/ có thể, cần, phải, nên, muốn/ đều, cả, những, vừa,,vừa,,/ hả,,, (2) 【第5回】 第5課: Bài 5: Ngày Trái đất, bảo vệ thiên nhiên-The Earth Day-Protect nature. 237-257 Để, nhỉ, nhé, chứ, hoặc, hay, cũng, nhiều, mặc dù,,nhưng,,,vẫn,,, (1) 【第6回】 第6課: Bài 6: Ngày Trái đất, bảo vệ thiên nhiên-The Earth Day-Protect nature. 237-257 Để, nhỉ, nhé, chứ, hoặc, hay, cũng, nhiều, mặc dù,,nhưng,,,vẫn,,, (2) 【第7回】 第7課: Bài 7: Một ngày bình thường của em -My everyday life- Mới, vừa mới, vẫn, vẫn còn, khoảng, độ, chừng, tầm, như (1)

	【第8回】 第8課: Bài 8: Một ngày bình thường của em -My everyday life- Mới, vừa mới, vã~n, vã~n còn, khoảng, độ, chừng, tầ`m, như (2) 【第9回】 第9課: Bài 9: Nghỉ Tế´t-Tet holiday- Lại-động từ, động từ-lại, lại-động từ-lại/ từ,,đế´n/ chấ´c là, cái gì đó, A khác với B, chỉ,,,thôi/ hay là,,, 正月と祭り、お晦日、初も出、お年玉、、、(1) (1) 【第10回】 第10課: Bài 10: Nghỉ Tế´t-Tet holiday-288-310 Lại-động từ, động từ-lại, lại-động từ-lại/ từ,,đế´n/ chấ´c là, cái gì đó, A khác với B, chỉ,,,thôi/ hay là,,, 正月と祭り、お晦日、初も出、お年玉、、、 (2) 【第11回】 第11課: Bài 11: Sô´ng vui, sô´ng khỏe-Live happy, live healthy- 310-336-Sấ´p, à, xong, hế´t, chỉ ,,thôi, vì,,nên, đọc phân sô´, bằ`ng, do, bởi, (1)  【第12回】 第12課: Bài 12: Sô´ng vui, sô´ng khỏe-Live happy, live healthy- -Sấ´p, à, xong, hế´t, chỉ ,,thôi, vì,,nên, đọc phân sô´, bằ`ng, do, bởi, 、、、(2) 【第13回】 復習、テスト
事前・事後学修	ベトナム語に関するニュースや文化などに日頃から興味をもって接してほしい。 また、宿題など教員から提示された予習・復習をしっかり行うこと。 教科書の中で各授業が宿題があります、毎週宿題をやって下さい。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業の時、すぐ練習ことが出来るの事。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい。
成績評価方法・基準	前期終了時の期末試験:70% 授業のとき、積極的な参加して、質問を答えて、会話をして、宿題をちゃんとやって、ちゃんとした態度で、礼儀正しく、欠席が少ないこと。 各授業、頑張って遅刻しないこと、授業の途中、ちゃんとした態度になること。 先生を尊敬すること。 遅刻と欠席の時、先生にちゃんと説明すること、宿題をやっていない時、ちゃんと理由を説明すること。 ・毎回課される宿題、会話授業への積極性:30%
教科書・指定図書	『Tieng Viet hang ngay A(毎日ベトナム語—A)』 川口健一、グエントゥアン作成プリントを配布。
履修上の留意点	毎回課される宿題をしっかりする。 各授業、頑張って遅刻しないこと、授業の途中、ちゃんとした態度になること。先生を尊敬すること。遅刻と欠席の時、先生にちゃんと説明すること、宿題をやっていない時、ちゃんと理由を説明すること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv103
講義コード	2A3000300
講義名	ベトナム語初級Ⅲ
担当者名	清水　英里
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅲ(前期)では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	文法・語彙の講義の後に講師ー学生と学生同士の会話の反復練習を行う。 一回の講義の度に、その講義の理解度を確認するための課題を出す。 文法・語彙知識の習得には学生それぞれが情報を整理すること・授業中内では学生の積極的な発話が必要となる。 課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが必須となる。 Wordを使いTelexタイピングの仕方も徐々に覚えていき、ベトナム語タイピングにて課題提出やmanabaでの書き込みができるようになること。最初・2回目の授業にてタイピングの仕方は講師が指示する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	達成目標 1.ベトナム語の基礎的な単語と発音・スペルと発音の組み合わせの仕組みを習得する。 2.ベトナム語の基礎的な文法構造を習得する。 3.ベトナム語の平易な単語を正しく読み聞き、意味が理解できる。 4.ベトナムの歴史や文化などを学び、現代ベトナム語が成立した背景を知ることができる。 5. Wordを使いTelexタイピングの仕方も徐々に覚えていき、ベトナム語タイピングにて課題提出やmanabaでの書き込みができるようになる。
授業形態	演習
授業方法	文法・語彙の講義の後にその知識を基礎にした会話の反復練習・理解度確認のための課題提出で学んでいく。 すでに得た文法知識をもとにした会話練習を行うため、学生の授業中の積極的な発話が必要となる。 課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが前提となっている。学生は、Word/Excel/Powerpointを使う。ベトナム語タイピング方法については授業最初の授業で教えるので、課題提出やmanabaにはTelexタイピングによるベトナム語の書き込みができるようになること。
授業計画	1:ベトナム語の仕組みと学習の心構え/現代ベトナム語の背景にある文化や歴史を学ぶ 2:ベトナム語の文字と書き方/ベトナム語タイピング方法の練習 3:la文の構造:肯定文、否定文、疑問文の作り方/ それを自分でタイピングする 4:la文で職業や出身地を聞く作文練習/国名・職業名の単語のスペルと発音の暗記 5:la文総復習と単語習得確認/ la文確認小テスト 6:動詞文の構造:肯定文・否定文・疑問文の作り方/基本的動詞の単語 7:動詞文の構造を使い会話練習・自分で作文練習/国名・職業・動詞の基本単語の復習 8:動詞＋動詞文の構造とその会話・作文 9:動詞文完了形の構造とその会話・作文 10:主語ー動詞ー形容詞の文法構造とその会話・作文 11:動詞文総復習と、これまで学んだ文法を使って自己紹介を作文 12:類別詞とモノの名前の説明・適切な類別詞を学び、名詞句を作る練習 13:la文・動詞文・類別詞文法のまとめ(理解度確認と解説)
事前・事後学修	この授業では基本的な文法構造の学習と単語の発音の習得に重点を置くため、特に毎回の出席と授業への参加度を重視する。 また、一回の講義の復習として課題が出るので授業の理解ができるようにすること。 毎回、manabaに出される課題や小テストに期限内に提出できるように授業後の復習時間を確保すること。 授業ごとに受講生が理解できたという前提で次の授業に進むので、それについていけるようにする必要がある。 何か疑問点があれば、manabaの掲示板かオフィスアワーに書いてあるメールアドレスに質問すること。基本的には授業中の質問がふさわしい。
成績評価方法・基準	受講態度:60%(授業における発音練習・会話練習・発話などでの積極的な態度) 小テスト:20%(課ごとにその課の理解度確認小テストを行う。小テストの日付や時間は授業内に指示する) 課題:20%(通常の課題と最後の理解度確認課題)

	小テスト・課題は、手書きによるものとTelexタイピングを用いたパソコンによって作成するもの両方が含まれている。その都度講師が指定するので、授業中の講師の指示を注意して聞くこと。
教科書・指定図書	講師がmanaba経由で学生に教材を配布する。
履修上の留意点	パソコンが使えるように環境を整えて置くこと。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv104
講義コード	2A3000400
講義名	ベトナム語初級Ⅳ
担当者名	清水　英里
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	はじめてベトナム語を学ぶ初級者向けの授業である。この授業ではベトナム語の基本的な文の構造を理解するとともに、正しい発音と聞き取り能力を身につけると共に、初級文法の学習を行う。基礎的な文の構造を習得したのちは、徐々に単語の数を増やし、それらを組み合わせて自分で文章が組み立てられるようにする。 毎回の授業では、教員との対話、学生どうしでの会話練習を通じた口頭での反復練習に重点をおく。 会話に加え、学んだ語彙・文法・会話を応用し自分で作文ができるように学ぶ。 課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが必須となる。 Wordを使いTelexタイピングの仕方も徐々に覚えていき、ベトナム語タイピングにて課題提出やmanabaでの書き込みができるようになること。最初・2回目の授業にてタイピングの仕方は講師が指示する。
科目の到達目標（理解のレベル）	（ベトナム語初級Ⅲの1-5に続いて） 6.授業で学んだ文法・語彙を応用しベトナム語による日常的で平易な会話が実践できる。 7.ベトナム語の平易な文を辞書なしで読解できる。 8.テキストに載っている文型を参考に、ベトナム語の単文が作文できる。 9. ベトナムの大学での初級レベルの長文読解が、辞書を使いながら翻訳することができる。 10. 国際ベトナム語能力試験レベルA(初級)合格 11. 実用ベトナム語技能検定試験 5級、6級合格
授業形態	演習
授業方法	文法・語彙の講義の後にその知識を基礎にした会話の反復練習・理解度確認のための課題提出で学んでいく。 すでに得た文法知識をもとにした会話練習を行うため、学生の授業中の積極的な発話が必要となる。 課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが前提となっている。学生は、Word/Excel/Powerpointを使う。ベトナム語タイピング方法については最初の授業で教えるので、課題提出やmanabaにはTelexタイピングによるベトナム語の書き込みができるようになること。
授業計画	1：発音と単語の総復習/ スペルと単語の意味を再度確認し、正しい発音を復習する。 2：LA文と動詞文の会話・作文総復習 / 国名・職業一覧、動詞一覧を確認しながら、会話にて復習しまた作文練習も行う。 3：様々な動詞文の作文と会話（したい、するのが好きだ、する必要がある）。/ 動詞文の復習の一環で、単語と単語の組み合わせにより様々な表現ができることを再確認し、それを作文と会話にて復習する。 4：1,2で学んだ動詞文を複合してグループで会話/ 会話練習の他、ランダムにグループ分けし講師が準備した会話スキットをもとに会話練習を行う。 5：形容詞文の構造作文/ 形容詞一覧を学び、基礎的な形容詞を音と文字で習得する。その上で形容詞文の構造を理解し、の作文と会話 6：形容詞文比較級・同等表現・最上級の構造の説明/ 類別詞の復習（一冊・一本・5軒といった名詞の数を示す際の単語）。それと共に生活上必要な様々な名詞のスペルと発音を覚える。 7：形容詞比較級・同等表現・最上級表現の構造を復習し、作文と会話。主語候補一覧・形容詞一覧の資料をもとに、学生それぞれが様々な形容詞比較級・同等表現・最上級表現を作文し、それを用いて学生同士で会話練習する。 8：形容詞に付属する程度副詞の使い方とそれを踏まえて会話練習。「とても(3種類)」「かなり」「少し」「それほど～ではない」「完全に～だ」という程度副詞のスペルと単語と覚え、さらにそれぞれの程度副詞の使い方・語順を学ぶ。 9：主語一動詞一形容詞文の構造とそのの作文と会話。「私は起きる」という今までの動詞文に、形容詞「早い」を加え「私は早く起きる」という文章構造の仕組みを理解する。主語一動詞一形容詞文の場合はそれぞれの動詞に相応しい形容詞があるので、その組み合わせも理解する。 10：存在文の構造の理解一主語となる長い名詞句の作り方。数字のスペル・名詞の単語・それぞれの名詞にふさわしい類別詞を習得し、「一台の値段が高いパソコン」といった名詞句の作り方を習得する。 11：長い名詞句を主語にし、存在文の構造を理解しその作文と会話。そのために必要な前置詞や場所の名前を習得し、「机の上に一台の値段が高いパソコンがある」という存在文構造を応用し文章を構成する。 12：存在文を使い、学校や自宅について学生がそれぞれ描写する。それを発音やヒヤリングの練習も兼ねて学生同士で発表しあう。存在文の肯定文・疑問文・肯定返答文・否定返答文を理解し、さらに会話形式で理解を深める

	13:LA文・動詞文・形容詞文・存在文まとめ(理解度確認と解説)/ ベトナムについての総合学習。
事前・事後学修	この授業では基本的な文法構造の学習と単語の発音の習得に重点を置くため、特に毎回の出席と授業への参加度を重視する。 また、一回の講義の復習として課題が出るので授業の理解ができるようにすること。 毎回、manabaに出される課題や小テストに期限内に提出できるように授業後の復習時間を確保すること。 授業ごとに受講生が理解できたという前提で次の授業に進むので、それについていけるようにする必要がある。 何か疑問点があれば、manabaの掲示板かオフィスアワーに書いてあるメールアドレスに質問すること。基本的には授業中の質問がふさわしい。
成績評価方法・基準	受講態度:60%(授業における発音練習・会話練習・発話などでの積極的な態度) 小テスト:20%(課ごとにその課の理解度確認小テストを行う。小テストの日付や時間は授業内に指示する) 課題:20%(通常の課題と最後の理解度確認課題) 小テスト・課題は、手書きによるものとTelexタイピングを用いたパソコンによって作成するもの両方が含まれている。その都度講師が指定するので、授業中の講師の指示を注意して聞くこと。
教科書・指定図書	講師がmanabaを経由して教材を配布する。
履修上の留意点	ベトナム語初級Ⅲを履修済みであること。 授業に対する積極的な姿勢を重んじる。 教室にいるだけで「出席した」とはしない。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv201
講義コード	2A3001100
講義名	ベトナム語中級 I
担当者名	グエン トゥアン
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/U
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
授業の内容	中級の会話ベトナム語の授業である。この授業では発音練習を続ける。複雑な構文や文法を学ぶ。授業の中で、色々な主題で会話をする。 ベトナム語を学ぶのは今年で2年目, 1学期です。学生は1年目からトピックを学び続けます。 学生は、電話のかけ方、家族の紹介方法、大学祭の日に関連するトピックと語彙、チャット、友達との会話、野外活動、ピクニック、マウンテンスポーツ活動、料理のトピック、料理の仕方などのトピックを学びます ベトナム料理、健康的な食事、および関連する文法構造。 授業内容は、会話、読解、聴解、文法説明、文法演習練習、ユーモアストーリー、教師との会話、2人1組でコミュニケーションを練習する生徒などです。 授業の内容は活気にあふれ、楽しく、学生の生活に近く、退屈を感じないようにしています。
科目の到達目標 (理解のレベル)	簡単なベトナム語で学生活動や学生生活について、話したり演説をしたり、書いたりすることができます。 このコースの最後に、生徒はベトナム語で簡単に話し、聞き、理解します。たとえば、友達に電話して質問したり、映画を見たり、外食したりする方法などです。家族に電話する方法、風邪や病気のために学校を休むように先生に電話する方法、予約するためにレストランに電話する方法、語彙や関連する文法構造。 学生はベトナム語で家族の話を簡単に話し、理解し、大学祭について互いに話すことができます。ピクニック、登山、スポーツ活動について友達と話します。健康的でバランスの取れた食べ物、ベトナム料理と日本料理の作り方について友達と話します。日常生活、友達、大学について話し合う。 このコースの終わりに、学生はベトナム人に会い、上記のトピックについてベトナム人と話すときに非常に自信を持つことができます。
授業形態	演習
授業方法	各課のテーマとなる文法を説明、発音練習、教師と学生のQ－A形式の文型練習、学生同士のQ－A形式の文型練習、絵や写真を使用しての文型練習、学習した文型を使っての作文。前期と同じ方法。 生徒たちはクラスで、質問を答える、質問を作る、間違い文書を直す、読解、リスニング、エッセイを書く、二人の組で会話練習すること。 私のemail: mtuanbao@gmail.com Mobile phone:090.9327.5428
授業計画	第1回: Bài 1: Gọi điện thoại-Phone calls.2-26 Cách gọi điện thoại, nê´u, giá, nhỡ, đi,,,vê`, nê´u,,,thì,,, hơi,,,mấ´y, vài, một sô´, cơ mà (1)  第2回: Bài 2: Gọi điện thoại-Phone calls.2-26 Cách gọi điện thoại, nê´u, giá, nhỡ, đi,,,vê`, nê´u,,,thì,,, hơi,,,mấ´y, vài, một sô´, cơ mà (2) 第3回: Bài 3: Gia đình tôi-My family 26-57 Khi A thì B, khi, trong khi, trước khi, vừa,,,vừa,,,/ nên, vì thê´ cho nên/ nên, mặc dù,,,nhưng,,vâ~n,,,/ nê´u A thì B,/ động từ-giùm, hộ, giúp/ trở thành, trở nên/ đã,,,bao giờ chưa? (1) 第4回: Bài 4 Gia đình tôi-My family 26-57 Khi A thì B, khi, trong khi, trước khi, vừa,,,vừa,,,/ nên, vì thê´ cho nên/ nên, mặc dù,,,nhưng,,vâ~n,,,/ nê´u A thì B,/ động từ-giùm, hộ, giúp/ trở thành, trở nên/ đã,,,bao giờ chưa? (2) 第5回: Bài 5: Ngày hội trường-College Festival day-57-76 (1) Nhớ-động từ, / bao nhiêu là,,,,/ làm sao mà,,,được/ đi-sang,,,/ 第6回: Bài 6: Ngày hội trường-College Festival day-57-76 Nhớ-động từ, / bao nhiêu là,,,,/ làm sao mà,,,được/ đi-sang,,,/ (2) 第7回: Bài 7 : Tán gâ~u-Chatting- 76-97 (1) Tuy A, nhưng vâ~n B,/ rấ´t, quá, lắ´m, tương đô´i,/ hô`i, khi,, cách đây/ đê´n nô~i, đê´n mức/ nê´u,,,thì làm sao mà,,,không,, 第8回: Bài 8:Tán gâ~u-Chatting- 76-97 (2) Tuy A, nhưng vâ~n B,/ rát, quá, lắ´m, tương đô´i,/ hô`i, khi,, cách đây/ đê´n nô~i, đê´n mức/ nê´u,,,thì làm sao mà,,,không,, 第9回: Bài 9 Leo núi-Climbing the mountain-97-115 (1) Dấ´y, nhỉ, nhé, /không,,,dâu, không phải là,,,/ A chứ không B, A chứ chưa B/ cả,,,lâ~n,,,cả,,,và,,,/không xuể, không nổi

	第10回: Bài 10: Leo núi-Climbing the mountain-97-115 (2) Đấ y, nhỉ, nhé, /không,,,đâu, không phải là,,,/ A chứ không B, A chứ chưa B/ cả,,,lâ ̂n,,,cả,,,và,,,/không xuể, không nổi 第11回: Bài 11: Nấ u ăn-Cooking -115-141 (1) Ra, thấ y, được, từ được -bị ở thể bị động, chủ động, ơi là/ tự,,lấ y/ là, rằ ̀ng,,,/ so với,,, 第12回: Bài 12: Nấ u ăn-Cooking -115-141 (2) Ra, thấ y, được, từ được -bị ở thể bị động, chủ động, ơi là/ tự,,lấ y/ là, rằ ̀ng,,,/ so với,,, 第13回:テスト
事前・事後学修	ベトナム語に関するニュースや文化などに日頃から興味をもって接してほしい。 また、宿題など教員から提示された予習・復習をしっかり行うこと。 教科書の中で各授業が宿題があります、毎週宿題をやって下さい。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業の時、すぐ練習ことが出来るの事。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい。
成績評価方法・基準	前期終了時の期末試験:70% 授業のとき、積極的な参加して、質問を答えて、会話をして、宿題をちゃんとやって、ちゃんとした態度で、礼儀正しく、欠席が少ないこと。 各授業、頑張って遅刻しないこと、授業の途中、ちゃんとした態度になること。 先生を尊敬すること。 遅刻と欠席の時、先生にちゃんと説明すること、宿題をやっていない時、ちゃんと理由を説明すること。 ・毎回課される宿題、会話授業への積極性:30%
教科書・指定図書	『Tieng Viet hang ngay B(毎日ベトナム語—B)』 川口健一、グエントゥアン作成プリントを配布 教科書はmanaba にアップロードされます。 学生は自分でダウンロードして自分の紙に印刷して勉強する必要があります。 または、受講者が私にメールを送信した後、教員が受講者のメールアドレスに教科書のファイルを送信するので、受講者が各自で教科書を印刷します。 私先生グエン トゥアンのEMAIL: mtuanbao@gmail.com mobile phone: 090.9327.5428
履修上の留意点	毎週の宿題をしっかりとする。 レッスン中は、礼儀正しく、音を立てたり、食事をしたり、電話をかけたり、寝たりしないでください。 先生との会話に参加し、質問に答え、質問をし、2人の生徒のグループに分けて会話を練習し、先生を尊重し、他の生徒を尊重します。 授業に遅れるときや欠席するときは、その理由を先生に説明してください。 教科書を忘れないようにしましょう。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv202
講義コード	2A3001200
講義名	ベトナム語中級Ⅱ
担当者名	グエン トゥアン
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/U
備考	

科目の趣旨	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきることは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
授業の内容	こちらは読解の授業である。学生生活や活動やベトナムへの旅行の話題の内容をより発展させ、色々な主題を扱う。読解と関連文法と構文を学ぶ。発音練習。ベトナムへの旅行の話題や日常生活に関して表現できるような読み、書き、話し、聞く四つの能力をバランスよく身につける。 このコースは2年次の2学期であり、学生は1学期からトピックを学習し続けます。 学ぶべきトピックは次のとおりです。友達を訪ねる、友達を作る、友達を助ける、友達と話す。交通、交通規則、道路、バス、電車、病院での禁止事項を確認してください、、、;オンライン学習の便利さと不便さについて、ベトナム語のオンラインクラス、語彙、文型を学びます。私の会社は、仕事を見つけて、アルバイトをします。テトホリデー、ベトナムの正月、日本の正月。紙の手紙と電子メールの手紙の書き方、仕事に応募するための手紙の書き方、友人への手紙の書き方、あなたの父、母、兄弟、姉妹への手紙の書き方、先生への手紙、メールの書き方。 上記の内容に加えて、学生は関連する文法構造を学び、会話を学び、聴解、読解、文章を書く練習、質問をしたり答えたりします。 学習内容は、学生の日常生活に近い、活気に満ちた興味深い実践的な学習内容であり、学生が退屈しないように支援します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	簡単なベトナム語で色々なテーマについて読むことができます。 このコースを終えた後、学生は上記のトピックについてベトナムの人々と自信を持って話すことができます。友情、交通規則、交通手段、電車、バス、タクシー、交通と旅行の禁止と制限について話します。仕事を見つけること、アルバイトをすること、会社の仕事について話す。テトの休日について話し、ベトナムのテトと日本の正月を比較し、手紙を書くこと、メールを送ることについて話します。 学生は、これらのトピックについての簡単なエッセイや会話を話したり、聞いたり、読んだり、書いたりすることができます。 上記のトピックを通して、学生はより複雑な文法構造、会話パターン、そしてより長く、より複雑な文を学び、理解するでしょう。
授業形態	演習
授業方法	各課のテーマとなる文法を説明、発音練習、教師と学生のQ－A形式の文型練習、学生同士のQ－A形式の文型練習、絵や写真を使用しての文型練習、学習した文型を使っての作文。前期と同じ方法。 生徒たちはクラスで、質問を答える、質問を作る、間違い文書を直す、読解、リスニング、エッセイを書く、二人の組で会話練習すること。 私のemail: mtuanbao@gmail.com Mobile phone:090.9327.5428
授業計画	【第1回】 第1課: Bài 1: Thăm bạn-Visit friends Hả, /nào cũng, đâu cũng, ai cũng, /nhỉ, /thì phải, hình như,,thì phải, /không một,,,nào, không một ai,,,/không ,,,đâu, không đâu,,, (1) 【第2回】 第2課: Bài 2: Thăm bạn-Visit friends Hả, /nào cũng, đâu cũng, ai cũng, /nhỉ, /thì phải, hình như,,thì phải, /không một,,,nào, không một ai,,,/không ,,,đâu, không đâu,,, 2) 【第3回】 第3課: Bài 3: Kiểm tra giao thông-Traffic check Động từ-thử xem, thử-động từ-xem,/ cấm, không được, /bất cứ,,,nào cũng,,,,/ thế mà, vậy mà, tất cả, /bỏ quá, thông cảm, xúi quẩy, thôi chết, ôi giời ơi, ôi trời ơi, /mà,/ cho với 6 nghĩa, /để với 3 nghĩa, /ai lại làm thế (1) 【第4 回】 第4課: Bài 4: Kiểm tra giao thông-Traffic check Động từ-thử xem, thử-động từ-xem,/ cấm, không được, /bất cứ,,,nào cũng,,,,/ thế mà, vậy mà, tất cả, /bỏ quá, thông cảm, xúi quẩy, thôi chết, ôi giời ơi, ôi trời ơi, /mà,/ cho với 6 nghĩa, /để với 3 nghĩa, /ai lại làm thế (2) 【第5回】 第5課: Bài 5: Học tiếng Việt online -Learn Vietnamese online- A, hơn nữa B, /chẳng lẽ~,,,à, chẳng lẽ~,,,hay sao, /chẳng hạn như, ví dụ như, ví dụ, như, /chứ với 4 nghĩa (1) 【第6回】 第6課: Bài 6: Học tiếng Việt online -Learn Vietnamese online- A, hơn nữa B, /chẳng lẽ~,,,à, chẳng lẽ~,,,hay sao, /chẳng hạn như, ví dụ như, ví dụ, như, /chứ với 4 nghĩa (2) 【第7回】 第7課: Bài 7: Công ty tôi -My company- Không-động từ-gì cả, hoàn toàn không,,,/hàng tuần này, hàng tháng nay, hàng năm nay, suốt, /có-quá khứ, /mải, /thế nào cũng se~,,,, chắc chắn thế nào cũng se~,,,/ thế với 2 nghĩa/ liền, bèn, mách nhỏ. (1)

	【第8回】 第8課: Bài 8: Công ty tôi -My company- Không-động từ-gì cả, hoàn toàn không,,,/hàng tuần này, hàng tháng nay, hàng năm nay, suốt, /có-quá khứ, /mải, /thế nào cũng sẽ,,,, chắc chắn thế nào cũng sẽ,,,/ thế với 2 nghĩa/ liền, bên, mách nhỏ. (2) 【第9回】 第9課: Bài 9: Nghỉ Tết-Tet holiday- Làm gì mà-tính từ-thế? toàn-danh từ, toàn-động từ, /câu có động từ, bổ ngữ ở đầu câu để nhấn mạnh, /không biết ,,,là gì, không/không,,,đâu, /dã man, kinh khủng, dã man luôn, / chủ yếu là,,, (1) 【第10回】 第10課: Bài 10: Nghỉ Tết-Tet holiday- Làm gì mà-tính từ-thế? toàn-danh từ, toàn-động từ, /câu có động từ, bổ ngữ ở đầu câu để nhấn mạnh, /không biết ,,,là gì, không/không,,,đâu, /dã man, kinh khủng, dã man luôn, / chủ yếu là,,, (2) 【第11回】 第11課: Bài 11: Viết thư giấy, viết thư email-Write letters, email- Nghe nói,,,/ càng ngày càng, càng,,,càng/ làm cho, khiến cho/ cách viết thư giấy và email, (1) 【第12回】 第12課: Bài 12: Viết thư giấy, viết thư email-Write letters, email- Nghe nói,,,/ càng ngày càng, càng,,,càng/ làm cho, khiến cho/ cách viết thư giấy và email, (2) 【第13回】 復習、テスト
事前・事後学修	ベトナム語に関するニュースや文化などに日頃から興味をもって接してほしい。 また、宿題など教員から提示された予習・復習をしっかり行うこと。 ベトナム語に関するニュースや文化などに日頃から興味をもって接してほしい。 また、宿題など教員から提示された予習・復習をしっかり行うこと。 教科書の中で各授業が宿題があります、毎週宿題をやって下さい。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業の時、すぐ練習ことが出来るの事。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい
成績評価方法・基準	前期終了時の期末試験:70% 授業のとき、積極的な参加して、質問を答えて、会話をして、宿題をちゃんとやって、ちゃんとした態度で、礼儀正しく、欠席が少ないこと。 各授業、頑張って遅刻しないこと、授業中、ちゃんとした態度になること。 先生を尊敬すること。 遅刻と欠席の時、先生にちゃんと説明すること、宿題をやっていない時、ちゃんと理由を説明すること。 ・毎回課される宿題、会話授業への積極性:30%
教科書・指定図書	『Tiếng Việt B・中級ベトナム語』 川口健一、グエントゥアン作成プリントを配布する。 教科書はmanaba にアップロードされます。 学生は自分でダウンロードして自分の紙に印刷して勉強する必要があります。 または、受講者が教員にメールを送信した後、教員が受講者のメールに教科書のファイルを送信するので、受講者は各自で教科書を印刷します。 私先生グエン トゥアンのEMAIL: mtuanbao@gmail.com mobile phone: 090.9327.5428
履修上の留意点	毎回課される宿題をしっかりする。 レッスン中は、礼儀正しく、音を立てたり、食事をしたり、電話をかけたり、寝たりしないでください。 先生との会話に参加し、質問に答え、質問をし、2人の生徒のグループに分けて会話を練習し、先生を尊重し、他の生徒を尊重します。 授業に遅れるときや欠席するときは、その理由を先生に説明してください。 教科書を忘れないようにしましょう。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv203
講義コード	2A3001300
講義名	ベトナム語中級Ⅲ
担当者名	清水　英里
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/U
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
授業の内容	講師による語彙・文法構造の解説の後に作文・会話でその練習を行う。 ベトナム語初級の基礎学習の内容をふまえ、よりレベルアップした複雑な表現を身につける。基本的な発音や文法を習得した上での文法学習を中心とする。加えて日常生活に必要となる語彙を中心に単語の数と種類を増やすことを目的とする。 その目的のために、授業では繰り返し単語や文法を作文や会話などで反復して学習する。 会話に加え、学んだ語彙・文法・会話を応用し自分で作文ができるように学んでいく。 この過程で、ベトナム語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を習得できるように学習する。 以上の学習に加え、課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが必須となる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	自力で辞書(紙・オンライン)をひき、ハノイ大学テキスト中級の文章を読み、また書くことができる。 基礎的な単語のスペルを正しく書き、文法も正しく応用できる。 正しい発音にてテキストの文章や自分で作文した文章を読み上げることができる。 それらをベトナム語ネイティブを含めたベトナム語話者が聞いて理解できるようになる。 実践の場にて、自分が習得した語彙・文法・授業内で学んだ会話を聞いてそれに答えることができる。 国際ベトナム語能力試験　レベルB(中級)合格。 実用ベトナム語技能検定試験　3級もしくは2級合格。
授業形態	演習
授業方法	文法・語彙の講義の後に会話の反復練習・課題提出で学んでいく。 文法・語彙の講義の後にその知識を基礎にした会話の反復練習・理解度確認のための課題作成し復習し習得しながら学んでいく。 課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが前提となっている。学生は、Word/Excel/Powerpointを使う。ベトナム語タイピング方法については最初の授業で教えるので、課題提出やmanabaにはTelexタイピングによるベトナム語の書き込みができるようになること。
授業計画	1:初級の復習:アンケート/ベトナム語のタイピング方法の復習　manabaにて正しいタイピングができているかの確認。 2:la文、動詞文、形容詞文の復習を作文・会話にて行う。文法事項に加え基礎的な単語も反復練習する。 3:形容詞表現の応用を学ぶ。比較・同等・最上級表現の肯定文・疑問文・肯定返答文・否定返答文の構造を理解し、さらにそれに程度副詞を加えて学ぶ。 4:数字表現(1-100)のスペルと発音を学ぶ。19以降の十の位・15以降の一の位・21以降の一の位のスペル変化の法則を習得し、数字を読みそれをベトナム語で発音しかつ正しいスペルで書く。 5:時間表現を学び、初級で学んだ動詞文に時間表現をつけて会話練習をする。「何時に～するか」といった文章を、過去形・現在形・未来形の時制を理解し、学生同士で会話する。 6:時間表現一覧を学び、動詞と組み合わせた会話練習を作文にする。/ 数字表現(101-2020)のスペルと発音。十の位、百の位の「0」のスペルの変化を習得し、数字を正しく読み上げ発音する練習をする。 7:様々な疑問詞の活用 「いつ」「何時に」を使い作文・会話練習。その際には、時間表現一覧を復習し、また「何時何分」という表現も学ぶ。使用する動詞を生活にて使う範囲に広げて学ぶ。 8:疑問詞の活用 「どのような」を使い作文・会話練習。形容詞文の疑問形にあたる「主語はどのようですか？」という文型を学び、様々な主語(動物・モノ・果物など)を使用し疑問文を作る。返答文にて主語にふさわしい形容詞を使う。 9:疑問詞の活用 「何処で」を使い作文・会話。前置詞「～で」(ở)は、文脈により違う前置詞になるケースもあるので、様々な例文を学習しながら、学生同士が質問し返答できるように練習する。 10:疑問詞の活用 「誰と」を使い作文・会話練習。「～と」(với)は、文脈により違う意味合いの前置詞の文章でも使用されることがある。よく文脈を理解し、学生同士で質問し返答できるように練習する。 11:疑問詞の活用「何？」「どの？」を使い作文・会話練習。「何？」「どの？」の疑問詞については、初級の会話練習にてすでに学んではいるが、ここでは文型として正しく学ぶ。 12:疑問詞の活用「どれくらい？」を使い作文・会話練習。「どれくらい？」は時間にも数にも使用する疑問詞なので、分けて練習する。時間を質問されている場合には時間表現を復習し、数を質問されている場合は、今まで学んだ数字を発話しかつ正しいスペルでかける湯尾に練習する。 13:総合復習・理解度確認課題。初級から学んできた文法・文型・単語をきちんと理解しかつ様々な文脈によって自分で応用できるか確認する。

事前・事後学修	この授業では基本的な文法構造の学習と単語の発音の習得に重点を置くため、特に毎回の出席と授業への参加度を重視する。 また、一回の講義の復習として課題が出るので授業の理解ができるようにすること。 毎回、manabaに出される課題や小テストに期限内に提出できるように授業後の復習時間を確保すること。 授業ごとに受講生が理解できたという前提で次の授業に進むので、それについていけるようにする必要がある。 何か疑問点があれば、manabaの掲示板かオフィスアワーに書いてあるメールアドレスに質問すること。基本的には授業中の質問がふさわしい。
成績評価方法・基準	受講態度:60%(授業における発音練習・会話練習・発話などでの積極的な態度) 小テスト:20%(課ごとにその課の理解度確認小テストを行う。小テストの日付や時間は授業内に指示する) 課題:20%(通常の課題と最後の理解度確認課題) 小テスト・課題は、手書きによるものとTelexタイピングを用いたパソコンによって作成するもの両方が含まれている。その都度講師が指定するので、授業中の講師の指示を注意して聞くこと。
教科書・指定図書	講師がmanaba経由で教材を配布する。
履修上の留意点	パソコンが使えるように環境を整えて置くこと。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv204
講義コード	2A3001400
講義名	ベトナム語中級Ⅳ
担当者名	清水　英里
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/U
備考	

科目の趣旨	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
授業の内容	講師による語彙・文法構造の解説の後に作文・会話でその練習を行う。 ベトナム語初級の基礎学習の内容をふまえ、よりレベルアップした複雑な表現を身につける。基本的な発音や文法を習得した上での文法学習を中心とする。加えて日常生活に必要となる語彙を中心に単語の数と種類を増やすことを目的とする。 その目的のために、授業では繰り返し単語や文法を作文や会話などで反復して学習する。 会話に加え、学んだ語彙・文法・会話を応用し自分で作文ができるように学んでいく。 この過程で、ベトナム語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を習得できるように学習する。 以上の学習に加え、課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが必須となる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ベトナム語で自分で調べ講師が提示したテーマに沿って会話もしくは文章を作ることができる。 その内容が、ベトナム人に通じスムーズな日常会話ができる。 ハノイ大学テキスト中級Ⅱのテキストにある長文を辞書をひきながら読み理解することができる。その文章を正確に音読でき、ベトナム語話者に通じるようになる。 実践の場にて、自分が習得した語彙・文法・授業内で学んだ会話を聞いてそれに答えることができる。 国際ベトナム語能力試験　レベルB(中級)もしくはレベルC(上級)合格。 実用ベトナム語技能検定試験　3級もしくは2級合格。
授業形態	演習
授業方法	テキストで文法・語彙の講義の後に、その知識を基礎にした会話の反復練習・理解度確認のための課題作成し復習し習得しながら学んでいく。 課題提出やmanabaによる小テストなどは全てベトナム語のTelexタイピングができることが前提となっている。学生は、Word/Excel/Powerpointを使う。ベトナム語タイピング方法については最初の授業で教えるので、課題提出やmanabaにはTelexタイピングによるベトナム語の書き込みができるようになること。
授業計画	1:初級の復習:アンケート/ベトナム語のタイピング方法の復習　manabaに正しいタイピングができているか確認用の復習課題を作成する。 2:テキスト10課『ホテルの受付にて』。本文に出てくる語彙と文型を学ぶ。使役、近接過去。 3:テキスト10課の文法、「与える」・「文末詞」を学び、課末の応用練習問題を解く。 4:テキスト11課『ホテルでの朝』。完了形・仮定構文・助動詞を学ぶ。様々なベトナム料理の名前を覚え、新たな語彙と文法の知識を使い課末の練習問題を解く。 5:テキスト12課『教室にて』。経験を問う「今まで～した経験があるか」という文型・可能文の文型を学ぶ。これらの文型で、学生同士で質問と答えを行う。 6:テキスト 12課『教室にて』2回目。「(人やモノを)移動させる文法」を学ぶ。使役で使った前置詞が異なったニュアンスで使用されるので、混同しないように学ぶ。「～した時」の表現の練習。課末問題を解く。 7:テキスト13課『彼は元気ではない』。体調(良い場合・悪い場合)の様々な表現を学ぶ。順接の接続詞・「行為・状態が継続している」ことを表現する副詞・依頼表現を学ぶ。課末の練習問題を解く。 8:テキスト 14課『教室にて:私たちはまだ理解していません』。否定の強調・文末詞・強意の cáを学ぶ。 9:テキスト 14課『教室にて:私たちはまだ理解していません』2回目。lạiの用法。「再び～する」が文脈によって置かれる場所が異なる。その規則性を理解する。「AだからBだ」という構文を学ぶ。課末練習問題を解く。 10:テキスト15課『道を聞く』。道順を聞かれ、それにベトナム語で答えられるように・もしくはベトナム語で道順を説明されて理解できるような語彙・文法を学ぶ。 11:テキスト16課『タクシーを使う』。タクシー以外にも様々な交通手段を利用する際に必要な語彙・文法を学ぶ。ベトナムにおける交通事情と日本との違いを理解する。 12:テキスト17課『市場にて』。買い物をする際に理解しておくべき語彙と文法を学ぶ。特に、「1キロ」「一包み」「花束ひとつ」といった、単位名詞をよく理解する。課末の練習問題を解く・ 13:復習・理解度確認課題。初級から学んできた文法・文型・単語をきちんと理解しかつ様々な文脈によって自分で応用できるか確認する。
事前・事後学修	この授業では基本的な文法構造の学習と単語の発音の習得に重点を置くため、特に毎回の出席と授業への参加度を重視する。 また、一回の講義の復習として課題が出るので授業の理解ができるようにすること。 毎回、manabaに出される課題や小テストに期限内に提出できるように授業後の復習時間を確保すること。

	授業ごとに受講生が理解できたという前提で次の授業に進むので、それについていけるようにする必要がある。 何か疑問点があれば、manabaの掲示板かオフィスアワーに書いてあるメールアドレスに質問すること。基本的には授業中の質問がふさわしい。
成績評価方法・基準	受講態度：60％（授業における発音練習・会話練習・発話などでの積極的な態度） 小テスト：20％（課ごとにその課の理解度確認小テストを行う。小テストの日付や時間は授業内に指示する） 課題：20％（通常の課題と最後の理解度確認課題） 小テスト・課題は、手書きによるものとTelexタイピングを用いたパソコンによって作成するもの両方が含まれている。その都度講師が指定するので、授業中の講師の指示を注意して聞くこと。
教科書・指定図書	講師がmanaba経由で配布する。
履修上の留意点	ベトナム語初級と中級前期を履修すみであること。 パソコンが使えるように環境を整えて置くこと。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv205
講義コード	2A3001500
講義名	ベトナム語中級Ⅴ
担当者名	グエン トゥアン
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を一通り学習した学生がその知識をさらに確かなものにしていく実践的な学習が、表現能力の訓練である。ここでは、簡単な日常の事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とし、各言語独自の言い回しや言葉の使い方などを中心に学び、作文力や会話能力の向上を目指す。
授業の内容	中級の会話ベトナム語の授業である。この授業では発音練習を続ける。複雑な構文や文法を学ぶ。授業の中で、色々な主題で会話をする。 ベトナム語を学ぶのは今年で2年目，1学期です。学生は1年目からトピックを学び続けます。 学生は、電話のかけ方、家族の紹介方法、大学祭の日に関連するトピックと語彙、チャット、友達との会話、野外活動、ピクニック、マウンテンスポーツ活動、料理のトピック、料理の仕方などのトピックを学びます ベトナム料理、健康的な食事、および関連する文法構造。 授業内容は、会話、読解、聴解、文法説明、文法演習練習、ユーモアストーリー、教師との会話、2人1組でコミュニケーションを練習する生徒などです。 授業の内容は活気にあふれ、楽しく、学生の生活に近く、退屈を感じないようにしています。
科目の到達目標（理解のレベル）	簡単なベトナム語で学生活動や学生生活について、話したり演説をしたり、書いたりすることができます。 このコースの最後に、生徒はベトナム語で簡単に話し、聞き、理解します。たとえば、友達に電話して質問したり、映画を見たり、外食したりする方法などです。家族に電話する方法、風邪や病気のために学校を休むように先生に電話する方法、予約するためにレストランに電話する方法、語彙や関連する文法構造。 学生はベトナム語で家族の話を簡単に話し、理解し、大学祭について互いに話すことができます。ピクニック、登山、スポーツ活動について友達と話します。健康的でバランスの取れた食べ物、ベトナム料理と日本料理の作り方について友達と話します。日常生活、友達、大学について話し合う。 このコースの終わりに、学生はベトナム人に会い、上記のトピックについてベトナム人と話すときに非常に自信を持つことができます。
授業形態	演習
授業方法	各課のテーマとなる文法を説明、発音練習、教師と学生のQ－A形式の文型練習、学生同士のQ－A形式の文型練習、絵や写真を使用しての文型練習、学習した文型を使っての作文。前期と同じ方法。 生徒たちはクラスで、質問を答える、質問を作る、間違い文書を直す、読解、リスニング、エッセイを書く、二人の組で会話練習すること。 私のemail: mtuanbao@gmail.com Mobile phone:090.9327.5428
授業計画	第1回: Bài 1: Gọi điện thoại-Phone calls.2-26 Cách gọi điện thoại, nê´u, giá, nhỡ, đi,,,vê`, nê´u,,,thì,,, hơi,,,mấ´y, vài, một sô´, cơ mà (1)  第2回: Bài 2: Gọi điện thoại-Phone calls.2-26 Cách gọi điện thoại, nê´u, giá, nhỡ, đi,,,vê`, nê´u,,,thì,,, hơi,,,mấ´y, vài, một sô´, cơ mà (2) 第3回: Bài 3: Gia đình tôi-My family 26-57 Khi A thì B, khi, trong khi, trước khi, vừa,,,vừa,,,/ nên, vì thế´ cho nên/ nên, mặc dù,,,nhưng,,vâ~n,,,/ nê´u A thì B,/ động từ-giùm, hộ, giúp/ trở thành, trở nên/ đã,,,bao giờ chưa? (1) 第4回: Bài 4 Gia đình tôi-My family 26-57 Khi A thì B, khi, trong khi, trước khi, vừa,,,vừa,,,/ nên, vì thế´ cho nên/ nên, mặc dù,,,nhưng,,vâ~n,,,/ nê´u A thì B,/ động từ-giùm, hộ, giúp/ trở thành, trở nên/ đã,,,bao giờ chưa? (2) 第5回: Bài 5: Ngày hội trường-College Festival day-57-76 (1) Nhớ-động từ, / bao nhiêu là,,,/ làm sao mà,,,được/ đi-sang,,,/ 第6回: Bài 6: Ngày hội trường-College Festival day-57-76 Nhớ-động từ, / bao nhiêu là,,,/ làm sao mà,,,được/ đi-sang,,,/ (2) 第7回: Bài 7 : Tán gâ~u-Chatting- 76-97 (1) Tuy A, nhưng vâ~n B,/ rấ´t, quá, lắ´m, tương đố´i,/ hô`i, khi,, cách đây/ đê´n nô~i, đê´n mức/ nê´u,,,thì làm sao mà,,,không,, 第8回: Bài 8:Tán gâ~u-Chatting- 76-97 (2) Tuy A, nhưng vâ~n B,/ rát, quá, lắ´m, tương đố´i,/ hô`i, khi,, cách đây/ đê´n nô~i, đê´n mức/ nê´u,,,thì làm sao mà,,,không,, 第9回: Bài 9 Leo núi-Climbing the mountain-97-115 (1) Đấ´y, nhỉ, nhé, /không,,,đâu, không phải là,,,/ A chứ không B, A chứ chưa B/ cả,,,lâ~n,,,cả,,,và,,,/không xuể, không nổi

	第10回: Bài 10: Leo núi-Climbing the mountain-97-115 (2) Đấ´y, nhí, nhé, /không,,,đâu, không phải là,,,/ A chứ không B, A chứ chưa B/ cả,,,lẫ~n,,,cả,,,và,,,/không xuể, không nổi 第11回: Bài 11: Nấ´u ăn-Cooking -115-141 (1) Ra, thấ´y, được, từ được -bị ở thể bị động, chủ động, ơi là/ tự,,lấ´y/ là, rằ`ng,,,/ so với,,,  第12回: Bài 12: Nấ´u ăn-Cooking -115-141 (2) Ra, thấ´y, được, từ được -bị ở thể bị động, chủ động, ơi là/ tự,,lấ´y/ là, rằ`ng,,,/ so với,,, 第13回:テスト
事前・事後学修	ベトナム語に関するニュースや文化などに日頃から興味をもって接してほしい。 また、宿題など教員から提示された予習・復習をしっかり行うこと。 教科書の中で各授業が宿題があります、毎週宿題をやって下さい。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業の時、すぐ練習ことが出来るの事。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい。
成績評価方法・基準	前期終了時の期末試験:70% 授業のとき、積極的な参加して、質問を答えて、会話をして、宿題をちゃんとやって、ちゃんとした態度で、礼儀正しく、欠席が少ないこと。 各授業、頑張って遅刻しないこと、授業の途中、ちゃんとした態度になること。 先生を尊敬すること。 遅刻と欠席の時、先生にちゃんと説明すること、宿題をやっていない時、ちゃんと理由を説明すること。 ・毎回課される宿題、会話授業への積極性:30%
教科書・指定図書	『Tieng Viet hang ngay B(毎日ベトナム語—B)』 川口健一、グエントゥアン作成プリントを配布 教科書はmanaba にアップロードされます。 学生は自分でダウンロードして自分の紙に印刷して勉強する必要があります。 または、受講者が私(教員)にメールを送信した後、私が受講者のメールアドレスに教科書のファイルを送信しますので、受講者が各自で教科書を印刷します。 私先生グエン トゥアンのEMAIL: mtuanbao@gmail.com mobile phone: 090.9327.5428
履修上の留意点	毎週の宿題をしっかりとする。 レッスン中は、礼儀正しく、音を立てたり、食事をしたり、電話をかけたり、寝たりしないでください。 先生との会話に参加し、質問に答え、質問をし、2人の生徒のグループに分けて会話を練習し、先生を尊重し、他の生徒を尊重します。 授業に遅れるときや欠席するときは、その理由を先生に説明してください。 教科書を忘れないようにしましょう。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAv206
講義コード	2A3001600
講義名	ベトナム語中級VI
担当者名	グエン トゥアン
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	より高度な事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とする。学習の仕方は、外国語中級Vと変わりはないが、作文では、より上手な文章作りができるよう学習し、会話では、適切な言葉や慣用表現が上手に使えるように練習していく。
授業の内容	このコースは2年次の2学期であり、学生は1学期からトピックを学習し続けます。 学ぶべきトピックは次のとおりです。友達を訪ねる、友達を作る、友達を助ける、友達と話す。交通、交通規則、道路、バス、電車、病院での禁止事項を確認してください、、、;オンライン学習の便利さと不便さについて、ベトナム語のオンラインクラス、語彙、文型を学びます。私の会社は、仕事を見つけて、アルバイトをします。テトホリデー、ベトナムの正月、日本の正月。紙の手紙と電子メールの手紙の書き方、仕事に応募するための手紙の書き方、友人への手紙の書き方、あなたの父、母、兄弟、姉妹への手紙の書き方、先生への手紙、メールの書き方。 上記の内容に加えて、学生は関連する文法構造を学び、会話を学び、聴解、読解、文章を書く練習、質問をしたり答えたりします。 学習内容は、学生の日常生活に近い、活気に満ちた興味深い実践的な学習内容であり、学生が退屈しないように支援します。
科目の到達目標 (理解のレベル)	簡単なベトナム語で色々なテーマについて読むことができます。 このコースを終えた後、学生は上記のトピックについてベトナムの人々と自信を持って話すことができます。友情、交通規則、交通手段、電車、バス、タクシー、交通と旅行の禁止と制限について話します。 仕事を見つけること、アルバイトをすること、会社の仕事について話す。テトの休日について話し、ベトナムのテトと日本の正月を比較し、手紙を書くこと、メールを送ることについて話します。 学生は、これらのトピックについての簡単なエッセイや会話を話したり、聞いたり、読んだり、書いたりすることができます。 上記のトピックを通して、学生はより複雑な文法構造、会話パターン、そしてより長く、より複雑な文を学び、理解するでしょう。
授業形態	演習
授業方法	各課のテーマとなる文法を説明、発音練習、教師と学生のQーA形式の文型練習、学生同士のQーA形式の文型練習、絵や写真を使用しての文型練習、学習した文型を使っての作文。前期と同じ方法。 生徒たちはクラスで、質問を答える、質問を作る、間違い文書を直す、読解、リスニング、エッセイを書く、二人の組で会話練習すること。 私のemail: mtuanbao@gmail.com Mobile phone:090.9327.5428
授業計画	【第1回】 第1課: Bài 1: Thăm bạn-Visit friends Hả, /nào cũng, đâu cũng, ai cũng, /nhỉ, /thì phải, hình như,,thì phải, /không một,,,nào, không một ai,,,/không ,,,đâu, không đâu,,, (1) 【第2回】 第2課: Bài 2: Thăm bạn-Visit friends Hả, /nào cũng, đâu cũng, ai cũng, /nhỉ, /thì phải, hình như,,thì phải, /không một,,,nào, không một ai,,,/không ,,,đâu, không đâu,,, 2) 【第3回】 第3課: Bài 3: Kiểm tra giao thông-Traffic check Động từ-thử xem, thử-động từ-xem,/ cấm, không được, /bất cứ,,,nào cũng,,,,/ thế mà, vậy mà, tất cả, /bỏ quá, thông cảm, xúi quẩy, thôi chết, ôi giời ơi, ôi trời ơi, /mà,/ cho với 6 nghĩa, /để với 3 nghĩa, /ai lại làm thế (1) 【第4 回】 第4課: Bài 4: Kiểm tra giao thông-Traffic check Động từ-thử xem, thử-động từ-xem,/ cấm, không được, /bất cứ,,,nào cũng,,,,/ thế mà, vậy mà, tất cả, /bỏ quá, thông cảm, xúi quẩy, thôi chết, ôi giời ơi, ôi trời ơi, /mà,/ cho với 6 nghĩa, /để với 3 nghĩa, /ai lại làm thế (2) 【第5回】 第5課: Bài 5: Học tiếng Việt online --Learn Vietnamese online-- A, hơn nữa B, /chẳng lẽ~,,,à, chẳng lẽ~,,,hay sao, /chẳng hạn như, ví dụ như, ví dụ, như, /chứ với 4 nghĩa (1) 【第6回】 第6課: Bài 6: Học tiếng Việt online --Learn Vietnamese online-- A, hơn nữa B, /chẳng lẽ~,,,à, chẳng lẽ~,,,hay sao, /chẳng hạn như, ví dụ như, ví dụ, như, /chứ với 4 nghĩa (2) 【第7回】 第7課: Bài 7: Công ty tôi --My company-- Không-động từ-gì cả, hoàn toàn không,,,/hàng tuần này, hàng tháng nay, hàng năm nay, suốt, /có-quá khứ, /mải, /thế nào cũng se~,,,, chắc chắn thế nào cũng se~,,,/ thế với 2 nghĩa/ liền, bàn, mách nhỏ, (1) 【第8回】

	第8課: Bài 8: Công ty tôi -My company- Không-động từ-gì cả, hoàn toàn không,,,/hàng tuầ̀n này, hàng tháng nay, hàng năm nay, suố́t, /có-quá khứ, /mải, /thế́ nào cũng se~,,,, chắ́c chắ́n thế́ nào cũng se~,,,/ thế́ với 2 nghĩa/ liề̀n, bèn, mách nhỏ. (2) 【第9回】 第9課: Bài 9: Nghỉ Tế́t-Tet holiday- Làm gì mà-tính từ-thế́? toàn-danh từ, toàn-động từ, /câu có động từ, bổ ngữ ở đầ̀u câu để nhấ́n mạnh, /không biế́t ,,,là gì, không/không,,,đâu, /dã man, kinh khủng, dã man luôn, / chủ yế́u là,,, (1) 【第10回】 第10課: Bài 10: Nghỉ Tế́t-Tet holiday- Làm gì mà-tính từ-thế́? toàn-danh từ, toàn-động từ, /câu có động từ, bổ ngữ ở đầ̀u câu để nhấ́n mạnh, /không biế́t ,,,là gì, không/không,,,đâu, /dã man, kinh khủng, dã man luôn, / chủ yế́u là,,, (2) 【第11回】 第11課: Bài 11: Viế́t thư giấ́y, viế́t thư email-Write letters, email- Nghe nói,,,/ càng ngày càng, càng,,,càng/ làm cho, khiế́n cho/ cách viế́t thư giấ́y và email, (1) 【第12回】 第12課: Bài 12: Viế́t thư giấ́y, viế́t thư email-Write letters, email- Nghe nói,,,/ càng ngày càng, càng,,,càng/ làm cho, khiế́n cho/ cách viế́t thư giấ́y và email, (2) 【第13回】 復習、テスト
事前・事後学修	ベトナム語に関するニュースや文化などに日頃から興味をもって接してほしい。 また、宿題など教員から提示された予習・復習をしっかり行うこと。 教科書の中で各授業が宿題があります、毎週宿題をやって下さい。 授業前、教科書を見て、先に言葉と内容を調べこと、授業の時、すぐ練習ことが出来るの事。 授業後、勉強した内容を復習して下さい。 問題があれば、クラスで先生に質問して、又は、先生のemailに質問を送って下さい。
成績評価方法・基準	前期終了時の期末試験:70% 授業のとき、積極的な参加して、質問を答えて、会話をして、宿題をちゃんとやって、ちゃんとした態度で、礼儀正しく、欠席が少ないこと。 各授業、頑張って遅刻しないこと、授業の途中、ちゃんとした態度になること。 先生を尊敬すること。 遅刻と欠席の時、先生にちゃんと説明すること、宿題をやっていない時、ちゃんと理由を説明すること。 ・毎回課される宿題、会話授業への積極性:30%
教科書・指定図書	『Tiang Viet B・中級ベトナム語』 川口健一、グエントゥアン作成プリントを配布する。 教科書はmanaba にアップロードされます。 学生は自分でダウンロードして自分の紙に印刷して勉強する必要があります。 または、受講者が私にメールを送信した後、私が受講者のメールに教科書のファイルを送信しますので、受講者は各自で教科書を印刷します。 私先生グエン トゥアンのEMAIL: mtuanbao@gmail.com mobile phone: 090.9327.5428
履修上の留意点	毎回課される宿題をしっかりする。 レッスン中は、礼儀正しく、音を立てたり、食事をしたり、電話をかけたり、寝たりしないでください。 先生との会話に参加し、質問に答え、質問をし、2人の生徒のグループに分けて会話を練習し、先生を尊重し、他の生徒を尊重します。 授業に遅れるときや欠席するときは、その理由を先生に説明してください。 教科書を忘れないようにしましょう。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp101
講義コード	2A3100100
講義名	ポルトガル語初級 I
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。I(前期)では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっているほか、日本でも日系ブラジル人を中心に約21万人の話者がいる言葉である。 おそらくほとんどの受講生がポルトガル語に初めて接するということを考慮し、まず、ポルトガル語がどのような言葉であるのか、どこで話されているのかといった言語状況を学ぶ。そして、ポルトガルとブラジルにスポットを当て、両国の一般情報や日本との歴史的関係などを学習する。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語(欧州ポルトガル語)の初級文法を中心に、基本となる日常会話・あいさつを学習する。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・ポルトガル語の発音や初級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガル語で簡単なあいさつや会話表現ができるようになる。 ・ポルトガル語で自己紹介(氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味など)とそれらに関する質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。 ・ポルトガルと、他のポルトガル語圏で話されているポルトガル語の違いについて学ぶ。
授業形態	演習
授業方法	・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音練習をする。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 ポルトガル語という言語について ポルトガル語のアルファベット、つづり字記号、母音の発音 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.10～pp.14 【第2回】 名詞の性と数 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.19～pp.23 【第3回】 形容詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.29～pp.31 【第4回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞 ser 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.37～pp.39 【第5回】 所有詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.45～pp.47 【第6回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞 ter 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.51～pp.53 【第7回】 これまで学んだポルトガル語の文法・会話のまとめ 【第8回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞 querer 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.60～pp.61 【第9回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞 poder 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.65～pp.66

	【第10回】 存在・所在をあらわす表現 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.70～pp.71 【第11回】 数詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.79～pp.82 【第12回】 直説法現在　そのほかの不規則動詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.206～pp.208 【第13回】 まとめ(理解度確認と解説)
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくに名詞や形容詞の性数変化や、動詞の活用形などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガ ル語を話している国の文化や伝統を学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点:　50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入する必要はない。代わりに、授業時に該当する箇所のコピーを配布する。
履修上の留意点	事前知識は不要ですが、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、新しい言語を学習するにあたっては、毎回の授業にきちんと出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp102
講義コード	2A3100200
講義名	ポルトガル語初級Ⅱ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅱ(後期)では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっているほか、日本でも日系ブラジル人を中心に約21万人の話者がいる言葉である。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語(欧州ポルトガル語)の初級文法を中心に、基本となる日常会話・あいさつを学習する。また、ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについても学習する。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する。 ・秋学期は、まず、春学期に学習した文法や日常会話、あいさつなどをしっかり復習したうえで、新しい学習事項に取り組む。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・ポルトガル語の発音や初級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについて知る。 ・ポルトガル語で自己紹介(氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味など)とそれらに関する質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で過去にあったこと(例えば週末にやったこと、小さい頃にやっていたこと)を表現し、質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	・教科書の購入は不要である。コピーで配布する教材を使用する。 ・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音練習をする。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 春学期の復習 名詞の性と数、冠詞、形容詞、直説法現在規則動詞、直説法現在不規則動詞ser, estar, 所有詞、指示詞 【第2回】 春学期の復習 数詞・日付、曜日、時刻の表現、さまざまな直説法現在不規則動詞 【第3回】 直説法過去　不規則動詞ser/ir/estar/ter 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.89～pp.91 【第4回】 直説法過去　そのほかの不規則動詞　dar, pôr, sair, cair, começar, ficar, pagar 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.93～pp.94 【第5回】 直接目的格人称代名詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.96～pp.103 【第6回】 これまで学んだポルトガル語の文法・会話のまとめ 【第7回】 再帰代名詞-seと再帰動詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.104～pp.107 【第8回】 間接目的格人称代名詞と直接目的格人称代名詞の結合形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.112～pp.115 【第9回】 比較級 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.121～pp.124 【第10回】 関係詞 会話・発音練習

	テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.129～pp.132 【第11回】 直説法大過去 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.141～pp.144 【第12回】 受動態　規則形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.148～pp.150 【第13回】 まとめ(理解度確認と解説)
事前・事後学修	・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくに名詞や形容詞の性数変化や、動詞の活用形などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガル語を話している国の文化や伝統を積極的に学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点:　50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入する必要はない。代わりに、授業時に該当する箇所のコピーを配布する。
履修上の留意点	事前知識は不要ですが、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、新しい言語を学習するにあたっては、毎回の授業にきちんと出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp103
講義コード	2A3100300
講義名	ポルトガル語初級Ⅲ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅲ(前期)では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっているほか、日本でも日系ブラジル人を中心に約21万人の話者がいる言葉である。 おそらくほとんどの受講生がポルトガル語に初めて接するということを考慮し、まず、ポルトガル語がどのような言葉であるのか、どこで話されているのかといった言語状況を学ぶ。そして、ポルトガルとブラジルにスポットを当て、両国の一般情報や日本との歴史的関係などを学習する。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語(欧州ポルトガル語)の初級文法を中心に、基本となる日常会話・あいさつを学習する。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・ポルトガル語の発音や初級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガル語で簡単なあいさつや会話表現ができるようになる。 ・ポルトガル語で自己紹介(氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味など)とそれらに関する質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。 ・ポルトガルと、他のポルトガル語圏で話されているポルトガル語の違いについて学ぶ。
授業形態	演習
授業方法	・教科書の購入は不要である。コピーで配布する教材(有料)を使用する。 ・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音練習をする。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 ポルトガル語の子音の発音、アクセント テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.14～pp.18 【第2回】 不定冠詞と定冠詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.24～pp.28 【第3回】 主格人称代名詞と直説法現在　規則動詞-ar/-er/-ir 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.32～pp.36 【第4回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞 estar 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.41～pp.44 【第5回】 指示詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.48～pp.50 【第6回】 これまで学んだポルトガル語の文法・会話のまとめ 【第7回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞　ir テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.55～pp.57 【第8回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞 fazer 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.62～pp.63 【第9回】 直説法現在　日常で良く使う不規則動詞 saber, conhecer, conseguir 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.67～pp.69

	【第10回】 疑問詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.74～pp.77 【第11回】 日付、曜日、時刻の表現 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.83～pp.85 【第12回】 直説法現在　そのほかの不規則動詞 簡単なポルトガル語のあいさつ・会話 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』: pp.209～pp.211 【第13回】 まとめ(理解度確認と解説)
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくに名詞や形容詞の性数変化や、動詞の活用形などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガル語を話している国の文化や伝統を学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点:　50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入する必要はない。代わりに、授業時に該当する箇所のコピー(有料)を配布する。
履修上の留意点	事前知識は不要ですが、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、新しい言語を学習するにあたっては、毎回の授業にきちんと出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp104
講義コード	2A3100400
講義名	ポルトガル語初級Ⅳ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅳ（後期）では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっているほか、日本でも日系ブラジル人を中心に約21万人の話者がいる言葉である。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語（欧州ポルトガル語）の初級文法を中心に、基本となる日常会話・あいさつを学習する。また、ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについても学習する。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する。 ・秋学期は、まず、春学期に学習した文法や日常会話、あいさつなどをしっかり復習したうえで、新しい学習事項に取り組む。
科目の到達目標（理解のレベル）	・ポルトガル語の発音や初級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについて知る。 ・ポルトガル語で自己紹介（氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味など）とそれらに関する質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で過去にあったこと（例えば週末にやったこと、小さい頃にやっていたこと）を表現し、質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	・教科書の購入は不要である。コピーで配布する教材を使用する。 ・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音練習をする。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 春学期の復習　直説法現在不規則動詞 ter ,ir, querer, fazer, poder, saber, conhecer, conseguir, 存在・所在をあらわす表現, 疑問詞 【第2回】 直説法過去　規則動詞-ar/-er/-ir 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.86～pp.88 【第3回】 直説法過去　そのほかの不規則動詞　querer, fazer, poder, saber, trazer, ver, vir 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.92~93 【第4回】 前置詞と人称代名詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.96～pp.103 【第5回】 間接目的格人称代名詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.96～pp.103 【第6回】 これまで学んだポルトガル語の文法・会話のまとめ 【第7回】 直接目的格人称代名詞の変化形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.108～pp.111 【第8回】 不定語 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.117～pp.120 【第9回】 最上級 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.125～pp.128 【第10回】

	直説法半過去 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.133～pp.140 【第11回】 直説法複合過去 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.145～pp.147 【第12回】 受動態　不規則形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.151～pp.153 【第13回】 まとめ(理解度確認と解説)
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくに名詞や形容詞の性数変化や、動詞の活用形などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガル語を話している国の文化や伝統を積極的に学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点:　50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入する必要はない。代わりに、授業時に該当する箇所のコピーを配布する。
履修上の留意点	事前知識は不要ですが、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、新しい言語を学習するにあたっては、毎回の授業にきちんと出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp201
講義コード	2A3101100
講義名	ポルトガル語中級Ⅰ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっているほか、日本でも日系ブラジル人を中心に約21万人の話者がいる言葉である。ポルトガル語学習2年目となる本年は、ポルトガルやブラジルだけでなく、世界のポルトガル語圏にもスポットを当て、各国の一般情報や日本との歴史的関係などを学習する。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語(欧州ポルトガル語)の中級文法を中心に、日常でよく使われる会話表現や言語表現を学習する。また、ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについても学ぶ。 ・学習2年目となる本年は、初年度の学習内容を確認・復習したあと、中級文法の学習に進む。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する
科目の到達目標 (理解のレベル)	・ポルトガル語の発音や中級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについて知る。 ・ポルトガル語で1年次よりも詳しい自己紹介(氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味、将来の夢など)と質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で過去の思い出を語り、質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で書かれた文章を読み、日本語に訳すことができる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音の練習ならびに練習問題に取り組む。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 前年度の復習 名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞、形容詞、直説法現在規則動詞、直説法現在不規則動詞 (ser, estar, ter)、所有詞、指示詞 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.19～pp.54 【第2回】 前年度の復習 疑問詞、数詞、日付・曜日・時刻の表現 直説法過去規則動詞、直説法過去不規則動詞　ser/ir/estar/ter テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.74～pp.85 【第3回】 前年度の復習 直接目的格人称代名詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.96～pp.103 【第4回】 前年度の復習 再帰代名詞-seと再帰動詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.104～pp.107 【第5回】 間接目的格人称代名詞と直接目的格人称代名詞の結合形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.112～pp.115 【第6回】 比較級 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.121～pp.124 【第7回】 これまでの授業のまとめ 【第8回】 関係詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.129～pp.132 【第9回】 直説法大過去

	会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.141～pp.144 【第10回】 受動態　現在形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.148～pp.151 【第11回】 直説法未来 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.155～pp.159 【第12回】 非人称不定詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.166 【第13回】 まとめ(理解度確認)
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくにさまざまな動詞の時制・活用形・用法などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガル語を話している国の文化や伝統を積極的に学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点:　50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入する必要はない。代わりに、授業時に同テキストを貸与する。
履修上の留意点	「楽しく学ぶこと」をベースとしながら、実践的な場面でポルトガル語を使えるよう学習を継続していきます。2年目となる本年も、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、新しい言語を学習するにあたっては、毎回の授業にきちんと出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp202
講義コード	2A3101200
講義名	ポルトガル語中級Ⅱ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきることは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっているほか、日本でも日系ブラジル人を中心に約21万人の話者がいる言葉である。ポルトガル語学習2年目となる本年は、ポルトガルやブラジルだけでなく、世界のポルトガル語圏にもスポットを当て、各国の一般情報や日本との歴史的関係などを学習する。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語（欧州ポルトガル語）の中級文法を中心に、日常でよく使われる会話表現や言語表現を学習する。また、ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについても学ぶ。 ・初年度の学習内容を忘れずに確認しながら、中級文法の学習に取り組んでいく。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する。
科目の到達目標（理解のレベル）	・ポルトガル語の発音や中級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについて知る。 ・ポルトガル語で1年次よりも詳しい自己紹介（氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味、将来の夢など）と質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で過去の思い出を語り、質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で書かれた文章を読み、日本語に訳すことができる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音の練習ならびに練習問題に取り組む。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 春学期の復習 目的格人称代名詞・再帰動詞・不定語 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.98～pp.120 【第2回】 春学期の復習 直説法半過去・直説法大過去・直説法複合過去・受動態 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.133～pp.154 【第3回】 接続法とは 接続法現在の活用形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.170～pp.172 【第4回】 接続法現在 願望・命令・疑問・感情を表す文 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.175～pp.177 【第5回】 接続法現在　その他の表現 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.151～pp.184 【第6回】 接続法と直説法の使い分け　関係代名詞に導かれる文 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.188～pp.189 【第7回】 これまでの授業のまとめ 【第8回】 接続法現在と人称代名詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.193～pp.195 【第9回】 接続法複合未来 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.196～pp.201、別プリント

	【第10回】 接続法過去 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.202~203、別プリント 【第11回】 接続法複合過去未来 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.202~203、別プリント 【第12回】 直接話法 テキスト:別プリント 【第13回】 まとめ(理解度確認)
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくにさまざまな動詞の時制や活用形などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガル語を話している国の文化や伝統を積極的に学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点: 50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入する必要はない。代わりに、授業時に同テキストを貸与する。
履修上の留意点	「楽しく学ぶこと」をベースとしながら、実践的な場面でポルトガル語を使えるよう学習を継続していきます。2年目となる本年も、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、語学学習においては、毎回きちんと授業に出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp203
講義コード	2A3101300
講義名	ポルトガル語中級Ⅲ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっているほか、日本でも日系ブラジル人を中心に約21万人の話者がいる言葉である。ポルトガル語学習2年目となる本年は、ポルトガルやブラジルだけでなく、世界のポルトガル語圏にもスポットを当て、各国の一般情報や日本との歴史的関係などを学習する。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語（欧州ポルトガル語）の中級文法を中心に、日常でよく使われる会話表現や言語表現を学習する。また、ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについても学ぶ。 ・学習2年目となる本年は、初年度の学習内容を確認・復習したあと、中級文法の学習に進む。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する。
科目の到達目標（理解のレベル）	・ポルトガル語の発音や中級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについて知る。 ・ポルトガル語で1年次よりも詳しい自己紹介（氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味、将来の夢など）と質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で過去の思い出を語り、質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で書かれた文章を読み、日本語に訳すことができる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音の練習ならびに練習問題に取り組む。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 前年度の復習 直説法現在日常で良く使う不規則動詞（ir, querer,fazer,poder,saber, conhecer, conseguir）、存在・所在を表す表現「ある」「いる」 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.55～pp.71 【第2回】 前年度の復習 直説法過去規則動詞、さまざまな直説法過去不規則動詞、前置詞と人称代名詞 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.70～pp.97 【第3回】 前年度の復習 間接目的格人称代名詞 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.96～pp.103 【第4回】 直接目的格人称代名詞の変化形 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.108～pp.111 【第5回】 不定語 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.117～pp.120 【第6回】 最上級 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.125～pp.128 【第7回】 これまでの授業のまとめ 【第8回】 直説法半過去 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.133～pp.140 【第9回】 直説法複合過去 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.145～pp.147

	【第10回】 受動態　過去形 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.152～pp.154 【第11回】 直説法過去未来 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.160～pp.165 【第12回】 人称不定詞 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.167～pp.169 【第13回】 まとめ(理解度確認)
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくにさまざまな動詞の時制・活用形・用法などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガル語を話している国の文化や伝統を積極的に学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点:　50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入は不要である。 授業時に同テキストを貸与する。
履修上の留意点	「楽しく学ぶこと」をベースとしながら、実践的な場面でポルトガル語を使えるよう学習を継続していきます。2年目となる本年も、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、語学学習においては、毎回きちんと授業に出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp204
講義コード	2A3101400
講義名	ポルトガル語中級Ⅳ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
授業の内容	・ポルトガル語は、ヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルのほか、アフリカ・アジアを含む世界9か国1地域の公用語となっている言葉である。ポルトガル語学習2年目となる本年は、ポルトガルやブラジルだけでなく、世界のポルトガル語圏にもスポットを当て、各国の一般情報や日本との歴史的関係などを学習する。 ・本授業では、ポルトガルで話されているポルトガル語（欧州ポルトガル語）の中級文法を中心に、日常でよく使われる会話表現や言語表現を学習する。また、ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについても学ぶ。 ・映像や音楽資料を通して、世界のポルトガル語圏の歴史・伝統文化・習慣などについて学習する。 ・学習1年目および春学期に学んだ内容を復習したうえで、新しい学習事項に取り組む。
科目の到達目標（理解のレベル）	・ポルトガル語の発音や中級文法のしくみを理解することができる。 ・ポルトガルとブラジルで話されているポルトガル語の違いについて知る。 ・ポルトガル語で1年次よりも詳しい自己紹介（氏名、国籍、出身地、住所、年齢、家族構成、大学の専攻、趣味、将来の夢など）と質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で過去の思い出を語り、質疑応答ができるようになる。 ・ポルトガル語で書かれた文章を読み、日本語に訳すことができる。 ・ポルトガル語が話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	・授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音の練習ならびに練習問題に取り組む。 ・毎回宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。 ・基本的に毎回、ポルトガルや他のポルトガル語圏諸国に関する映像資料を鑑賞し、それぞれの国の文化や伝統、歴史について学ぶ。資料鑑賞後、コメントを提出する。
授業計画	【第1回】 春学期の復習 比較級・最上級・関係詞 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.121～pp.132 【第2回】 春学期の復習 受動態・直説法未来・直説法過去未来・人称不定詞 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.155～pp.169 【第3回】 接続法現在　非人称的用法 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.170～pp.174 【第4回】 接続法現在 譲歩・条件・時・目的を表す文 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.178～pp.180 【第5回】 接続法と直説法の使い分け　肯定文と否定文 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.185～pp.187 【第6回】 命令法 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.190～pp.192 【第7回】 これまでの授業のまとめ 【第8回】 接続法未来 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.196～pp.201 【第9回】 接続法半過去 会話・発音練習 テキスト：『ポルトガルのポルトガル語』pp.202、別プリント

	【第10回】 接続法大過去 会話・発音練習 テキスト:『ポルトガルのポルトガル語』pp.202~203、別プリント 【第11回】 分詞構文 会話・発音練習 テキスト:別プリント 【第12回】 間接話法 テキスト:別プリント 【第13回】 まとめ(理解度確認)
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。練習問題の予習は必要ではない。 事後学修に関して ・その回に学んだ文法事項、会話表現、発音などを繰り返し復習する。とくにさまざまな動詞の時制や活用形などを重点的に復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。映像資料を通じて、実際ポルトガル語を話している国の文化や伝統を積極的に学ぶ。
成績評価方法・基準	平常点: 50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	『ポルトガルのポルトガル語』(白水社)を基本テキストとして使用するが、購入する必要はない。代わりに、授業時にテキストを貸与する。
履修上の留意点	「楽しく学ぶこと」をベースとしながら、実践的な場面でポルトガル語を使えるよう学習を継続していきます。2年目となる本年も、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、語学学習においては、毎回きちんと授業に出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp205
講義コード	2A3101500
講義名	ポルトガル語中級Ⅴ
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を一通り学習した学生がその知識をさらに確かなものにしていく実践的な学習が、表現能力の訓練である。ここでは、簡単な日常の事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とし、各言語独自の言い回しや言葉の使い方などを中心に学び、作文力や会話能力の向上を目指す。
授業の内容	・1年次で学習した文法を使って、さまざまなシーン別（あいさつ、自己紹介、買い物、レストランなど）の会話文、質疑応答文、ボキャブラリーを学び、実践的なポルトガル語会話を身につける。 ・基本的に、ポルトガルで話されているポルトガル語（欧州ポルトガル語）の会話表現を学習するが、適宜、ブラジルで話されている会話表現も学ぶ。 ・基本会話文をベースにして、応用編として自分でさまざまなシチュエーションにおける会話文を作成してみる。クラスメートと質疑応答を行う。
科目の到達目標（理解のレベル）	・ポルトガル語でさまざまなシーン（あいさつをする、他人によびかける、自己紹介する、買い物をする、食事をする、など）における会話ができるようになる。 ・ポルトガル語で書かれた会話表現を日本語に訳すことができる。 ・日本語の会話表現をポルトガル語に訳すことができる。 ・ポルトガルが話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	ポルトガルで出版された外国人学習者向けのテキストPassaporte para Português 1（ポルトガル語へのパスポート）を使用する。 授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回、発音と会話の練習をする。 毎回、宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。
授業計画	【第1回】 あいさつをする、自己紹介をする、別れの言葉を言う 数字（0-20） 曜日 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 1 pp.10-13 【第2回】 出身地を言う 国名、都市名 数字（21-100） テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 2 pp.14-17 【第3回】 国籍や話す言語を尋ねる、住所や所在地を尋ねる 数字（101-1000） テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 3 pp.18-21 【第4回】 教室にあるものを言う、教室で使う表現 指示詞、色、国旗 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 4 pp.22-25 【第5回】 カバンの中に入っている物を言う 「～を持っている」「～にいる」 所有詞 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 5 pp.32-35 【第6回】 職業を言う、個人情報を尋ねる アルファベット 序数（～階に住んでいる） テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 6 pp.36-39 【第7回】 中間試験 【第8回】 場所について述べる、趣味について述べる 形容詞 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 7 pp.40-43 【第9回】 職業を尋ねる、仕事について尋ねる

	職業 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 8 pp.44-47 【第10回】 家族を紹介する、性格について述べる 家族関係のボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 9 pp.54-57 【第11回】 外見や体調について述べる 体の各部のボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 10 pp.58-61 【第12回】 趣味や自由時間にすることを述べる 趣味のボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 11 pp.62-65 【第13回】 まとめ 授業期間内期末試験
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。テキストの中に出てくる既習文法を復習しておく。 事後学修に関して ・その回に学んだ会話表現、発音を繰り返し復習すること。 ・テキストの中に出てくる既習文法を復習する。 ・課題(練習問題や、映像資料鑑賞)には必ず取り組むこと。
成績評価方法・基準	平常点: 50% 中間試験・期末試験:50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度(授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか、映像資料の感想文などの課題に前向きに取り組んでいるか)が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	ポルトガルで出版された外国人学習者向けのテキストPassaporte para Português 1(LIDEL社)をテキストとして使用するが、購入は不要である。授業時に該当する箇所のコピー(有料)を配布する。
履修上の留意点	「楽しく学ぶこと」をベースとしながら、実践的な場面でポルトガル語を使えるよう学習を継続していきます。2年目となる本年も、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいかという具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、語学学習においては、毎回きちんと授業に出席することが大切です。健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAp206
講義コード	2A3101600
講義名	ポルトガル語中級VI
担当者名	内藤　理佳
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	より高度な事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とする。学習の仕方は、外国語中級Vと変わりはないが、作文では、より上手な文章作りができるよう学習し、会話では、適切な言葉や慣用表現が上手に使えるように練習していく。
授業の内容	・ポルトガルで出版されている外国人学習者向けのテキスト(Passaporte para Português 1)を使用し、ポルトガルで話されているポルトガル語のさまざまな会話文、質疑応答文、ボキャブラリーを学び、実践的なポルトガル語会話を身につける。 ・会話文のテキストを通して、1年次の初級III／初級IVならびに2年次の中級III/IVで学習した文法内容を復習する。 ・基本的に、ポルトガルで話されているポルトガル語(欧州ポルトガル語)の会話表現を学習するが、適宜、ブラジルで話されている会話表現も学ぶ。 ・基本会話文をベースにして、応用編として自分でさまざまなシチュエーションにおける会話文を作成してみる。クラスメートと質疑応答を行う。
科目の到達目標 (理解のレベル)	・ポルトガル語でさまざまなシーン(あいさつをする、他人によびかける、自己紹介する、買い物をする、食事をする、など)における会話ができるようになる。 ・ポルトガル語で書かれた会話表現を日本語に訳すことができる。 ・日本語の会話表現をポルトガル語に訳すことができる。 ・ポルトガルが話されている国や地域に関する知識を深めることができる。
授業形態	演習
授業方法	教科書の購入は不要である。テキストのコピー(有料)を配布する。 授業はテキストに沿っておこない、演習形式に沿って、毎回かならず発音と会話の練習をする。 テキストはすべてポルトガル語で書かれているので、辞書等を使いながら、日本語に訳していく作業を行う。また、日本語の文をポルトガル語に訳す練習を行う。 毎回、宿題を課す。宿題の確認は次の授業で答え合わせをするか、または課題としてmanabaに提出する。
授業計画	【第1回】 習慣について述べる インフォーマルなメールを書く テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 12 pp.66-69 【第2回】 時間や日を言う、誕生日を祝う 月名、季節、祝日 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 13 pp.76-79 【第3回】 一日のルーティンについて述べる 一日のルーティンに関するボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 14 pp.80-83 【第4回】 食生活について述べる 食べ物に関するボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 15 pp.84-87 【第5回】 レストランでの会話、メニューを読む レストランで使うボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 16 pp. 88-91 【第6回】 さまざまな国の人々の朝食について 店で食べ物を買う テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 17 pp. 98-101 【第7回】 中間試験 【第8回】 比較をする ツアー広告を読む テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 18 pp.102-105 【第9回】 「～しなくてはならない」という表現 不定語 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 19 pp.106-109

	【第10回】 「今～しているところだ」という表現 電話の会話 テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 20 pp.110-113 【第11回】 旅行のプランを立てる 交通手段のボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 21 pp.120-123 【第12回】 住居について述べる 家具に関するボキャブラリー テキスト Passaporte para Português 1 Unidade 22 pp.124-127 【第13回】 まとめ 授業内期末試験
事前・事後学修	事前学修に関して ・次の回や、今後学習するテキスト内容に事前に目を通しておき、ポルトガル語学習を総合的にとらえるようにする。テキストの中に出てくる既習文法を復習しておく。 事後学修に関して ・その回に学んだ会話表現、発音を繰り返し復習すること。 ・テキストの中に出てくる既習文法を復習する。 ・課題には必ず取り組むこと。
成績評価方法・基準	平常点： 50% 中間試験・期末試験：50% 平常点は評価の50パーセントを占める。その中には授業内外の学修態度（授業態度、宿題の練習問題をきちんとやっているか）が含まれる。中間試験と期末試験は授業期間内に実施する。中間試験は授業前半の内容を、期末試験は授業期間全体の内容を範囲として実施する。平常点のみでは合格ラインには到達しないため、必ず中間試験・期末試験を受験する必要がある。
教科書・指定図書	"Passaporte para Português 1"（Lidel 社）をテキストとして使用するが、購入は不要である。 授業時に該当する箇所のコピー（有料）を配布する。
履修上の留意点	「楽しく学ぶこと」をベースとしながら、実践的な場面でポルトガル語を使えるよう学習を継続していきます。2年間の学習の締めくくりとなる今期、ポルトガル語の学習を通して、将来、何をやってみたいのか、より具体的な目標を設定して授業に臨むようにしましょう。 また、語学学習においては、毎回きちんと授業に出席することが大切です。 健康に留意し、万全の体調で授業に臨むようにしてください。 受講者制限はありません。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm101
講義コード	2A3200100
講義名	モンゴル語初級Ⅰ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅰ(前期)では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	モンゴル語は発音や、文字は日本語とは違いますが、「て、に、を、は」と呼ばれる格助詞や、主語、目的語、動詞の順に並べて文章を構成するなど、文法的には非常に似ています。 モンゴル語の文字、文法、発音の基礎的な構造を日本語と比較しつつ、実際的に学んでいきます。違いに注意しつつ、学んでいくことで、ほかの言語より早く基本文法が習得できると思います。 モンゴル語初級Ⅲで学んだ会話がこの授業での文法の参照点となります。つまり覚えた会話を文法的に分析するような形で進めてゆきます。 文字と発音に関しては、Youtubeやそのほかのインターネットの教材を積極的に活用しつつしっかり学んでいきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	モンゴル語の文字(キリル文字)と発音に対応関係を把握し、読み書きできるようになる。 モンゴル語の発音ができるようになる。その際、モンゴル語に特徴的な母音調和の知識をしっかりと身に着ける。 その上で、モンゴル語の基礎的な文法を、日本語の文法(格助詞、語順、動詞の活用)を意識、その差異を認識しつつ学んでゆく。 その差異、会話の授業で学んだ内容を文法的に分析し、確認できる能力を身に着ける。
授業形態	演習
授業方法	授業の前半では、モンゴル語の挨拶、ごく簡単な会話を積み上げてゆきます。授業後半は文章読解を行い、モンゴル語の発音や文構造の特徴をつかむような講義形式をとります。毎回宿題を課す授業です。 授業では、会話をする機会を多く設けています。まずは、対話の形式のフレーズを覚えていき、応用・発展的な会話ができるよう、そのバリエーションが多く使えるようにしてゆきます。基本的な文法に慣れるような形式で進めていきます。覚えた文章、フレーズを分析するような形式で文法項目を教えるので、立ち止まって振り返るときも根拠となる文章が確認できる形で文法学習ができると思います。 基本的には教師と学生の間で会話をなす授業方式をとりますが、学生同士での会話や、グループを作り、テーマを与えて、それに関する会話を作り、発表してもらうこともあります。また、会話のテーマをまとめて、モノローグ形式で自己紹介をする試験を課します。 課題をFlipgrid(ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ)といったソフト(アプリ)を使っていきます。 授業の資料はmanabaを使い、事前に配布します。
授業計画	【第1回】モンゴル語とは。挨拶、アルファベットと音価 ※　オリエンテーション　授業の進め方を具体的に説明してゆきます。 できるだけ休まないでください。 【第2回】単語と発音、母音調和、文構成の基礎 【第3回】動詞の現在形と過去形(1)　～ます①形(辞書系)、～ます②形、習慣・反復形、現在進行形 【第4回】動詞の現在形と過去形(2)　過去形(一般、近過去、大過去) 【第5回】疑問文、否定文、命令文(1)　Yes/No疑問文、疑問詞付疑問文、命令文のさまざまな形 【第6回】疑問文、否定文、命令文(2)　さまざまな文章の疑問形、否定の疑問文 【第7回】代名詞、形容詞、数詞(1)　代名詞、代名詞の格変化、形容詞、動詞の形容詞的用法 【第8回】代名詞、形容詞、数詞(2)　数詞、助数詞、序数詞 【第9回】名詞の格変化(1)　格変化の確認、に格、へ格、から格、で格、 【第10回】名詞の格変化(2)　を格、の格、 【第11回】名詞の格変化(3)　と格と所有の関係、形容詞的表現 【第12回】詩、短文を読む(1)　ナツァクドルジの『故郷』から 【第13回】詩、短文を読む(2)　『熱き心のふるさと』
事前・事後学修	事前準備として:事前に配る資料によく目を通すこと。会話資料は、基本的に一回の授業で2～4ページ進みますので、少なくとも2ページ分は見ておいてください。そのうえで、わからなかったことなどを事前に質問できるように準備しておいてください

	事後学修として：語学の授業は積み上げ方式です。毎回毎回、会話のフレーズを学びますが、最終的にそれらを駆使して最後にテストをしますので、語彙、文法的な事項を含め復習してください！
成績評価方法・基準	試験50%(中間に一回20%、期末に一回30%) 最終試験の範囲は授業全体となります。文法事項に関して、具体的な用法を用いて答えるような問題が出ますので、用例とともに覚えておいてください。 平常点50%(予習・復習・小テスト、授業への積極性)を総合して評価する 授業中に学ぶ表現を、会話の形で毎回おこないます。積み上げ方式で授業が進めば進むほど、会話は長くなります。授業の時の質問にはすぐに答えられるように予習復習をすることが平常点の評価につながります。
教科書・指定図書	参考書：近藤和正『すぐ役立つ最新モンゴル語会話ー日モ・モ日常用語小事典付』 テンブックス 2015 指定図書：司馬遼太郎 『草原の記』新潮文庫、鯉渕信一 『騎馬民族の心』NHKブックス
履修上の留意点	欠席厳禁、積極的に授業に参加すること
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm102
講義コード	2A3200200
講義名	モンゴル語初級Ⅱ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅱ(後期)では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	モンゴル語初級Ⅰの授業内容を継続し、さらに内容を深めてゆきます。 難しいと思われる発音、ローマ字と紛らわしいキリル文字の間違いを細かくチェックしつつ、自然に読めるようになることをめざします。 同時に、モンゴル語の動詞形も様々な表現形を学んでゆきます。 モンゴル語の文字、文法、発音の基礎的な構造を日本語と比較しつつ実際的に学ぶことによって、普段使っている日本語の視点への気づきにもなるような授業です 引き続き、発音やテキストの読解などを用いつつ授業で行いつつ 課題をFlipgrid(ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ) といったソフト(アプリ)を使っていきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	モンゴル語の物語、詩、料理の文章、法律の文章など様々なスタイルの文章が読めるようになる。 会話だけでなく、上述のような様々なスタイルの文章にふれつつ、モンゴル語の基礎語彙を増やす。 日本語と対照した時に、モンゴル語は過去形や連用形などの形式が豊富であるので、その違いや同じところなどを意識しつつ、モンゴル語に多くある動詞の変化形を多く習得していく。 その他のモンゴル語の基礎的な文法を、日本語の知識を活用しつつ身につける
授業形態	演習
授業方法	モンゴル語Ⅰを継続し、簡単な文章を繰り返し例示しながら文法理解を深め、特に動詞の変化形を多く習得していくことで、表現の幅を広げてゆく。 文章を読み上げを繰り返すことで発音にも習熟する。 最終的には、箇条書きなどマニュアル文や、法律文のような独特な表現にもなれ、また、モンゴル語の詩の形式や、民話なども読んで様々な文章のスタイルにも対応できるようにする。 毎回、宿題を課す。 引き続き、発音やテキストの読解などを同時双方向型の授業で行いつつ 課題をFlipgrid(ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ)、
授業計画	【第1回】 モンゴル語初級Ⅰのおさらい、疑問文、命令文に関して(1) 命令、依頼、意志・勧誘、願望、希望、許可、可能、義務、必要、好悪などの表現のおさらいと確認 【第2回】 疑問文、命令文 に関して(2) 命令形の否定文に関して (Бүү, б и т г и й, э с など) 【第3回】 副動詞形に関して(1) 名詞に接続できる動詞の形式、現在形、過去形 【第4回】 副動詞形に関して(2) 現在進行形、反復・習慣形、その他さまざまな形式 【第5回】 倒置詞に関して(1) 再帰代名詞とその用法について 【第6回】 倒置詞に関して(2) 再帰文について 【第7回】 散文を読む(様々な言語のスタイルについて)(1) 箇条書き、料理のレシピを読む 【第8回】 散文を読む (様々な言語のスタイルについて)(2) 法律文を読む 【第9回】 詩を読む(韻文の形式についても) ナツァクドルジの『故郷』の韻文形式を鑑賞する 【第10回】 モンゴルの民話を読む(1) ハリネズミ、きつね、おおかみの3匹

	【第11回】 モンゴルの民話を読む(2)　ハリネズミ、きつね、おおかみの3匹 【第12回】 モンゴルの民話を読む(3)　仲良しの4匹の動物 【第13回】 モンゴルの民話を読む(4)　仲良しの4匹の動物 上記計画はあくまで予定である。 ※後半の読み物に関しては、学生の関心に引き付けて、モンツァメ通信社のインターネット配信記事を使うことも考えている。 詳細については、進捗状況を鑑み授業で指示する。
事前・事後学修	事前準備として：事前に配る資料によく目を通すこと。会話資料は、基本的に一回の授業で2～4ページ進みますので、少なくとも2ページ分は見ておいてください。そのうえで、わからなかったことなどを事前に質問できるように準備しておいてください 事後学修として：語学の授業は積み上げ方式です。毎回毎回、会話のフレーズを学びますが、最終的にそれらを駆使して最後にテストをしますので、語彙、文法的な事項を含め復習してください！
成績評価方法・基準	試験50%(中間に一回20%、期末に一回30%) 最終試験の範囲は授業全体となります。文法事項に関して、具体的な用法を用いて答えるような問題が出ますので、用例とともに覚えておいてください。 平常点50%(予習・復習・小テスト、授業への積極性)を総合して評価する 授業中に学ぶ表現を、会話の形で毎回おこないます。積み上げ方式で授業が進めば進むほど、会話は長くなります。授業の時の質問にはすぐに答えられるように予習復習をすることが平常点の評価につながります。
教科書・指定図書	教科書：近藤和正 『すぐに役立つモンゴル語会話ー日モ・モ日常用語小事典付』テンブックス2002
履修上の留意点	欠席厳禁、積極的に授業に参加すること
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm103
講義コード	2A3200300
講義名	モンゴル語初級Ⅲ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅲ(前期)では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	モンゴル語の基礎的な会話能力を身に付けてゆきます 提供するテキストに沿って、基礎的な会話を覚えてゆきますが、積み上げ方式なので、会話は後になればなるほどだんだんと長くなってゆきます。ただ、一通り覚えれば、自分で何らかの表現をする時の参照点として、(モンゴル語に特徴的な母音調和のルールなどに関する)会話の内容を使うことができると思います。 会話ははじめの挨拶、別れの挨拶、名前を聞くといったことから、「てにをは」の活用、さまざまな疑問詞(なに、どこ、どこから、どうやって、いつ、どんな、なぜ)の使い方や、疑問の表現のつくり方、所有の表現、数や時間に関する表現、動詞の活用などを、会話を作りながら学んでいきます。
科目の到達目標(理解のレベル)	「こんにちは」「さようなら」から始まり、さまざまな質問とそれに対する答えを、文法的な知識を交えて、積み上げ形式でおこなっていきます。 知り合ったあと、初めにする会話と、5W1Hを使った質問、それに対する答えを組み合わせ、3分程度のフリートークができることを目標とします。 また、提示された会話を覚えてゆくことで、モンゴル語初級Ⅰで学んでいく文法の参照点を自分の中に作っていくこと、文法の内在化を目指してゆきます。
授業形態	演習
授業方法	講義形式ですが、会話をどんどん暗唱していきます。 授業が進むごとに、積み重ねていった会話を繰り返して、モンゴル語の会話の流れに慣れさせて行きます。勿論、学習者それぞれに、学んだ会話形式でイイタイコトが違うはずですから、語彙の面などに関しては学習者に対応したものを積極的に提供していきます。 課題をFlipgrid(ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ)といったソフト(アプリ)を使っていきます。
授業計画	【第1回】 モンゴル語アルファベット、発音の紹介、母音調和について 【第2回】 基本的な挨拶「こんにちは、さようなら」(1)、モンゴル語の基礎文法、 【第3回】 基本的な挨拶「最近どうですか？また会いましょう！」(2)正書法 【第4回】 感謝の表現、呼びかけの表現、名詞、格語尾のまとめ 【第5回】 存在・所有に関する表現(～に～があります。～をもっています) 【第6回】 数にまつわる表現(これはいくらですか、何歳ですか)、数詞 【第7回】 時間に関する表現(～年～月～日、今日、昨日、一昨日、明日、明後日など) 【第8回】 疑問詞をつけた表現　動詞の変化のまとめ(現在形、過去形、現在進行形など) 【第9回】 動詞を複合した表現を使った会話　(～してみる、～したい)など 【第10回】 モンゴル語の歌 (「熱き心のふるさと」:モンゴル人と親しくなるために) 【第11回】 モンゴル語会話(買物「上の棚の右から3番目にある赤いものをください」) 【第12回】 モンゴル語会話(電話「もしもし、今大丈夫ですか？」) 【第13回】 まとめ(文法項目と基本的会話表現の総復習)と試験
事前・事後学修	およそ語学の授業、すべてに言えることですが、授業の内容は、積み上げ形式です。 前の内容をきちんと把握できていないと遅れていくことになります。 授業中、復習をする機会は何度か設けていますができるだけ前に習ったことを暗記、暗唱できるようにしておいてください。 授業後の課題として、質問や回答などを準備するものを出す予定になっています。創造性を発揮できる場所にしています。「このような言い方は可能だろうか」に挑戦した上での間違いは、減点の対象ではなく、加点の対象としたいと思いますので、積極的に活用してください。

成績評価方法・基準	以下のような授業内外での2つの活動をもって成績を評価する。 1. 会話や発言を記録し投稿すること。最終試験として行うフリートークの会話の試験でしかるべき成績を収めること(50%) ※Microsoftの教育アプリFlipgridというソフトを使います。事前に登録をお願いします。 2. 授業に積極的に参加し、発言べきところで発言していくこと。会話の授業は発言することで習熟度を確認しているので、学習達成度が常識的なものであるかどうか(50%)
教科書・指定図書	*(参考文献) 近藤和正「すぐに役立つ最新モンゴル語会話」(テンブックス 2015) ツェベクマ 「星の草原に帰らん」NHK出版 1999
履修上の留意点	教材は近藤和正「すぐに役立つモンゴル語会話」(テンブックス 2002)を基にしつつ、自前に作成した会話資料を用いる。そのほかモンゴルに関する旅行記などもあるのでモンゴルについての基礎的な知識を身に付けておくことをお薦めする。 また、2／3以下の出席は評価の対象としない。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm104
講義コード	2A3200400
講義名	モンゴル語初級Ⅳ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅳ(後期)では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	モンゴル語の基礎的な会話能力を身に付けることを目標とした授業です。 モンゴル人と知り合い、恐らく最初のうちに触れられるであろう、家族や学校・仕事、趣味、お国自慢などといった話題を教科書に沿ったかたちで取り上げて会話を積み重ねる内容のの授業を行っていきます。 各テーマごとの会話もさることながら、それらを横断的に組み合わせて自己紹介ができるようにすることを目標とします。 モンゴルでは場合によって歌を歌ったり、詩を読んだりすることを要求されることがあるので、それも授業で紹介する予定 授業は基本的に同時双方向型で行いつつ 課題をFlipgrid(ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ)、Googleschoolといったソフト(アプリ)を使います。 歌、詩の朗読に関しては最終的にFlipgridでの提出を予定しています。
科目の到達目標 (理解のレベル)	出会いの場面で、自分のふるさとや自分自身、家族、学校、趣味などについての紹介ができるようになる。 公的な場面であいさつができるような、話し方のかたちを身に着ける。 日常的な会話をくりかえり行うことによって、適切な場面で、適切なモンゴル語が自然と出てくるようにする その他、さまざまな状況に応じた会話ができるように語彙を増やす モンゴルの文化を理解できるように、モンゴル人がよく知る歌を習得し、また歌うことができるようになる。
授業形態	演習
授業方法	基本的には教師と学生の間で会話をなす授業方式をとるが、学生同士での会話や、グループを作り、テーマを与えて、それに関する会話を作り、発表してもらうこともある。また、会話のテーマをまとめて、モノローグ形式で自己紹介をする試験を課す。 課題をFlipgrid(ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ)といったソフト(アプリ)を使っていきます。 歌、詩の朗読に関しては最終的にFlipgridでの提出を予定しています。
授業計画	【第1回】 モンゴル語の基礎文法、正書法、モンゴル語Ⅱの復習 【第2回】 名詞、数詞、格語尾の確認(モンゴル語Ⅱの復習もかねて) 【第3回】 動詞の変化(現在形、過去形、現在進行形(連用形))の確認とその他用法 【第4回】 モンゴル語の歌 母の歌、馬をたたえる歌を学ぶ。モンゴルの詩の頭韻や脚韻の踏み方 【第5回】 実用的モンゴル語会話練習 挨拶　お仕事お忙しいですか？ゆっくりお休みください 【第6回】 実用的モンゴル語会話練習 家族　ご家族は何人ですか？　兄弟姉妹はいますか？ 【第7回】 実用的モンゴル語会話練習 学校・職場　その1　父は会社で仕事をしています。 【第8回】 実用的モンゴル語会話練習 学校・職場　その2　私は大学生で妹は高校生です 【第9回】 実用的モンゴル語会話練習 趣味　私の趣味は音楽鑑賞です。モンゴル音楽が好きです。 【第10回】 実用的モンゴル語会話練習 故郷自慢(私の故郷～は〇〇が有名です。) 【第11回】 モンゴル語会話, 自己紹介　(初めまして、わたしは～といいます。モンゴルは初めてです)

	【第12回】 モンゴル語会話 料理のレシピ(モンゴル料理ボーズ、ホーショールのつくり方)を説明する 【第13回】 まとめ(文法項目と基本的会話表現の総復習)と最終試験
事前・事後学修	中心となるのは会話ですが、さまざまな関連する話題に触れます。 会話の練習に関しては、まずは教科書に出ているものをきちんと読み、そこから自分が使いそうな表現と単語を調べて事前に用意していてください また、会話も一通りではなく、表現の可能性(バリエーション)を含め、書き留めて覚えてもらうものが多くなりますが、最初のうちは何回か書き出して覚えてみてください。 間違いを恐れず、積極的に会話や作文を行っていってください。
成績評価方法・基準	以下の項目を充足した場合に評価する。 1. 前後期一回ずつの試験にしかるべき成績を収めること。 前期の試験は、それまでに学んだ様々な要素を組み合わせた家族紹介(30%) 後期の試験は、お国自慢を含んだ自己紹介(40%)を予定しています。 2. 会話の授業であるので、授業での積極的な発言(30%) 間違いを恐れず、積極的に会話や作文を行っていってください。積極的な活動の上での挑戦的な間違いは、減点の対象ではなく、加点の対象とします。
教科書・指定図書	*(参考文献) 近藤和正「すぐに役立つ最新モンゴル語会話」(テンブックス、2015) ツエベクマ 「星の草原に帰らん」 NHK出版 1999
履修上の留意点	教材に近藤和正「すぐに役立つ最新モンゴル語会話」(テンブックス、2015)を用いる。そのほかモンゴルに関する歴史や文化を紹介する本なども紹介していく。自分たちから積極的にモンゴルについての基礎的な知識を身に付けておくことをお薦めする。 また、1/3以上欠席した場合、評価の対象としない。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm201
講義コード	2A3201100
講義名	モンゴル語中級Ⅰ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
授業の内容	世界で珍しい縦にしか書くことができない文字、モンゴル文字に習熟するための授業です。 モンゴル文字は、中国・内モンゴルで800年ほど前から現在に至るまで使用されている伝統的な文字です。 文字と同時に、モンゴル文語の基礎的文法も学んでゆきます。 モンゴル文字は、発音との乖離が著しいので、読むのには難しいですが、その分、規則的で、書く分にはやさしいといわれる文字です。 初級で学んだ現代モンゴル語の知識と比較をしながら学習してゆきます。 文字を習う過程で、実際に内モンゴルで使われているモンゴル文字の実情や、道路標識、焦点の看板の文字をよむ課題からはじめ、ある程度習熟したところで歴史的な文献あるいは、碑文などを紹介していく。 書き順の課題など、課題はFlipgrid学習支援用アプリなどを通じて提出してもらう予定です。
科目の到達目標 （理解のレベル）	モンゴル文字の由来やメカニズムについて学び、活字体と手書き文字の違いを理解できるようになる。 そのうえでキリル文字で書かれたもとの違いをはっきりと意識し、文字を書くことが出来るようになり、ローマ字に転写ができるようになる。 文章を読むにあたって、格助詞の書き方など、現代モンゴル語表記との違いをはっきり意識できるようになり、つづいて、モンゴル文字から現代モンゴル語のキリル文字に起こすことが出来るようになる。
授業形態	演習
授業方法	それぞれの文字の書き方、読み方、つづり方を学ぶ。 ひととおり習得できたら簡単な文語の文章をローマ字で転写する訓練と、逆にローマ字転写からモンゴル文字を起こす練習を行う。 最後に学習者の興味に合わせたモンゴル文字を提供し、テキストを読解していく。 なお、モンゴル文字は習字としての芸術性を持っているので、その方面での興味があるからがいれば、その点も紹介していくことも可能である。 配布使用は、manabaやflipgridなどの授業支援アプリなどを使って事前に配布する予定です。
授業計画	【第1回】モンゴル文字の歴史やその使われ方について、モンゴル文字の文字素について 【第2回】モンゴル文字の母音a,e, iと子音nの書き方。語頭、語中、語末の文字の変化形を学ぶ 【第3回】モンゴル文字の母音o,u ö,, ü,の書き方。語頭、語中、語末の文字の変化形を学ぶ 【第4回】モンゴル文字の子音q,G,bの書き方。語頭、語中、語末の文字の変化形を学ぶ 【第5回】モンゴル文字の子音k,ng,j,yの書き方、語頭、語中、語末の文字の変化形を学ぶ 【第6回】モンゴル文字の子音t,d, m, cの書き方、語頭、語中、語末の文字の変化形を学ぶ 【第7回】モンゴル文字の子音r,s,shの書き方、語頭、語中、語末の文字の変化形を学ぶ 【第8回】モンゴル文字の子音l,w,pの書き方、語頭、語中、語末の文字の変化形を学ぶ 【第9回】その他の外来語用の文字の書き方を学ぶ。 今まで書いた文字の復習。 【第10回】ローマ字によるモンゴル文1, モンゴル文2をモンゴル文字に転写 【第11回】ローマ字によるモンゴル文3, モンゴル文4をモンゴル文字に転写 【第12回】ローマ字によるモンゴル文5、モンゴル文6をモンゴル文字に転写 【第13回】ローマ字によるモンゴル文7、モンゴル文8をモンゴル文字に転写 上記計画はあくまで予定である。 詳細については、進捗状況を鑑み授業で指示する。

事前・事後学修	モンゴル語中級Ｉではまずモンゴル文字の仕組みを覚えてもらいます。 縦書きの文字なので、小中高で使った国語のノートを用意してください。 事前に活字体を手書き文字にして書く練習も課題として何度か予定ですが、その後、活字体を手書きの文字の違いを意識して、その後、活字体で提示された手書きに直して提出してください その際、ノートの縦線に沿って、「背骨がピン」となったきれいな文字を書くことができるよう何度も書く練習をしてください。課題は書き順や文字の美しさも評価の対象になります。
成績評価方法・基準	ある程度、読めるようになったところで、宿題を多く出す予定です。 モンゴル文字で書かれた文章の読み下しや、ローマ字転写からモンゴル文字に起こす課題で理解度、習熟度をはかります。 宿題の占める割合が大きいので、きちんと課題を提出することが重要となります。 そのほか、授業参加の積極性、予習、復習をきちんと行っているかを授業中にみていきます。これらを総合して、贈号したものを全体評価の60%とします。 その他、中間と期末に行う試験の評価を試験40%とします。
教科書・指定図書	使用するテキストは学生の進度に合わせて配布する
履修上の留意点	積極的に授業に参加すること。 モンゴル文字は、例年判読に苦労する学生が現れるが、自分できちんと書き分けられるようになると、スラスラ読めるようになるようである。文字の判読に悩んだ場合、積極的に質問すること、また、自分で書いたものをこれでいいか教師に確認すること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm202
講義コード	2A3201200
講義名	モンゴル語中級Ⅱ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきることは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
授業の内容	モンゴル語の伝統的な縦書きの文字を習得し、あわせてモンゴル文語の基礎的文法に触れる。現代モンゴル語での発音と、モンゴル文字での綴りの規則的な違いを理解しつつ、モンゴル文字でのモンゴル語の読解を行っていきます。また、自己紹介や、季節の挨拶、モンゴルでよく知られた詩や歌をモンゴル文字で表現できるようにする。モンゴル文字に習熟したと思われるところで、習字的な文字の芸術を理解する授業をすることも想定している。 習字的なモンゴル語の授業行う際には運筆なども確認しながら引き続き、読み書きの練習を行ってゆく。 なお、モンゴルの国営通信社であるモンツァメは縦文字でのサイトも持っており、モンゴル文字を実際に読む作業に関してはこのようなインターネットのサイトを活用していくことを考えている。
科目の到達目標 （理解のレベル）	モンゴル文字で書かれたさまざまなスタイルの文章を読めるようになる。 モンゴル文字でやさしい文章が書けるようになる。 現代モンゴル語での発音と、それをモンゴル文字で表現する際の違いを意識し、現代モンゴル語での綴りを予測しつつ、辞書を引けるようにする。 モンゴル文字で書かれた文章を、現代モンゴル語に直す、現代モンゴル語で書かれた文章をモンゴル文字の文章に直すことができるようになる。
授業形態	演習
授業方法	それぞれの文字の書き方、読み方、つづり方を学ぶ。ひととおり習得できたら簡単な文語の文章をモンゴル文字で読み、それをローマ字で転写してゆく。さらに現代モンゴル語に直す過程を経て、モンゴル文字のテキストを読解する。 必要に応じて書画カメラを使って、運筆なども確認しながら引き続き、読み書きの練習を行ってゆく。 なお、モンゴルの国営通信社であるモンツァメは縦文字でのサイトも持っており、モンゴル文字を実際に読む作業に関してはこのようなインターネットのサイトを活用していくことを考えている。
授業計画	【第1回】 前期の復習(特に単語の語頭・語中・語末の文字変化の確認) 【第2回】 前期の復習（特に綴り方） 【第3回】 ローマ字によるモンゴル語の文章をモンゴル文字に転写1 （テーマ：名前） 【第4回】 ローマ字によるモンゴル語の文章をモンゴル文字に転写2 （テーマ：家族） 【第5回】 ローマ字によるモンゴル語の文章をモンゴル文字に転写3 （テーマ：：学校） 【第6回】 ローマ字によるモンゴル語の文章をモンゴル文字に転写4 （テーマ：仕事） 【第7回】 モンゴル文字の書き写し、およびローマ字転写1 （モンゴルの詩1） 【第8回】 モンゴル文字の書き写し、およびローマ字転写2 （モンゴルの詩2） 【第9回】 モンゴル文字の書き写し、およびローマ字転写3 （モンゴル語の歌） 【第10回】 モンゴル文字の文語文の読解(内モンゴル・モンゴル国の新聞・雑誌等)1 【第11回】

	モンゴル文字の文語文の読解(内モンゴル・モンゴル国の新聞・雑誌等)2 【第12回】 モンゴル文字の文語文の読解(内モンゴル・モンゴル国の新聞・雑誌等)3 【第13回】 モンゴル文字の文語文の読解(内モンゴル・モンゴル国の新聞・雑誌等)4 上記計画はあくまで予定である。 詳細については、進捗状況を鑑み授業で指示する。
事前・事後学修	中級Ⅱはモンゴル文字の書き方の規則を理解し読解に生かすのが目標です。 モンゴル文字と現代モンゴル語との対応に意識して授業を進めていきますので、お互いがつながるように意識した予習・復習を行ってください。 テキストは前の週に渡ししますので自分で、どうテキストが読めるのか転写するのか、まずはやってみてください。積極的かつ挑戦的な間違いは、減点の対象ではなく、加点の対象です。 授業後は規則をきちんと復習しておいてください
成績評価方法・基準	試験50%(モンゴル語の転写および、現代モンゴル語への復元および翻訳)、平常点(予習・復習、授業への積極性など)50%を総合して評価する。 英語の手書き文字でも手を焼くことがありますが、モンゴル文字は、文字をつなげて書かれる文字であるためか、文字の癖がひどいと判読できないこともあります。試験、あるいは平常点として、モンゴル人が読めるぐらいにモンゴル文字をきれい書くことも評価に入ることを理解しておいてください。
教科書・指定図書	使用するテキストは学生の進度に合わせて配布する。
履修上の留意点	積極的に授業に参加すること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm203
講義コード	2A3201300
講義名	モンゴル語中級Ⅲ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
授業の内容	初級のⅠ－Ⅳをうけ、モンゴル語の語彙力と表現力の増進および、文章の読解力をつけるため講読を行う。 基本的にはモンゴル通信社のサイト(https://www.montsame.mn/mn/)から、日本とモンゴルに関係する記事などを選んでモンゴル語を読んで日本語への翻訳を行い、さらに、そのテーマに関する語彙力を増やすことを目指す。 また、読解の際に現れた、よく使われる表現を用いた作文を作成し、添削する授業を行うことで、作文能力の向上をめざす。 課題はManabaの他、Flipgrid (ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ)といったソフト(アプリ)を使って提出を求める形をとります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	基本的な文法能力を習得した後に必要なものは、語彙力と「(名詞)＋格助詞＋動詞」で構成される様々な表現である。ボキャブラリー・ビルディングの手法を用い、全般的な語彙を増やすとともに、選択したテーマごとに、そのテーマにまつわる語彙や表現を増やし、そのテーマで会話を展開させたり、テーマに関して表現形式や語彙を絞った上での作文を作っていくことでそれらの語彙や表現形式を身に着けてゆく。
授業形態	演習
授業方法	4つのテーマを絞って新聞記事を選択し講読、語彙を増やし、作文を作成するという形で授業をおこなう。 最初のテーマだけはこちらで提供する(政治・経済に関するものの予定)が、残りの3つについては参加者とテーマを協議し、決めることにする。 ※なお、資料はモンゴルの国立通信社モンツァメの記事から オンラインで読める資料を使用する予定 事前にURLを告知するのでそれぞれにアクセスすること 語彙資料、および文法の説明などは適宜配布する予定
授業計画	【第1回】 授業内容の紹介　テーマの選択　新聞講読テーマ1の資料配布 【第2回】 新聞講読テーマ1の講読　語彙の検索および文法解説、周辺語彙資料の提供 【第3回】 新聞講読テーマ1の講読　作文作成準備　新聞講読テーマ2の資料配布 【第4回】 作文の添削　新聞講読テーマ2の講読　語彙の検索および文法解説 【第5回】 新聞講読テーマ2の講読　周辺語彙資料の提供 【第6回】 新聞講読テーマ2の講読　作文作成準備　新聞講読テーマ3の資料配布 【第7回】 作文の添削　新聞講読テーマ3の講読　語彙の検索および文法解説 【第8回】 新聞講読テーマ3の講読　周辺語彙資料の提供 【第9回】 新聞講読テーマ3の講読　作文作成準備　新聞講読テーマ4の資料配布 【第10回】 作文の添削　新聞講読テーマ4の講読　語彙の検索および文法解説 【第11回】 新聞購読テーマ4の講読　周辺語彙資料の提供 【第12回】 新聞購読テーマ4の講読　作文作成準備 【第13回】 作文の添削　および　総合討論
事前・事後学修	モンゴル語は基本語彙が少ない分、さまざまな語尾によって多くの語彙を作る特徴を持っている。講読時に読んだテキストの語彙を用いて、よく使われる語尾や提携の表現方法(名詞＋格助詞＋動詞)など情報提供を行う。作文を作成するときに、それらの表現の内、頻度の高いと思われるものを選んで、必ず盛り込む指示を行うが、それ以外の表現形式(日本語ではこういうがモンゴル語でも同じように言うだろうかなど)を意識しつつ作文作成の課題を行ってほしい。また、同じような発想に基づいて、語彙力と、語彙作成能力の向上を目指してほしい。当然、それらの努力は積極性として評価し、マイナスに評価することはしない。
成績評価方法・基準	1. テーマ毎の作文(70%) 読解を行った文章で使われた文章表現の形式のうちいくつかを選んで「縛りをかけた」形で書いてもらうことになるので、それらの表現を必ず使って行うこと。(何度もここまで行ってきたこと出るが、挑戦的な誤りはマイナス評価にすることはしないので、積極的な作文を心掛けてほしい)。 2. 授業内での講読への積極的な参加、その際のモンゴル語の発音や、翻訳の適切さなどをの評価(30%)

教科書・指定図書	新聞資料は、授業中に配布する。
履修上の留意点	欠席厳禁！
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm204
講義コード	2A3201400
講義名	モンゴル語中級Ⅳ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
授業の内容	基本的な文法能力を習得した後に必要なものは語彙力と様々な定式表現である。とくに動詞とそれが要求する格助詞が結びついた表現は、どのような言語でも る。ボキャブラリー・ビルディングの手法を用い、全般的な語彙や表現形式を増やすとともに、テーマを選択し、そのテーマに関する語彙を増やし、そのテーマで会話 作文を作成する能力をつけることを目指す。 ※前期に引き続き、モンゴルの国営通信社、モンツァメの日本関連記事を中心に学習者の関心によっては後半は別のトピックでの記事も読む予定である。
科目の到達目標 (理解のレベル)	基本的な文法能力を習得した後に必要なものは、語彙力と「(名詞)＋格助詞＋動詞」で構成される様々な表現である。ボキャブラリー・ビルディングの手法を用い、全般的な語彙を増やすとともに、選択したテーマごとに、そのテーマにまつわる語彙や表現を増やし、そのテーマで会話を展開させたり、テーマに関して表現形式や語彙を絞った上での作文を作っていくことでそれらの語彙や表現形式を身に着けてゆく。
授業形態	演習
授業方法	4つのテーマを絞って新聞記事を選択し購読、語彙を増やし、作文を作成するという形で授業をおこなう。 最初のテーマだけはこちらで提供する(政治・経済に関するものの予定)が、残りの3つについては参加者とテーマを協議し、決めることにする。 課題をFlipgrid (ビデオ提出)あるいはQuizlet(語彙クイズ)、を使います。 ※なお、資料はモンゴルの国立通信社モンツァメの記事から オンラインで読める資料を使用する予定 事前にURLを告知するのでそれぞれにアクセスすること 語彙資料、および文法の説明などは適宜配布する予定
授業計画	【第1回】 授業内容の紹介　テーマの選択　新聞講読テーマ5の資料配布 【第2回】 新聞講読テーマ5の講読　語彙の検索および文法解説 周辺語彙資料の提供 【第3回】 新聞講読テーマ5の講読　作文作成準備　新聞講読テーマ6の資料配布 【第4回】 作文の添削　新聞講読テーマ2の講読　語彙の検索および文法解説 【第5回】 新聞講読テーマ6の講読　周辺語彙資料の提供 【第6回】 新聞講読テーマ6の講読　作文作成準備　新聞講読テーマ7の資料配布 【第7回】 作文の添削　新聞講読テーマ3の講読　語彙の検索および文法解説 【第8回】 新聞講読テーマ7の講読　周辺語彙資料の提供 【第9回】 新聞講読テーマ7の講読　作文作成準備　新聞講読テーマ8の資料配布 【第10回】 作文の添削　新聞講読テーマ8の講読　語彙の検索および文法解説 【第11回】 新聞購読テーマ8の講読　周辺語彙資料の提供 【第12回】 新聞購読テーマ8の講読　作文作成準備 【第13回】 作文の添削　および　総合討論
事前・事後学修	モンゴル語は基本語彙が少ない分、さまざまな語尾によって多くの語彙を作る特徴を持っている。講読時に読んだテキストの語彙を用いて、よく使われる語尾や提携の表現方法(名詞＋格助詞＋動詞)など情報提供を行う。作文を作成するときに、それらの表現の内、頻度の高いと思われるものを選んで、必ず盛り込む指示を行うが、それ以外の表現形式(日本語ではこういうがモンゴル語でも同じように言うだろうかなど)を意識しつつ作文作成の課題を行ってほしい。また、同じような発想に基づいて、語彙力と、語彙作成能力の向上を目指してほしい。当然、それらの努力は積極性として評価し、マイナスに評価することはしない。
成績評価方法・基準	1. テーマ毎の作文(70%) 読解を行った文章で使われた文章表現の形式のうちいくつかを選んで「縛りをかけた」形で書いてもらうことになるので、それらの表現を必ず使って行うこと。(何度もここまで行ってきたこと出るが、挑戦的な誤りはマイナス評価にすることはしないので、積極的な作文を心掛けてほしい)。 2. 授業内での講読への積極的な参加、その際のモンゴル語の発音や、翻訳の適切さなどをの評価(30%)

教科書・指定図書	新聞資料は、授業中に配布する。
履修上の留意点	欠席厳禁！
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm205
講義コード	2A3201500
講義名	モンゴル語中級Ⅴ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を一通り学習した学生がその知識をさらに確かなものにしていく実践的な学習が、表現能力の訓練である。ここでは、簡単な日常の事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とし、各言語独自の言い回しや言葉の使い方などを中心に学び、作文力や会話能力の向上を目指す。
授業の内容	モンゴル語は基本的な語彙の派生から多くの語彙が創られるため、語彙構成法を意識した解説を試みる。多様な定型表現を習得し表現の幅を広げる機会を作ってゆく そのため、一回の授業で2～4つの定型表現が使われている例文を提示し、具体例を示した後、それらを組み合わせて作文をつくってくる。 次週までにそれを読む練習をし、次の週で、読み上げるといった練習を繰り返すことにする。 なお、場合によっては、作文の読み上げをFlipgridに掲載してもらい、発音や読み方の指導も行っていく予定である。
科目の到達目標 （理解のレベル）	定型表現を含んだ例文を辞書を引きつつ、確認し、それに基づいて作文を作成できるようになる。 作文に関する指導を受けた後、発音練習し、次回授業で発表する、あるいはFlipgridにて発表を投稿する。その際、ある程度まとまったモンゴル語を読む能力を向上させる。 なお、作文作成の際は、ここまでで習熟した基本的な文法に基づき、新たな語彙力と「（名詞）＋格助詞＋動詞」で構成される様々な表現を獲得できるようになる。
授業形態	演習
授業方法	1、具体的な例文から定型表現を学。なお、例文はモンゴル語の新聞やモンゴル語中級読本『モンゴルの歴史と文化（Монголтуух соёлын товчоон）』（Л.Г.Скородумова,Улаанбаатар,2005）などより、引用予定、 ※資料は適宜、教員が用意したものを配布する予定。ただし、いくつかの文章をトピックを用意しているので、受講者の関心に応じてその中で選択したテキストを購読し、受講者の関心のある分野の語彙を提供してゆく
授業計画	【第1回】導入　昨年までの文法のおさらい(特に格助詞、動詞の活用) 目次から受講生の興味のあるテーマをいくつか選定してゆく 作文テーマ：春休み　作文作成と添削、発表準備 【第2回】「春休み」 発表 何月何日という表現と格助詞、動詞の現在形、過去形の確認の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：私の一日　作文作成と添削、発表準備 【第3回】「私の一日」 発表 格助詞、動詞の習慣形の例文翻訳・確認 作文テーマ：私の習慣　作文作成と添削、発表準備 【第4回】「私の習慣」 発表 格助詞、動詞の現在形、過去形と相互形(－лц－)の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「ゴールデンウィーク中にやったこと、あるいはあったこと」 作文作成と添削、発表準備 【第5回】「ゴールデンウィーク中にやったこと、あるいはあったこと」 発表 －гд「られ」(受身形)を付けた動詞と－аас дээш「～以上」のように、「～より大きい」「～より若い」といった表現(比較級・比較表現)の例文・文法確認 作文テーマ：「自由論題」 作文作成と添削、発表準備 【第6回】「自由論題」 発表 －уулах「させる」(使役形)を付けた動詞の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「自由論題2」　作文作成と添削、発表準備 【第7回】「自由論題2」 発表 なお、－х хэрэгтэй「～する必要がある」とか－х ёстой「～するべきである」、－х бололтой「～するようである」、伝統がある(－х уламжлалтай)などの表現の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「自由論題3」　作文作成と添削、発表準備 【第8回】「自由論題3」 発表 名詞文・動詞文の仮定形の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「自由論題4」　作文作成と添削、発表準備 【第9回】「自由論題4」 発表 ～する人 －гч(単数形)、－гчид(複数形) 例文翻訳・文法確認 、 作文テーマ：「印象に残る人」 作文作成と添削、発表準備 【第10回】「印象に残る人」 発表 1. 名詞－ын(動詞の場合は直接つける)　талаар(に関して)

	2.（名詞、動詞）-т а й¹ х о л б о о т о й（と関連して） 3.（名詞、動詞）-а а с¹ г а д н а（～の他） 4. 名詞-ы н²（動詞の場合は直接つける） т у р ш и д（の間、期間に） 例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「興味のあるものについて」 作文作成と添削、発表準備 【第11回】「興味のあるものについて」 発表 1「～する時は一しなければならない」 -х үе д -х г үй б о л б о л о х г үй 2「～する場合は一する必要がある/必要がない」 -х т о х и о л д о л д -х х э р э г т э й / х э р э г г үй 3「～する前に一するべきである」 -х э э с е м н е -х ё с т о й といった条件文の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「～するならば」 作文作成と添削、発表準備 【第12回】「～するならば」 発表 1「の原因は～です/ ではありません。」 -ы н²/ -н ы² ш а л т г а а н ～ б о л н о / б и ш б о л н о 2「… なので/だから～」 …у ч р а а с ～ 3「なぜなら～」 Я а г а а д г э в э л… といった 理由を説明する定型表現の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「～の理由」 作文作成と添削、発表準備 【第13回】「～の理由」 発表・ディスカッション 上記計画はあくまで予定である。 詳細については、進捗状況を鑑み授業で指示する。
事前・事後学修	遊牧文化であることを含め、モンゴルの文化は日本と大きく違います。 文化的な差異は語彙や表現、ことわざなどにも表れますので、その点も織り交ぜたうえでの紹介をしてゆく予定ですので予習・復習に努めてください 授業では、モンゴル語で、モンゴル文化の様々な側面を学んでいきますが日本語文献でも多くのことが学べますので、その単元のテキストに即した日本語文献等を紹介しますので、それぞれのテーマの最後にテキストで学んだことと合わせて日本語での作文を提出してもらいます。
成績評価方法・基準	翻訳20% 作文50% 発表30%、 翻訳作業を手を抜かず準備すること 作文に関しては授業内外で語彙力や表現力と、語彙作成能力の向上を目指してほしい。当然、それらの努力は積極性として評価し、マイナスに評価することはしない。 発表に関しては、どれだ小保えてきたか、発音の明確さ、スピードなどを加味する
教科書・指定図書	モンゴル語中級読本『モンゴルの歴史と文化（М о н г о л т үү х с о ё л ы н т о в ч о о н）』 （Л.Г.С к о р о д у м о в а,У л а а н б а а т а р,2005）のなかから使用するテキストを学生の進度に合わせて配布する
履修上の留意点	積極的に授業に参加すること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAm206
講義コード	2A3201600
講義名	モンゴル語中級Ⅵ
担当者名	荒井　幸康
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	より高度な事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅴと変わりはないが、作文では、より上手な文章作りができるよう学習し、会話では、適切な言葉や慣用表現が上手に使えるように練習していく。
授業の内容	モンゴル語は基本的な語彙の派生から多くの語彙が創られるため、語彙構成法を意識した解説を試みる。多様な定型表現を習得し表現の幅を広げる機会を作ってゆく そのため、一回の授業で2～4つの定型表現が使われている例文を提示し、具体例を示した後、それらを組み合わせて作文をつくってくる。 次週までにそれを読む練習をし、次の週で、読み上げるといった練習を繰り返すことにする。 なお、場合によっては、作文の読み上げをFlipgridに掲載してもらい、発音や読み方の指導も行っていく予定である。
科目の到達目標 （理解のレベル）	定型表現を含んだ例文を辞書を引きつつ、確認し、それに基づいて作文を作成できるようになる。 作文に関する指導を受けた後、発音練習し、次回授業で発表する、あるいはFlipgridにて発表を投稿する。その際、ある程度まとまったモンゴル語を読む能力を向上させる。 なお、作文作成の際は、ここまでで習熟した基本的な文法に基づき、新たな語彙力と「（名詞）＋格助詞＋動詞」で構成される様々な表現を獲得できるようになる。
授業形態	演習
授業方法	1、具体的な例文から定型表現を学。なお、例文はモンゴル語の新聞やモンゴル語中級読本『モンゴルの歴史と文化（Монголтүүх соёлын товчоон）』（Л.Г.Скородумова,Улаанбаатар,2005）などより、引用予定、 ※資料は適宜、教員が用意したものを配布する予定。ただし、いくつかの文章をトピックを用意しているので、受講者の関心に応じてその中で選択したテキストを購読し、受講者の関心のある分野の語彙を提供してゆく。
授業計画	【第1回】 先学期のおさらい Эрхэмлэх（эрхэм尊重） 尊重する　　дээдлэх（дээд 上） 尊重する батлах（бат つよい） 確認する、採択する тангараглах（тангараг宣誓） 宣誓する Биелүүлэх（бие 体） 実現する・実体化する багшлах（багш先生） 教える ажиллах（ажил仕事） 仕事する、働く чимэглэх（чимэг 飾り） 飾る といった名詞からつくられる動詞の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「夏休み」 作文作成と添削、発表準備 【第2回】「夏休み」 発表 -аш гүй¹（～することができない、～しかねない）と-саар¹（～し続ける） といった動詞語尾の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「維持すること・やめるべきこと」 作文作成と添削、発表準備 【第3回】「維持すること・やめるべきこと」 発表 1．～%が支持している/反対している ～хувь дэмжиж байна／эсрэгүүцэж байна. 2 ～(年、月、日、時間)で1回（毎年、毎月、毎日、毎時間の表現） Жилэр／сараар／өдрөөр／цагаар нэг удаа 3．Дагуу（～にしたがって） 以上3つの定型表現の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「社会調査」 作文作成と添削、発表準備 【第4回】「社会調査」 発表 （動詞）－хад¹（～すると、～する時）とТэр/энэ үед（その/この時）の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「ある瞬間」 作文作成と添削、発表準備 【第5回】「ある瞬間」 発表 ашигтай（役に立つ、利益がある）と-хан¹（形容詞を強調する接尾辞＜とても～＞）の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「自由論題」 作文作成と添削、発表準備 【第6回】「自由論題」 発表 Анхааралтайや Яаралтайのような形容詞、動詞的に使う-тай²がつく名詞、と～のように шиг／мэт の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「自由論題2」　作文作成と添削、発表準備 【第7回】「自由論題2」 発表 なお、-х хэрэгтэй「～する必要がある」とか-х ёстой「～するべきである」、-х бололтой「～するようである」、伝統がある（-х уламжлалтай）などの表現の例文翻訳・文法確認 作文テーマ：「自由論題3」　作文作成と添削、発表準備 【第8回】「自由論題3」 発表 1．(動詞)-х эрсдэлтэй（～する危険性がある） 2．(動詞)-х багтаамжтай（～する容量をもつ・がある） 3（動詞）-х хандлагатай （～する傾向がある）

	4.(動詞)-ж / -ч м а г а д г ү й (～するかもしれない) の例文翻訳・文法確認 作文テーマ:「自由論題4」 作文作成と添削、発表準備 【第9回】「自由論題4」 発表 １ө д ө р т у т а м(毎日) с а р т у т а м(毎月) ж и л т у т а м(毎年)/ х ү н т у т а м(人ごと) ２ х а м т а ж и л л а х (協力する) / д э м ж л э г ү з ү ү л э х (支援する) / -т/д т у с л а х (助ける) ３-м а г ц (-м а г ц, -м э г ц, -м о г ц, -м ө г ц)(動詞)するや否や И р м э г ц (来るや否や) о р м о г ц(入るや否や) の例文翻訳・文法確認、 作文テーマ:「自由論題5」 作文作成と添削、発表準備 【第10回】「自由論題5」 発表 １ 名詞-(-и й н, -ы н, -н и й, -н ы)/動詞-х т у х а й 「～について」 ２ 名詞-(-и й н, -ы н, -н и й, -н ы)/動詞-х т а л а а р 「～に関して」 ３ Д а х ь(男性語につく)/ д э х (女性語につく)「～における」 я п о н д а х ь COVID-19-н и й б а й д а л (日本におけるコロナの状況) ４ 動詞-х э с э х и й г「(動詞)するか否かを」 例文翻訳・文法確認 作文テーマ:「～について(難しく論じてみる)」 作文作成と添削、発表準備 【第11回】「～について(難しく論じてみる)」 発表 １ө д ө р б ү р(毎日) с а р б ү р(毎月) ж и л б ү р (毎年)/ х ү н б ү р (人ごと) ２ Б а я р х ү р г э х (喜びを伝える) / е р ө ө х (祝う) ３ х э р э г ж ү ү л э х (実現する) あるいは б и е л ү ү л э х (実現する) 例文翻訳・文法確認 作文テーマ:「新年に思う」 作文作成と添削、発表準備 【第12回】「新年に思う」 発表 １(動詞)-а а р' т е л ө в л ө ж б а й н а.(～することを計画している) ２. (動詞・不定形) ＋ т е л ө в л ө г ө ө т э й б а й н а (計画がある・計画を持っている) ３. (動詞・不定形) ＋ с а н а а т а й(～しようと思います) ４ х ү р э э н д(範囲内で、領域内で) ５ Э н э х ү ү(このような) т э р х ү ү(そのような、あのような) といった定型表現の例文翻訳・文法確認 作文テーマ:「将来の夢、今後の計画」 作文作成と添削、発表準備 【第13回】「将来の夢、今後の計画」 発表・ディスカッション 上記計画はあくまで予定である。 詳細については、進捗状況を鑑み授業で指示する。
事前・事後学修	遊牧文化であることを含め、モンゴルの文化は日本と大きく違います。 文化的な差異は語彙や表現、ことわざなどにも表れますので、その点も織り交ぜたうえでの紹介をしてゆく予定ですので予習・復習に努めてください。 授業では、作文の例文などからモンゴル語で、モンゴル文化の様々な側面を学んでいきますが日本語文献でも多くのことが学べますので、その単元のテキストに即した日本語文献等を紹介しますので、日本語の語彙もそれ相応に増やす努力をしてください。
成績評価方法・基準	翻訳20% 作文50% 発表30%、 翻訳作業を手を抜かず準備すること。 作文に関しては授業内外で語彙力や表現力と、語彙作成能力の向上を目指してほしい。当然、それらの努力は積極性として評価し、マイナスに評価することはしない。 発表に関しては、どれだおぼえてきたか、発音の明確さ、スピードなどを加味する。
教科書・指定図書	モンゴル語中級読本『モンゴルの歴史と文化(М о н г о л т ү ү х с о ё л ы н т о в ч о о н)』 (Л.Г.С к о р о д у м о в а,У л а а н б а а т а р,2005)や新聞などから例文を引用してゆく (購入の必要はありません)
履修上の留意点	積極的に授業に参加すること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr101
講義コード	2A3300100
講義名	ロシア語初級Ⅰ
担当者名	スニトコ タチアナ
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅰ(前期)では、先ず文字の暗唱と発音の練習、文の読み方と文意の理解など、最初に学ばなくてはいけない重要な事柄をしっかり学習していく。発音には特に重点を置く。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	ロシア語によるコミュニケーション能力を身につけるための基礎を学習する。「読む・書く・聞く・話す」の4技能のうち、特に「聞く・話す」力の養成に重点を置く。具体的には、ロシア語のリズム、正確な発音とイントネーションを習得するべく、テキストの音読、簡単な対話練習などを行なう。 講師は数か国語をマスターしており、高度のコミュニケーション能力を有している。ロシア語の文法現象も、英語、ドイツ語、フランス語、ポーランド語、ウクライナ語、中国語と比較しつつ、わかりやすく楽しい授業を展開していると自負している。 英語を知っているだけでは、国際的なレベルで活躍することはできない。ぜひロシア語もマスターして、広い視野を持ってほしいと願っている。
科目の到達目標(理解のレベル)	一つの指針として、ロシア語検定試験4級合格を最低限の目標とする。 真の目標は、受講者の皆さんがロシア語をマスターすることによって、広い視野を身につけ、真のグローバル人材として、さまざまな分野において、世界的なレベルで活躍できるようになることである。英語ができるだけでは、国際人とみなすことはできないであろう。ロシア語を勉強することで、視野が幾何級数的に広がり、見える世界も違ってくるはずである。就職活動の幅も大きく広がるに違いない。
授業形態	演習
授業方法	基礎文法の概略説明と練習問題をこなした後、ロシア語短文の解説を通して、さらなる文法知識を身につける。例文暗唱と和文露訳は、毎回小テストとして実施する。毎回順番に当てていくので、該当範囲を予習して授業に臨むこと。 原則として対面型の授業を行う予定であるが、感染状況の急速な拡大など、場合によってはZoomやmanaba等を使用する可能性もある。 毎回授業の冒頭で、前回の課題の解説を丁寧に行う。ロシア語に関する質問には、メール等で常時受け付けている。
授業計画	授業のほか、以下の二つの課題を出す。 【課題①】 「ロシア語習字帳」を配布するので、全部仕上げて、五月末日までに提出する。 習字帳は講師の方で準備し、初回の授業時に配布する。 【課題②】 上記「習字帳」を添削した後、受講者に返却する。六月下旬の授業時に筆記体のテストを実施する。テストの具体的内容は、当日指示する。 1. 文字とその読み方(1) アルファベットの発音 2. 文字とその読み方(2) 筆記体の書き方 3. 文字とその読み方(3) 硬音記号と軟音記号 4. 文字とその読み方(4) 発音の例外 5. Урок1. Это Наташа. 文法事項の解説 6. Урок2. Это не Наташа. 練習問題と会話練習 7. Урок3. Это мой чемодан. 文法事項の解説 8. Урок4. Там старая фотография. 練習問題と会話練習 9. Урок5. Я читаю журнал. 文法事項の解説 10. Урок6. Я говорю по-русски. 練習問題と会話練習 11. Урок7. Где она живет?. 文法事項の解説 12. Урок8. У вас есть телефон? 所有の表現 13. Урок9. Вы слушаете музыку? 名詞・形容詞の対格
事前・事後学修	授業内容を十分に理解するためにも、予習・復習はしっかり行うこと。 【事前学修】 各回の学習範囲はあらかじめわかっているので、文法項目を中心に、一通り教科書に目を通しておくこと。 【事後学修】 文法事項をおさらいし、疑問点があれば、次回の授業時に講師に質問する。練習問題に再度取り組み、文法、語彙、語法などを確実な知識として身につける。付属のCDを用いて、発音練習は徹底的に行っておくこと。発音の習得なくして、外国語の習得はあり得ない。

成績評価方法・基準	毎回の授業時に課題を出し、小テストも行う。原則として、その結果に基づいて成績を評価するが、授業への取り組み方の積極性など、平常点をも考慮する。 今学期は試験を実施しない予定だが、感染状況によっては、変更もありうる。 六月に実施する筆記体のテスト(30%)、13回の課題の出来栄え(70%)を総合的に判断して成績評価を行う。 いずれにせよ、授業への積極的な参加が前提となることは言うまでもない。
教科書・指定図書	黒田龍之介著『ニューエクスプレスロシア語』(白水社) アマゾンや大型書店などで簡単に入手することができるので、初回の授業時までに、各自購入しておくこと。
履修上の留意点	特になし。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr102
講義コード	2A3300200
講義名	ロシア語初級Ⅱ
担当者名	スニトコ タチアナ
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していく初級(読本)のクラスである。Ⅱ(後期)では、読み方と訳し方について勉強していくことになる。学習の仕方は言語によって多少異なるが、正確な発音を覚え、正しく読んで、文意を理解できるようにすることは、どの言語でも同じであり、この科目の目指すところである。
授業の内容	ロシア語によるコミュニケーション能力を身につけるための基礎を学習する。「読む・書く・聞く・話す」の4技能のうち、特に「聞く・話す」力の養成に重点を置く。具体的には、ロシア語のリズム、正確な発音とイントネーションを習得するべく、テキストの音読、簡単な対話練習などを行なう。発音に力を入れるのは、発音の習得なくして、外国語をマスターすることはできないからである。 講師はロシア語のみならず、英語、ドイツ語、フランス語、ポーランド語、ウクライナ語、中国語に堪能であり、高度なコミュニケーション能力を身につけている。授業では、ロシア語の文法現象を、これらの外国語の文法と比較しつつ、わかりやすい説明を心がけている。
科目の到達目標 (理解のレベル)	一つの指針として、ロシア語検定試験4級合格を最低限の目標とする。検定試験は学習の励みにもなるので、受験することを推奨する。 真の目標は、受講者の皆さんがロシア語をマスターすることによって、広い視野を身につけ、真の教養人として、国際的な舞台で活躍できるグローバル人材となることである。ITの知識や、英語を少し知っているだけで、教養人であると勘違いしている人を時に見かけるが、皆さんには正しい認識を持っていただきたい。
授業形態	演習
授業方法	基礎文法の概略説明と練習問題をこなした後、ロシア語短文の解説を通して、さらなる文法知識を身につける。例文暗唱と和文露訳は、毎回小テストとして実施する。毎回順番に当てていくので、該当範囲を予習して授業に臨むこと。 今年度は原則として、対面、リアルタイムで授業する。毎回の課題は、Gmailやmanaba等に前もって保存しておくので、授業開始時までに各自準備しておくこと。 発音練習にも力を入れる。ロシア語は世界で最も美しい言語であることが、対照言語学の学術的成果としても認められているので、受講者の皆さんには、正確で美しいロシア語の発音を習得してもらいたい。
授業計画	1. Урок9. Вы слушаете музыку? 文法事項の解説 2. Урок10. Я хочу отправить посылку. 練習問題と会話練習 3. Урок11. Я изучал японскую литературу. 文法事項の解説 4. Урок12. Я целый день был дома. 練習問題と会話練習 5. Урок13. Сегодня вечером у меня будут гости.文法事項の解説 6. Урок14. У меня нет зонтика. 練習問題と会話練習 7. Урок15. Я хочу купить мужу подарок. 文法事項の解説 8. Урок16. Я обычно пью чай с молоком. 練習問題と会話練習 9. Урок17. Я видела Антона в японском ресторане. 文法事項の解説 10. Урок18. Откуда она узнала, что это не Антон? 練習問題と会話練習 11. Урок 19. Если вы его выбросите, я вам помогу. 名詞・人称代名詞の格変化 12. Урок 20. Если я был птицей, я бы прилетел к вам. 形容詞の格変化 13. 文法のまとめ 動詞の時制
事前・事後学修	授業内容を十分に理解するためにも、予習・復習はしっかり行うことが望ましい。 【事前学修】 各回の授業で扱う文法項目はあらかじめわかっているので、一通り教科書を読んでおくこと。 【事後学修】 その日に習った文法事項をおさらいし、疑問点があれば、メール等で講師に問い合わせること。付属のCDを用いて発音の練習は何度も繰り返す。できればテキストを暗唱してしまうくらい、徹底的に繰り返してほしい。毎回課題を出すので、期限までに必ず提出すること。
成績評価方法・基準	小テストの得点と課題の出来栄えに基づいて成績を評価するが、授業への取り組み方の積極性など、平常点をも考慮する。後期は受講生全員の発音をチェックし、その出来栄えも評価する。 課題30%, 小テスト40%, 発音30% 今回は、期末試験は実施しない予定であるが、感染状況等も踏まえながら、実施の可否を最終的に判断する。 いずれにせよ、授業への積極的な参加が、成績評価の前提となることは言うまでもない。

教科書・指定図書	黒田龍之介著『ニューエクスプレスロシア語』(白水社)
履修上の留意点	特になし。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr103
講義コード	2A3300300
講義名	ロシア語初級Ⅲ
担当者名	尾鼻　敏美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級（文法）クラスである。Ⅲ（前期）では、先ず発音と読み方を覚えた後、動詞と名詞の特徴を学んでいく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	アルファベットから始めて、初等文法の基礎を学習する。英語学習では触れることのなかったキリル文字（ロシア語文字）の発音についても、英語学習との違いを意識しながら、筆記と音読を通じて何度も繰り返し学習する。
科目の到達目標（理解のレベル）	一つの指針として、ロシア語検定試験4級合格程度を最低限の目標とする。
授業形態	演習
授業方法	基本的に対面授業で行うが、対面授業に参加できない生徒については個別に相談に応じ、manabaにて同等の学習が継続できるようにする。初めて学ぶ外国語なので、予習については多くを求めないが、その代わり授業内での筆記、音読、課題演習は繰り返しこなしてゆくので、その覚悟で出席してほしい。
授業計画	第1回 ・硬母音字5つと子音字8つ（唇を使う音4つ、鼻に空気を通す音2つ、舌を活用する音2つ）の学習 ・アクセントの学習 第2回 ・軟母音字5つ、半母音字1つと子音字3つ（舌と歯の裏で出す音）の学習 ・硬音と軟音の違い ・軟音記号・｣軟音記号の学習 ・アクセントのないOの学習 第3回 ・その他の子音字の学習 ・文字と音のまとめと復習 ・名詞の性・数について 第4回 ・子音の同化（無声化）について ・平叙文と疑問文（疑問詞を含まない）の学習 第5回 ・子音の同化（有声化）について ・名詞の複数形について ・人称代名詞と所有代名詞の学習 第6回 ・動詞の活用（第1変化）の学習 ・第1回から第5回の学習内容と動詞の活用（第1変化） を合わせた文章の学習 第7回 ・簡単な副詞12単語とよく使用する接続詞7単語の学習 ・疑問詞の学習と疑問詞を含む作文の練習 第8回 ・動詞の活用（第2変化）の学習 ・不規則な動詞の活用（よく使われる動詞2単語） ・「～月に」「～どこで」の表現の学習 第9回 ・前置格を中心とした名詞の格変化について ・第6回～第8回の学習まとめ 第10回 ・9回までの学習を土台として、ロシア語文聞き取り、書き取りの学習と小テストの実施 ・ロシア語作文の練習 第11回 ・形容詞（限定用法と叙述用法、性・数・格による語尾変化）の学習 ・名詞対格の学習 第12回

	・名詞・主格・対格・前置格の用法とそれに伴う形容詞語尾変化の学習 第13回 ・総まとめ復習テスト 聞き取り、書き取り、ロシア語作文、和訳を各10問ずつ出題する
事前・事後学修	文字を習得するまでは授業内、授業後に個人でも書き取りを何回も行うこと。 授業で扱った例文は十分に暗記すること。
成績評価方法・基準	成績評価は毎回提出のレポートにより行う。提出内容がよく講師に伝わるよう、丁寧な字で書き取ること。判読不可能なレポートは採点をしない。 語学の学習は毎回の積み重ねが大事であると考え、その観点から成績を評価する。
教科書・指定図書	特に指定しないが、各自、一冊は可能な範囲でロシア語の教科書、または指導書を手元に準備することをおすすめする。辞書に関しては、前期から準備する必要がないよう単語の意味などはこちらから指導する。
履修上の留意点	アルファベットが1つの山であり、これを乗り越えると視界が開けてくる。基本文法の学習なので、必ずレポートを作成し、提出すること。ロシア語の学習を楽しむ姿勢を身につけて欲しい。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr104
講義コード	2A3300400
講義名	ロシア語初級Ⅳ
担当者名	尾鼻　敏美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I/D
備考	

科目の趣旨	初めて外国語を学ぼうとする学生が一から学習していくもう一つの初級(文法)クラスである。Ⅳ(後期)では、基礎的な種々の文法事項について勉強していく。学習の方法は、言語の性質や教材によって異なるが、文法を習得しながら文章を理解していくことは、初級の学習には欠かせない勉強法の一つである。ここでは、名詞や動詞を始めとするいろいろな品詞の形態とその使い方を学びながら、言葉の体系と文の構造を学習していく。
授業の内容	ロシア語は難解ではあるが、一方でもっとも美しい言語のひとつでもある。初級の段階でも、このロシア語の美しさに触れてほしい。 簡単なロシア語の文章が読解できるようになることを目的とするが、同時にロシア語の発音について、またロシア語の歴史的背景などさまざまな事例を紹介しながら、興味を持っていけるように授業を進める。 ロシア語に慣れてきた段階で、英語を始めとする他言語との比較を行いながら学習を進め、広く言語というものの仕組みや体系にも積極的に興味を持っていってほしい。
科目の到達目標(理解のレベル)	一つの指針として、ロシア語検定試験4級合格程度を最低限の目標とする。
授業形態	演習
授業方法	基本的に対面授業で行う。前期にmanabaを通じて学習した生徒も後期からは対面での授業に遅れることなく指導する予定である。 授業内では発音や音読について全生徒で発声するだけでなく、各生徒に実践してもらい徹底的に身につける。その上でロシア語会話練習なども指導してゆく予定である。 文法事項についても、ただ受け身で暗記するだけでなく、生徒自らが文法説明が他言語の文法と比較しながら差異を説明できるレベルを目指す。
授業計画	1. 初級Ⅲのまとめと復習 2. 名詞の格変化について 3. 名詞の格変化・前置格の扱い 4. 名詞の格変化・対格の扱い 5. 名詞の格変化・生格の扱い 6. 生格の扱い・応用例 7. 名詞の格変化・与格の扱い 8. 名詞の格変化・造格の扱い 9. まとめと文章読解(説明文) 10. 文章読解およびヒアリング 11. 文章読解(おとぎ話) 12. 文章読解(新聞・雑誌) 13. 総復習、文法項目の理解度チェック
事前・事後学修	名詞の格変化は自在に自分でもできるまで個人学習で習得すること。
成績評価方法・基準	毎回の授業への取り組みおよび提出課題の取り組み方や、積極性を総合的に評価する。 語学の学習は毎回の積み重ねが大事であると考え、その観点から成績を評価する。 授業ごとの課題の点数を80%、取り組み方の積極性を20%で評価する。
教科書・指定図書	教科書は特にないが、かなりの枚数のプリントを配布し、説明および演習を行う。 また、さまざまな参考図書を授業時間内で紹介していく。

履修上の留意点	積み上げ方式の授業なので、やむをえない場合を除いて必ず出席すること。どうしても欠席しなければならない時は事前に申し出て、課題の指示を受けること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr201
講義コード	2A3301100
講義名	ロシア語中級Ⅰ
担当者名	尾鼻　敏美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに力をつけるために学んでいく科目の一つが、読解の学習である。ここでは、ある程度まとまった内容の読み物をじっくり読んでいくことになる。教材を通して、読み方と文法の確認を行いながら、読解力の向上に努めていく。
授業の内容	1年次のロシア語初級Ⅰ・Ⅱに続くもので、読解力、及びリスニングの能力を逐次向上させる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	1年次のロシア語初級Ⅰ・Ⅱに続くもので、読解力、及びリスニングの能力を向上させるためのテストを行う。70%を合格ラインとする。
授業形態	演習
授業方法	基本的に対面授業で行うが、どうしても出席できない生徒については個別にmanabaを通じての学習指導などの相談に応じる。 毎回の授業でロシア語会話も練習し、その場で暗記して演習してもらう。また文法事項についても一方的に説明するだけでなく他言語と比較して説明し意見を出してもらうレベルをめざして指導する。
授業計画	第1回 ・1学年時に学習した内容の復習 文字と音、名詞の格変化(少なくとも主格、対格、前置格については把握していること) 初回で書き取りテストとしての課題に取り組んでもらう 第2回 ・初回で確認したロシア語文法について解説 (1学年時に身につけているはずのロシア語文法について、知識が不十分と評価された学生に対しては、別途、課題を課す) 第3回 ・指示代名詞、動詞現在変化(第1変化)について ・形容詞の性・数・格変化、動詞現在変化(第2変化)について ・前置格の復習 第4回 ・動詞の過去形の学習 ・生格と所有の表現の学習 ・否定生格について 第5回 ・特殊変化する動詞と、それを使った文章の読解 ・運動を表す動詞と、移動の手段の表現について ・不定人称文の学習 第6回 ・動詞の未来形について ・与格の学習と、与格を用いる文章の理解 ・無人称文の学習 ・不定人称文と無人称文の違いについて 第7回 ・造格の学習と、造格を用いた文章の読解 ・ロシア語における再帰動詞について 第8回 ・第1回～第7回の講義内容の復習 文法事項を復習するため、ロシア語文30題を出題するので、それを書き取り、和訳する課題に取り組んでもらう 第9回 ・定動詞と不定動詞について 定動詞と不定動詞の違いを訳出する課題をテストの代わりとして課す 第10回 ・形容詞短縮尾形と、その用法についての学習 ・名詞の複数格変化について (名詞の複数格変化は第1回から第9回までの授業内容を理解していないと理解不能となるターニングポイントである。各自しっかり復習をした上で第10回の授業に臨むこと) 第11回 ・名詞・代名詞・形容詞の格変化総まとめ表作成 (第1回から第10回の学習内容をまとめて格変化まとめ表を各自に作成してもらう。テストと同等に扱う) 第12回

	・総まとめテスト(ロシア語和訳、聞き取り、ロシア語作文) 第13回 ・総まとめテスト(ロシア語和訳、聞き取り、ロシア語作文)
事前・事後学修	1年次に学習した内容を把握しないまま中級の授業に参加する生徒が多いが、第1回、および第2回で確認を行うので十分に準備しておくこと。
成績評価方法・基準	成績評価は毎回提出のレポートにより行う。 語学の学習は毎回の積み重ねが大事であると考え、その観点から成績を評価する。
教科書・指定図書	授業支援システムに掲載する資料を使用するので、特に指定図書はないが、各自可能な範囲で一冊はロシア語教科書を手元に準備しておくことをお勧めする。
履修上の留意点	特になし。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr202
講義コード	2A3301200
講義名	ロシア語中級Ⅱ
担当者名	尾鼻　敏美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語中級Ⅰと同様に読解力の向上を目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ⅰと変わりはないが、教材の読み物を最後まで正確に読んでいく。易しくとも、一冊のテキストを終わりまで読みきることは、学習者にとって大きな自信となるはずである。
授業の内容	基本的には1年次のロシア語初級Ⅰ・Ⅱに続くもので、ロシア語の読解力、リスニングの能力を逐次向上させる。
科目の到達目標（理解のレベル）	基本的には1年次のロシア語初級Ⅰ・Ⅱに続くもので、ロシア語の読解力、リスニングの能力を向上させるためのテストを行う。70%を合格ラインとする。
授業形態	演習
授業方法	基本的に対面授業で行う。前期にmanabaを通じて学習する生徒も対面で学習した生徒と同レベルからのスタートとなるので、学習に遅れがないよう各自で努力しておくこと。 ロシア語会話については授業内での暗記と演習を行う。また発音の向上を図るため、文法学習で使用する例文、長文の一部なども暗唱してもらい、ロシア語の文章が身につくレベルをめざして指導する。
授業計画	1. Урок 10. Пишите диктант. 2. 動詞の歯音変化と唇音変化 動詞の命令法 3. Урок 11. Он пишет письмо ручкой. 4. 名詞の与格 名詞の造格 5. Урок 12. Она прочитала роман. 6. 動詞の体・不完了体と完了体 7. Урок 13. Я езжу на работу с пересадкой. 8. 運動の動詞　定動詞と不定動詞 関係代名詞 9. Урок 14. Он родился в 1840 году. 10. 個数詞と名詞の結合 11. 年齢の表現 12. 受け身の表現 13. Урок 14. Какое время года лучше?
事前・事後学修	後期は提出課題には小テストの意味合いもあるので、しっかり学習してから提出してください。提出課題の内容だけでなく、レポートのまとめ方なども含めて総合的に評価します。また、毎回の授業内容が積み重なっていくよう資料と音声解説を作成しているので、復習を十分に行ってください。
成績評価方法・基準	授業ごとの提出課題の点数を80%、課題に取り組む積極性およびロシア語文章の翻訳能力を20%で評価する。
教科書・指定図書	佐藤純一著『ロシア語初級クラス』（白水社）を基本に、ロシア作家のエッセイを配布して講読する。
履修上の留意点	特になし。

更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr203
講義コード	2A3301300
講義名	ロシア語中級Ⅲ
担当者名	スニトコ タチアナ
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を履修した学生がさらに語学力の向上を図っていくもう一つの学習が、文法を体系的に理解していくことである。外国語中級Ⅲでは、テキストに従いながら、これまでの学習で見落としていた部分や不十分だった知識を確認し、少しずつ言葉の体系や文の構造を学んでいく。
授業の内容	「ロシア語入門」という教科書に沿い、「読む」「聞く」「書く」「話す」を繰り返しながら授業を進める。外国語の四つの技能を、バランスよく伸ばしていく。その根底に、ロシア語文法の確固たる知識があることは言うまでもない。 「《Время говорить по-русски》"ロシア語で話す時間ですよ！"」というロシアで出版されている教科書を使って、徐々に語彙を増やしながら、より自然なコミュニケーションをロシア語で行う能力を身に付けていく。この教科書は、ロシア語を学ぶ外国人を対象につくられたもので、非常によくできている。この教科書をマスターすれば、ロシア語コミュニケーションの基礎力が養成されたとみなして差し支えない。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ロシア語の基礎力をバランスよく定着させる。ロシア語圏の文化に少しずつ触れていく。ロシア語学習の究極の目標は、ロシア語を習得することによって広い視野を身につけ、国際的な舞台で活躍できる人材になることである。英語だけでは、グローバルに活躍することはできないのである。 身近な目標としては、ロシア語検定試験3級の合格を目指す。検定試験では語学力を測れないという意見を、時に耳にするが、勘違いも甚だしい。検定試験は学習の励みにもなるので、受験を強く推奨する。
授業形態	演習
授業方法	ロシア語文法の基礎を学び、それをベースに会話能力を伸ばす。実際にロシア語を使う練習をする。また、ロシア人の風俗・習慣、ロシア料理や芸術作品などを紹介する。 講師はロシア人で、外国人へのロシア語教授法にも通じている。ロシア文化に関する興味深い話題もお聞かせしたい。 今回は原則として、対面で授業をするが、ZoomやManaba等も積極的に利用する。受講生は、パソコンまたはタブレットを準備しておくこと。
授業計画	第1回 ガイダンス：初回の授業では受講生の皆さんに自己紹介をしていただいた後、授業の目的や進め方、使用教材に関する説明を行なう。 皆さんにはロシア名で呼びかけるので、自分のことをこう呼んで欲しいというロシア名を選んでもらう。名前を筆記体で書きましょう。 教科書1：(1～6課)(復習) 第2回 教科書1：(1～6課)(復習) 教科書2：(1課)テーマ：パスポートチェック、職業、荷物 会話1, 2；ロシアに関するまめ知識：入国カード；モスクワの空港 第3回 教科書1：(7課)文法表：名詞の格変化 教科書2：(1課)会話1, 2(復習)会話3, 4； ロシアに関するまめ知識：ロシア人はなぜニコニコしないの？ 第4回 教科書1：(7課)文法表：名詞、形容詞の格変化 教科書2：(1課)会話1,2,3,4(復習)； 歌をロシア語で歌ってみよう："陽気なガチョウ"(《Два весёлых гуся》) 第5回 教科書1：(8課) 文法：生格(名詞、形容詞の単数形) 教科書2：(1課)会話5,6 歌をロシア語で歌ってみよう："陽気なガチョウ"(《Два весёлых гуся》) 第6回 教科書1：(8課) 文法：生格(名詞、形容詞の単数形、複数形) 教科書2：(1課)会話5,6 歌をロシア語で歌ってみよう："陽気なガチョウ"(《Два весёлых гуся》) 第7回 教科書1：(9課) 文法：体格(名詞、形容詞の単数形) 教科書2：(1課)会話6,7,8 第8回 教科書1：(9課) 文法：体格(名詞、形容詞の単数形、複数形) 教科書2：(1課)会話5,6,7,8 第9回 教科書1：(10課) 動詞の過去形

	教科書2：(2課)テーマ：タクシーにて。会話1,2 ロシアに関するまめ知識：知らない人に対する呼び方：若いお兄さん！若いお姉さん！モスクワの天気 自己紹介の準備(まず日本語で書いてもらいます。ロシア語訳は先生がします。) 第10回 教科書1：(10課) －ся動詞の過去形 教科書2：(2課)会話2,3 自己紹介の準備(先生は一人一人にロシア語訳を録音します。) 第11回 教科書1：(11課)動詞:未来形 教科書2：(2課)会話3,4 自己紹介の準備(先生は一人一人にロシア語訳を録音します。) 第12回 自己紹介の準備として、"Немного о себе" というテーマで、100語程度のロシア語にまとめておいてください。授業時にZoomを通じて披露してください。Manaba での提出も可。 第13回 "Коронавирус и Россия" というテーマで、200語程度の小論文を作成し、Manaba を通じて提出してください。
事前・事後学修	【事前学修】その日の授業で扱う教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと。疑問点がある場合は必ずメモしておき、授業時に質問すること。 【事後学修】その日のうちに、十分に時間をかけて授業で習ったことを復習すること。文法事項を再度チェックし、新出単語は会話の中で使えるくらいに練習しておくことが望ましい。 十分に復習してもわからないことがある場合は、メール等で問い合わせること。少し時間はかかるかもしれないが、いただいたメールには必ず返信している。
成績評価方法・基準	授業への参加態度を総合的に考慮して評価する。理由のない欠席が五回以上ある場合は、成績評価の対象とならない。 発音チェックを含む口述テスト30%、小テスト30%、自己紹介のプレゼンテーション40%。 いずれにしても、授業への積極的な参加が前提となることは言うまでもない。 ロシア語に限らず、外国語学習の基本の一つが発音である。授業中にいくら積極的に発言しても、ネイティブスピーカーに通じないようなひどい発音では、いい評価は得られない。
教科書・指定図書	1)「ロシア語入門」(CD BOOK) 安岡 治子 (著) 出版社: 研究社 ISBN-10: 432739419X ISBN-13: 978-4327394196 定格3,500円+税 この教科書は、丸善の亜大専門サイト(オンライン)で購入可能である。アマゾンや大型書店でも販売しているし、取り寄せも可能である。 2)「《Время говорить по-русски》"ロシア語で話す時間ですよ！"」：クレイアニメ、音楽や文化情報などの教材が用意されているモスクワ大学国際センターのプロジェクト。日本語に対応。 この教科書は日本では販売していない。入手するためには、ロシアのサイトにアクセスする必要がある。具体的な入手方法を指示するので、講師宛にメールを送ってください。ta.snitko@gmail.com
履修上の留意点	シラバスはあくまでも目安であり、必ずしもシラバスどおりに授業が行なわれるとは限りません。授業の進度は受講生のレベルに合わせますし、受講生の希望等によっては、授業方法の一部変更もあり得ます。 いつも楽しくロシア語でコミュニケーションしましょう！
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr204
講義コード	2A3301400
講義名	ロシア語中級Ⅳ
担当者名	スニトコ タチアナ
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/E/L/I
備考	

科目の趣旨	読解と並んで文章構造の体系的理解は、次へのステップに欠かせない重要な学習である。外国語中級Ⅳでは、外国語中級Ⅲと同様に文法体系の理解を目標とする。各言語独自の慣用的な表現や言い回しなどを学ぶことで、今までの知識を補強し、言葉の構造と特徴を理解していく。
授業の内容	「ロシア語入門」という教科書に沿い、「読む」「聞く」「書く」「話す」を繰り返しながら授業を進める。外国語の四つの技能をバランスよく伸ばしていく。その根底には、ロシア語文法の確固たる知識のあることが前提となっている。 「《Время говорить по-русски》"ロシア語で話す時間ですよ！"」というロシアで出版された教科書を使って、徐々に語彙を増やしながら、より自然なコミュニケーションをロシア語で行う能力を身につけていく。この教科書は、ロシア語を学ぶ外国人学習者に向けて作られたもので、非常によくできている。この教科書をマスターすれば、ロシア語のコミュニケーション能力が十分に身についたとみなしてよい。
科目の到達目標（理解のレベル）	ロシア語の基礎力をバランスよく定着させる。ロシア語圏の文化に少しずつ触れていく。 ロシア語学習の究極の目標は、ロシア語をマスターすることによって広い視野を身につけ、国際的な舞台で活躍できるグローバルな人間になることである。外国語を習得することによって、幾何級数的に視野は広がる。英語を多少知っているだけでは、世界では通用せず、真の教養人ともみなされないのである。 具体的な目標としては、ロシア語検定試験三級合格を目指す。
授業形態	演習
授業方法	今年度は原則として対面で授業を行うが、manabaやZoom等も積極的に活用する。 授業で使用するプリントは、Googleドライブかmanabaに保存しておくので、授業開始時までに各自で用意しておくこと。 ロシア語文法の基礎を学び、それをベースに会話能力を伸ばす。実際にロシア語を使う練習を行う。また、ロシア人の風俗・習慣，ロシア料理や芸術作品などを紹介する。 講師はロシア人で、外国人へのロシア語教育のМетодикаにも通じている。
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の目的や進め方、使用教材に関する説明；復習 教科書1：（12課） 文法：与格（名詞、形容詞の単数形） 第2回 教科書1：（12課） 文法：与格（名詞、形容詞の単数形、複数形） давать，любить の現在変化形 教科書2：（3課）テーマ： 部屋にて。会話1 第3回 教科書1：（12課） 文法：与格（名詞、形容詞の単数形、複数形） 《давать》,《любить》の現在変化形 教科書2：（3課）会話2 第4回 教科書1：（13課） 文法：造格（名詞、形容詞の単数形） 教科書2：（3課）会話2,3 ロシアに関するまめ知識：モスクワのホテルを予約する方法。 第5回 教科書1：（13課） 文法：造格（名詞、形容詞の単数形、複数形） 《писать》,《ждать》の現在変化形 教科書2：（3課）会話3 第6回 教科書1：（14課） 文法：移動の動詞（定動詞・不定動詞） 教科書2：（4課）テーマ： レストランで。メニュー。 会話1 第7回 教科書1：（15課） 文法：動詞の体（完了体・不完了体） 教科書2：（4課）会話1,2 ロシアに関するまめ知識：ロシア人の食文化、モスクワのレストランとカフェ、ロシア料理 第8回 教科書1：（15課） 文法：動詞の体（完了体・不完了体） 教科書2：（4課）会話1,2

	第9回 教科書1:(16課) 文法:命令形 教科書2:(4課)会話2 ロシア民話:「テレモーク」 第10回 教科書1:(17課) 文法:形容詞の単語尾形 数詞(個数詞・順序数詞) ロシア民話:「テレモーク」(リハーサル) 第11回 教科書1:(17課) 文法:形容詞の短語尾形 ロシア民話:「テレモーク」(リハーサル) 第12回 教科書1:(18課) 文法:数詞(個数詞・順序数詞) ロシア民話:「テレモーク」(演劇) 第13回 日本ロシア学生交流会(オンライン) 復習の練習(主として発音のチェック) 課題解答解説による総まとめ(主として文法項目のチェック)
事前・事後学修	【事前学修】その日の授業で扱う教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと。疑問点がある場合は、必ずメモしておき、授業時に質問すること。 【事後学修】授業で習ったことは、その日のうちに十分に時間をかけて復習すること。文法事項を再度チェックし、新出単語は反復練習し、会話の中で用いることができるようにしておく。 十分に復習してもわからないことがある場合は、遠慮せず、メール等で講師に問い合わせられたい。できるだけ迅速に返信するよう心掛けている。
成績評価方法・基準	授業への参加態度を総合的に考慮して評価します。しかるべき理由のない欠席が四回以上ある場合は、成績評価の対象となりません。 発音のチェックを含む小テスト30%、宿題として出される課題の出来栄え30%、「テレモーク」演劇のプレゼンテーション40%。 たとえ授業で積極的に発言したとしても、ネイティブスピーカーに通じないようなひどい発音では、いい成績はつきません。ロシア語は美しい言語なので、是非正しい発音を習得してください。 いずれにせよ、授業への積極的な参加が前提となります。
教科書・指定図書	1)「ロシア語入門」(CD BOOK) 安岡 治子 (著) 出版社: 研究社 ISBN-10: 432739419X ISBN-13: 978-4327394196 定格3,500円+税 2)「《Время говорить по-русски》“ロシア語で話す時間ですよ!”」:クレイアニメ、音楽や文化情報などの教材が用意されているモスクワ大学国際センターのプロジェクト。日本語に対応。(具体的なテキスト入手方法は、初回の授業で指示します。)
履修上の留意点	シラバスはあくまでも目安であり、必ずしもシラバスどおりに授業が行なわれるとは限りません。授業の進度は受講生のレベルに合わせますし、受講生の希望等によっては、授業方法の一部変更もあり得ます。 いつも楽しくコミュニケーションをとりましょう!
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr205
講義コード	2A3301500
講義名	ロシア語中級Ⅴ
担当者名	尾鼻　敏美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	外国語初級を一通り学習した学生がその知識をさらに確かなものにしていく実践的な学習が、表現能力の訓練である。ここでは、簡単な日常の事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とし、各言語独自の言い回しや言葉の使い方などを中心に学び、作文力や会話能力の向上を目指す。
授業の内容	1年次のロシア語初級Ⅰ・Ⅱに続くもので、読解力、及びリスニングの能力を逐次向上させる。
科目の到達目標（理解のレベル）	1年次のロシア語初級Ⅰ・Ⅱに続くもので、読解力、及びリスニングの能力を向上させるためのテストを行う。70%を合格ラインとする。
授業形態	演習
授業方法	基本的に対面授業で行うが、どうしても出席できない生徒については個別にmanabaを通じての学習指導などの相談に応じる。 毎回の授業でロシア語会話も練習し、その場で暗記して演習してもらう。また文法事項についても一方的に説明するだけでなく他言語と比較して説明し意見を出してもらうレベルをめざして指導する。
授業計画	第1回 ・1学年時に学習した内容の復習 文字と音、名詞の格変化（少なくとも主格、対格、前置格については把握していること） 初回で書き取りテストとしての課題に取り組んでもらう 第2回 ・初回で確認したロシア語文法について解説 （1学年時に身につけているはずのロシア語文法について、知識が不十分と評価された学生に対しては、別途、課題を課す） 第3回 ・指示代名詞、動詞現在変化（第1変化）について ・形容詞の性・数・格変化、動詞現在変化（第2変化）について ・前置格の復習 第4回 ・動詞の過去形の学習 ・生格と所有の表現の学習 ・否定生格について 第5回 ・特殊変化する動詞と、それを使った文章の読解 ・運動を表す動詞と、移動の手段の表現について ・不定人称文の学習 第6回 ・動詞の未来形について ・与格の学習と、与格を用いる文章の理解 ・無人称文の学習 ・不定人称文と無人称文の違いについて 第7回 ・造格の学習と、造格を用いた文章の読解 ・ロシア語における再帰動詞について 第8回 ・第1回～第7回の講義内容の復習 文法事項を復習するため、ロシア語文30題を出題するので、それを書き取り、和訳する課題に取り組んでもらう 第9回 ・定動詞と不定動詞について 定動詞と不定動詞の違いを訳出する課題をテストの代わりとして課す 第10回 ・形容詞短縮尾形と、その用法についての学習 ・名詞の複数格変化について （名詞の複数格変化は第1回から第9回までの授業内容を理解していないと理解不能となるターニングポイントである。各自しっかり復習をした上で第10回の授業に臨むこと） 第11回 ・名詞・代名詞・形容詞の格変化総まとめ表作成 （第1回から第10回の学習内容をまとめて格変化まとめ表を各自に作成してもらう。テストと同等に扱う）

	第12回 ・総まとめテスト(ロシア語和訳、聞き取り、ロシア語作文) 第13回 ・総まとめテスト(ロシア語和訳、聞き取り、ロシア語作文)
事前・事後学修	1年次に学習した内容を把握しないまま中級の授業に参加する生徒が多いが、第1回、および第2回で確認を行うので十分に準備しておくこと。
成績評価方法・基準	成績評価は毎回提出のレポートにより行う。 語学の学習は毎回の積み重ねが大事であると考え、その観点から成績を評価する。
教科書・指定図書	授業支援システムに掲載する資料を使用するので、特に指定図書はないが、各自可能な範囲で一冊はロシア語教科書を手元に準備しておくことをお勧めする。
履修上の留意点	特になし。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr206
講義コード	2A3301600
講義名	ロシア語中級VI
担当者名	尾鼻　敏美
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	E/L/I
備考	

科目の趣旨	より高度な事柄を外国語で表現できるようにすることを目標とする。学習の仕方は、外国語中級Ｖと変わりはないが、作文では、より上手な文章作りができるよう学習し、会話では、適切な言葉や慣用表現が上手に使えるように練習していく。
授業の内容	基本的には1年次のロシア語初級Ｉ・IIに続くもので、ロシア語の読解力、リスニングの能力を逐次向上させる。
科目の到達目標（理解のレベル）	基本的には1年次のロシア語初級Ｉ・IIに続くもので、ロシア語の読解力、リスニングの能力を向上させるためのテストを行う。70%を合格ラインとする。
授業形態	演習
授業方法	基本的に対面授業で行う。前期にmanabaを通じて学習する生徒も対面で学習した生徒と同レベルからのスタートとなるので、学習に遅れがないよう各自で努力しておくこと。 ロシア語会話については授業内での暗記と演習を行う。また発音の向上を図るため、文法学習で使用する例文、長文の一部なども暗唱してもらい、ロシア語の文章が身につくレベルをめざして指導する。
授業計画	1. Урок 10. Пишите диктант. 2. 動詞の歯音変化と唇音変化 動詞の命令法 3. Урок 11. Он пишет письмо ручкой. 4. 名詞の与格 名詞の造格 5. Урок 12. Она прочитала роман. 6. 動詞の体・不完了体と完了体 7. Урок 13. Я езжу на работу с пересадкой. 8. 運動の動詞　定動詞と不定動詞 関係代名詞 9. Урок 14. Он родился в 1840 году. 10. 個数詞と名詞の結合 11. 年齢の表現 12. 受け身の表現 13. Урок 14. Какое время года лучше?
事前・事後学修	後期は提出課題には小テストの意味合いもあるので、しっかり学習してから提出してください。提出課題の内容だけでなく、レポートのまとめ方なども含めて総合的に評価します。また、毎回の授業内容が積み重なっていくよう資料と音声解説を作成しているので、復習を十分に行ってください。
成績評価方法・基準	授業ごとの提出課題の点数を80%、課題に取り組む積極性およびロシア語文章の翻訳能力を20%で評価する。
教科書・指定図書	佐藤純一著『ロシア語初級クラス』(白水社)を基本に、ロシア作家のエッセイを配布して講読する。
履修上の留意点	特になし。

更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr212
講義コード	2AB035200
講義名	ロシア語応用Ⅱ
担当者名	スニトコ　タチアナ
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/H/E/L/I
備考	

科目の趣旨	一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに学力を伸ばしていく応用科目の一つが、異文化を通しての語学学習である。Ⅱ（後期）では、Ⅰと同じように文化的な問題に関する外国語の知識を修得しながら、さらに異文化理解を推し進めていく。語学力を高めようとする場合には欠かせない言葉と異文化に対する理解をここで深めていくことになる。
授業の内容	ロシアは日本から最も近い外国の一つで、ソ連崩壊から30年を経過した現在、日本とロシアの関係は着実に深まりつつある。ロシア人の物の考え方、文化、生活習慣を正確に理解するには、ロシア語の学習が必要不可欠であるので、授業ではロシア語の基礎的な学力をつけることを目標とする。 外国語学習における四つの技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を、バランスよく伸ばしていく。 いずれにせよ、確固たる正確な文法の知識が前提となることは言うまでもない。屈折言語であるロシア語は、名詞は12通り、形容詞は24通りに変化する。これらの変化形の正しい形が瞬時に出るようでないと、ロシア人との円滑なコミュニケーションは成立しないのである。
科目の到達目標（理解のレベル）	一つの指針として、ロシア語検定試験3級合格を最低限の目標とする。 検定試験では語学力を正確に測ることはできないなどという者がいるが、全くの愚見である。適切な出題がなされれば、読解力、正確な文章を書く力、聞き取り能力、文法の知識などを正しく測定することができる。しかも、検定試験は学習の励みにもなるので、受験することを強く推奨している。 英語の知識だけでグローバル人材になれるというのも愚見であり、ロシア語学習の究極の目標は、視野を広げ、国際的なレベルで活躍できる人間になることである。
授業形態	演習
授業方法	科学的な学習方法を用いれば、ロシア語の習得は決して難しくないので、学生の理解度を注意深く見きわめながら、リラックスした雰囲気で、必ず効果の上がる方法をとりたい。 今年度は原則として対面で授業をするが、Zoom等も積極的に活用する。 毎回の授業で使用するプリント資料は、manabaまたはGoogleドライブに保存しておくので、授業開始時までに各自準備しておくこと。 講師はロシア語のネイティブ・スピーカーであり、外国人を対象としたロシア語教育のＭｅｔｏｄｉｋａにも精通している。
授業計画	外国語の学習は、当然、地道な反復練習が必要である。その際、学生が退屈しないように、例えば「動詞」を学習する時には、教師が「動作を実演」し、学生の記憶を助ける。基本単語500語を完全にマスターするのが第一目標。それから第二目標を1,000語とし、徐々にボキャブラリーを増やしていく。毎回の授業で教師と学生の間で会話の練習を行う。時々、教科書から離れて、自由な話題での会話練習も行う。その際、ロシア語による説明だけでは、学生が十分理解できない場合は、日本語の説明で補うこともある。授業のスケジュールは教科書の目次の順序にしたがう。 1. 名詞の性と数 2. 代名詞 3. 動詞の過去形、形容詞 4. 動詞の現在変化 5. 名詞の格変化 6. 代名詞の変化、前置詞 7. 不完了体と完了体 8. 形容詞の格変化 9. 定動詞と不定動詞 10. 比較級、最上級 11. 無人称文、不定人称文 12. 関係代名詞、関係副詞 13. 仮定法
事前・事後学修	【事前学修】 この授業では文法を徹底的に練習するが、授業前に練習問題の答を準備しておくこと。正確な文法の知識なくして、外国語の習得はあり得ない。 【事後学修】 その日に習った文法項目は、今一度おさらいし、確実な知識として身につけておくこと。疑問点がある場合は、メール等で講師に問い合わせるこ

	と。可能な限り、迅速に返信する。ロシア語検定など具体的な目標をもって学習に励んでほしい。ただし、授業と検定試験が直接リンクしているわけではない。
成績評価方法・基準	毎回の授業で学生のロシア語習得の程度を評価し、教師が「評価メモ」を作成する。学期末には「評価メモ」を総合して、最終的な成績評価を行う。小テストの得点の合計が60%、課題の出来栄えが40%。毎回の授業に出席し、積極的に参加することは当然の前提となる。 注意してほしいのは、授業に出席しているだけで、いい成績がつくわけではない、ということである。また、授業時に多く発言したとしても、発言内容のみならず、発音や文法の正確さも、当然評価の対象となる。
教科書・指定図書	Ольга Надеждина Новая Россия: 127 живых диалогов и самые важные глаголы для общения. М.: Международный центр РКИ, 2013. 教科書の入手方法については、初回の授業時に指示する。
履修上の留意点	学生は記憶を定着させるために「単語カード」を自分で作成すること。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr213
講義コード	2AB035300
講義名	ロシア語応用Ⅲ
担当者名	スニトコ タチアナ
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/H/E/L/I
備考	

科目の趣旨	一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅲ(前期)では、各種のテキストを通して、様々な構文の把握、文章表現の方法、それに語法の体系的な理解などについて学んでいく。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。
授業の内容	授業では今まで学んだことを定着させ活用できるようにするために、様々な場面・状況を想定した会話練習を積極的に授業に取り入れていく。 「Русский язык быстро」、「Русский язык в ситуациях повседневного общения」、「Новая Россия: 127 живых диалогов и самые важные глаголы движения」という教科書を使って、会話力をアップさせながら授業を進める。 異文化に対する理解を深めるために、取り上げるテーマによって映像資料も適宜紹介する。 授業では、会話練習を中心に行うが、その根底には、正しいロシア語の発音の基礎があることは言うまでもない。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ロシアに関する知識、ロシアの文化、話し言葉を習得し、日常会話の能力を身につける。 受講生のロシア語力(会話、モノローグ、読解、聞き取り)のレベルアップを図るため、知っている語彙(自分で話す語彙と聴いて理解する語彙)の数を増やし、習得した文法事項や単語を会話で用い、ロシア語を聴いて理解し、正しい発音ができるようになることを目指す。 具体的な目標としては、ロシア語検定試験二級合格を目指す。二級を持っていれば、国際的な舞台でも活躍することができ、就活でも困ることはないであろう。
授業形態	演習
授業方法	日常使用される話し言葉を学んで理解し、ロシア語でのコミュニケーションを経験すること。 「Русский язык быстро」、「Русский язык в ситуациях повседневного общения」、「Новая Россия: 127 живых диалогов и самые важные глаголы движения」という教科書を使って、様々な練習を通じて実践的な会話力を徐々に身につけていくことに力をいれる。リラックスした雰囲気で、楽しく勉強しながら、必ず効果が上がる方法をとりたい。 ロシア語による説明だけでは、学生が十分理解できない場合は、日本語の説明で補う。 今年度は原則として対面で授業を行うが、Skype, Zoom, manaba等も積極的に活用する。授業開始時までに、パソコンまたはタブレットを準備しておくこと。
授業計画	第1回 ガイダンス 初回の授業では受講生の皆さんに自己紹介をしていただいた後、授業の目的や進め方、使用教材に関する説明を行なう。 尚、受講生の皆さんにはロシア名で呼びかけますので、自分のことをこう呼んで欲しいというロシア人の名前を選んでもらう。 「Русский язык быстро」:(5課)Знакомство 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Имена и отчество 第2回 「Русский язык быстро」:(5課)Семья 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Жилище 第3回 「Русский язык быстро」:(5課)Регионы 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Школа 第4回 「Русский язык быстро」:(6課)Профессии 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Жизнь россиян 第5回 「Русский язык быстро」:(6課)Кухня 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Пешие прогулки 第6回 「Русский язык быстро」:(6課)Домашние животные 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Транспорт 第7回 「Русский язык быстро」:(6課)Личный автотранспорт и пробки 「127 живых диалогов」:(1課)Территория России 第8回 「Русский язык быстро」:(7課)Прогноз погоды 「127 живых диалогов」:(1課)Времена года 第9回 「Русский язык быстро」:(7課)Работа и отдых 「127 живых диалогов」:(1課)Рождество христово

	第10回 「Русский язык быстро」:(7課)Русская православная церковь в Японии 「127 живых диалогов」:(2課)Рыбалка 第11回 「Русский язык быстро」:(7課)Поход за грибами 「127 живых диалогов」:(2課)Скоморохи 第12回 "О моей семье" というテーマでロシア語の小論文を作成してください。200語程度。一人五分の持ち時間で、授業時にプレゼンしてください。プレゼンが難しい場合は、manabaで提出してください。 第13回 "О моем хобби" というテーマでロシア語の小論文を作成してください。200語程度。一人五分の持ち時間で、授業時にプレゼンしてください。プレゼンが難しい場合は、manaba で提出してください。
事前・事後学修	【事前学修】その日の授業で扱う教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと。文法事項等で疑問点がある場合は必ずメモしておき、授業時に質問すること。 【事後学修】授業で習ったことはその日のうちに、十分に時間をかけて復習すること。とりわけ新出単語は十分に練習して習得し、会話の中でも用いられるようにしておきたい。 わからないことがあれば、遠慮せずにメール等で講師に問い合わせること。可能な限り迅速に対応する。
成績評価方法・基準	授業への参加態度を総合的に考慮して評価します。 発音のチェックを含む口述テスト40%、単語の小テスト30%、宿題として出される課題の出来栄え30%。 いずれにしても、授業への積極的な参加が前提となることは言うまでもありません。 一つ注意してほしいのは、授業に出席するだけで、いい成績がつくわけではない、ということです。授業時における発言回数だけでなく、文法や発音の正確さも評価の対象となります。とりわけ、ロシア語は世界で最も美しい言語なので、正しい発音の習得に関心を持ってもらいたいと思います。
教科書・指定図書	授業では「Русский язык быстро」、「Новая Россия:127 живых диалогов и самые важные глаголы движения」、「Русский язык в ситуациях повседневного общения」という教科書を使用しますが、必要に応じてプリントを配布、またはmanabaに資料をアップします。 これらの教科書は日本で購入することはできません。具体的な入手方法を指示しますので、講師にメールを送ってください。アドレスは、ta.snitko@gmail.com です。 教科書とは別に、参考書として、三修社の『耳が喜ぶロシア語』をお薦めします。アマゾンや大型書店で簡単に入手できます。
履修上の留意点	シラバスはあくまでも目安であり、必ずしもシラバスどおりに授業が行なわれるとは限りません。授業の進度は受講生のレベルに合わせますし、受講生の希望等によっては、授業方法の一部変更もあり得ます。 いつも楽しくロシア語でコミュニケーションをとりましょう！
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZAr214
講義コード	2AB035400
講義名	ロシア語応用Ⅳ
担当者名	スニトコ タチアナ
開講情報	
単位数	1
受講可能学部	B/H/E/L/I
備考	

科目の趣旨	一年次ないし二年次で外国語を履修した学生がさらに力をつけていくもう一つの応用科目が、語学的観点からの学習である。Ⅳ(後期)も、授業の仕方は原則としてⅢと変わらないが、様々な言葉や文章に触れながら語学の知識をさらに深めていくことになる。また授業内容から、この科目は各言語の検定試験の受験対策講座として利用することもできる。
授業の内容	授業では今まで学んだことを定着させ活用できるようにするために、様々な場面・状況を想定した会話練習を積極的に授業に取り入れていく。 「Русский язык быстро」、「Русский язык в ситуациях повседневного общения」、「Новая Россия: 127 живых диалогов и самые важные глаголы движения」という教科書を使って、会話力をアップさせながら授業を進める。 異文化に対する理解を深めるために、取り上げるテーマによって映像資料も適宜紹介する。 授業は、会話練習を中心に行うが、正しい発音が根底にあることは言うまでもない。
科目の到達目標 (理解のレベル)	ロシアに関する知識、ロシアの文化、話し言葉を習得し、日常会話の能力を身につける。 受講生のロシア語力(会話、モノローグ、読解、聞き取り)のレベルアップを図るため、知っている語彙(自分で話す語彙と聴いて理解する語彙)の数を増やし、習得した文法事項や単語を会話で用い、ロシア語を聴いて理解し、正しい発音ができるようになることを目指す。 具体的な目標として、検定試験二級合格を目指す。ロシア語検定試験は、ロシア語のみならず、日本語の力も問われるので、強く推奨している。
授業形態	演習
授業方法	今年度は原則として、対面で授業をするが、SkypeやZoom等も積極的に活用する。授業に必要な教材はすべてmanabaまたはGoogleドライブに入れておくので、授業開始時までに、各自印刷して準備しておくこと。 日常使用される話し言葉を学んで理解し、ロシア語でのコミュニケーションを経験すること。 「Русский язык быстро」、「Русский язык в ситуациях повседневного общения」、「Новая Россия: 127 живых диалогов и самые важные глаголы движения」という教科書を使って、様々な練習を通じて実践的な会話力を徐々に身につけていくことに力をいれる。リラックスした雰囲気で、楽しく勉強しながら、必ず効果が上がる方法をとりたい。 ロシア語による説明だけでは、学生が十分理解できない場合は、日本語の説明で補う。
授業計画	第1回 ガイダンス 初回の授業では受講生の皆さんに自己紹介をしていただいた後、授業の目的や進め方、使用教材に関する説明を行なう。 尚、受講生の皆さんにはロシア名で呼びかけますので、自分のことをこう呼んで欲しいというロシア人の名前を選んでもらう。 「Русский язык быстро」:(5課)Знакомство 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Имена и отчество 第2回 「Русский язык быстро」:(5課)Семья 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Жилище 第3回 「Русский язык быстро」:(5課)Регионы 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Школа 第4回 「Русский язык быстро」:(6課)Профессии 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Жизнь россиян 第5回 「Русский язык быстро」:(6課)Кухня 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Пешие прогулки 第6回 「Русский язык быстро」:(6課)Домашние животные 「Русский язык в ситуациях повседневного общения」:(短会話)Транспорт 第7回 「Русский язык быстро」:(6課)Личный автотранспорт и пробки 「127 живых диалогов」:(1課)Территория России 第8回 「Русский язык быстро」:(7課)Прогноз погоды 「127 живых диалогов」:(1課)Времена года 第9回 「Русский язык быстро」:(7課)Работа и отдых 「127 живых диалогов」:(1課)Рождество христово

	第10回 「Русский язык быстро」:(7課)Русская православная церковь в Японии 「127 живых диалогов」:(2課)Рыбалка 第11回 「Русский язык быстро」:(7課)Поход за грибами 「127 живых диалогов」:(2課)Скоморохи 第12回 「Русский язык быстро」:(7課)Билеты на концерт 「127 живых диалогов」:(2課)Зоопарк 第13回 「Русский язык быстро」:(7課)Балет 「127 живых диалогов」:(2課)Спорт 復習の練習, Подарок 課題解答解説による総まとめ
事前・事後学修	【事前学修】その日の授業で扱う教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと。文法事項等で疑問点がある場合は必ずメモしておき、授業時に質問すること。 【事後学修】授業で習ったことはその日のうちに、十分に時間をかけて復習すること。とりわけ新出単語は十分に練習して習得し、会話の中でも用いられるようにしておきたい。 わからないことがある場合は、遠慮せずにメール等で講師に問い合わせてほしい。可能な限り迅速に返信するようにしている。
成績評価方法・基準	授業への参加態度を総合的に考慮して評価します。 発音のチェックを含む口述テスト40%、単語の小テスト30%、宿題として出される課題の出来栄え30%。 いずれにしても、授業への積極的な参加が前提となることは言うまでもありません。 一つ注意してほしいのは、授業に出席しているだけで、いい成績がつくとは限らない、ということです。どんなに発言回数が多くても、それだけでは高評価につながらず、発音や文法の正確さも評価の対象となります。
教科書・指定図書	補助教材等の資料はmanabaにアップしておきます。 授業では「Русский язык быстро」、「Новая Россия: 127 живых диалогов и самые важные глаголы движения」、「Русский язык в ситуациях повседневного общения」という教科書を使用します。 教科書の入手方法は、初回の授業時に指示します。 参考書を授業時に紹介します。
履修上の留意点	シラバスはあくまでも目安であり、必ずしもシラバスどおりに授業が行なわれるとは限りません。授業の進度は受講生のレベルに合わせますし、受講生の希望等によっては、授業方法の一部変更もあり得ます。 いつも楽しくロシア語でコミュニケーションをとりましょう！
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZB103
講義コード	2BA000300
講義名	中国文学Ⅰ
担当者名	大山　岩根
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	3000年近い歴史のある中国文学は、近代に至るまで外国からの影響をほとんど受けずに独自の発展を遂げてきた。まず文学の担い手が政治家(政治家志望者も含む)とその周縁に位置する人間にほぼ限定されており、また一言で「詩」や「小説」と言っても、そこには他国の文学には見られない特徴が存在する。「中国文学Ⅰ」ではそうした中国文学の特異性を踏まえつつその発展の歴史を概観し、著名な文学者とその代表作を鑑賞することで中国文学についての理解を深めるものとする。
授業の内容	※下にある「履修上の留意点」もよく読んで下さい。 悠久の歴史を持つ中国文学の中でも「詩」(我々が普段「漢詩」と呼んでいるものをイメージしてもらえれば、と思います)は、その作品数や作者数いずれにおいても他のジャンルを圧倒しています。紀元前から歌われてきた「詩」はやがて儒教の重要な経典である五経の一つ『詩経』という書物にまとめられます。これがその後の中国における「詩」の意義に大きな影響を与え、他の国の詩には見られない独自の発展を遂げていくこととなります。前期は詩の誕生から、詩が形式と内容においてピークに達した唐の時代に至るまでの詩の発展の歴史について、各時代の代表的な詩人の生涯と作品を通して学んでいきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	まずは中国における詩の意義について、正確に把握をして下さい。それは中国の詩を読む上での必須の前提となる知識だからです。無論すべての詩がそうした意義に沿った形でのみ作られているわけでもありません。民衆の素朴な感情を反映した歌謡から、詩人の個人的な思いを詠じた詩へと変化発展していく過程を、代表的な詩人たちの作品を精読することで理解して行って下さい。そうすれば最終的には中国の古典文学を鑑賞する「眼」を養うことができると思います。
授業形態	講義
授業方法	原則として、教室での対面方式による講義となります。教員が作成した資料(パワーポイント)を元に講義を進め、講義内容のアウトプットと学生の理解度を測るために毎回小テストを行います。また次週の講義内容をまとめた資料も用意しておくので、事前に読んでおいてください。なお、状況の変化により対面式の授業が困難となった場合には、オンラインもしくはハイブリッド形式での講義となることも考えられます。その際は教員の指示に従って準備をしておいて下さい。
授業計画	【第1回】 イントロダクション 中国文学の特徴と、「詩」について学ぶことの意義について。 【第2回】『詩経』 『詩経』の成立過程とその影響について 【第3回】『楚辞』 代表的作者とされる屈原と、その作品について 【第4回】漢代の文学(1) 「賦」の誕生とその代表的作品について 【第5回】漢代の文学(2) 楽府、そして「古詩十九首」の誕生について 【第6回】建安の文学 曹操父子と、建安の七子の詩について 【第7回】正始の文学 竹林の七賢、特に阮籍の詠懐詩について 【第8回】太康の文学 左思・潘岳・陸機の詩について 【第9回】南朝の文学(1) 陶淵明の詩について 【第10回】南朝の文学(2) 謝霊運・謝朓の詩について 【第11回】南朝の文学(3) 『文選』、「四声八病」説、『詩品』について 【第12回】北朝の文学 民歌、庾信の詩について 【第13回】前期のまとめ これまでの詩の発展の歴史についての概観
事前・事後学修	manabaに次週の授業内容の事前学習の資料をアップします。講義では色々と耳慣れない、初めて聞くような内容も出てきます。いきなり講義を受けて戸惑うことが無いよう、事前に必ず読んで予習をして下さい。講義で使用した資料もmanabaにアップロードしますので、復習に活用して下さ

	い。またシラバスに挙げた参考図書以外にも、日本には優れた概説書や訳注が沢山あります。手に取って読んでみれば授業の内容の理解もさらに深まると思います。
成績評価方法・基準	課題及び毎回授業後の小テスト(40%)、期末のレポート(60%)。レポートについては期末試験と同等の扱いをするものとします。従って、教員の設問に対してきちんと正確に答えるレポートを作成することが求められます。「レポートを出すこと＝単位がもらえる」とはなりません。この点は十分に留意しておいて下さい。
教科書・指定図書	(指定図書) 前野直彬(編)『中国文学史』東京大学出版会 興膳宏(編)『六朝詩人群像』大修館書店 植木久行『唐詩物語　名詩誕生の虚と実と』大修館書店 川合康三(編訳)『新編　中国名詩選(上)(中)(下)』岩波書店
履修上の留意点	上に書いた通りレポートは成績評価において定期試験と同等の扱いを受けるものです。要求を満たさないレポートは大幅に減点もしくは零点となり、単位を落とすことになります。「毎回授業に出てレポートを出せば単位をもらえる」という考えは捨てて下さい。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZB104
講義コード	2BA000400
講義名	中国文学Ⅱ
担当者名	大山　岩根
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	3000年近い歴史のある中国文学は、近代に至るまで外国からの影響をほとんど受けずに独自の発展を遂げてきた。まず文学の担い手が政治家(政治家志望者も含む)とその周縁に位置する人間にほぼ限定されており、また一言で「詩」や「小説」と言っても、そこには他国の文学には見られない特徴が存在する。「中国文学Ⅱ」では「中国文学Ⅰ」から対象を変えて、中国文学の特異性を踏まえつつその発展の歴史を概観し、著名な文学者とその代表作を鑑賞することで中国文学についての理解を深めるものとする。
授業の内容	※下にある「履修上の留意点」も必ず読んでください。 「唐詩」という言葉が存在することからも分かるように、詩は偉大なる唐代文明を代表するものの一つにまで発展を遂げ、周辺国の文学にも大きな影響を及ぼすこととなりました。詩がなぜ唐代になってそのピークを迎えたのか、それを知るためには中国における詩の意義と、当時の時代状況への理解が不可欠です。そのためにもまずは画期的な出来事である「科挙」と詩の関係から唐詩の歴史をひもときます。その上で、李白や杜甫、白居易といった日本でもお馴染みの詩人から、初めて耳にするような詩人まで、唐代を代表する詩人たちの作品を読解しつつ、唐代300年の詩の変化と発展の歴史を概観していきます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	個々の詩人たちの作品を読解鑑賞することを通して、中国の古典を読む「眼」を養って下さい。しかしそれだけではまだ「唐詩」を十分に理解したとは言えません。唐詩は300年間ずっと均一な状態を保っていたわけではなく、社会の変動や歴史的な事件などのインパクトの影響により変化を繰り返してきました。唐詩の世界がよりバラエティーに富んだ豊かなものへと変貌していくその歴史的な過程についても把握し理解できるようになって下さい。
授業形態	講義
授業方法	原則として、教室での対面方式による講義となります。教員が作成した資料(パワーポイント)を元に講義を進め、講義内容のアウトプットと学生の理解度を測るために毎回小テストを行います。また次週の講義内容をまとめた資料も用意しておくので、事前に読んでおいてください。なお、状況の変化により対面式の授業が困難となった場合には、オンラインもしくはハイブリッド形式での講義となることも考えられます。その際は教員の指示に従って準備をしておいて下さい。
授業計画	【第1回】 イントロダクション 唐詩概説、4つの時期区分について 【第2回】科挙と詩 科挙制度と、それが詩とどのような関連があるのかについて 【第3回】初唐の詩 初唐の四傑、陳子昂・宋子問・杜審言などの詩について 【第4回】盛唐の詩(1) 李白の詩について 【第5回】盛唐の詩(2) 杜甫の詩について 【第6回】盛唐の詩(3) 王維の詩について 【第7回】中唐の詩(1) 韓愈の詩について 【第8回】中唐の詩(2) 白居易の詩について 【第9回】中唐の詩(3) 李賀の詩について 【第10回】晩唐の詩(1) 杜牧の詩について 【第11回】晩唐の詩(2) 李商隠の詩について 【第12回】唐代の女性詩人 上官婉児・薛濤・魚玄機などの詩について 【第13回】学期のまとめ 唐詩の歴史の振り返りと、後世への影響について

事前・事後学修	manabaに次週の授業内容の事前学習の資料をアップします。講義では色々と耳慣れない、初めて聞くような内容も出てきます。いきなり講義を受けて戸惑うことが無いよう、事前に必ず読んで予習をして下さい。講義で使用した資料もmanabaにアップロードしますので、復習に活用して下さい。またシラバスに挙げた参考図書以外にも、日本には優れた概説書や訳注が沢山あります。手に取って読んでみれば授業の内容の理解もさらに深まると思います。。
成績評価方法・基準	課題及び毎回授業後の小テスト(40%)、期末のレポート(60%)。レポートについては期末試験と同等の扱いをするものとします。従って、教員の設問に対してきちんと正確に答えるレポートを作成することが求められます。「レポートを出すこと＝単位がもらえる」とはなりません。この点は十分に留意しておいて下さい。
教科書・指定図書	(指定図書) 前野直彬(編)『中国文学史』東京大学出版会 興膳宏(編)『六朝詩人群像』大修館書店 植木久行『唐詩物語　名詩誕生の虚と実と』大修館書店 川合康三(編訳)『新編　中国名詩選(上)(中)(下)』岩波書店
履修上の留意点	レポートは成績評価において定期試験と同等の扱いを受けるものです。要求を満たさないレポートは大幅に減点もしくは零点となり、単位を落とすことになります。「毎回授業に出てレポートを出せば単位をもらえる」という考えは捨てて下さい。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZB110
講義コード	2BA000500
講義名	日本文学(近現代)A組
担当者名	原　仁司
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	日本は中国大陸・朝鮮半島をはじめとする他国との文化接触によって、自国の文化を多様で豊かなものとして育て上げてきた。明治維新以降は、これに欧米諸国との関係が加わり、近代化のなかで日本文化は複雑な色合いをもつに至る。特に20世紀以降、文学という文化表象は、近代化のもとで格闘する人々の心性や知性の表現の器として形成され、新聞・雑誌・書物などの媒体を通して読者に提供されてきた。「日本文学(近現代)」は、主に明治期以降の近代から現代に至る文学を、上記の観点から分析し、21世紀を生き抜くヒントを得ることを目的とする。
授業の内容	太宰治の「文学」を紹介、講義する。第二次世界大戦後、太宰はすぐに文壇、メディアから注目され、そして現在では、国民的な文学者であるとさえ言われている(＊東京大学教授の安藤宏氏が新聞で論説)。いったい、なぜ太宰治はそのような高い評価を受けているのか、その内実を明らかにするとともに、同時代の日本近代文学についても概説を加える。また、太宰治は、近代の文学者の中でもひときわ西洋の文学理論、思想に通暁している。太宰治の作品を読み解きながら、20世紀の西洋思想と文学との相関性をも合わせて考察、分析していきたい。作品としては「走れメロス」「女の決闘」「人間失格」など主に中期から晩期に書かれた作品をあつかう。
科目の到達目標 (理解のレベル)	1、太宰治の主要作品を通して、「近代」から「現代」に至る「日本文学」の歴史の流れを概括的に学修する。 2、また、太宰治の実作品を数作読むことで、「小説」における「文体」や「描写」、あるいは「語り」の意味について考察し、学修する。 3、さらに20世紀の西洋現代思想と太宰治の文学との連関性を学ぶことで、特に文学作品の中に登場する現代思想(それは当時の最先端の西洋現代思想でもある)を学修する。
授業形態	講義
授業方法	主に講義の形態をとる。また、ビデオ等の映像資料を援用して、映像面からのアプローチも行うことがある。その際は、簡易なダイジェスト映像をお見せするか、あるいは小説の実作品を読んでもらうことで理解を深めてもらいたい。したがって、読んでもらう実作品について短い感想を書いてもらう場合がある(＊2回ほどで、1回は「走れメロス」)。また、レポート等の課題提出は、manabaのレポート欄を通して提出してもらう。
授業計画	【第1回】 太宰治の人物像、またその周辺(環境や人物)についての概説。 【第2回】 「走れメロス」「富嶽百景」などの著名な作品の内実を検証する。 ＊第2回は「走れメロス」を中心に分析。 【第3回】「走れメロス」について寺山修司の論評「歩けメロス」などを読みつつ感想を述べ、論評を書いてもらう。 【第4回】 「富嶽百景」の紹介と分析。歌舞伎や短歌との影響関係。 【第5回】 太宰の文体について(潜在的二人称への呼びかけ、と言われるもの)解説する。 【第6回】 文体から見えてくる太宰の思想。(特に西洋思想、聖書などからの影響を検証)。 【第7回】 作品「女の決闘」に見られる西洋思想からの多大な影響。 (とりわけドイツ文学、フランス文学からの影響。) 【第8回】 自然主義文学との対比。近代のリアリズム小説との対比を行う。 【第9回】 実作品における太宰治とキリスト教との関係、影響。 【第10回】 戦中(第二次大戦中)の作品を解説(主に「津軽」)。 【第11回】 戦後の主要作品を入念に解説(主に「人間失格」)。 【第12回】「人間失格」「女の決闘」における実験小説的な試みを、主に思想面(例えば表現主義思想など)から概説。 【第13回】 太宰文学の「新しさ」とは何か、について主に西洋思想との対比により概説を試みる。
事前・事後学修	太宰治のすべての小説作品を読んでおく必要はまったくないが、授業で指定した短い作品はその授業が行われる前に、事前に読んでおくことを求める(＊「走れメロス」や芥川龍之介の「羅生門」など)。また、manabaのコースニュースを通して配布される資料中に登場する作品および評論についても、これを授業後に通読することを求める場合がある。また、課題提出は総じてmanabaのレポート欄から提出してもらう場合が多い。
成績評価方法・基準	試験は行わない。各回の講義ごとに求める課題(＊全部で13回ある講義のうち昨年は8回ほどmanabaのレポート欄から感想的コメントまたはミニレポートを提出してもらった。提出物の文字量は300字から800字の間であり、授業内に書かせる場合もあったが、おおむねは授業後に提出。成

	績評価の比率は、感想的コメントが約40%、ミニレポート約40%、その他約20%。ミニレポートは2回程度と考えている。
教科書・指定図書	特になし。
履修上の留意点	私語厳禁。途中退席も禁ずる。 また理由なき遅刻も減点の対象とする。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZB122
講義コード	2BA000810
講義名	日本文学(近世)B組
担当者名	佐藤　知乃
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	近代以前の日本文学、すなわち日本の古典文学について、社会人として必要十分な教養や知識を授ける科目である。日本文学史(古典)は上代・中古・中世・近世と時代区分されるが、ここではおもに近世(江戸時代＝およそ17-19世紀)の作品を対象とする。 近世文学は、都市の発達と本格的な出版の開始を背景として、同時代の韻文や散文、演劇はもちろん、国学や舌耕(落語等)の分野も開拓し、集積した古典の各ジャンルをも受け継ぎ、多彩な様相を示した。これらのなかから著名な古典作品を取り上げ、読解するとともに、同時代の思想や文化、風俗についての理解と考察を深める、単に文章の通釈をおこなうのみならず、そこに内包される歴史性や現代性をも読み解く講義になる。
授業の内容	江戸時代を代表する作家の一人、近松門左衛門をとりあげます。近松は劇作家で、人形浄瑠璃(人形芝居)作品を数多く執筆しました。はじめに、作者近松を登場させるにいたった当時の文化と芸能の展開をとらえ、近松が文学史上に果たした意義を考えます。 授業の中心は、こんにちもしばしば上演される『女殺油地獄』を読み進むことにおきます。主人公の河内屋与兵衛は、いまもどこかで見かけそうな〈不良息子〉で、両親はその更正のために心を砕き、同業者の豊島屋女房お吉にも相談をもちかけますが、最終的には与兵衛によるお吉殺しという不条理な悲劇にいたります。映像等を利用して上演された作品も味わいます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	日本文学(古典)の流れに接し、作品がうみだされた時代背景について理解できるようになります。 近世文学の成り立ちと展開について、知識と教養を体得します。 代表的な近世文学作品を読み解き、鑑賞し、古典を〈たのしむ〉ことができるようになります。 古典文学の読解を通じて、日本の文化と創造力への理解を深めます。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システムmanabaと、諸種デジタルアーカイブを使用します。作品本文テキストは現代語訳の備わった教材・資料を用います。manaba等を通じた小テストやミニレポートの提出を求めるほか、期末課題を課します。安閑としていてはいけません。 なお実演の舞台に親しむため、国立劇場の歌舞伎・文楽鑑賞教室へ引率する予定です。
授業計画	1　ガイダンスおよび文楽入門 ミニレポート(例)：人形浄瑠璃文楽の特徴について 2　近世芸能の発生と作者近松門左衛門 ミニレポート(例)：近松の生涯と功績について 3　『女殺油地獄』概観 ミニレポート(例)：粗筋と見どころについて 4　上之巻読解――野崎参り ミニレポート(例)：大坂の風習について 5　上之巻読解――主人公たちの登場 ミニレポート(例)：与兵衛・お吉の人物像について 6　中之巻読解――油屋河内屋の内情 ミニレポート(例)：河内屋における人間関係について 7　中之巻読解――父母の情愛 ミニレポート(例)：継父と実母の義理意識について 8　中之巻読解――与兵衛の勘当まで ミニレポート(例)：作品に設定された節季について 9　下之巻読解――与兵衛の借金 ミニレポート(例)：江戸時代の貨幣制度について 10　下之巻読解――お吉の親切からお吉殺しまで ミニレポート(例)：与兵衛の殺意について 11　下之巻読解――与兵衛捕縛とさいごの告白 ミニレポート(例)：与兵衛の心情について 12　作品理解――訳者、演者、映像作品等、さまざまな解釈 ミニレポート(例)：回収済ミニレポートに応じて決定する 13　歌舞伎または文楽鑑賞教室(学外授業) ミニレポート(例)：舞台鑑賞レポート *状況により内容を調整することがあります *提出物の期限はその都度、manabaに提示します

事前・事後学修	事前には、教科書『新潮古典文学アルバム19　近松門左衛門』、および当該作品のテキストの指定部分（その都度manaba等に掲示します）を読み、概要と進行をつかんでおいてください。原則毎回manabaによる小テストをおこないます。 事後には、授業内容の総合的な理解を前提としたミニレポートを課しますので、各回のテーマについて記述式でまとめられるよう、備えてください。提出物の期限は厳守のこと。
成績評価方法・基準	小テストを20%、毎回のミニレポートを40%、平常点を20%、期末課題を20%とします。これらによって成績評価をおこない、試験は実施しませんので、遺漏なく提出すること。 小テストの得点が極端に低いものは、事前学修未遂として扱います。またミニレポートのうち、内容が極端に不足している例や、授業に取り組んでいないと判断されるケースでは、提出されたものと認めません。
教科書・指定図書	原道生編『新潮古典文学アルバム19　近松門左衛門』（新潮社　1991年　ISBN:4106207192）、および大学図書館所蔵の電子書籍『日本古典文学全集[74]近松門左衛門集(1)』。 また若月保治『全訳近松浄瑠璃選』（太陽堂書店　1934年　国立国会図書館デジタルコレクションにて閲覧可能）、木谷正之助（木谷蓬吟）『大近松全集8』（大近松全集刊行会　1926年　同前）を併用する場合があります。参考文献は授業時に紹介します。
履修上の留意点	開講までに教科書『新潮古典文学アルバム　近松門左衛門』を入手しておくこと。 なお「日本文学（中古）」、「日本文学（中世）」、「日本の伝統芸能」、「日本の美術」など、隣接分野の講義を合わせて受講することをすすめます。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA108
講義コード	2BB000200
講義名	西洋史ⅡA組
担当者名	八谷　舞
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	歴史は単なる史実の連続ではない。史実が歴史家によって分析され、解釈され、叙述されることによって、初めて歴史は成り立つ。この講義では、ヨーロッパ・アメリカの歴史について、「西洋」の持つ象徴的な意味も考えながら、最新の研究成果を参照しつつ学ぶ。社会科学諸分野に取り組む上での知見を養い、深めることがその目的である。「西洋史II」は、主に近現代を対象として論じる。
授業の内容	日本人は明治維新以来，常に先進性の象徴として「西洋」を参照し，時には競争相手として意識しながら歩んできました。しかしその一方で，「西洋」でない地域のことは軽視してきたことにも留意しておく必要があります。 それでは，私たちが漠然と持つこの「優れた西洋」のイメージは，いったいどこから来るのでしょうか。そして今，秩序や価値観が大いに揺らいでいる「西洋」世界はどこへ向かっていくのでしょうか。「西洋」や「過去」を多角的に，時には批判的に検討することによって，考えてみましょう。 この授業は「西洋史」というタイトルですが，「西洋」と「東洋」は相互に関連しています。また，過去と現在にも当然連続性があります。視野と関心を広く持って受講してください。
科目の到達目標 （理解のレベル）	1. 近代（ウィーン体制）から現代までの西洋世界の歴史を，西洋の「優越」や「特殊性」という視点からではなく，他地域や現在との関連において，多面的に理解できるようになる。 2. 史料を読解・分析し，適切に解釈することができるようになる。 3. 文字史料や図像史料に表れていることを文章にまとめることができるようになる。 4. 最新の研究動向や議論を学び，従来の歴史叙述を批判的にとらえ直すことができるようになる。 ※この授業は，内容的には前期の授業（西洋史I・西洋史IA・西洋史IB）の続きとなります。前期までの内容については，コースコンテンツに前期の内容の教材をアップしておきますので，そちらをご覧ください。また，わからないことがあったら，いつでもご連絡ください。
授業形態	講義
授業方法	この授業は以下の要領で進めます。内容としては通史ですが，高校世界史の内容を丁寧に復習することは目的としていません。あくまでも大学レベルの授業を行いますので，授業時間外の自学自習を欠かさないようにしてください。 1. 事前に教科書の該当部分および教材を一読しておく。 2. 授業時間の冒頭10分で前回の小テストを行い，さらに答え合わせおよび課題のフィードバックを行う。 3. 授業は教科書および教材（レジュメ）を用いて行う。 4. 授業後，毎回の課題を解いて提出する。提出期限は1週間。
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】近代③：ウィーン体制の成立 教科書：pp. 256～263 【第3回】近代④：ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 教科書：pp. 263～272 【第4回】近代⑤：南北アメリカの発展・19世紀欧米の文化 教科書：pp. 272～282 【第5回】近代⑥：南アジア・東南アジアの植民地化 教科書：pp. 287～301 【第6回】近代⑦：帝国主義と列強の展開 教科書：pp. 308～315 【第7回】近代⑧：世界分割と列強対立 教科書：pp. 315～321，326～328（「インドにおける民族運動の形成」の部分） 【第8回】現代①：第一次世界大戦とロシア革命 教科書：pp. 331～346 【第9回】現代②：第二次世界大戦 教科書：pp. 350～352（「インドにおける民族運動の展開」の部分），356～358，360～370 【第10回】現代③：冷戦と第三世界の独立 教科書：pp. 371～376，379～384 【第11回】現代④：第三世界の台頭と米ソの歩み寄り 教科書：pp. 384～397 【第12回】現代⑤：現在の世界 教科書：pp. 398～403，407～414 【第13回】まとめとフィードバック

事前・事後学修	【事前学修】各回の授業計画に示してある教科書の該当箇所および教材を一読しておく。 【事後学修】課題を解いて提出する。 ※限られた授業時間で教科書の内容を満遍なく扱えるわけではありませんが，小テストでは範囲の教科書に掲載されているものであれば出題しますので，事前学修と事後学修を通じてしっかり知識の定着をはかってください。そのために副教材が必要であれば，紹介しますのでいつでもご連絡ください。
成績評価方法・基準	以下の比率で点数（100点満点）を配分します。 ・毎回の課題：30% ・小テスト：30% ・期末レポート：40% ※manabaの仕様の関係上，課題は「小テスト」の項目で出題しますが，この課題は正答かそうでないかを評価するものではありません。真剣に取り組んでいるかどうかを重視しますので，白紙答案や適当な解答は低評価となります。 ※課題は1週間の提出期限を設けますので，必ずしも授業時間内に提出しなければならないものではありません。じっくり考えて提出してください。
教科書・指定図書	【教科書】 『詳説世界史』山川出版社
履修上の留意点	・この授業では高校で世界史Bを履修していない方（世界史を履修していなかった方，世界史Aしか履修していない方）も歓迎しますが，授業を受けていて何かお困りのことがあれば，いつでも遠慮なく連絡してください。また，特別に配慮してほしいことがある場合も相談してください。 ・「西洋中心主義」に陥らないためにも，「東洋史」や「日本史」の授業も併せて履修することを強く推奨します。またこの授業はどうしても政治史を中心に扱うことになりますので，「西洋文学」の授業などもぜひ履修してください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA113
講義コード	2BB000300
講義名	東洋史Ⅰ
担当者名	青山　治世
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/D
備考	

科目の趣旨	本講義は中国を中心とする東アジア世界とその他のアジア諸地域の形成・展開の過程について理解を深め、その文化の独自性と多様性を考察することにより、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる一員として必要な自覚と資質を養うことを目的とする。「東洋史Ⅰ」は、アジアにおける古代文明の誕生から近代以前までの政治・経済・社会・文化などを考察し、多様性に富むアジア諸地域の歴史を多面的に理解することを目的とする。
授業の内容	古来、東部ユーラシア世界の大国であり続け、今世紀に入り再び世界の大国としての存在感を強めている「中国」とは、いったい何であるのか。アジア諸地域の文明はどのように形成され、現在の国際社会の成り立ちにどんな影響を与えているのか。中国と2千年来の交流を有し、現在米・中のはざまで揺れ動く日本にとって、中国やその他のアジア諸地域の成り立ちを歴史的に読み解くことは、今後の様々な選択を考える上で重要な判断材料を与えてくれる。 本講義では、古代文明の誕生から清による東部ユーラシアの統一に至るまでのアジア諸地域の歴史を、中国を中心に考察しながら、日本や朝鮮半島との関係を重視しつつ多角的にとらえ、現在そして未来のアジアのあり方を歴史的な視点で考えていく。
科目の到達目標（理解のレベル）	中国を中心とした東アジア世界の歴史や多様性に富んだアジア諸地域の歴史を、日本との関係や今後のアジアのあり方をも視野に入れながら、多角的・多面的に理解することができる。 古代から近代以前までのアジア諸地域の歴史を、中国のみならず、東アジアや南アジア・東南アジアなど、より広範囲の地域設定によって歴史的に読み解くことができる。 東洋史の事例を通して「歴史的思考力」を身につけ、現代社会の様々な場面に応用するることができる。
授業形態	講義
授業方法	・講義が中心となるが、受講者との対話をとおして、その問題関心を踏まえながら授業を進める。 ・講義は教員が作成したパワーポイントとレジュメに沿って行う。 ・対話の際は、レスポン（respon）のアンケートなどを通して、受講者の感想・意見・疑問などを確認し、適宜応答する。また、視聴覚資料も適宜使用する。 ・manabaを使用して課題（確認テスト、レポート）を出題し、それらの課題に答えながらアジア史を探究していく。
授業計画	【第1回】 ガイダンス／東洋史のプロローグ 【第2回】 中国文明と“民族”（1） ～中国の多様性と多元性～ 【第3回】 中国文明と“民族”（2） ～“漢族と少数民族”の形成～ 【第4回】 歴史から見る中国の“民族問題”と“国民統合”（1） ～“多民族国家”をどのようにまとめるか!?～ 【第5回】 歴史から見る中国の“民族問題”と“国民統合”（2） ～“大清帝国”の崩壊と“民族問題”の形成～ 【第6回】 歴史のなかの“中国語”と地域 ～どれがいったい“中国語”!?～ 【第7回】 南アジア・東南アジア地域の形成と展開 ～文明・宗教・交易～ 【第8回】 “中華帝国”の誕生 ～秦・漢帝国～ 【第9回】 史書と演義のあいだ ～『三国志』の世界～ 【第10回】 朝貢と冊封と互市 ～東アジア伝統の“国際秩序”～ 【第11回】 東アジア世界の展開（1） ～朝貢・冊封からの離脱と「日本」の誕生～ 【第12回】 東アジア世界の展開（2） ～“対立と交流”の軌跡～ 【第13回】 東ユーラシアの統一 ～清による“多元共存”の模索と実現～
事前・事後学修	〈事前学修〉 指定文献がある場合は、予告した箇所を事前に読んでおくこと。 〈事後学修〉 manabaから出題されるレポート・小テストを確実に実施すること。指定文献のうち、講義内容と関連する箇所を読み返して復習したり、講義では扱われなかった部分でも興味・関心がある箇所を読んでおくこと。 また、日頃からアジアの歴史に関するニュースやテレビ番組、書籍などに触れて東洋史への関心を高めておく。疑問などがあれば、授業の対話の際に質問してみる。
成績評価方法・基準	◆確認テスト（manaba小テスト） 52%（各4点×13回）

	毎回の講義内容から出題する。指定期限内(講義日の2日後)に実施すること。 講義の配付資料などを見ながら解答してよいもよい。 ◆レポート(manaba) 48%(各12点×4回) 講義内容に即して、2～3回に1回レポートを出題する。 単に事実の羅列ではなく、知った歴史から自分自身で何を考えたかを加味すると高評価となる。
教科書・指定図書	〈教科書〉なし 〈指定図書〉並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店
履修上の留意点	・出席確認はレスポン(Respon)を使用する。 ・毎回、確認テストを実施するので、必ず指定の時間にアクセスし実施すること。 ・レポート課題での剽窃(ネットなどからの「コピペ」など)は厳禁。剽窃によるレポートは0点とする。他の受講生と同文のレポートがあった場合も減点または0点となる。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA114
講義コード	2BB000400
講義名	東洋史Ⅱ
担当者名	青山　治世
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/D
備考	

科目の趣旨	本講義は中国を中心とする東アジア世界とその他のアジア諸地域の形成・展開の過程について理解を深め、その文化の独自性と多様性を考察することにより、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる一員として必要な自覚と資質を養うことを目的とする。「東洋史Ⅱ」は、近現代におけるアジア諸地域の政治・経済・社会・文化などを考察し、グローバルな歴史展開の中でアジア諸地域がいかに変容し、現代の国際社会を形成するに至ったかを、多面的に理解することを目的とする。
授業の内容	古来、東部ユーラシア世界の大国であり続け、今世紀に入り再び世界の大国としての存在感を強めている「中国」とは、いったい何であるのか。アジア諸地域の文明はどのように形成され、現在の国際社会の成り立ちにどんな影響を与えているのか。中国と2千年来の交流を有し、現在米・中のはざまで揺れ動く日本にとって、中国やその他のアジア諸地域の成り立ちを歴史的に読み解くことは、今後の様々な選択を考える上で重要な判断材料を与えてくれる。 本講義では、中華帝国が崩壊へと向かう清の末期から現代に至るまでの中国と東アジアの歴史を、日本との関係も重視しながら多角的にとらえ、今世紀における中国の「再大国化」の意味を歴史的な視点で考えていく。また、南アジア・東南アジア・朝鮮半島などの地域の歴史を通して、現代の国際社会の在り方がいかに歴史的展開によって規定されているかを考えていく。
科目の到達目標（理解のレベル）	中国を中心とした東アジア世界の歴史や多様性に富んだアジア諸地域の歴史を、日本との関係や今後のアジアのあり方をも視野に入れながら、多角的・多面的に理解することができる。 近代から現在に至るまでのアジア諸地域の歴史を、中国のみならず、東アジアや南アジア・東南アジアなど、より広範囲の地域設定によって歴史的に読み解くことで、歴史的思考力を身につけることができる。 東洋史の事例を通して「歴史的思考力」を身につけ、現代社会の様々な場面に応用することができる。
授業形態	講義
授業方法	・講義が中心となるが、受講者との対話をとおして、その問題関心を踏まえながら授業を進める。 ・講義は教員が作成したパワーポイントとレジュメに沿って行う。 ・対話の際は、レスポン（respon）のアンケートなどを通して、受講者の感想・意見・疑問などを確認し、適宜応答する。また、視聴覚資料も適宜使用する。 ・manabaを使用して課題（確認テスト、レポート）を出題し、それらの課題に答えながらアジア史を探究していく。
授業計画	【第1回】 ガイダンス／“中華帝国”と“近代西洋世界”の邂逅 【第2回】 2つのアヘン戦争と“西洋の衝撃” ～“侵略と抵抗”の起点～ 【第3回】 中国と日本の「近代化」比較 ～洋務運動と明治維新～ 【第4回】 東アジア史の分水嶺 ～日清戦争と朝鮮・琉球の命運～ 【第5回】 “近代”と“反近代”の相克 ～戊戌変法と義和団戦争～ 【第6回】 近代国家への始動（1） ～清末新政と日本留学ブーム～ 【第7回】 近代国家への始動（2） ～和製漢語と東アジア～ 【第8回】 南アジア・東南アジアの近現代 ～植民地化と独立への歩み～ 【第9回】 朝鮮半島の近現代 ～大韓帝国の滅亡から南北分断まで～ 【第10回】 “軍閥”と“革命”の時代 ～中国ナショナリズムの形成と日中対立の激化～ 【第11回】 日中全面戦争への道 ～満洲事変から“抗日戦争”へ～ 【第12回】 “友好”から“競存”へ ～戦後日中関係史～ 【第13回】 中華人民共和国の75年 ～社会主義革命と“中国モデル”のゆくえ～
事前・事後学修	〈事前学修〉 指定文献がある場合は、予告した箇所を事前に読んでおくこと。 〈事後学修〉 manabaから出題されるレポート・小テストを確実に実施すること。指定文献のうち、講義内容と関連する箇所を読み返して復習したり、講義では扱われなかった部分でも興味・関心がある箇所を読んでおくこと。 また、日頃からアジアの歴史に関するニュースやテレビ番組、書籍などに触れて東洋史への関心を高めておく。疑問などがあれば、授業の対話の際に質問してみる。
成績評価方法・基準	◆確認テスト（manaba小テスト） 52%（各4点×13回） 毎回の講義内容から出題する。指定期限内（講義日の2日後）に実施すること。

	講義の配付資料などを見ながら解答してよいもよい。 ◆レポート(manaba) 48%(各12点×4回) 講義内容に即して、2～3回に1回レポートを出題する。 単に事実の羅列ではなく、知った歴史から自分自身で何を考えたかを加味すると高評価となる。
教科書・指定図書	〈教科書〉なし 〈指定図書〉並木頴壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店
履修上の留意点	・出席確認はレスポン(Respon)を使用する。 ・毎回、確認テストを実施するので、必ず指定の時間にアクセスし、実施すること。 ・レポート課題での剽窃(ネットなどからの「コピペ」など)は厳禁。剽窃によるレポートは0点とする。他の受講生と同文のレポートがあった場合も減点または0点となる。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA115
講義コード	2BB000500
講義名	日本史ＩＡ組
担当者名	今津　敏晃
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	戦争体験者が希少となり、平和が自明のことと思われがちな今日、戦争について語り、研究することも、とかく忌避されがちである。しかし、わが国の過去の行為をどう評価するにせよ、戦争の原因とその経過、更には当時の社会情勢を知らずしては何も語ることができないはずである。日本史Ｉでは、帝国主義時代と日本の開国、日清・日露戦争を振り返り、今日の日本を知るための手がかりとする。「すべての歴史は現代史である」(B.クローチェ)ことを踏まえて近・現代史を考察する。
授業の内容	学修内容の観点からは、高校までの学修内容をふまえつつ、日本近代史について次のような観点からの学修を行う。 日本は開国により、西洋列強を中心とするパワーポリティクスの中に身をおくことになった。そして、西洋列強に肩を並べる「一等国」となることを目標とし、近代化に取り組んだ。その過程では国際関係のみならず、国家や社会のあり方もそれ以前とは変容を迫られることとなった。日本史Ｉでは開国から日露戦争までのそうした変化について戦争を軸として理解することを目標とする。 学修方法の観点からは講義内容を踏まえつつ、それを捉えなおし、考察、検証する方法についても体験してもらう。その際、課題提出を通して、適切な情報源や文献にあたり、適切な方法でそれらを活用する方法を身につけることを学ぶ。
科目の到達目標 (理解のレベル)	①日本の軍事的近代化と国際関係の近代化の過程およびその変化の特徴を理解できる。 ②日清戦争、日露戦争の両戦争の背景とその歴史的影響について、国内的文脈、国際的文脈を踏まえて理解できる。 ③当該範囲の歴史を調査、理解するため基本的なツールや文献についての知識を身につけることができる。 ④調査した際の文献や情報源について適切な表記の仕方をできるようになる。 ⑤課題設定に基づいて歴史の事象について捉えなおし、検証を加えることができる。
授業形態	講義
授業方法	・授業前に提示された予習課題について事項の調査を行うとともに、講義範囲の内容についての教科書類を用いて事前事後学習をする。その際には日本史(歴史)事典を積極的に用いての学修を求める。 ・授業支援システム(manaba)で配布した授業資料に基づいて講義を行う。 ・講義後に講義内容を踏まえた考察レポートや課題レポートを提出してもらう。 ・質問などは授業時間内の質問用時間のほかmanabaの掲示板システムを使用して対応する。 ・課題については決められた期限までに、授業支援システムを使用して提出する。
授業計画	●第01回　ガイダンス:戦争を通して日本の近代史を考える 内容:この講義で扱う内容、講義の視点(戦争を通して日本の近代史を考える)、講義計画、講義の進め方、成績の決め方、歴史を学ぶ意義、歴史を学ぶ視角、教科書、学習のためのツール、履修上の注意点、事前学習課題、成績評価の方法と成績評価の基準の説明 テキスト: ・北岡伸一『日本政治史』増補版:該当なし ●　第02回　テーマ①:近世の軍事組織 内容:近世社会の構成、役の体系、近世の軍事組織の構成 テキスト: ・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.2～14 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ①士農工商(しのうこうしょう) ②兵農分離(へいのうぶんり) ③役または役の体系(やく、やくのたいけい) ④御恩(ごおん) ⑤奉公(ほうこう) ⑥軍役(ぐんやく) ⑦参勤交代(さんきんこうたい) ⑧軍団(ぐんだん) ＊③「役」は『国史大辞典』を引いてください。「役の体系」はおそらく辞書には載っていないので、尾藤正英『江戸時代とは何か』(岩波書店、1992年、のち、岩波現代文庫、2006年)を参考にしてください。 ●第03回　テーマ②:軍事の中央集権化 内容:中央集権化、幕末の兵制改革、戊辰戦争、軍事管理部門の設置、直轄軍の獲得 テキスト: ・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.36～41 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ①版籍奉還(はんせきほうかん) ②廃藩置県(はいはんちけん) ③御親兵(ごしんぺい) ④兵部省(ひょうぶしょう) ⑤陸軍省(りくぐんしょう)

⑥海軍省(かいぐんしょう)
⑦鎮台(ちんだい)
⑧大村益次郎(おおむらますじろう)

●第04回　テーマ③:徴兵制の導入

内容:徴兵制とは、徴兵令、徴兵制度への反応

テキスト:
・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.38～40、46、58～60

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)
①徴兵制度・徴兵制(ちょうへいせいど・ちょうへいせい)
②国民国家(こくみんこっか)
③山県有朋(やまがたありとも)
④徴兵令(ちょうへいれい)
⑤徴兵忌避(ちょうへいきひ)
⑥血税一揆(けつぜいいっき)
⑦士族反乱(しぞくはんらん)
⑧西南戦争(せいなんせんそう)

●第05回　テーマ④:師団制の導入と諸機関の整備・拡充

内容:師団制とは、師団制の導入過程、統帥機関・諸機関の整備・拡充

テキスト:
・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.38～39、104

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①師団制または師団(しだんせい、しだん)
②連隊(れんたい)
③外征型軍隊(がいせいがたぐんたい)
④軍政(ぐんせい)
⑤軍令(ぐんれい)
⑥統帥(とうすい)
⑦参謀本部(さんぼうほんぶ)
⑧教育総監部(きょういくそうかんぶ)
⑨(海軍)軍令部((かいぐんぐ)んれいぶ)

●第6回　テーマ⑤:大日本帝国憲法と軍

内容:画期としての大日本帝国憲法の発布、大日本帝国憲法と「軍」、議会開設と「軍」

テキスト:
・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.68～77、84～100

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①大日本帝国憲法または明治憲法(だいにほんていこくけんぽう、めいじけんぽう)
②天皇大権(てんのうたいけん)
③編制大権・編制権(へんせいたいけん・へんせいけん)
④統帥大権・統帥権(とうすいたいけん・とうすいけん)
⑤輔弼(ほひつ)
⑥内閣制度(ないかくせいど)
⑦帝国議会(ていこくぎかい)
⑧協賛(きょうさん)
⑨貴族院(きぞくいん)
⑩初期議会(しょきぎかい)

●第07回　テーマ⑥:国境画定

内容:「日本の版図」の図の奇妙さ、ペリーの航路、「万国公法」(国際法)の世界、小笠原諸島帰属問題

テキスト:
・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.50～51、57～58

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①国境(こっきょう)
②主権(しゅけん)
③主権国家・国家主権(しゅけんこっか・こっかしゅけん)
④国際法・万国公法(こくさいほう・ばんこくこうほう)
⑤日露和親条約(にちろわしんじょうやく)
⑥千島・樺太交換条約(ちしまからふとこうかんじょうやく)
⑦小笠原諸島(おがさわらしょとう)

●第08回　テーマ⑦:琉球処分

内容: 近世期の東アジア国際秩序、東アジア国際秩序の「開国」、琉球帰属問題とその影響～東アジア国際秩序の再編～

テキスト:
・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.50～53、56～58

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①アヘン戦争(あへんせんそう)
②華夷秩序もしくは中華思想(かいちつじょ、ちゅうかしそう)
③朝貢・冊(刪)封体制(ちょうこう・さくふうたいせい・さくほうたいせい)
④李鴻章(りこうしょう)
⑤日清修好条規(にっしんしゅうこうじょうき)
⑥征韓論(せいかんろん)
⑦江華島事件(こうかとうじけん)
⑧日朝修好条規(にっちょうしゅうこうじょうき)
⑨琉球(りゅうきゅう)
⑩琉球処分(りゅうきゅうしょぶん)

●第09回　テーマ⑧:朝鮮半島をめぐる日清対立

内容:朝鮮開国後の日清朝鮮関係、壬午事変、甲申事変、天津条約

テキスト:
・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.102～105

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①高宗(こうそう)
②明成皇后もしくは閔妃(めいせいこうごう、びんひ、みんぴ)

	③大院君(たいいんくん) ④壬午事変もしくは壬午軍乱(じんごじへん、じんごぐんらん) ⑤済物浦条約(さいもっぽじょうやく) ⑥甲申事変(こうしんじへん) ⑦金玉均(きんぎょくきん) ⑧天津条約(てんしんじょうやく) ●第10回　テーマ⑨:日清戦争と日清戦争後の日本社会 内容: 日清戦争前の日清朝鮮関係(海軍軍拡の観点から)、日清戦争、戦後経営、国民統合 テキスト: ・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.91～98、107～109、253～256 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ①防穀令事件もしくは防穀令(ぼうこくれいじけん、ぼうこくれい) ②東学(とうがく) ③甲午農民戦争もしくは東学党の乱(こうごのうみんせんそう、とうがくとうのらん) ④陸奥宗光(むつむねみつ) ⑤日英通商航海条約(にちえいつうしょうこうかいじょうやく) ⑥日清戦争(にっしんせんそう) ⑦下関条約(しものせきじょうやく) ⑧台湾(たいわん) ⑨日清戦後経営もしくは戦後経営(にっしんせんごけいえい、せんごけいえい) ●第11回　テーマ⑩:日清戦争後の東アジア情勢 内容:帝国主義の時代、日清戦争後の東アジア情勢の構造、義和団事件(北清事変) テキスト: ・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.109～112、256 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ① 帝国主義(ていこくしゅぎ) ② 租借(そしゃく) ③ 南下政策(ロシア)(なんかせいさく) ④ 義和団(ぎわだん) ⑤ 義和団事件(ぎわだんじけん) ⑥ 北京議定書(ぺきんぎていしょ) ●第12回　テーマ⑪:日露戦争 内容:義和団事件後の朝鮮半島をめぐる国際政治、日露戦争 テキスト: ・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.109～117、255～256 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ① 日英同盟(にちえいどうめい) ② 日露戦争(にちろせんそう) ③ 奉天会戦(ほうてんかいせん) ④ 日本海海戦(にほんかいかいせん) ⑤ ポーツマス条約(ぽーつますじょうやく) ●第13回　テーマ⑫:日露戦争後の国際関係と日本社会 内容:国際関係の変化、植民地関係、軍事的教訓、日本社会への戦争の影響 テキスト: ・北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.120～128、138～146、256～257、260 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ① 地方改良運動(ちほうかいりょううんどう) ② 桂園時代(けいえんじだい) ③ 南満州鉄道株式会社もしくは満鉄 (みなみまんしゅうてつどうかぶしきがいしゃ、まんてつ) ④ 日露協約(にちろきょうやく) ⑤ 韓国併合(かんこくへいごう)
事前・事後学修	【事前学修】 ・「授業計画」の項目に書かれた課題1および講義範囲について、日本史(歴史系)事典や概説書なども活用して調査し、記録しておきましょう。 ・事前学修の時点での疑問点、考察した内容についても予め記録しておきましょう。 【事後学修】 ・講義内容について理解を深めるとともに、前後の回の学修内容や自身の調査、考察(課題設定)と関連付けましょう。 ・自身の疑問点、考察した内容について講義内容を踏まえて改めて検証しましょう。 ・自身の課題設定をもとに調査、考察した内容を適切に扱いながら、アウトプットしましょう。
成績評価方法・基準	合計3回のレポート 第1回　30%　第2回　30%　第3回　40% [課題内容] 授業内で発表後、manabaで公開。 [提出方法] manabaのレポート機能を使って提出。 [評価のポイント] ・講義内容を踏まえて適切に課題設定ができているか。 ・自身でおこなった調査や考察を加えて論証できているか。 ・調査内容の提示方法や、情報源の出典情報を適切に行えているか。
教科書・指定図書	(教科書) ・北岡伸一『日本政治史』増補版(有斐閣、2017年)ISBN:9784641149199 (指定図書) 加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』(新潮社(新潮文庫)2016年)ISBN:9784101204963 清水唯一朗ほか『日本政治史』(有斐閣、2020年)ISBN: 9784641150706 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』(新曜社、2013年) ISBN:9784788513457

履修上の留意点	・自身で積極的に調査、考察することが求められます。 ・盗用、出典情報の隠蔽などの重大なルール違反には厳しく対処します。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA116
講義コード	2BB000600
講義名	日本史ⅡA組
担当者名	今津　敏晃
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/G/U/D
備考	

科目の趣旨	戦争体験者が希少となり、平和が自明のことと思われがちな今日、戦争について語り、研究することも、とかく忌避されがちである。しかし、わが国の過去の行為をどう評価するにせよ、戦争の原因とその経過、更には当時の社会情勢を知らずしては何も語ることができないはずである。日本史Ⅱでは、改めて昭和の戦争を考え、現代日本を理解する手がかりとしたい。「すべての歴史は現代史である」(B.クローチェ)ことを踏まえて近・現代史を考察する。
授業の内容	学修内容の観点からは、高校までの学修内容をふまえつつ、日本近代史について次のような観点からの学修を行う。 総力戦となった第一次世界大戦は戦争に対する人々の考え方に大きな影響を及ぼした。その結果、国家や社会のあり方、そして国家間の関係はそれ以前とは変容を迫られた。また、アジア・太平洋戦争まで続いた一連の戦争はそうした第一次世界大戦の変化を前提にしつつ、第二次世界大戦後の日本の前提を作り出した。日本史Ⅱでは昭和期の日本を対象に、そうした変化について戦争を軸に理解することを目標とする。 学修方法の観点からは講義内容を踏まえつつ、それを捉えなおし、考察、検証する方法についても体験してもらう。その際、課題提出を通して、適切な情報源や文献にあたり、適切な方法でそれらを活用する方法を身につけることを学ぶ。
科目の到達目標 (理解のレベル)	①総力戦が日本に与えた影響について理解する。 ②第一次世界大戦後の国際環境の変化と日本との関係を理解する。 ③満州事変・日中戦争・アジア・太平洋戦争の背景と歴史的影響について理解する。 ④当該範囲の歴史を調査、理解するため基本的なツールや文献についての知識を身につけることができる。 ⑤調査した際の文献や情報源について適切な表記の仕方をできるようになる。 ⑥課題設定に基づいて歴史の事象について捉えなおし、検証を加えることができる。
授業形態	講義
授業方法	・授業前に提示された予習課題について事項の調査を行うとともに、講義範囲の内容についての教科書類を用いて事前学習をする。その際には日本史(歴史)事典を積極的に用いての学修を求める。 ・授業支援システム(manaba)で配布した授業資料に基づいて講義を行う。 ・質問などは授業時間内の質問用時間のほかmanabaの掲示板システムを使用して対応する。 ・課題については決められた期限までに、授業支援システムを使用して提出する。
授業計画	●第01回　ガイダンス 内容: この講義で扱う内容、講義の視点(戦争を通して日本の近代史を考える)、講義計画、講義の進め方、成績の決め方、歴史を学ぶ意義、歴史を学ぶ視角、教科書、学習のためのツール、履修上の注意点、事前学習課題、成績評価の方法と成績評価の基準の説明 テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:該当なし ●第02回　テーマ①:第一次大戦期の日本 内容:背景としての日英同盟・日露協約、ドイツ権益をめぐる問題、二十一ヶ条要求、対列強交渉、シベリア出兵 テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.128～135 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ①第一次世界大戦(だいいちじせかいたいせん) ②三国協商(さんごくきょうしょう) ③ソビエト連邦(そびえとれんぽう) ④日英同盟(にちえいどうめい) ⑤南洋諸島(なんようしょとう) ⑥山東半島(さんとうはんとう) ⑦加藤高明(かとうたかあき) ⑧(対華)二十一ヶ条要求((たいか)にじゅういっかじょうようきゅう) ⑨石井・ランシング協定(いしい・ランシングきょうてい) ⑩シベリア出兵(しべりあしゅっぺい) ●第03回　テーマ②:ヴェルサイユ・ワシントン体制と日本 内容:パリ講和会議、ワシントン会議、ヴェルサイユ・ワシントン体制と日本 テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.144～145、153～164 課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。 ①パリ講和会議(ぱりこうわかいぎ) もしくはベルサイユ講和会議(べるさいゆこうわかいぎ) もしくはヴェルサイユ講和会議(う゛ぇるさいゆこうわかいぎ) ②国際連盟(こくさいれんめい) ③ワシントン会議(わしんとんかいぎ) ④ワシントン海軍軍縮条約(わしんとんかいぐんぐんしゅくじょうやく) ⑤九ヵ国条約(きゅうかこくじょうやく) ⑥ベルサイユ・ワシントン体制(べるさいゆ・わしんとんたいせい) もしくはベルサイユ体制・ワシントン体制

●第04回　テーマ③:総力戦体制の構築

内容:第一次世界大戦の衝撃、日本軍の総力戦への対応、軍縮の中の軍拡

テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.169～175

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。

①総力戦(そうりょくせん)
②八八艦隊(はちはちかんたい)
③帝国国防方針(ていこくこくぼうほうしん)
④オレンジプラン
⑤軍需工業動員法(ぐんじゅこうぎょうどういんほう)
⑥主力艦(しゅりょくかん)
⑦山梨軍縮(やまなしぐんしゅく)
⑧宇垣軍縮(うがきぐんしゅく)
⑨ロンドン海軍軍縮条約(ろんどんかいぐんぐんしゅくじょうやく)

●第05回　テーマ④:軍隊と社会の関わり

内容:徴兵制下の軍隊と社会、兵士の母体の動揺、兵士の安定供給のために

テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.160～161

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①明治地方自治制(めいじちほうじちせい)
②地方名望家(ちほうめいぼうか)
③地方改良運動(ちほうかいりょうどう)
④労働争議(ろうどうそうぎ)
⑤小作争議(こさくそうぎ)
⑥田中義一(たなかぎいち)
⑦在郷軍人会(ざいごうぐんじんかい)
⑧青年会・青年団(せいねんかい・せいねんだん)

●第06回　テーマ⑤:明治憲法下の権力分立と統帥権

内容:昭和期軍部の通説的評価、権力分立、明治憲法上の権力分立

テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.67～77

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①三権(さんけん)もしくは行政権(ぎょうせいけん)・立法権(りっぽうけん)・司法権(しほうけん)
②権力分立もしくは三権分立(けんりょくぶんりつ、さんけんぶんりつ)
②天皇大権(てんのうたいけん)
③帝国議会(ていこくぎかい)
④国務大臣(こくむだいじん)
⑤大審院(だいしんいん)
⑥統帥権(とうすいけん)
⑦輔弼(ほひつ)
⑧協賛(きょうさん)
⑨統帥権もしくは統帥権の独立(とうすいけん、とうすいけんのどくりつ)

●第07回　テーマ⑥:内閣と元老

内容:憲法の条文だけでは不十分、大日本帝国憲法の運用の実態、憲法解釈上の可能性

テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.67～77、138～157、165～168

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①最高法規(さいこうほうき)
②慣習法(かんしゅうほう)
③美濃部達吉(みのべたつきち)
④天皇機関説(てんのうきかんせつ)
⑤内閣(ないかく)
⑥元老(げんろう)
⑦山県有朋(やまがたありとも)
⑧山県閥(やまがたばつ)
⑨桂園時代(けいえんじだい)
⑩政党(せいとう)

●第08回　テーマ⑦:「満蒙問題」

内容:「満蒙の危機」、「大陸政策」(大陸経営)、「満蒙問題」の誕生

テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.119～135、255～261

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①権益(けんえき)および特殊権益(とくしゅけんえき)
②大陸政策(たいりくせいさく)
③南満州鉄道株式会社(みなみまんしゅうてつどうかぶしきがいしゃ)もしくは満鉄(まんてつ)
④関東都督府(かんとうととくふ)
⑤関東庁(かんとうちょう)
⑥関東軍(かんとうぐん)
⑦奉天総領事(ほうてんそうりょうじ)
⑧満蒙問題(まんもうもんだい)
⑨日露協約(にちろきょうやく)

●第09回　テーマ⑧:中国・ソ連・幣原外交

内容:中国状勢の変化、幣原外交と田中外交

テキスト:北岡伸一『日本政治史』増補版:pp.158～168

課題1:次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい(提出不要)。
①幣原喜重郎(しでばらきじゅうろう)
②幣原外交(しでばらがいこう)
③田中外交(たなかがいこう)
④軍閥(中国)(ぐんばつ)
⑤段祺瑞(だんきずい)
⑥張作霖(ちょうさくりん)
⑦張学良(ちょうがくりょう)
⑧蔣介石(しょうかいせき)
⑨国民党(こくみんとう)
⑩北伐(1920 年代)(ほくばつ)

●第10回　テーマ⑨:満州事変

	内容：石原莞爾、満州事変 テキスト：北岡伸一『日本政治史』増補版：pp.170～178 課題1：次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい（提出不要）。 ①石原莞爾（いしはらかんじ） ②最終戦争論もしくは世界最終戦論（さいしゅうせんそうろん、せかいさいしゅうせんろん） ③満州事変（まんしゅうじへん） ④柳条湖事件（りゅうじょうこじけん） ⑤満州国（まんしゅうこく） ⑥溥儀（ふぎ） ⑦リットン調査団（りっとんちょうさだん） ⑧犬養毅（いぬかいつよし、いぬかいつよき） ⑨五・一五事件（ご・いちごじけん） ⑩斎藤実（さいとうまこと） ●第11回　テーマ⑩：日中戦争 内容：満州事変後の状況、日中戦争（日華事変） テキスト：北岡伸一『日本政治史』増補版：pp.178～196 課題1：次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい（提出不要）。 ①統制派（とうせいは） ②皇道派（こうどうは） ③二・二六事件（に・にろくじけん） ④高度国防国家（こうどこくぼうこっか） ⑤華北分離工作（かほくぶんりこうさく） ⑥盧溝橋事件（ろこうきょうじけん） ⑦トラウトマン工作（とらうとまんこうさく） ⑧近衛声明（このえせいめい）第一次～第三次 ⑨汪兆銘もしくは王精衛（おうちょうめい、おうせいえい） ●第12回　テーマ⑪：太平洋戦争 内容：日米関係の悪化、日米交渉、太平洋戦争 テキスト：北岡伸一『日本政治史』増補版：pp.187～203 課題1：次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい（提出不要）。 ①三国同盟もしくは日独伊三国軍事同盟（さんごくどうめい、にちどくいさんごくぐんじどうめい） ②仏印進駐もしくは北部仏印進駐・南部仏印進駐（ふついんしんちゅう、ほくぶふついんしんちゅう・なんぶふついんしんちゅう） ③日米交渉（にちべいこうしょう） ④帝国国策遂行要領 ⑤ハル・ノート（はる・のーと） ⑥真珠湾攻撃（しんじゅわんこうげき） ⑦ミッドウェー海戦（みっどうぇーかいせん） ⑧東京大空襲（とうきょうだいくうしゅう） ⑨原子力爆弾もしくは原爆（げんしりょくばくだん、げんばく） ●第13回　テーマ⑫：銃後の諸相 内容：戦時体制の準備と展開、国民動員の動き テキスト：北岡伸一『日本政治史』増補版：該当なし 課題1：次のキーワードについて教科書や歴史系の辞典などで調べ、書き写し、まとめなさい（提出不要）。 ①大政翼賛会（たいせいよくさんかい） ②国家総動員法（こっかそうどういんほう） ③国民精神総動員運動（こくみんせいしんそうどういんうんどう） ④翼賛選挙（よくさんせんきょ） ⑤物資動員計画もしくは物動計画（ぶっしどういんけいかく、ぶつどうけいかく） ⑥配給（はいきゅう） ⑦国民徴用令（こくみんちょうようれい） ⑧疎開（そかい） ⑨国防婦人会（こくぼうふじんかい） ⑩隣組（となりぐみ）
事前・事後学修	【事前学修】 ・「授業計画」の項目に書かれた課題1および講義範囲について、日本史（歴史系）事典や概説書なども活用して調査し、記録しておきましょう。 ・事前学修の時点での疑問点、考察した内容についても予め記録しておきましょう。 【事後学修】 ・講義内容について理解を深めるとともに、前後の回の学修内容や自身の調査、考察（課題設定）と関連付けましょう。 ・自身の疑問点、考察した内容について講義内容を踏まえて改めて検証しましょう。 ・自身の課題設定をもとに調査、考察した内容を適切に扱いながら、アウトプットしましょう。
成績評価方法・基準	合計3回のレポート課題 第1回　30%　第2回　30%　第3回　40% [課題内容] 授業内で発表後、manabaで公開。 [提出方法] manabaのレポート機能を使って提出。 [評価のポイント] ・講義内容を踏まえて適切に課題設定ができているか。 ・自身でおこなった調査や考察を加えてコメントできているか。 ・調査内容の提示方法や、情報源の出典情報を適切に行えているか。
教科書・指定図書	（教科書） 北岡伸一『日本政治史』増補版（有斐閣、2017年） （指定図書） 加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（新潮文庫、2016年） 加藤陽子『戦争まで』（朝日出版社、2016年）

	清水唯一朗ほか『日本政治史』(有斐閣、2020年) 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』(新曜社、2013年)
履修上の留意点	・自身で積極的に調査、考察することが求められます。 ・盗用、出典情報の隠蔽などの重大なルール違反には厳しく対処します。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZB106
講義コード	2BC000210
講義名	ヨーロッパの芸術と文化ⅡB組
担当者名	小川　直之
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	「ヨーロッパの芸術と文化Ⅰ」を発展させ、受講者がヨーロッパの芸術を自発的に享受することができるようにする。「ヨーロッパの芸術と文化Ⅰ」で学んだ、ヨーロッパの文化的背景の理解をもとに、受講者自身が芸術作品を(自己流にではなく)的確に味わい、芸術を通した美的体験・思想的体験を深化させる。この科目を通じ、芸術鑑賞が本来の意味での生涯学習であり、芸術との関わりを持つことは人生をより愉しく、そして豊かにしてくれることを実感できるようにする。
授業の内容	ヨーロッパの視覚芸術(絵画・映画)について、「画家・映画製作者は、わたしたちに映像をどのように見せようとしているか」=「わたしたちは映像をどのように見るか」=「わたしたちは映像をどのように読み解くか」を学ぶ。 ＜絵画＞ 代表的な名画を例に、ヨーロッパの絵画が「なにを／どのように表現しようとしてきたか」を学ぶ。ルネッサンス～18世紀までの物語絵画により、ストーリーの劇的瞬間をいかに絵画において演出するかについて、画家の工夫をたどり、19世紀以降の作品により、なぜ物語のない絵画が描かれるようになったのかを理解する。 ＜映画＞ ストーリーの良さ・おもしろさではなく、「なにが／どのように撮影されているか」に注目し、視覚芸術として映画を解読できるようにする(映画をまるまる一本、見るようなことはしない)。作品のなかから3か所ほどの劇的瞬間を選び、その「絵」(ショット)を絵画と同様の手法で分析する。
科目の到達目標(理解のレベル)	無知には、芸術的感動の資格も可能性もない。勉強しないと、芸術に感動はできない。 本講義をきっかけとして、自分からヨーロッパの芸術や文化に接してみようという意欲を持つようになるのが第1の目標。 芸術鑑賞の基礎となる文化的・歴史的背景ならびに神話・聖書について、常識を身につけるのが第2の目標。 映画と絵画について、画面にこめられたメッセージを「いかに読み解くか」を意識しながら作品を見る習慣をつけるのが第3の目標。 以上を総合して、自分の美意識を高め、感性と知性を磨くのが最終目標。
授業形態	講義
授業方法	絵画については用意したスライド、映画についてはDVDやネット配信動画の一部を利用する。 「授業の内容」に書いたように、映画をまるまる1本見るようなことはしないので、そのような映画鑑賞を希望する人には不向きである。 絵画についても映画についても「観かた」を学ぶ。絵画における色・形・構図、そして絵画の発展の歴史、映画については、撮影の仕方・画面構成・編集について、作品を例にして学びながら、その知識や観かたを他の作品に応用してみる。 リアクションペーパーなどを利用し、個々に考えてもらうことを大切にする。
授業計画	＜注意＞講義の内容や順序は変更されることがある。 1. ガイダンス:この講義で修得してもらいたいことの確認／静止画芸術と動画芸術としての視覚芸術の特性について 2. 欧米の視覚芸術(絵画と映画)概論(1):絵画史を概観し、西洋絵画がめざしてきたことを考える。 3. 欧米の視覚芸術(絵画と映画)概論(2):映画史を概観し、欧米の映画がめざしてきたことを考える。 4. (絵画と映画)平面に「奥行き」を持たせて立体に見せる手法について。絵画における遠近法の出現と、絵画におけるその援用。 5. (絵画)神話画と主題～ギリシャ神話の絵画に劇的一瞬を掬いとる方法を学ぶ(1)～ 6. (絵画)神話画と絵画的演出～ギリシャ神話の絵画に劇的一瞬を掬いとる方法を学ぶ(2)～ 7. (絵画)旧約聖書と絵画～旧約聖書の絵画に「見えないもの」を描くということを学ぶ(1)～ 8. (絵画)新約聖書と絵画～新約聖書の絵画に「見えないもの」を描くということを学ぶ(2)～ 9. (絵画)肖像という風景・風景という肖像　風景画と肖像画の起源と発展について 10. (絵画)静物画の愉楽とアレゴリー　饒舌な「静物」たちは何を語っているのか？ 11. (映画と絵画)静物画から映画における「ヒッチコックの法則」へ　映っているモノの意味を読みとる。 12. (映画)映画の本質をなす手法であるモンタージュについて～「ビジュアル・リテラシー」入門～ 13. (映画)カメラという目によるヴァーチャルな世界～見るのではない、見させられている～
事前・事後学修	今学期中に開催される西洋美術の展覧会を紹介するので、ぜひ足を運んで「本物」を見てほしい。そして、講義で学んだことを活かし、自分なりの鑑賞レポートを書いてほしい。 映画については、推薦した映画(動画配信・DVD)からいくつかを、ぜひ講義で学んだ観点から見てほしい。
成績評価方法・基準	1. 平常点50% 「リアクションペーパー」をふくむ参加度合い。

	2. 学期末試験50% 事前に試験問題を発表する。各自準備のうえ試験に臨む。 講義内容についての設問で、形式は論述のみ。 試験は「持ち込み不可」。 ・提出任意の自由レポート(上記【事前・事後学修】参照) 会期中の展覧会や公開中の映画などについてのレポート。ただし、美術館や映画館への入館については、感染状況を確認しながらあらためて説明する。)
教科書・指定図書	・教科書　なし。 ・指定図書 ジェイムズ・ホール『西洋美術解読事典』河出書房新社
履修上の留意点	パワーポイント(スライド)や教材提示を利用するが、原則としてmanabaアップロ　ードはしない。 本講義でもっとも重視することは、講義を聴いて「ノートテイク」をすること。 期末試験も、自分のノートをもとに準備することになる(持ち込みは不可)。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZB202
講義コード	2BC000310
講義名	日本の伝統芸能B組
担当者名	佐藤　知乃
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U
備考	

科目の趣旨	国際社会で自己の立場を確立するにあたり、基盤となるのは自身のよって立つ文化への広範な理解である。この観点から、本科目では日本の伝統芸能について学ぶ。伝統芸能は広くは絵画、工芸、茶道、華道などの芸道や民俗芸能なども含み、狭義には能・狂言、人形浄瑠璃・歌舞伎などの舞台芸術を指す。日本の伝統芸能の素養を身につけることにより、多様な文化に直面しても翻弄されることなく自立性を保ち、グローバル化された現代社会を生き抜くための一助としてほしい。
授業の内容	日本芸能史の流れを追って、こんにちでは民俗芸能として伝承される神楽、主として宮中に伝来する貴族的な雅楽(舞楽)、そして室町時代(およそ15-16世紀)に都市芸能として成功した能・狂言、さらに江戸時代(およそ17-19世紀)に成長し、市民に支持された人形浄瑠璃(文楽)・歌舞伎などについて学びます。 これらの諸芸能は、その多くがユネスコの無形文化遺産にも登録された、現代にまで続くperforming artsであり、テクスト(台本または台本にあたるもの)と視聴覚教材を融合することにより、芸能の世界へ導きます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	日本の文化史、とくに芸能史について知識と教養を体得します。 日本芸能のそれぞれと性格、当該芸能を成立させた時代背景について知ることができます。 代表的な作品や演者について詳しく知り、実際に伝統芸能を見て聞いて味わい、〈たのしむ〉ことができるようになります。 芸能鑑賞を通じて、日本の文化と創造力への理解を深めます。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システムmanabaと、諸種デジタルアーカイブを使用します。教科書では言及のないトピックや資料も授業では紹介します。原則毎回manabaを通じて小テストをおこない、ミニレポートの提出を求めるほか、期末課題を課します。安閑としていてはいけません。 なお実演に親しむため、国立劇場の歌舞伎・文楽鑑賞教室へ引率する予定です。
授業計画	1　ガイダンスおよび芸能の始原と神楽 ミニレポート(例):お祭りについて 2　外来芸能と伎楽・雅楽 ミニレポート(例):伝統の条件について 3　散楽から猿楽へ ミニレポート(例):サーカスについて 4　観阿弥・世阿弥と能 ミニレポート(例):能の源流について 5　能の構成(作品解説を含む) ミニレポート(例):能の手法について 6　狂言の発展 ミニレポート(例):台本について 7　狂言の精神(作品解説を含む) ミニレポート(例):喜劇について 8　近世芸能の勃興 ミニレポート(例):芸能の性質について 9　人形浄瑠璃の語り手と作者 ミニレポート(例):作者という職掌について 10　人形浄瑠璃の舞台(作品解説を含む) ミニレポート(例):作品の享受者について 11　歌舞伎の成り立ち ミニレポート(例):芸能の母胎について 12　歌舞伎の役者たち(作品解説を含む) ミニレポート(例):技芸の継承について 13　歌舞伎または文楽鑑賞教室(学外授業) ミニレポート(例):実演の舞台に接しての鑑賞レポート *状況により内容を調整することがあります *提出物の期限はその都度、manaba等に提示します
事前・事後学修	事前には、教科書『日本古典芸能史』の指定部分(その都度manabaに掲示する)を読み、概要をつかんでください。指定部分を対象として、manabaによる小テストをおこないます。

	事後には、掲示された画像や映像の視聴を含む授業内容の総合的な理解を前提としたミニレポートを課しますので、各回のテーマについて記述式でまとめられるよう、備えてください。提出物の期限は厳守のこと。
成績評価方法・基準	毎回の小テストを20%、ミニレポートを40%、平常点を20%、期末課題を20%とします。これらによって成績評価をおこない、試験は実施しませんので、遺漏なく提出すること(期限厳守)。 小テストの得点が極端に低い場合は、事前学修未遂として扱います。またミニレポートのうち、内容が極端に不足している例や、授業に取り組んでいないと判断されるケースでは、提出されたものと認めません。
教科書・指定図書	今岡謙太郎『日本古典芸能史』(武蔵野美術大学出版局　2008年　ISBN:4901631810)。amazonの電子書籍Kindle版(ASIN:B07P6R7Y46)もあり、各種の端末で読むことができます。ただし図版が掲載されていません。参考文献は授業時に紹介します。
履修上の留意点	開講までに教科書を入手しておくこと。 また「日本文学(中古)」、「日本文学(中世)」、「日本文学(近世)」、「日本の美術」など、近接分野の講義を合わせて受講することをすすめます。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZB111
講義コード	2BC000410
講義名	日本の表象文化B組
担当者名	大野 亮司
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	本科目では、主に近代以降に生み出された日本語による〝書きことば〟（エクリチュール）とその文化表象について、具体的なテクストに即しつつ考察する。ここには当然文学作品は含まれるが、美術や写真、音楽、放送、広告のコピーや社会的・政治的標語などのような、これまで文学には分類されてこなかった表現の数々もとり上げていく。近現代の日本において、人々の知性や心性、感覚や価値観、ふるまいや行動などを形づくり、またこれらに多元的に作用していったさまざまな文化表象を読み解くことを、授業の目的とする。
授業の内容	〈ふまえる／その上で別の何かを新たに作り出す〉 先行する何らかの作品や事象などをふまえて、新たな作品を生み出す——これは洋の東西を問わず、近代以前から広くなされていた創作実践である。そしてこうした実践は、近代・現代の文化において、強固にまた広範に存在しているオリジナル＋独創信仰の一方で、広汎に展開され、重要な位置を占めているものでもある。 この授業では、近代以降に現れた日本の小説作品と関わるいくつかの事例をとり上げ、何かをふまえ、ふまえたものを作りかえ、作りかえられたものに新たな意味合いや効果やイメージが賦与され、ふまえた作品とは別の何ものかが生まれていくさまを確かめ、そうした実践がどのような試みであるのかを、作品読解をとおして考えたい。
科目の到達目標（理解のレベル）	さしあたり、以下がこの授業の目標となる。 (1)とり上げた作品は、どのような作品や事象をふまえているかを適切に把握する。 (2)とり上げた作品は、先行する作品や事象をどんなところをどのようにふまえているか、そのありようを捉え、理解する。 (3)とり上げた作品はどのような意味や効果をさまざまに生みだしており、また先行する作品とは異なるいかなる地平を新たに開いているかを考え、これについて理解する。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システム（manaba）を通じて授業用資料・レジュメの配布や授業連絡等を行い、講義形式で各回の授業を行っていく。また、その回の内容に関する設問への回答を内容とする授業課題を設け、manabaを通じて期日までに作成、提出してもらう。この他の課題も適宜課す。 なお、授業用オンラインはZoomを使用するが、その際の必要事項は第1回授業前までにmanabaのコースニュースを通じて連絡する。
授業計画	1. ガイダンス　授業の内容や方針、展開、評価方法等に関する説明／担当教員紹介／諸注意 2.「瘤取り」の世界（1）：〝原話〟（『宇治拾遺物語』所収）を読む 3.「瘤取り」の世界（2）：太宰治の場合（『お伽草紙』より） 4.「瘤取り」の世界（3）：町田康の場合 5.「瘤取り」の世界（4）：〝翻訳〟と〝翻案〟のあいだ 6. 谷崎潤一郎「春琴抄」（1）：人物関係、状況設定、語りの形式などを確認する 7. 谷崎潤一郎「春琴抄」（2）：ありもしない書物を〝入手〟し、〝引用〟し、物語の世界へと〝参入〟する 8. 谷崎潤一郎「春琴抄」（3）：立ち会っていない＝立ち会いようもない場面を見てきたように語る 9. 谷崎潤一郎「春琴抄」（4）：映画化と演劇化 10. 谷崎潤一郎「春琴抄」（5）：小説ならではの表現について 11. 後藤明生「贋俊徳道名所図会」（1）：設定を確認する／設定の意味を探る 12. 後藤明生「贋俊徳道名所図会」（2）：選択されている〝名所〟とは？ 13. 後藤明生「贋俊徳道名所図会」（3）：文字で〝引用〟される「写真」／授業内容をふりかえる
事前・事後学修	授業を受けるに際しては、そのとき扱う作品はもちろん、配布された授業用資料やレジュメも必ずしっかり読んでおくこと。その上で、自分なりの疑問点や意見、見解などを明確にし、各回の課題に臨むこと。 また、授業で紹介する文献はもちろん、授業内容に触発されて各自で関心を抱いた文章や映像をはじめとするさまざまな作品に、積極的にふれていくことを望む。質問等があれば、メールを通して担当教員に問い合わせること。
成績評価方法・基準	そもそものこととして、授業への3分の2以上の出席が、成績評価を受けるに際しての前提条件となる。 その上で、授業時における質疑応答などへの参加やとりくみの状況、および毎回の授業で提出してもらう授業課題の内容評価の総計：50%（こ

	れは点数化して、各回のスコアを積み上げていく。なお、設問にまったく対応していないなどの不適切な回答に対しては、0点をつけることもある)、学期末レポートの内容評価:50%。
教科書・指定図書	太宰治「瘤取り」(『お伽草紙』より)、および谷崎潤一郎「春琴抄」は、青空文庫(インターネット電子図書館、www.aozora.gr.jp)所収のテキストを用いる。そのほかの作品については、manabaを通じてテキストを配布する。参考文献は授業時に随時紹介する。
履修上の留意点	・この授業では、履修希望が多数に上った場合、受講を許可する人数を制限する。履修希望者は登録期間内で必ず登録を行っておくこと。また第1回目の授業には必ず出席すること。 ・配布されるレジュメ等は、各自プリントアウトして書き込みができる状態にし、また実際に積極的に書き込みを行ってほしい。授業でとり上げる諸作品についても同様。 ・提出を求める課題(特にレポート)において、引用や注記を適切に行っておらず、参照した資料の出典情報なども明らかにされないまま、他人の言説の転用が認められた場合には、授業への参加や授業課題の提出状況等にかかわりなく、単位を認定しない。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZD101
講義コード	2BG000150
講義名	心理学ＩＣ組
担当者名	板垣　文彦
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	L
備考	

科目の趣旨	人間の行動・意識・無意識を研究対象とし、生理学や生物学、物理学、精神医学、統計学、コンピュータ科学といったさまざまな科学の発想と研究手法を取り入れ、人間及び人間社会の理解を追及する学問である。具体的な研究領域としては、発達(児童、青年、老年)、知覚・感覚、学習、認知(記憶、知能、思考)、性格、臨床、社会、組織があるが、これらの講義を通じて自己理解を深めると同時に共感的な他者理解ができるような目を養うことを目的とする。「心理学Ｉ」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	心理学の最大の特徴は、測定しようとしている内容が目に見えないことである。このトピックを考えることによって、人間の科学である心理学が人間の意識や行動をどのように理解しようとしてきたのかについてギリシャ時代に遡ることのできる過去と140年前に始まった近代心理学の歴史、ならびに方法論を解説する. その後、具体的なテーマとして、①発達に及ぼす遺伝と環境の要因、発達理論、特に自我同一性について、②性格の理解の仕方としての類型論(特にユングの内向一外向について)、③認知と記憶、④学習、⑤臨床心理学(心の健康)を扱う。それぞれに、関連するインターネット教材の視聴、アンケートの実施、分析の実践を試み、授業全体を通して我々が理解している外界と自分の意識の中に拡がる内界の関係性を考える.
科目の到達目標 (理解のレベル)	①心理学という学問の領域の広さを知ること、②他の科学との関連を意識しながら、心理学で用いられる実験や観察などの客観的な研究性についても注意すること、③理論やモデルを構築して検証を繰り返すという実証的な態度を理解すること、④得られた心理学の視点から、周囲の他者や社会との相互作用の視点から自分、自分の意識の在り方を見直すことができるようになること、を目標にする. また、それらを通して自分の思考力を磨き、新しい社会を構築する側の人間としての資質を獲得することが到達目標である.
授業形態	講義
授業方法	授業は原則として教室での対面授業でおこなう。各回ではmanaba掲示版に出席登録用のレスポン番号を記載する。多くの場合、授業の前半は教科書を中心に、添付した教材を説明しながら行なう. 後半は、インターネットの指定サイト、動画サイトを視聴して、manabaレスポンやドリルに回答すること、あるいは、manabaアンケートに答えて自己分析をおこなう形式を基本とする. それぞれの回で、前回の課題に対する振り返りと回答を行い、当日の授業内容に入っていく. アンケートの中には自分の自我状態を理解する検査を体験したり、性格理論に基づいて有名人の性格を分析するミニ調査研究を体験したりしながら心理学に対する理解を深めていく.
授業計画	【第1回】manabaの利用環境と出席課題提出方法の確認(レスポン、レポート、アンケート、等について). 本科目で扱う心理学領域を説明した後、幸福度の測定に関するTEDを視聴し、心理学が目に見えない事象の測定を意図していることを示す. 【第2回】心理学の歴史(12章). ここでは、心理学という学問がどのようにして誕生したのかについてその誕生前夜のトッピックを挙げて解説する. 【第3回】発達の心理学(1章). 人間の発達に与える遺伝と環境の要因や臨界期について. ピアジェの認知的発達段階について解説する. 【第4回】発達の心理学(1章の続き). ここではエリクソンの発達段階を解説し、その前後にその重要な概念である自我同一性に関する自己理解テストを実施する. 測定する概念の関係性や偏差値についても学ぶ. 【第5回】性格の心理学(3章). ここでは性格をどのように捉えるか、類型論について学ぶ. 特にユングの内向外向について深く学び、自分が興味を持つ有名人についての性格分析レポートを課す(3週後に相互閲覧). 内向者に関するTEDの視聴. 【第6回】性格の心理学(3章の続き). 特性論の考え方と5因子モデル、人間状況論争について. 【第7回】認知の心理学(4章). 人間をコンピュータになぞらえる情報処理アプローチ、ならびに、記憶の分類(感覚記憶・短期記憶・長期記憶・ワーキングメモリ)を解説. 【第8回】認知の心理学(4章の続き)。記憶と注意の概念が統合されているワーキングメモリ・モデルを詳細に紹介し、それに関連するメタ認知について自己理解テストを実施する. なお、この回ではmanabaに提出されている内向外向に関するレポートを相互閲覧し、それぞれにコメントを残す作業も行なう。 【第9回】 学習の心理学(5章)。知識の獲得と思考力を考える。2種類の学習(連合学習と認知学習)とモデリング学習について学ぶ. 【第10回】臨床の心理学(7章)(ストレス、社会的再適応者評定尺度、神経症と精神病)「ロゴ・テストと最近のストレスについて」. 【第11回】臨床の心理学(7章の続き1):自我の構造と精神分析、行動療法、来談者中心療法について学ぶ. 【第12回】臨床の心理学(7章の続き2)　マインドフルネスの考え方、ジョハリの窓と自律訓練法.について学ぶ. 【第13回】 心理学Ｉの内容の振り返り. 自分の結果をふまえて最終レポートの作成. ユングの内向と外向についてのレポート発表回とする.
事前・事後学修	前の週の授業で次週に授業で取り上げる教科書の章, 一部の内容を指示するので, 事前に内容を把握しておくこと. 授業時間内では、出席を兼ねたmanabaレスポン課題、教科書の内容を前提としてそれに関連する資料の解説、動画の視聴、アンケートなどを実施するが、それらに関連して理解を深化させるためのレポート課題を課す. 提出期限は、次週の授業日前日までを基本とする. 提出したレポートは他の履修生との意見交換のために複数閲覧したり、さらにコメントを書くことも授業の一環としておこなう.

成績評価方法・基準	毎回の授業の最初に提示するmanabaレスポンへの回答に対して各5点×12回、計60点を配分する. また、レポートへの回答と分量・質、授業でおこなうアンケートや実験への参加に対して評価をおこなう. 具体的には、①内向外向に関するレポート、②記憶課題レポート、③自我同一性アンケートの実施と自己分析、④最終の振り返りレポートに各10%の計40点を配分する。授業中の注意散漫、私語に対して減点する場合がある.
教科書・指定図書	「教科書」新しい心理学ゼミナール(福村出版)
履修上の留意点	授業開始後2週間以内に教科書を準備すること. その後は教科書の章を指定した設問を用意する. 授業時間内にmanabaで出席を確認する. 課題の提出に関しては次週授業開始までの1週間を期限とするが、中間と最後のレポート課題についてはmanabaの中で期限を設定する。授業の進行はmanaba掲示版で説明するので、必ず確認すること.
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZD102
講義コード	2BG000250
講義名	心理学ⅡC組
担当者名	板垣　文彦
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	L
備考	

科目の趣旨	人間の行動・意識・無意識を研究対象とし、生理学や生物学、物理学、精神医学、統計学、コンピュータ科学といったさまざまな科学の発想と研究手法を取り入れ、人間及び人間社会の理解を追及する学問である。具体的な研究領域としては、発達(児童、青年、老年)、知覚・感覚、学習、認知(記憶、知能、思考)、性格、臨床、社会、組織があるが、これらの講義を通じて、自己理解を深めると同時に共感的な他者理解ができるような目を養うことを目的とする。「心理学Ⅱ」では「心理学Ⅰ」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	本授業で取り上げる内容は、①知性をどのように捉えるかに関して知能と創造性について、②気分と覚醒水準の関連について、感情を進化論的な視点からの理解すること、欲求と葛藤の関係について、③自分の期待によって外的な事象が変化すること、その逆に社会や他者の行動によって影響を受ける自分の行動や信念について、その相互作用について学ぶ社会心理学、④知覚の形成要因、3次元的な世界を構成するために生じる錯視、動きや方向によって生じる錯視、⑤犯罪心理学と環境、⑥スポーツ心理学と自律訓練法、などである。単なる知識ではなく、自分に関連づけた実践的な思考実験をおこなう機会を多く設ける. 特に個人と社会の関係を問い直す新しい視点を提供する.
科目の到達目標(理解のレベル)	①心理学という学問の領域の広さを知ること、②他の科学との関連を意識しながら、心理学で用いられる実験や観察などの客観的な研究性についても注意すること、③理論やモデルを構築して検証を繰り返すという実証的な態度を理解すること、④得られた心理学の視点から、周囲の他者や社会との相互作用の視点から自分、自分の意識の在り方を見直すことができるようになること、を目指す. それらを通して自分の思考力を磨き、新しい社会を構築する側の人間としての資質を獲得することを目標とする.
授業形態	講義
授業方法	授業は原則として教室での対面授業でおこなう. 事前学習を先行させる反転学習が基本であり、manabaレスポンを用いて関連する章に関する理解度チェックをおこない、さらに関連するインターネットサイト、動画サイトの視聴と解説をおこない理解力を深める. アンケートではさまざまな心理検査とそれに基づく自己理解の方法について解説する。性格理論に基づいて有名人の性格を分析するミニ調査研究を実施しレポートにまとめることを求める. 体験し、実践する心理学に対する理解を深めていく.
授業計画	【第1回目】 manabaの利用環境と出席課題提出方法の確認(レスポン、レポート、アンケート、等について). 心理学2で扱う心理学領域を説明した後、知能と創造性に関する測定方法について考える. 【第2回目】知能心理学　さまざまな知能理論について。ハワード・ガードナーの多重知能理論を知る. 【第3回目】創造性とは何か？言語的創造性の課題である「遠隔連合検査」の体験。視覚的創造性について. 【第4回目】多次元知能理論に基づいて自分に優勢な知性を分析する. 創造性検査の回答と解説. 【第5回目】感情と欲求①(6章). 気分を自己評価するADACLチェックリストを実施し、音楽を聴くことによる変化を体験的に学習する. 感情と生理的な変化、その脳機能との関係を学ぶ. 【第6回目】感情と欲求②(6章の続き)　進化論的な感情の分類法を解説する. 欲求不満と葛藤、マズローの欲求段階説について学ぶ. 【第7回目】社会心理学①　印象の良くなる話し方や期待が知覚に与える影響を実践的に学ぶ. 【第8回目】社会心理学②　自由意志、同調行動への圧力、意志を歪めるバランス理論と認知的不協和を学ぶ. 【第9回目】社会心理学③　傍観者的に振る舞う可能性、権威に対して服従してしまう自分、看守や囚人のように振る舞うとどうなるか、についてインターネットの事例から学ぶ. 【第10回目】知覚の心理学。形から距離を計算する脳、本当は恐い顔(サッチャー錯視)、動きを感じる錯視、などを解説。 【第11回目】犯罪と環境の心理学(9, 10章)　非行の原因を考える。だます人だまされる人を考える(振り込め詐欺の事例から)。犯罪を防止する環境を考える。 【第12回目】スポーツの心理学(11章)　メンタルトレーニングと自律訓練法実習を中心に解説と実践を行う。 【第13回目】心理学2の内容の振り返り。アンケートや自律訓練法実践をふまえて自分の状態、興味、関心に関する最終レポートの作成。
事前・事後学修	前の週の授業で次週に授業で取り上げる教科書の章を指示するので、事前に内容を把握しておくこと. 授業時間内では、教科書を前提としてそれに関連する資料、動画の視聴、アンケートの実施などを指示する. 課題の提出はmanabaレポートで行うが、提出期限は、次週の授業日前日までを基本とする. 授業では資料の他に、インターネットで行う調べ学習課題課題が複数用意されている. また、それらをレポートとして提出後、他の履修者のレポートを閲覧して同意する点や相違点について他者を尊重したコメントをすることが求められている. 心理学の内容に関して他の履修生のレポートを読み、いくつかにコメントを書くことも授業の一環としておこなう.
成績評価方法・基準	毎回の授業の最初に提示するmanabaレスポンへの回答に対して各5点×12回として、計60点を配分する. また、レポートへの回答と分量・質、授業でおこなうアンケートや実験への参加に対して評価をおこなう. 重要な評価は、①創造性検査に関する設問、②多重知能理論に基づく自分の特性の分析、③マズローの欲求段階説に関するレポート、④自律訓練法に関する感想に各10%の計40点を配分する. 授業中の注意散漫、私語に対して減点する場合がある.

教科書・指定図書	「教科書」藤田主一・板垣文彦　編・新しい心理学ゼミナール（福村出版）
履修上の留意点	授業開始後2週間以内に教科書を準備すること．その後は教科書の章を指定した設問を用意する．授業時間内にmanabaで出席を確認する．課題の提出に関しては次週授業開始までの1週間を期限とするが、中間と最後のレポート課題についてはmanabaの中で期限を設定する．授業の進行はmanaba掲示版で説明するので、必ず確認すること．
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE107
講義コード	2CA000500
講義名	自然科学入門ＩA組
担当者名	大森　克徳
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	「自然科学入門Ｉ」は、物理学・化学・生物学などの自然科学がもっている学問としての性質を理解することを直接的な目的としているが、最終的には、科学的思考法とはどのようなものなのかを身に付けることを目的としている。このような目的を達成するためには、自然科学の成り立ちといった縦断的アプローチや、ある事項を個々の学問から多角的に扱う横断的アプローチ、そしてそれらを織り混ぜた組織的アプローチなどが考えられ、それぞれが実際の講義内容になるであろう。
授業の内容	本科目では自然科学とは何かというところから始まり、古代から近代において自然科学がどのように始まり、いかに発達してきたかをひととおりさらっていく。現代社会が成立するのにどのような科学的発見が貢献してきたかを知ることで自然科学の意義を再確認するとともに、基礎的な自然科学の知識を身につけることを目標とする。 授業では地球と宇宙、物質の科学、産業と科学技術、生物学と医学という4つの分野に分類して、それぞれ概ね20世紀以前に発見された事柄について丁寧に解説を行う。詳細な数値や公式の暗記は要しないが、100年以上前の科学でもあり、目に見える見えないにかかわらず現代社会の成立に影響を与えたことであるので、確実な理解が求められる。
科目の到達目標（理解のレベル）	授業で扱われた話題について考え、正しく理解し、そこで使われた用語についても知識として取り込むことによって以下の能力を獲得することを目標とする。 1. 新聞記事等の一般向け記事に使われるレベルの古典的自然科学の用語を正確に理解する。 2. 基本的な古典的自然科学に関する説明について、その正誤を正しく判断できる。 3. 一般向け記事で言及される程度の古典的自然科学に関する課題・論題について、論理的で適切な考察ができる。
授業形態	講義
授業方法	プレゼン方式で授業を行う。ノートを取ることは不要であるが、必要な情報を自分で選択しメモに取ること。ノートを取る時間は与えないので、メモを取るスキルを身に着けるように。 出席はRESPONを使って取る。入力忘れは出席と認めない。教室外でのRESPON入力は不正行為とみなす。 授業の進行中でも質問を受け付ける。授業の途中に2回、manabaの小テスト機能を使って小テストを行う予定である。出席者の回答のみが有効である。当然ながら、独力で回答すること。他と相談する、ノート等を貸借することは不正行為となる。
授業計画	【第1回】ガイダンス／古代の科学 授業の受け方／西洋科学の基礎となった古代ギリシアの自然哲学の発展と古代科学の滅亡について学ぶ 【第2回】地球と宇宙1．天文学のあけぼの 古代科学滅亡以前の宇宙観と天文観測について学ぶ 【第3回】地球と宇宙2．近代宇宙観の完成 中世から19世紀末までの宇宙観と天文観測について学ぶ 【第4回】地球と宇宙3．地球観の発展 古代から19世紀末の地球科学的な発見と理論について学ぶ 【第5回】物質の科学1．錬金術の時代 西洋における近代化学の母体となった錬金術の理論と歴史を学ぶ 【第6回】物質の科学2．近代化学の誕生 錬金術が衰退した後の化学発展の歴史について学ぶ 【第7回】物質の科学3．有機化学 生物を形作る化合物である有機化合物について、その理解と研究史を学ぶ 【第8回】産業と科学技術1．古代と中世の技術 古代から中世にかけて、社会を支えた技術について学ぶ 【第9回】産業と科学技術2．熱力学 熱力学の誕生と産業革命について学ぶ 【第10回】産業と科学技術3．電磁気学 電気・磁気の認識からその理解と理論形成、利用する技術の発展について学ぶ 【第11回】生物学と医学1．中世までの生物学 古代における生物学と、ルネサンス期以降に発展した博物学、生物学の発展について学ぶ 【第12回】生物学と医学2．中世までの医学 古代医学が滅亡してから、そのレベルを取り戻していく過程について学ぶ 【第13回】生物学と医学3．生物学と医学の近代化 生物学と医学が発展し、客観的な学問になるまでの過程を学ぶ

事前・事後学修	新聞記事やテレビのニュース等、日常生活において触れる自然科学に関する情報に興味を持つこと。また、講義で習ったこととどう関係するのか考えを巡らせること。 また、授業で出てきた言葉で理解できなかったものについては必ずメモを取り、理解できるまで調べること。わからないままで放っておいてはいけない。自習でわからない場合は直接、あるいはメール等で質問すること。(ただし、ごく簡単なことは自習で解決すること) それ以上の予習復習は求めない。
成績評価方法・基準	期末試験を実施する(評価の割合:90%)。毎回行う小テストを平常点(10%)として評価に加える。 なお、三分の二以上の出席がないと評価対象とならないので、必ず出席すること。 小テストは四択問題を四問出題する予定である。単語の暗記ということでなく、4つの文章から適切な/不適切な文章を選ぶ方式とする。期末試験は小テストと同程度、同形式の問題が出題される。 RESPONや小テストで不正行為があった者には単位を与えない。期末試験の不正は懲戒規定に従う。
教科書・指定図書	教科書:使用しない 参考書:必要に応じて講義中に指示する
履修上の留意点	中学卒業程度の科学的知識が必要である。講義では数式や化学式を用いることもあるが、理系科目未履修者の知識レベルに応じた解説を行う。数式や化学式についても、文系学生なりの理解を求めるので、それらを理解する意志のない者は履修を認めない。 大森担当の自然科学入門ⅠとⅡの両方を履修することを強く望む。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE107
講義コード	2CA000520
講義名	自然科学入門ＩＣ組
担当者名	吉田　律
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	「自然科学入門Ｉ」は、物理学・化学・生物学などの自然科学がもっている学問としての性質を理解することを直接的な目的としているが、最終的には、科学的思考法とはどのようなものなのかを身に付けることを目的としている。このような目的を達成するためには、自然科学の成り立ちといった縦断的アプローチや、ある事項を個々の学問から多角的に扱う横断的アプローチ、そしてそれらを織り混ぜた組織的アプローチなどが考えられ、それぞれが実際の講義内容になるであろう。
授業の内容	自然科学は自然という唯一つの対象を調べる学問である。しかし取り扱いの都合上、自然科学は主に5種類の領域に分けられている：身の周りに存在する物質を調べる化学領域、様々な物質から構成される生命を調べる生物学領域、我々が住む地球を調べる地球科学領域、地球を取り囲む宇宙を調べる天文学領域、これら4種類の領域に共通する基礎原理を調べる物理学領域である。 この事を最初に紹介する。 続いて、身の周りに存在する全ての物質が原子から成り立っている事を出発点にして、化学領域の基本的な項目を解説する。更に、組織化された物質としての生命を調べる生物学領域の基本的な項目を解説する。 地球科学領域、天文学領域、物理学領域については、自然科学入門Ⅱで順次解説する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	自然科学では、「自然」や「科学」などを始めとする各種の用語が、全ての人に共通理解できるよう定義されている；この事の必要性を理解し説明できる事。 化学とはどのような学問であるかについて全体像を把握しており、基本的な項目を簡潔に説明できる事。 生物学とはどのような学問であるかについて全体像を把握しており、基本的な項目を簡潔に説明できる事。 化学と生物学の与える自然科学的な世界観（特に物質観・生命観）を把握する事。
授業形態	講義
授業方法	前編 1．講義形式による基本的項目の解説：板書と資料提示 2．講義内容（前編）に関する課題の実習 ※ 前編講義40分間程度・前編実習10分間程度 後編 1．講義形式による基本的項目の解説：板書と資料提示 2．講義内容（後編）に関する課題の実習 ※ 後編講義40分間程度・後編実習10分間程度 質疑応答は授業時間中、gmail、及び、オフィスアワーで行なう。 状況によっては授業形式を変更する事も有り得る。
授業計画	【第01回】自然科学の構成 自然および科学という単語の定義、自然科学の形式と各領域の対象 【第02回】化学とは？ モノの化学、物質の区分、物質の基本構成「単位」、原子の安定化傾向 【第03回】物質の素 原子とは何か、原子核と電子、原子の種類（元素）、元素の超長周期表 【第04回】電子の“姿” 小さ過ぎる存在、見えない対象の「記述」、原子内の電子「波」たち 【第05回】原子の結合 物質の原子による「再」構成、電子“雲”の重なり、原子の結合型式 【第06回】化学反応とエネルギー 物質の（化学的）変化、化学反応の向き；発熱と拡散、化学反応の進行 【第07回】多「粒子」系の振舞い 気体と液体、空間における原子や分子の体積占有割合、固体、物質と光 【第08回】生物学とは？ 生き物を調べる、生物群の系統化、生物の特徴、生命法則の普遍性 【第09回】生命の基本「単位」 細胞とは、細胞の大きさ、細胞の構造、多細胞生物の構築：細胞の接着 【第10回】生体の構成物質 L型アミノ酸とタンパク質、D型単糖と糖質、核酸：DNAとRNA、主要な脂質 【第11回】生物の自己維持機能 代謝機能：エネルギー及び物質の代謝、酵素の作用、反射機能：刺激応答「系」 【第12回】遺伝情報と細胞 遺伝子、DNAと合成酵素、真核生物の細胞分裂、遺伝子発現の調節 【第13回】進化と生命起源 生物進化：自然選択と遺伝的浮動、種分化、生物多様性、始原単細胞生物 ただし、上記の内容・順序は変更もあり得る。
事前・事後学修	毎回、シラバスを必ず読み返す事。 事前準備 各回の授業開始までに、manabaから当該授業回に関連する資料と実習課題をダウンロードしてB5判用紙へ印刷し、内容を確認しておく事。 事後学修 板書内容と配布資料を読み直し、要点を確認する事。書き写した板書内容と書き込み済み実習課題を散逸しないように整理・保管する事。

	（電子媒体のままで放置しない事。） 事前・事後を問わず、不明な事柄があればgmailを使用して照会する事。
成績評価方法・基準	期末試験（下記：出題範囲の配点）の得点率累計60% 第01回・4% 第02回・6% 第03回・4% 第04回・4% 第05回・4% 第06回・4% 第07回・4% 第08回・6% 第09回・4% 第10回・4% 第11回・6% 第12回・6% 第13回・4% 化学領域レポート（手書き2枚）の提出率20% 生物学領域レポート（手書き2枚）の提出率20% 合計100%で評価する。
教科書・指定図書	講義での板書と配布資料をまとめる事によって"教科書"ができあがる。参考書は開講時に指示する。
履修上の留意点	・自然科学入門Ⅱも引き続き履修する事を強く望む。 ・第02回から座席指定するので、教室前方配置の希望者はメールで申し出る事。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE108
講義コード	2CA000600
講義名	自然科学入門ⅡA組
担当者名	大森　克徳
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	「自然科学入門Ⅱ」は、物理学・化学・生物学などの自然科学がもっている学問としての性質を理解することを直接的な目的としているが、最終的には、科学的思考法とはどのようなものなのかを身に付けることを目的としている。このような目的を達成するためには、自然科学の成り立ちといった縦断的アプローチや、ある事項を個々の学問から多角的に扱う横断的アプローチ、そしてそれらを織り混ぜた組織的アプローチなどが考えられ、それぞれが実際の講義内容になるであろう。
授業の内容	自然科学入門Ⅰでは20世紀以前の自然科学についてひととおりの知識を得た。本科目ではそれらの知識を前提として、20世紀以降に発展した現代の自然科学について解説を行う。前世紀以降、自然科学は目を瞠る発展を遂げた。そしてそれは想像を超えるほど社会を豊かにしてきた。一方でそんな科学技術は地球規模の環境変化を引き起こし、人類の存続自体をも危機に曝すことになった。 授業では最新の自然科学についてごく簡単な解説を行う。複雑で最新の内容を含むが、少なくともそれぞれの分野でどのような点が重要なトピックと見做されているのか理解することが必要である。最新の知見を学んだあと、もう一度、自然科学とは何なのか、どうあるべきなのかについてまとめを行う。それを通じて、自然科学に対する自分なりの識見を醸成してほしい。
科目の到達目標 (理解のレベル)	授業で扱われた話題について考え、正しく理解し、そこで使われた用語についても知識として取り込むことによって以下の能力を獲得することを目標とする。 1. 新聞記事等の一般向け記事に使われるレベルの現代自然科学の用語を正確に理解する。 2. 基本的な現代自然科学に関する説明について、その正誤を正しく判断できる。 3. 一般向け記事で言及される程度の現代自然科学に関する課題・論題について、論理的で適切な考察ができる。
授業形態	講義
授業方法	プレゼン方式で授業を行う。ノートを取ることは不要であるが、必要な情報を自分で選択しメモに取ること。ノートを取る時間は与えないので、メモを取るスキルを身に着けるように。 出席はRESPONを使って取る。入力忘れは出席と認めない。教室外でのRESPON入力は不正行為とみなす。 授業の進行中でも質問を受け付ける。授業の途中に2回、manabaの小テスト機能を使って小テストを行う予定である。出席者の回答のみが有効である。当然ながら、独力で回答すること。他と相談する、ノート等を貸借することは不正行為となる。
授業計画	【第1回】ガイダンス／現代における自然科学 授業の受け方／現代における科学理論を概説する 【第2回】特殊相対性理論／一般相対性理論 アインシュタインが提唱した相対性理論について、文系学生にも理解できる範囲で解説する 【第3回】原子の内部構造／素粒子 原子がどのような粒子で出来ているかを学ぶとともに、それ以上分割できない最も基本的な粒子である素粒子について学ぶ 【第4回】初期宇宙のすがた／恒星の進化と宇宙の謎 現代のビッグバン理論に基づき、宇宙の始まりから想定される最期までについて解説する 【第5回】太陽系1. 太陽と惑星／2. それ以外の天体 太陽系について、その範囲とそれを構成する天体について詳しく学ぶ 【第6回】宇宙開発1. 宇宙開発史／2. 宇宙開発の現在 宇宙開発の歴史と現在の宇宙技術について学ぶ 【第7回】分子生物学1. セントラルドグマ／2. 生物学分析法 近年発展が著しい分子生物学について、その理論と研究技術について学ぶ 【第8回】バイオテクノロジー1. 遺伝子組み換え／2. その他の技術 バイオテクノロジーについて、その理論と技術、問題点について概説する。とくにGM作物などで身近な遺伝子組み換えについては重点的に学ぶ 【第9回】西洋医学の近代化／最新医療 西洋医学が東洋医学に追いつき、これを凌駕していく歴史と最新の医療技術について学ぶ 【第10回】放射線と人間／原子力の利用 放射線とは何か、その危険性とは何かということから原子力の利用法までを学ぶ 【第11回】情報学の発展／情報の不思議 情報学の誕生から情報化社会の形成までの歴史と、「情報」の正体について学んでいく 【第12回】iPS細胞とは／アクチビン研究／iPS医療の実用化を目指して iPS細胞作製の理論とその応用について学んでいく 【第13回】科学的、非科学的について考える 我々は本当に「科学的な」社会を生きているのか、オカルトとは本当に非科学的なのか等を考えながら「科学的」とは何かを学んでいく

事前・事後学修	新聞記事やテレビのニュース等、日常生活において触れる自然科学に関する情報に興味を持つこと。また、講義で習ったこととどう関係するのか考えを巡らせること。 また、授業で出てきた言葉で理解できなかったものについては必ずメモを取り、理解できるまで調べること。わからないままで放っておいてはいけない。自習でわからない場合は直接、あるいはメール等で質問すること。(ただし、ごく簡単なことは自習で解決すること) それ以上の予習復習は求めない。
成績評価方法・基準	期末試験を実施する(評価の割合:90%)。毎回行う小テストを平常点(10%)として評価に加える。 なお、三分の二以上の出席がないと評価対象とならないので、必ず出席すること。 小テストは四択問題を四問出題する予定である。単語の暗記ということでなく、4つの文章から適切な/不適切な文章を選ぶ方式とする。期末試験は小テストと同程度、同形式の問題が出題される。 RESPONや小テストで不正行為があった者には単位を与えない。期末試験の不正は懲戒規定に従う。
教科書・指定図書	教科書:使用しない 参考書:必要に応じて講義中に指示する
履修上の留意点	・この科目は、データサイエンス副専攻登録者を原則として優先する。 ・自然科学入門Ⅰの履修を前提とした講義を行う。中学レベルの理科の知識で理解可能な内容とするが、大学レベルの理解力と判断力を要求する。講義では数式や化学式を用いることもあるが、知識レベルに応じた解説を行うので、それらを理解する意志ある者のみに履修を認める。 ・また、大森担当の自然科学入門ⅠとⅡの両方を履修することを強く望む。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE108
講義コード	2CA000620
講義名	自然科学入門ⅡC組
担当者名	吉田　律
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	「自然科学入門Ⅱ」は、物理学・化学・生物学などの自然科学がもっている学問としての性質を理解することを直接的な目的としているが、最終的には、科学的思考法とはどのようなものなのかを身に付けることを目的としている。このような目的を達成するためには、自然科学の成り立ちといった縦断的アプローチや、ある事項を個々の学問から多角的に扱う横断的アプローチ、そしてそれらを織り混ぜた組織的アプローチなどが考えられ、それぞれが実際の講義内容になるであろう。
授業の内容	自然科学入門Ⅰでは2種類の領域(化学領域・生物学領域)の基本的な項目を学んだ。 これらに続き、我々が住む地球の成り立ちや現象について調べる地球科学領域の基本的な項目、及び、地球を取り囲む宇宙について調べる天文学領域の基本的な項目を解説する。 4種類の領域、化学領域、生物学領域、地球科学領域、及び、天文学領域、を順次概観する事によって自然(物質・生命・地球・宇宙)の全体像を把握し終えた所で、自然界の各領域の通底している所の普遍的法則を調べる物理学領域の基本的な項目を解説する。 最後に、場の量子論(バのリョウシロン)によって与えられる「現代科学の世界観」を解説・紹介して自然科学入門Ⅰ・Ⅱを完結させる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	地球科学とはどのような学問であるかの全体像を把握しており、基本的な項目を簡潔に説明できる事。 天文学とはどのような学問であるかの全体像を把握しており、基本的な項目を簡潔に説明できる事。 物理学とはどのような学問であるかの全体像を把握しており、基本的な項目を簡潔に説明できる事。 地球科学と天文学の与える世界観(特に地球観・宇宙観)を把握する事。 現代科学の与える世界観・自然観について概要を把握できるようになる事。
授業形態	講義
授業方法	前編 1. 講義形式による主要項目の解説:板書と資料提示 2. 講義内容(前編)に関する課題の実習 ※ 前編講義40分間程度・前編実習10分間程度 後編 1. 講義形式による主要項目の解説:板書と資料提示 2. 講義内容(後編)に関する課題の実習 ※ 後編講義40分間程度・後編実習10分間程度 質疑応答は授業時間中、gmail、及び、オフィスアワーを利用して行なう。 状況によっては授業形式を変更する事も有り得る。
授業計画	【第01回】地球科学とは? 地球を調べる方法、地球の諸側面:構成・現象・歴史、モデルによる理解 【第02回】地球の成り立ち 地球の層状構造:大気・海洋・地殻・マントル・コア、地球の形成過程 【第03回】地球表層の現象 太陽光・太陽熱、大気及び海洋の対流:水平方向・鉛直方向、気候の変動 【第04回】地球内部の現象 地球内部熱、プレートテクトニクス、マントル対流、コアダイナミクス 【第05回】天文学とは? 地球「外」対象の諸側面:構成・現象・歴史、地球「外」を調べる方法、天文観測の前提 【第06回】太陽系の天体 太陽、惑星:地球型と木星型、衛星とリング、太陽系小天体:彗星・小惑星ほか 【第07回】宇宙の広がり 恒星、銀河、銀河団、ハッブルの法則と宇宙膨張、ビッグバン宇宙 【第08回】物理学とは? 自然科学の基礎、科学的な記述、帰納的な学問、「分かる」という事 【第09回】物体運動と力 自然界の抽象的記述:物体の記述・運動の記述、運動の法則の意味 【第10回】熱の基本法則 熱の共通性、「粒子」像による熱の理解、不可逆現象、「粒子」像とエントロピー 【第11回】電気と磁気 電気現象、磁気現象、電磁誘導現象、電「流」磁気現象、電磁波の伝播 【第12回】微"視"的世界の原理 極微粒子の「波動」性、電磁波の「粒子」性、物理状態、測定値の揺らぎ幅 【第13回】場の概念 物理量の分布と変動、場の方程式、「媒質」としての場、時空の属性 ただし、上記の内容・順序は変更もあり得る。

事前・事後学修	毎回、シラバスを必ず読み返す事。 事前準備 　各回の授業開始までに、manabaから当該授業回に関連する資料と実習課題をダウンロードしてB5判用紙へ印刷し、内容を確認しておく事。 事後学修 　板書内容と配布資料を読み直し、要点を確認する事。書き写した板書内容と書き込み済み実習課題を散逸しないように整理・保管する事。 　（電子媒体のままで放置しない事。） 事前・事後を問わず、不明な事柄があればgmailを使用して照会する事。
成績評価方法・基準	期末試験（下記：出題範囲の配点）の得点率 　第01回・5% 　第02回・4% 　第03回・4% 　第04回・4% 　第05回・5% 　第06回・3% 　第07回・4% 　第08回・5% 　第09回・6% 　第10回・4% 　第11回・4% 　第12回・4% 　第13回・8% 地球科学領域・天文学領域レポート（手書き2枚）の提出率20% 物理学領域レポート（手書き2枚）の提出率20% 合計100%で評価
教科書・指定図書	講義での板書と配布資料をまとめる事によって“教科書”ができあがる。参考書は開講時に指示する。
履修上の留意点	・自然科学入門Ⅰが履修済である事を強く望む。 ・第02回から座席指定するので、教室前方配置の希望者はメールで申し出る事。 ・この科目は、データサイエンス副専攻登録者を原則として優先する。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE105
講義コード	2CA001110
講義名	宇宙と物質B組
担当者名	吉田　律
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	宇宙について人類は各時代に夢を描いてきた。科学が発展するにつれて宇宙の謎はかえって深まり、一般的に物理学の分野で際立って人気がある。宇宙に関する観測技術が驚異的に進歩し、高エネルギー物理学の進展とともに、宇宙の研究はいまや精密科学の領域に入ってきている。宇宙の進化、銀河、天体やまた物質の起源など興味あるテーマを観測事実に基づき科学的思考方法で講義する。これらのテーマはミクロの世界も含めて総合的な把握が要求され、基礎的な部分も必要に応じて学んでいく。
授業の内容	「宇宙」という用語並びに「物質」という用語の定義を最初に行ない、日常生活において使われている同様の用語との区別を明確化する。 宇宙観測の複数の方法を概説した後、宇宙の構造について基本的な項目を順次解説・紹介する。併せて宇宙に存在する様々な物質についても解説・紹介する。これら宇宙と物質に関する基本的な事項を踏まえた上で、宇宙の開闢から現在までの発展過程(宇宙の「歴史」)を順次解説・紹介する。 更に、宇宙や物質を科学的に理解する為の基盤的前提である2つの「普遍性」についてそれらの内容と正当性を言及する。新たな宇宙観測結果やコンピュータ・シミュレーション結果が公表された場合には、それらの内容を解説に随時反映させる。
科目の到達目標 (理解のレベル)	天文学の用語が全ての人に共通理解できるように定義されている事とその必要性を理解し説明できる事。 宇宙の様々な天体とそれらの振る舞いについての概要を説明できる事。 日常生活とはかけ離れている宇宙の超巨大尺度を、数値的な比較によって「体感」できるようになる事。 宇宙における物理法則の普遍性を簡潔に説明できる事。 物理法則を基盤とする論理の梯子によって、宇宙の彼方まで理解を及ぼそうとする現代科学の一端に触れる事。
授業形態	講義
授業方法	前編 1. 講義形式による基本的項目の解説:板書と資料提示 2. 講義内容(前編)に関する課題の演習 ※ 前編講義40分間程度・前編演習10分間程度 後編 1. 講義形式による基本的項目の解説:板書と資料提示 2. 講義内容(後編)に関する課題の演習 ※ 後編講義40分間程度・後編演習10分間程度 質疑応答は授業時間中、gmail、及び、オフィスアワーで行なう。 状況によっては授業形式を変更する事も有り得る。
授業計画	【第01回】宇宙とは何か？ 時間と空間、天体、一般相対性理論における宇宙と物質の取り扱い 【第02回】宇宙の観測 電磁波の捕捉、宇宙線の捕捉、重力波望遠鏡、探査機による現地観測 【第03回】恒星 放射スペクトルによる分類、運動状態:自転・振動・連星公転、太陽 【第04回】銀河 恒星の大集団、形状による分類、銀河の内部運動と釣り合い、銀河系 【第05回】宇宙の階層構造 銀河団:宇宙最大の"天体"、超銀河団とボイド、宇宙の大規模構造 【第06回】星間物質 原子ガス・分子ガス・電離ガス・ホットガス、宇宙塵、宇宙線粒子、銀河間物質 【第07回】普遍性と宇宙 物理法則に関する一般相対性原理、場の量子論が保証する元素の同質性 【第08回】動的な宇宙像 ハッブルの法則、軽元素組成比率、宇宙背景放射、ビッグバン宇宙 【第09回】宇宙の創生と膨張 "始まり"、インフレーション、ビッグバン後の3分間、宇宙の"晴れ上がり" 【第10回】星の生と死 "晴れ上がり"温度のゆらぎ、ファーストスターズ、星の寿命と終末、ブラックホール 【第11回】銀河の形成 物質密度ゆらぎの増大、ガス雲の冷却、銀河系の形成、渦状腕の実体と振る舞い 【第12回】太陽系の誕生 重元素の蓄積、原始太陽と微惑星、惑星形成、(太陽)系外惑星の多様性 【第13回】コンピュータと宇宙 天文シミュレーション、天文データ処理への活用、バーチャル天文台 ただし、上記の内容・順序は変更もあり得る。

事前・事後学修	毎回、シラバスを必ず読み返す事。 事前準備 　各回の授業開始までに、manabaから当該授業回に関連する資料と演習課題をダウンロードしてB5判用紙へ印刷し、内容を確認しておく事。 事後学修 　板書内容と配布資料を読み直し、要点を確認する事。書き写した板書内容と書き込み済み演習課題を散逸しないように整理・保管する事。 （電子媒体のままで放置しない事。） 事前・事後を問わず、不明な事柄があればgmailを使用して照会する事。
成績評価方法・基準	期末試験（下記：出題範囲の配点）の得点率累計70% 　第01回・8% 　第02回・4% 　第03回・4% 　第04回・5% 　第05回・4% 　第06回・4% 　第07回・8% 　第08回・6% 　第09回・4% 　第10回・9% 　第11回・6% 　第12回・4% 　第13回・4% 第1回レポート（B5判・手書き1枚）の提出率15% 第2回レポート（B5判・手書き1枚）の提出率15% 合計100%で評価する。
教科書・指定図書	講義での板書と配布資料をまとめる事によって"教科書"ができあがる。参考書は開講時に指示する。
履修上の留意点	・自然科学入門ⅠおよびⅡが履修済である事を強く望む。 ・第02回から座席指定するので、教室前方配置の希望者はメールで申し出る事。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE106
講義コード	2CA001210
講義名	環境科学B組
担当者名	大森　克徳
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	科学技術の進展に伴い経済を発展させ物質的に豊かな社会を築くことが人類の生存条件をよくすると信じられてきたが、予想に反して人類の生活の場が人類の生存に敵対的になってきている。この負の現象が環境問題であり、現代社会の最重要な課題の一つとなってきている。「環境科学」は自然環境に関する成り立ちや環境問題の発生メカニズムを科学的に理解すると共に各自が得た知識を生かしながら総合的に把握する。現状認識を踏まえて環境保全の実体を分析して環境保全のあるべき姿を模索する。
授業の内容	本科目においては環境を科学的に理解する視点や方法論について学ぶとともに、現在の環境にまつわる課題とそれを解決する科学技術、最新科学の取り組みを知ることを学習の主眼とする。 科学の役割のうち最も古く最も重要なのは「自然環境を理解する」ことである。自然環境は物理的環境と生物的環境に分類できるが、環境生態学の立場からそれらの環境が維持される仕組みを解説し、我々の生活環境を守るためにどんな理由で何が必要なのかー例えばなぜ自然を保護しなければいけないのかーを理解させる。 もう一つ、重要な科学の役割として「自然環境を制御する」ことがある。自然災害からの被害を防ぎ、自然環境を上手に利用して持続可能型社会を作ることが古くから人類に課せられた課題である。近代まで、里山の利用のように、人類は自然と調和した環境利用をしてきたが、文明と自然のバランスが崩壊した現代においては新たな技術が必要になった。後半ではそれらに関する最新の取り組みを解説していく。それらを通じて21世紀の科学はどの方向に進むべきかを考察する。
科目の到達目標（理解のレベル）	授業で扱われた話題について考え、正しく理解し、そこで使われた用語についても知識として取り込むことによって以下の能力を獲得することを目標とする。 1. 新聞やインターネット等における一般向け記事に使われるレベルの環境関連用語を正確に理解する。 2. 基本的な環境科学に関する説明について、その正誤を正しく判断できる。 3. 一般向け記事等で言及される程度の環境に関する課題・論題について、論理的で適切な考察ができる。
授業形態	講義
授業方法	プレゼン方式で授業を行う。ノートを取ることは不要であるが、必要な情報を自分で選択しメモに取ること。ノートを取る時間は与えないので、メモを取るスキルを身に着けるように。 出席はRESPONを使って取る。入力忘れは出席と認めない。教室外でのRESPON入力は不正行為とみなす。 授業の進行中でも質問を受け付ける。授業の途中に2回、manabaの小テスト機能を使って小テストを行う予定である。出席者の回答のみが有効である。当然ながら、独力で回答すること。他と相談する、ノート等を貸借することは不正行為となる。
授業計画	【第1回】ガイダンス／自然環境と生活環境 授業の受け方／一口に環境と言っても自然環境と生活環境は異なる。先ずは両者の違いについて学ぶ 【第2回】種間関係と生態系／制限要因と生態系の形態 生態系とは何かを理解し、生態系を構成する生物と生物の相互関係について学ぶ 【第3回】太陽エネルギーと生産／エネルギーの受け渡し 生態系の仕組みについて学び、その中でエネルギーがどのように受け渡されているかを学ぶ 【第4回】生物を作る物質と地球の水循環／生態系における様々な物質循環 生態系の仕組みについて学び、その中で物質が循環再利用されている様を学ぶ 【第5回】変化する生態系／地球規模の環境変化 生態系は変動・変化するものである。その実例と仕組みについて学んでいく 【第6回】第一次産業と生態系1. 農業と畜産業／2. 水産業、里山 人間も生態系の一部であることを理解し、第一次産業がどのように生態系に影響を与えているのかを学ぶ 【第7回】都市とエネルギー・物質循環／都市化と生物相 人間も生態系の一部であることを理解し、都市化がどのように生態系に影響を与えているのかを学ぶ 【第8回】環境問題1. 生活環境問題とは／2. 公害 環境問題について実例とともに学んでいく。今回は身近で小規模な環境問題について考えていく 【第9回】環境問題3. 地球環境問題／4. 文明の崩壊 環境問題について実例とともに学んでいく。今回は大規模な地球規模の環境問題について考えていく 【第10回】バイオテクノロジーと生活環境1. 遺伝子組換／2. GM生物の危険性 バイオテクノロジーの理論と方法論について学び、その環境への影響を考察する。今回は遺伝子組み換えについて学ぶ 【第11回】バイオテクノロジーと生活環境3. 細胞融合とキメラ技術／4. 農業・エネルギー バイオテクノロジーの理論と方法論について学び、その環境への影響を考察する。今回は遺伝子組み換え以外の技術について学ぶ 【第12回】環境保全1. 生物学的対策／2. 土木工学的対策 環境保全とは何かを知り、それに必要な技術について学ぶ 【第13回】持続可能型社会 持続可能型社会とは何か、いくつかの指標を用いて理解し、その重要性について学ぶ

事前・事後学修	新聞記事やテレビのニュース等、日常生活において触れる環境科学に関する情報に興味を持つこと。また、講義で習ったこととどう関係するのか考えを巡らせること。 また、授業で出てきた言葉で理解できなかったものについては必ずメモを取り、理解できるまで調べること。わからないままで放っておいてはいけない。自習でわからない場合は直接、あるいはメール等で質問すること。(ただし、ごく簡単なことは自習で解決すること) それ以上の予習復習は求めない。
成績評価方法・基準	期末試験を実施する(評価の割合:90%)。毎回行う小テストを平常点(10%)として評価に加える。 なお、三分の二以上の出席がないと評価対象とならないので、必ず出席すること。 小テストは四択問題を四問出題する予定である。単語の暗記ということでなく、4つの文章から適切な/不適切な文章を選ぶ方式とする。期末試験は小テストと同程度、同形式の問題が出題される。 RESPONや小テストで不正行為があった者には単位を与えない。期末試験の不正は懲戒規定に従う。
教科書・指定図書	教科書:使用しない 参考書:必要に応じて講義中に指示する 指定図書:とくになし
履修上の留意点	中学卒業程度の科学的知識が必要である。本学における他の自然科学系科目の履修を前提としない。講義では数式や化学式を用いることもあるが、理系科目未履修者の知識レベルに応じた解説を行う。数式や化学式についても、文系学生なりの理解を求めるので、それらを理解する意志のない者は履修を認めない。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE111
講義コード	2CA001300
講義名	生物学ＩA組
担当者名	大森　克徳
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	生物学では、生命体の諸現象(生命現象・遺伝・進化・形態・行動・生態など)を自然科学の手法で分析し、そこから生命体に関する基本的な原理や法則を理解することを目的とする。また、進歩の著しい遺伝子工学の基礎知識として、1. 遺伝現象と遺伝子という発想、 2. DNAの構造、3. 発生・行動・進化と遺伝子、4. 遺伝子の利用、について学び、遺伝子に関わる今日の社会的課題にある程度の判断が下せるようになることを目指す。「生物学Ｉ」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	生物学Ｉでは主に「個体」より小さな生物学を扱う。先ず本科目で生物や生命現象のしくみについてできるだけ深く学び、続いて生物学Ⅱで進化や生態系などマクロ的な生物学を学習する。それらを追求することにより、人類は生物や生命現象とどのようにかかわり利用しているかを知り、日常の生物学的な問題ー例えばなぜ自然を保護しなくてはいけないのかーについて正しく論じる力を得ることを目標とする。 生物は有機物でできた精巧な機械と考えることができる。単なる物質がより集まって機能を持つようになり、やがて一個のまとまった機械となる。さらにそれは自身を再生産する能力を持つのだ。この不思議な機械はどのような材料で作られ、どのような部品構成を持ち、何をエネルギーにしてどのように作動するのだろう。そのような観点で生物の正体を見極めることが本科目の主眼である。それを通じて「遺伝子」「細胞」「代謝」といった耳慣れた断片的なコトバを体系的な生物学の知識とし、生物について論じる能力を獲得してもらいたい。
科目の到達目標 (理解のレベル)	授業で扱われた話題について考え、正しく理解し、そこで使われた用語についても知識として取り込むことによって 「個体より小さな生物学」について、以下のことができること。 1. 新聞記事等の一般向け記事に使われるレベルの生物用語を正確に理解する。 2. 基本的な生命現象に関する説明について、その正誤を正しく判断する。 3. 一般向け記事で言及される程度の生物学的な課題・論題について、論理的で適切な考察をする。
授業形態	講義
授業方法	プレゼン方式で授業を行う。ノートを取ることは不要であるが、必要な情報を自分で選択しメモに取ること。ノートを取る時間は与えないので、メモを取るスキルを身に着けるように。 出席はRESPONを使って取る。入力忘れは出席と認めない。教室外でのRESPON入力は不正行為とみなす。 授業の進行中でも質問を受け付ける。授業の途中に2回、manabaの小テスト機能を使って小テストを行う予定である。出席者の回答のみが有効である。当然ながら、独力で回答すること。他と相談する、ノート等を貸借することは不正行為となる。
授業計画	【第1回】ガイダンス／生物とは、細胞とは 授業の受け方／生物とは何か、最も基本的な構造である細胞について学びながら理解していく 【第2回】「個体」の成り立ち 個体とは何かを知り、細胞がどのように個体を形成するのかを学ぶ 【第3回】生殖のしくみと意義 生殖とは何か、どのようなしくみで生物は子孫を残していくのかを学ぶ 【第4回】植物の世代交代／動物の初期発生 植物や動物が、たった1個の受精卵から大人の体を作っていくのかを学ぶ 【第5回】分化と誘導 たった一つの受精卵が多種多様な細胞を作っていく仕組みについて学ぶ 【第6回】遺伝と遺伝子／遺伝子とDNA 遺伝とは何か、遺伝子とは何かを知り、それを化学的に解釈していく 【第7回】生命現象を支える物質と化学反応1. 概論 生命現象を化学反応ととらえ、その詳細を学ぶ。今回は一般的な生化学反応について学ぶ 【第8回】生命現象を支える物質と化学反応2. 核酸 生命現象を化学反応ととらえ、その詳細を学ぶ。今回は遺伝現象を司る核酸について学ぶ 【第9回】生命現象を支える物質と化学反応3. タンパク質 生命現象を化学反応ととらえ、その詳細を学ぶ。今回は生命現象の根本を司るタンパク質について学ぶ 【第10回】感覚器・神経のしくみと筋収縮 生物が外界を知覚し、それに応じた反応をして行動を起こすまでのしくみについて学ぶ 【第11回】中枢神経とホメオスタシス 生物の体内環境は生命現象により常に一定に保たれる。その仕組みと中枢神経がどのようにそれを可能にしているかを学ぶ 【第12回】バイオテクノロジー 生物の科学を生活に利用する技術がバイオテクノロジーである。その理論と方法論について学んでいく 【第13回】生物周期 生物は様々な周期に支配されて生きている。数時間の周期から「生と死」という周期まで、様々な生物の内的周期について学んでいく

事前・事後学修	新聞記事やテレビのニュース等、日常生活において触れる生物学に関する情報に興味を持つこと。また、講義で習ったこととどう関係するのか考えを巡らせること。 また、授業で出てきた言葉で理解できなかったものについては必ずメモを取り、理解できるまで調べること。わからないままで放っておいてはいけない。自習でわからない場合は直接、あるいはメール等で質問すること。(ただし、ごく簡単なことは自習で解決すること) それ以上の予習復習は求めない。
成績評価方法・基準	期末試験を実施する(評価の割合:90%)。毎回行う小テストを平常点(10%)として評価に加える。 なお、三分の二以上の出席がないと評価対象とならないので、必ず出席すること。 小テストは四択問題を四問出題する予定である。単語の暗記ということでなく、4つの文章から適切な/不適切な文章を選ぶ方式とする。期末試験は小テストと同程度、同形式の問題が出題される。 RESPONや小テストで不正行為があった者には単位を与えない。期末試験の不正は懲戒規定に従う。
教科書・指定図書	教科書:使用しない 参考書:必要に応じて講義中に指示する
履修上の留意点	高校までの生物学履修を前提としない。ただし、中学卒業程度の科学的知識が必要である。理系科目の未履修者に向けた解説を行う。ただし、講義では数式や化学式を用いるし、また最先端の研究成果も紹介する。これらは理解を助ける参考情報なので暗記する必要はないが、理系科目を履修していないからといってその理解を諦めてはいけない。 大森担当の生物学ⅠとⅡの両方を履修することを強く望むが、片方のみを履修することを妨げない。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZE112
講義コード	2CA001400
講義名	生物学ⅡA組
担当者名	大森　克徳
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	生物学では、生命体の諸現象(生命現象・遺伝・進化・形態・行動・生態など)を自然科学の手法で分析し、そこから生命体に関する基本的な原理や法則を理解することを目的とする。また、進歩の著しい遺伝子工学の基礎知識として、1. 遺伝現象と遺伝子という発想、 2. DNAの構造、3. 発生・行動・進化と遺伝子、4. 遺伝子の利用、について学び、遺伝子に関わる今日の社会的課題にある程度の判断が下せるようになることを目指す。「生物学Ⅱ」では「生物学Ⅰ」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	生物学Ⅱでは、主に「個体」より大きな生物学を扱う。我々は地球環境を守るために生態系を保全しなくてはいけないことを漠然と知っている。しかし過去には自然保護活動の名のもとに環境が破壊された例もあったのだ。本科目では、生物学Ⅰで身に付けた生物学的視点をもって生態系のなりたちを深く正しく理解することを目的とする。それにより、我々の行動が生態系に対して質的・量的にどのような影響を与えるかを正確に判断し、より良い行動を選択する能力を身につけてもらいたい。 生物は別に地球のことを考えて生きているわけではない。それにもかかわらず生物たちは絶妙なバランスで安定した生態系を作り上げ、地球環境を維持している。生物は互いに影響しあって生きているが、それぞれの局所的な関係が積み重なって階層化し、ある程度閉じたひとつの系として存在するようにみえるとき我々はそれを生態系と呼ぶ。だから局所的な生物の相互関係を理解するところから始めなければ生態系の真の姿は見えてこない。我々は既に生物学Ⅰで生物の正体を知った。ならば生物の相互関係を理解することは難しくないであろう。 本科目では地球に生きる生物とその相互関係をひとつひとつ丁寧に見ていき、生態系を形成し安定させる上でのそれらの意味と意義を正確に把握することを目標とする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	授業で扱われた話題について考え、正しく理解し、そこで使われた用語についても知識として取り込むことによって、「個体より大きな生物学」について、以下のことができること。 1. 新聞記事等の一般向け記事に使われるレベルの生物用語を正確に理解する。 2. 基本的な生命現象に関する説明について、その正誤を正しく判断する。 3. 一般向け記事で言及される程度の生物学的な課題・論題について、論理的で適切な考察をする。
授業形態	講義
授業方法	プレゼン方式で授業を行う。ノートを取ることは不要であるが、必要な情報を自分で選択しメモに取ること。ノートを取る時間は与えないので、メモを取るスキルを身に着けるように。 出席はRESPONを使って取る。入力忘れは出席と認めない。教室外でのRESPON入力は不正行為とみなす。 授業の進行中でも質問を受け付ける。授業の途中に2回、manabaの小テスト機能を使って小テストを行う予定である。出席者の回答のみが有効である。当然ながら、独力で回答すること。他と相談する、ノート等を貸借することは不正行為となる。
授業計画	【第1回】ガイダンス／生命のはじまり 授業の受け方／最初の生命がどのように生まれたかを学ぶ 【第2回】生物種と分類学／分類の変遷 種とは何かを学び、その種を分類整理する分類学を学ぶことによって生物の進化を理解する 【第3回】さまざまな生物1. 真正細菌と古細菌／2. 原生生物界／3. 植物界／4. 菌界 地球に存在する生物について解説を行う。今回は「動物」以外の生物について学ぶ 【第4回】さまざまな生物5. 原始的な動物／6. 冠輪動物／7. 脱皮動物 地球に存在する生物について解説を行う。今回は所謂「無脊椎動物」について学ぶ 【第5回】さまざまな生物8. 脊椎動物／9. 四肢動物 地球に存在する生物について解説を行う。今回は人間を含む「脊椎動物」について学ぶ 【第6回】進化論／絶滅と進化 進化論について学び、どのように進化や絶滅が起こるのかを理解する 【第7回】生物の相互関係／生態系と生物種 生態系とは何かを理解し、生態系を構成する生物と生物の相互関係について学ぶ 【第8回】遷移と制限要因／制限要因と生態系のすがた 地球には多種多様な生態系が存在するが、どうしてそのような多様性ができるのかを学ぶ 【第9回】生物多様性の意義／環境保全 生物多様性とは何かを理解し、なぜそれを守らなければいけないのか、その方法論とともに学んでいく 【第10回】遺伝的多様性と有性生殖／有性生殖のコストとメリット そもそも有性生殖とは何なのかを理解し、生物はなぜ有性生殖をするのか学ぶ 【第11回】生物の行動1. 生得的行動／2. 習得的行動 生物の行動について解説を行う。今回は生まれつき備わっている生得的行動と、経験により備わる習得的行動の違いとそれぞれの特徴について学ぶ 【第12回】生物の行動3. 社会行動／4. 動物行動学の動向 生物の行動について解説を行う。今回は社会的行動と最新の動物行動学のトピックについて学ぶ

	【第13回】産業と生態系／都市の生態系 人間も生態系の一部であることを理解し、人間がどのように生態系に影響を与えているのかを学ぶ
事前・事後学修	新聞記事やテレビのニュース等、日常生活において触れる生物学に関する情報に興味を持つこと。また、講義で習ったこととどう関係するのか考えを巡らせること。 また、授業で出てきた言葉で理解できなかったものについては必ずメモを取り、理解できるまで調べること。わからないままで放っておいてはいけない。自習でわからない場合は直接、あるいはメール等で質問すること。(ただし、ごく簡単なことは自習で解決すること) それ以上の予習復習は求めない。
成績評価方法・基準	期末試験を実施する(評価の割合:90%)。毎回行う小テストを平常点(10%)として評価に加える。 なお、三分の二以上の出席がないと評価対象とならないので、必ず出席すること。 小テストは四択問題を四問出題する予定である。単語の暗記ということでなく、4つの文章から適切な／不適切な文章を選ぶ方式とする。期末試験は小テストと同程度、同形式の問題が出題される。 RESPONや小テストで不正行為があった者には単位を与えない。期末試験の不正は懲戒規定に従う。
教科書・指定図書	教科書:使用しない 参考書:必要に応じて講義中に指示する
履修上の留意点	高校までの生物学履修を前提としない。ただし、中学卒業程度の科学的知識が必要である。理系科目の未履修者に向けた解説を行う。ただし、講義では数式や化学式を用いるし、また最先端の研究成果も紹介する。これらは理解を助ける参考情報なので暗記する必要はないが、理系科目を履修していないからといってその理解を諦めてはいけない。 大森担当の生物学ⅠとⅡの両方を履修することを強く望む。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZC107
講義コード	2DE000120
講義名	社会学Ⅰ
担当者名	奥井　智之
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E
備考	

科目の趣旨	社会学は社会諸科学の一専門領域であるとともに、社会諸科学を研究する上での基礎的な知見としての存在意義を有している。本学の全学共通科目の「社会学Ⅰ」では学生が、社会諸現象(経営・経済・法など)を分析する上での基礎的な諸概念を修得することを目的とする。また社会諸現象全般について、学生の幅広い関心を喚起することも講義の目的の一つである。
授業の内容	社会学への招待(Invitation to Sociology)──。本講は、社会学の初心者に、社会学の考え方の基礎的なトレーニングを行う科目である。 自己は、他者との関係のネットワークのなかで生きている。そのような関係のネットワークを冷徹に、真摯に、そして優美に解き明かそうというのが、社会学である。 本講では、さまざまな題材を扱いながら、学生諸君に、社会学的思考の面白さを感じていただければと思っている 学業の目的は2つ。1つは職業生活の準備であり、いま1つは自分自身の探求である。社会学は、そのどちらにも役立つと講師は確信している。 本講は──磨き続けるならば、一生役立つ知見となりうる──社会学に、学生諸君を招待する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本講では、①社会学の基礎的な概念の提示、②代表的な理論の紹介、③日本におけるアクチュアルな問題の検討、という3つのレベルで授業を展開する。 ①は、社会学の考え方(sociological thinking)を修得するための基礎を築くことである。②は、その基盤の上で、社会学が、現実の諸問題をどのように分析するかの紹介である。③は、より主体的に、自分が生きている社会の諸問題について考察することである。 これらのうちで、①が主目標で、②と③を通じて、より幅広い知見を修得することが副次的目標である。
授業形態	講義
授業方法	授業は、講義と質疑応答を中心とする。一方的な講義にならないように、授業中にさまざまな課題を随時出す。 本講では、授業内容と密接に関わる映像(映画の一部など)を、授業中に視聴する。これは、受講者の間でのコンテンツ(各回の授業の中心的な内容)の共有を目的とするものである。 これを含めて、毎回、あるテーマについて、受講者全員で深く掘り下げる機会──テーマ学習と称する──を設ける予定である。
授業計画	【第1回】はじめに──社会学の目指すもの(授業の目標を提示し、学修の方法を指示する) 【第2回】社会──人々の相互作用 (「社会の何であるか」を講義する。『マイフェアレディ』) 【第3回】行為──行為の四類型 (ウェーバーの四類型を中心に、行為の諸相を講義する。『ポセイドンアドベンチャー』) 【第4回】集団──組織で生きること (アソシエーションとコミュニティの二類型を提示する。『シン・ゴジラ』) 【第5回】家族──人間の再生産 (家族はいかなる機能を果たしているかを探究する。『万引き家族』) 【第6回】都市──光と闇 (「都市の何であるか」を概説する。『ブレードランナー』) 【第7回】逸脱──自分を裁く (規範について学んだ上で、逸脱について学ぶ。『十戒』) 【第8回】コミュニケーション──地球村 (パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーションなど、コミュニケーションの諸類型を学ぶ。『言の葉の庭』) 【第9回】知識──魔法の杖 (人間にとって知識の何であるかを概括的に学ぶ。『アイヒマンの後継者』) 【第10回】宗教──生活のリズム (宗教の現代的様相を問題にする。『千と千尋の神隠し』) 【第11回】ジェンダ──文化の範疇 (自然の範疇と文化の範疇としての性別を区別する。『プライドと偏見』) 【第12回】医療と福祉──社会的な援護 (医療と福祉が重複する概念であることを学ぶ。『赤ひげ』) 【第13回】現代社会──国際・情報・環境 (近代社会の現代的変容について学ぶ。『ダーウィンの悪夢』)
事前・事後学修	授業は、上記の授業計画に沿って、順次展開される。受講者は、当日の授業内容について、指定教材を用いて、十分に予習しておくこと。合わせて、授業中疑問に思ったことは、授業後、面談や電子メールを通じて、教員に積極的に問い合わせること。 また、レポート課題があった場合には、質量ともに充実したレポートを作成し、提出すること。 本講では、社会学的思考の修得を目標としている。したがって、授業後は、その思考を、受講者自身が、実地に展開することが期待される。講師が、授業中に紹介する文献等に、積極的に手を伸ばすことも、その一助となろう。
成績評価方法・基準	以下の①~③の合算で評価する。 ①テーマ学習:授業中に、小課題を出し、その場で提出してもらう。(2点×13回=26点) ②中間レポート:授業の中間に、1回、短めのレポートを提出してもらう。(24点) ③学期末に、試験もしくはレポートのかたちで、最終的な学修のチェックを行う。(50点)

	③で、期末試験を行うか、期末レポートを提出してもらうかは、状況に応じて判断する。 評価は、学生諸君が、社会学的思考を、どれだけ自分のものにしているかを基準とする。
教科書・指定図書	[教科書]奥井智之『社会学　第2版』(東京大学出版会、2014年) [指定図書]ジグムント・バウマン著、奥井智之訳『コミュニティ』(筑摩書房、2008年) [参考図書]奥井智之『社会学の歴史』(東京大学出版会、2010年)
履修上の留意点	最後に、本講のモットー(標語)を掲げる。 啓蒙とは、未成年の状態から自ら脱することである。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZC108
講義コード	2DE000220
講義名	社会学Ⅱ
担当者名	奥井　智之
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E
備考	

科目の趣旨	「社会学Ⅱ」では、社会学の基礎的な諸概念を現実の社会諸現象に適用するトレーニングを行う。より具体的には講師が、現代社会のアクチュアルな諸問題をめぐる講義を行う。そのことを通じて学生が、現実の諸問題について社会学的にアプローチすることができるように導く。
授業の内容	社会学への招待(Invitation to Sociology)――。社会学Ⅰと同じく、本講も、社会学の初学者に、社会学の考え方のトレーニングを行う科目である。 自己は、他者との関係のネットワークのなかで生きている。そのような関係のネットワークを冷徹に、真摯に、そして優美に解き明かそうというのが、社会学である。 本講では、さまざまな題材を扱いながら、学生諸君に、社会学的思考の面白さを感じていただければと思っている。 学業の目的は2つ。1つは職業生活の準備であり、いま1つは自分自身の探求である。社会学は、そのどちらにも役立つと講師は確信している。 本講は――磨き続けるならば、一生役立つ知見となりうる――社会学に、学生諸君を招待する。 社会学Ⅱでは、社会学が、どのように芽生え、育ち、根づき、枝を張り、花を咲かせ、ついには巨木になったか――社会学の歴史――をたどりながら、「社会学的思考の何であるか」を学ぶことを目標とする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	授業は、さまざまな社会学説について、①学説が生まれた時代的背景、②学説を生み出した社会学者の個人史、③学説の内容という3つの側面を講じながら、多面的に展開していく。これらを通じて、社会学の基本的な概念を修得することが、本講の主目標である。 同時に、本講では、学生諸君に、さまざまな思考のパターンを学んでもらいたいと考えている。社会学説そのものを学ぶことよりも、ものを考える習慣を身につけることが、よほど重要である。さまざまな社会学説の創造の過程をたどることで、〈考えること〉に親しむことが、本講の副次的目標である。
授業形態	講義
授業方法	授業は、講義と質疑応答を中心とする。一方的な講義にならないように、授業中にさまざまな課題を随時出す。 本講では、授業内容と密接に関わる映像(映画の一部など)を、授業中に視聴する。これは、受講者の間でのコンテンツ(各回の授業の中心的な内容)の共有を目的とするものである。 これを含めて、毎回、あるテーマについて、受講者全員で深く掘り下げる機会――テーマ学習と称する――を設ける予定である。
授業計画	【第1回】はじめに――社会学の歴史とは(授業方法・授業計画などを確認するとともに、本講の目標を提示) 【第2回】前史――アリアドネの糸 (社会学の誕生にいたる人類の知的遍歴を確認する。『2001年・宇宙の旅』) 【第3回】コント――創始者の悲哀 (フランス革命期に生まれた社会学の存在理由を確認する。『ダントン』) 【第4回】マルクスとエンゲルス――思想の革命家 (社会に対する批判的言説の源流にあたるマルクスとエンゲルスの主張を紹介。『タイタニック』) 【第5回】フロイト――少数者の運命 (社会学者ではないものの、社会学に多大な影響を及ぼしてきたフロイトの学説を概説。『チャーリーとチョコレート工場』) 【第6回】ジンメル――繊細な観察者 (アカデミックな社会学の創業者の一人であるジンメルの学説を概観。『ベルリン・天使の詩』) 【第7回】デュルケーム――社会の伝道師 (アカデミックな社会学の創業者の一人であるデュルケームの学説を概観。『ゾラの生涯』) 【第8回】ウェーバー――自由の擁護者 (アカデミックな社会学の創業者の一人であるウェーバーの学説を概観。『キャピタリズム』) 【第9回】シカゴ学派――野外の研究者 (アメリカに固有の社会学の濫觴にあたるシカゴ学派の学説を紹介。『怒りの葡萄』) 【第10回】パーソンズ――冷徹な分析家 (第二次世界大戦後のアメリカ社会学の大立者であるパーソンズの学説を紹介。『ゴジラ』) 【第11回】現代アメリカ社会学――オデュッセイアの旅 (1960年代以降のアメリカ社会学のマルチパラダイム状況を概観。『フルメタル・ジャケット』) 【第12回】現代ヨーロッパ社会学――シシュポスの石 (1960年代以降のヨーロッパ社会学のマルチパラダイム状況を概観。『パリ20区・僕たちのクラス』) 【第13回】日本社会学――ヤヌスの顔 (明治以降の日本の知的状況を概観するとともに、そのなかでの社会学の位置を確認。『阿賀に生きる』)
事前・事後学修	授業は、上記の授業計画に沿って、順次展開される。受講者は、当日の授業内容について、指定教材を用いて、十分に予習しておくこと。合わせて、授業中疑問に思ったことは、授業後、面談や電子メールを通じて、教員に積極的に問い合わせること。 また、レポート課題があった場合には、質量ともに充実したレポートを作成し、提出すること。 本講では、社会学的思考の修得を目標としている。したがって、授業後は、その思考を、受講者自身が、実地に展開することが期待される。講師が、授業中に紹介する文献等に、積極的に手を伸ばすことも、その一助となろう。

成績評価方法・基準	以下の①～③の合算で評価する。 ①テーマ学習：授業中に、小課題を出し、その場で提出してもらう。(2点×13回＝26点) ②中間レポート：授業の中間に、1回、短めのレポートを提出してもらう。(24点) ③学期末に、試験もしくはレポートのかたちで、最終的な学修のチェックを行う。(50点) ③で、期末試験を行うか、期末レポートを提出してもらうかは、状況に応じて判断する。 評価は、学生諸君が、社会学的思考を、どれだけ自分のものにしているかを基準とする。
教科書・指定図書	[教科書]奥井智之『社会学の歴史』(東京大学出版会、2010年) [指定図書]ジグムント・バウマン著、奥井智之訳『コミュニティ』(筑摩書房、2008年) [参考図書]奥井智之『社会学　第2版』(東京大学出版会、2014年)
履修上の留意点	最後に、本講のモットー(標語)を掲げる。 啓蒙とは、未成年の状態から自ら脱することである。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA105
講義コード	2FA000920
講義名	国際関係論Ⅰ
担当者名	小池　求
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E/L
備考	

科目の趣旨	国際関係論は国際社会の現象を対象として、紛争・戦争の歴史や構造を解明し、協力による平和の追求を目的とする学問である。人間の営みには連続性があり、歴史を知らずして、現在や未来の国際関係を語ることはできない。「国際関係論Ⅰ」は、国際関係を動かし、その歴史を形成する原理・メカニズムを中心に国際関係の動きを見ていく。とりわけ、グローバリゼーションの展開する中で、国際関係がどのように変動してきたかを解明していく。
授業の内容	本講義は2部構成になっています。第1部では、17世紀から冷戦終結までを対象に以下の5 つの点に注目して国際社会の変遷について学びます。①国際社会の変遷を考える前提として、近代以前の国際秩序の特徴と近代国家の成立過程がどのようなものであったか。②各時期の国際社会を維持していたメカニズムがどのようなものであったか。③国際社会の特徴を考えるうえで重要な秩序がどのような原因で動揺・解体したか。④その原因がどう克服されて、国際社会の新しい秩序が形成されていったか。⑤国際関係を理解するうえで重要な概念がどのような時代背景で成立したのか。第2部では国際関係を考えるうえで重要な3つの理論である、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムの成立背景とその基本的な考え方について学びます。
科目の到達目標（理解のレベル）	私たちの日常では、世界各地で起こっている事件がテレビや新聞、ネットを通じて日々報道されています。しかし、今日起きている国際的な問題の原因がそれ以前の歴史的な背景に基づく場合が多くあります。本講義では、受講生が17世紀から冷戦終結までの国際社会の歴史的変遷を学ぶことを通じて、以下の2点をできるようになることを目標とします。①国際関係において重要な歴史的事象を理解するために必要な概念や背景知識、理論を学び、それらを自らの言葉で説明できる。②現在の国際情勢を歴史的な観点から考え、議論できるようになる。
授業形態	講義
授業方法	授業は講義形式で、基本的には対面型で行われます。講義ではパワーポイントを利用します。受講生にmanabaにアップされるレジュメを印刷して持ってきてもらい、授業中にレジュメにある空欄を埋める作業を行ってもらいます。授業中には関連する資料を分析したり、responを使ったクイズなどを実施し、それにより出席を確認します。また、授業後にmanabaを利用した確認テストなどを行います。これらを通じて、受講生が学んだことに対する理解度のチェックと振り返りをする機会を設けるつもりです。
授業計画	【第1回】 ガイダンス：国際関係論とはどのような学問か？ 内容：授業運営や評価に関する説明をしたうえで、国際関係論を学ぶための基本的な観点を学ぶ。 第1部　国際社会の歴史的展開：国際関係を理解する概念の歴史的背景を知る。 【第2回】 東アジアの国際秩序：朝貢体制と外部世界 内容：中国王朝を中心とする地域秩序がどのようなものであり、外部世界との関係はどのようなものであったのかを考える。 【第3回】 ヨーロッパの国際秩序の再編：ウェストファリア体制に基づく近代国家間関係の成立 内容：対等な国家間関係により特徴づけられるヨーロッパの国際秩序はどのように成立したのかを考える。 【第4回】 勢力均衡とナショナリズム：ウィーン体制下における大国間の協調と動揺 内容：ヨーロッパの国際秩序の基本概念であった勢力均衡が成立してから動揺していく過程を考える。 【第5回】 西洋的秩序の国際化：西洋列強の植民地獲得競争と東アジア国際秩序の解体 内容：ヨーロッパの国際関係が世界に拡大していく過程を考える。 ＊第1回リアクションペーパーの課題 【第6回】 第一次世界大戦：グローバル化した戦争と国際連盟の成立 内容：第一次世界大戦の特徴と戦後秩序が形成されていく過程を考える。 【第7回】 第二次世界大戦：国際経済体制の不備と集団安全保障の機能不全 内容：第二次世界大戦の原因、特徴、戦後秩序について考える。 【第8回】 冷戦の勃発：イデオロギー対立と植民地の独立 内容：1970年前後まで国際情勢の変化に注目しながら冷戦の特徴について考える。 【第9回】 デタントから冷戦終結：米ソ関係とアジア冷戦の重点の変化 内容：1970年代に起きた冷戦構造の変化は米ソ関係、ヨーロッパ、アジア地域にどのような影響を与えたのかを考える。 ＊第2回リアクション・ペーパーの課題 第2部　国際関係の理論：国際関係を理解するための考え方を知る。 【第10回】 リアリズムを考える：パワーと国益 内容：リアリズムから見える国際関係はどのようなものかを考える。 【第11回】 リベラリズムを考える：対立と協調 内容：リベラリズムから見える国際関係はどのようなものかを考える。 【第12回】 コンストラクティヴィズムを考える：規範と制度 内容：コンストラクティヴィズムから見える国際関係はどのようなものかを考える。 ＊第3回リアクション・ペーパーの課題発表

	【第13回】 授業の総括：国際関係の歴史と理論を振り返る。 内容：主権国家の成立から冷戦終結までの国際関係の歴史と3つの理論の登場背景や基本的考え方を総括する。
事前・事後学修	事前学修：①事前にmanabaにアップロードされるレジュメを読み、わからない用語などを事典やネットなどで調べてみましょう。②高校の社会系の教科書や指定図書の該当箇所などを読み、各回が対象とする時代背景と基本事項を把握しておくことが望ましいです。 事後学修：授業の内容の振り返りを行い、確認テストを受けること。確認テスト提出期限後、確認テストの解説動画をアップするので、視聴して解答を確認すること。わからなかった箇所などがあれば、指定図書や各回で示す参考文献リストにある書籍の該当箇所を読んで理解し、自分なりに整理することがより深い理解につながります。何か質問があれば、メールやオフィスアワーで随時対応します。
成績評価方法・基準	①期末レポート（60%）：100点満点×0.6で算出。レポートの概要は授業で発表します。 ②確認テスト（10%）：方法）授業レジュメを見ながら、確認テストに解答する。評価）減点式＝初回：10点（11回実施。1回行わないごとにマイナス1点。正解が10問中5問以下の場合はマイナス0.5点） ③リアクション・ペーパー（30%）：1回10点（最大）×3回（第5回、第9回、第12回に課題発表） 以上、期末レポート、確認テスト、リアクション・ペーパーを合計して総合的に評価します。
教科書・指定図書	（教科書） 使用せず。事前にmanabaにアップするレジュメを使用します。 （指定図書：授業レジュメを作成する際に主に参考とするもの） 小川浩之、板橋拓己、青野利彦著『国際政治史―主権国家体系のあゆみ―』有斐閣、2018年 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ【新版】』有斐閣、2015年 （参考図書） 君塚直隆『近代ヨーロッパ国際政治史』有斐閣、2010年
履修上の留意点	①レジュメを事前にmanabaにアップするので、受講生は印刷して持参してください。 ②スクリーンの写真撮影は厳禁。 ③欠席した授業の次の回までに受講が難しい合理的な理由（病気、忌引き、就活（研修は含まない）、教育実習、部活など）があり、欠席する／したという連絡があれば、公欠扱いにするかどうか検討します（必ず公欠扱いになるわけではありません）。なお、公欠扱いになったとしても、確認テストの代替課題を提出しない場合は減点となります。 ④respon課題に解答していない場合、確認テストの受験資格はありません。 ⑤課題提出は時間厳守です。直前にアップしようとすると、回線が混み合ったりして提出ができないことがあります。時間に余裕をもって提出してください。 ⑥何かわからないことがあれば質問してください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA106
講義コード	2FA001020
講義名	国際関係論Ⅱ
担当者名	小池　求
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E/L
備考	

科目の趣旨	国際関係論は国際社会の現象を対象として、紛争・戦争の歴史や構造を解明し、協力による平和の追求を目的とする学問である。国際社会は、現在大きな変動期を迎えており、従来の国際関係諸現象を理解するための基本概念にもその変化が多く見られる。「国際関係論Ⅱ」は国民国家システム、国家安全保障、国際的相互依存という三つの側面における変容を考察し、諸概念の再検討を行うことによって、国際関係に対立する理解力や分析力を養う。異なった民族、異質な文化・価値観との対立を乗り越え、共生の道を模索し、平和の研究を深めていく。
授業の内容	現在の国際社会において、地域紛争や核問題などの安全保障に関する問題から、貿易や環境など経済・社会に関する問題までさまざまな問題が起きています。各国や国連などの国際機関、企業、NGOなどはそれぞれの問題関心や利害から、それらの問題に関わっています。本講義は現在の国際関係を考える点として、2つの問いを立てています。第一に国際社会に影響力をもつ行為主体として、国家、国際機関、多国籍企業、NGOを取り上げ、それらの特徴と国際社会における役割について考えます。第二に現在の国際社会においてどのような問題があり、それに対して国際社会がどのような取り組みを行っていて、そこにどのような課題があるのか。この2つの問いを考えていくことを通じて、現在の国際情勢についての理解を深めていきたいと思います
科目の到達目標（理解のレベル）	私たちの日常では、世界各地で起きている事件がテレビや新聞、ネットを通じて報道されて、さまざまな情報が氾濫しています。本講義では、①国際社会で起きている問題に関与する各行為主体の特徴、②国際社会におけるさまざまな問題の歴史的な背景や現状、課題などをトピックごとに学んでいきます。その学びを通じて、現在国際社会で起きている問題を理解するために必要な概念や背景知識、観点を習得し、それらを用いて現在の国際情勢を自ら分析し説明できるようになることを目的とします。
授業形態	講義
授業方法	授業は講義形式で行われます。講義ではパワーポイントを利用します。受講生にmanabaにアップされるレジュメを印刷して持ってきてもらい、授業中にレジュメにある空欄を埋める作業を行ってもらいます。授業中には関連する資料を分析したり、responを使ったクイズなどの実施を考えています。また、授業後にmanabaを利用した確認テストなどを行います。これらを通じて、受講生が学んだことに対する理解度のチェックと振り返りをする機会を設けるつもりです。
授業計画	【第1回】 ガイダンス：国際社会の行為主体と問題群を知る。 内容：国際関係の歴史を概観し、国際社会における行為主体と国際問題についての基本的なイメージを持つ。 第1部 国際関係を担う行為主体とは？ 【第2回】 国家：要件と政治体制 内容：主権国家の特徴とは何か。国家の要件と政治体制から考える。 【第3回】 国際組織：国際連合とはどのような組織か 内容：国際連合が国際社会において果たしている役割やその特徴、問題点を理解する。 【第4回】 地域共同体の可能性と限界：EUとASEANの試み 内容：地域的な国際機関が国際社会において果たしている役割やその特徴、問題点を理解する。 【第5回】 非国家主体：多国籍企業とNGO 内容：国際社会における非国家主体の活動原理と問題点、国際規範との関係を理解する。 ＊第1回リアクション・ペーパーの課題を示す。 第2部 国際社会における諸問題（現在の国際問題） 【第6回】 国際経済：自由貿易をめぐる国際的枠組みの変遷 内容：国際経済に関するレジームの成立過程、特徴、問題点を考える。 【第7回】 環境問題：環境汚染対策から脱炭素社会へ 内容：環境問題に関するレジームの成立過程、特徴、問題点を考える。 【第8回】 開発援助：南北問題と持続可能な開発目標 内容：開発援助に関するレジームの成立過程、特徴、問題点を考える。 ＊第2回リアクション・ペーパーの課題を示す。 【第9回】 核問題：核管理と核廃絶をめぐる議論 内容：核管理をめぐるレジームの形成過程、特徴、問題点を考える。 【第10回】 地域紛争：民族問題と内戦 内容：地域紛争の発生メカニズムを民族問題を中心に考える。 【第11回】 平和構築：平和維持活動と紛争関与の論理の変化 内容：国際社会による地域紛争への介入論理と紛争予防のための措置が何かを考える。 【第12回】 難民問題とポピュリズム：地域紛争と国内政治の連関 内容：難民発生のメカニズムと難民問題が国際社会に与える影響を考える。 ＊第3回リアクション・ペーパーの課題を示す。

	【第13回】 まとめ:国際社会の現状について振り返る 内容:国際社会における行為主体と問題群を整理し、国際社会の現状を考える。
事前・事後学修	事前学修:①事前にmanabaにアップロードされるレジュメを読み、わからない用語などを事典やネットなどで調べてみましょう。②高校の社会系の教科書や指定図書などの該当箇所などを読み、各回が対象とする時代背景と基本事項を把握しておくことが望ましいです。 事後学修:授業の内容の振り返りを行い、確認テストを受けること。確認テスト提出期限後、確認テストの解説動画をアップするので、視聴して解答を確認すること。わからなかった箇所などがあれば、指定図書や各回で示す参考文献リストにある書籍の該当箇所を読んで理解し、自分なりに整理することがより深い理解につながります。何か質問があれば、メールやオフィスアワーで随時対応します。
成績評価方法・基準	①期末レポート(60%):100点満点×0.6で算出。レポートの概要については授業で発表します。 ②確認テスト(10%):方法)授業レジュメを見ながら、確認テストに解答する。評価)減点式=初回:10点(11回実施。1回行わないごとにマイナス1点。正解が10問中5問以下の場合はマイナス0.5点) ③リアクション・ペーパー(30%):1回10点(最大)×3回(第5回、第9回、第12回で課題発表) 以上、期末レポート、確認テスト、リアクション・ペーパーを合計して総合的に評価します。
教科書・指定図書	(教科書) 使用せず。事前にmanabaにアップするレジュメを使用します。 (指定図書) 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ【新版】』有斐閣、2015年 滝田健治、大芝亮、都留康子編『国際関係学【第3版】』有信堂、2021年
履修上の留意点	①レジュメを事前にmanabaにアップするので、受講生は印刷して持参してください。 ②スクリーンの写真撮影は厳禁。 ③授業日の翌日までに受講が難しい合理的な理由(病気、忌引き、就活(研修は含まない)、教育実習など)があり、欠席する/したという連絡があれば、公欠扱いにするかどうか検討します(必ず公欠扱いになるわけではありません)。なお、公欠扱いになったとしても、確認テストの代替課題を提出しなければ、減点となります。 ④respon課題に解答していない場合、確認テストの受験資格はありません。 ⑤課題提出は時間厳守です。直前にアップしようとすると、回線が混み合ったりして提出ができないことがあります。時間に余裕をもって提出してください。 ⑥何かわからないことがあれば質問してください。 ⑦必要条件ではありませんが、国際関係論1を受講していることが望ましいです。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA109
講義コード	2FA001100
講義名	中国研究 I
担当者名	小池　求
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/U/D
備考	

科目の趣旨	「中国研究」は、中国に関心を抱き、中国をもっと知りたい学生を対象とする案内コースである。「中国研究I」では、現在中国が直面している国内問題や新たに登場した現象を取り上げ、中国の政治・経済・社会構造について学ぶ。その際に、各問題の現状を知るだけではなく、その歴史的な背景についても考える。現代中国に関する基礎知識や観点を習得することを通じて、中国理解を深める。
授業の内容	中国は改革開放政策を開始して以降、紆余曲折がありながらも、経済成長を続けています。それが中国の政治、社会、対外関係など多くの領域における変化をもたらしています。本講義では、そのような現在の中国の変化に関して、いくつかの重要な事例を取り上げ、その歴史的な背景と特徴、現状について考えていきます。第1部では、経済成長のメカニズムと格差社会に関連する事例を扱います。第2部では、市民社会、民族問題、インターネットなどの政治と社会との関係、中国の大国化がもたらした国内政治や対外関係の変化に関する事例を扱います。それらの事例を検討することで、現代中国がどのような特徴を持ち、どのような問題を抱えているのかについて多面的に考えてきたいと思います。
科目の到達目標 (理解のレベル)	本講義の到達目標は、受講生が現代中国を理解する際に重要となる事例を学ぶことを通じて以下の3つのことができるようになることです。①現代中国においてどのような問題が起きているのかを知る。②各事例を理解するために必要な知識や分析視角を習得する。③それらの知識や分析視角を使い、各事例を関連づけながら、現代中国がどのような特徴を持ち、どのような問題を抱えているのかについて考察し、自らの言葉で説明できるようになることにあります。
授業形態	講義
授業方法	授業は講義形式で行われます。講義ではパワーポイントを利用します。受講生にmanabaにアップされるレジュメを印刷して持ってきてもらい、授業中にレジュメにある空欄を埋める作業を行ってもらいます。授業中には関連する資料を分析したり、responを使ったクイズなどを実施したりしたいと考えています。また、授業後にmanabaを利用した確認テストなどを行います。これらを通じて、受講生が学んだことに対する理解度のチェックと振り返りをする機会を設けるつもりです。
授業計画	【第1回】 ガイダンス 内容：授業の概要、成績評価などを説明したうえで、中国に関する基本情報を整理する。 【第2回】 中国共産党 内容：中国を統治する中国共産党はどのような組織なのかを考える。 【第3回】 経済発展 内容：中国はどのように経済発展を達成したのか。中国の経済政策の特徴と問題点に注目して考える。 【第4回】 格差社会 内容：中国の経済発展はなぜ格差社会を生んでしまったのか。そのメカニズムを考える。 【第5回】 農民工と戸籍 内容：都市で生きる農民出身者の境遇から格差問題の現状を考える。 ＊第1回リアクション・ペーパーの課題を発表します。 【第6回】 学歴社会 内容：教育は平等を生むのかという観点から学歴社会の背景を考える。 【第7回】 市民社会 内容：NGOはどこまで活動できるかという課題から中国における政治と社会の関係を考える。 【第8回】 民族問題 内容：中国に住む少数民族はどのような問題に直面しているかという課題から少数民族の現状を考える。 【第9回】 メディア・インターネット 内容：なぜ世論は管理されるのかという問いを立て、政府・党と社会との関係の特徴を考える。 ＊第2回リアクション・ペーパーの課題を発表します。 【第10回】 中国の歴史観と反日 内容：中国の歴史認識に注目し、中国ナショナリズムの特徴を考える。 【第11回】 中国の夢 内容：大国となった中国は何を目指しているのか。中華民族の偉大な復興をキーワードに考える。 【第12回】 中国と国際社会 内容：「一帯一路」政策の目的は何か。国際社会の反応はどのようなものか。中国が作ろうとする新しい秩序の特徴と問題点を考える。 ＊第3回リアクション・ペーパーの課題を発表します。 【第13回】 まとめ：現代中国を総括する。 内容：中国の現状を理解したうえで見えてくる中国イメージはどのようなものかを考える。

事前・事後学修	事前学修：①事前にmanabaにアップロードされるレジュメを読み、わからない用語などを書籍やネットなどで調べてみましょう。②指定図書・参考図書の該当箇所、また授業で紹介する書籍などを読み、各回が対象とする時代背景と基本事項を把握しておくことが望ましいです。③事前に授業内容に関する新聞記事を配布するので、それを読んでくること。 事後学修：授業の内容の振り返りを行い、確認テストを受けること。確認テスト提出期限後、確認テストの解説動画をアップするので、視聴して解答を確認すること。わからなかった箇所などがあれば、各回で示す参考文献リストにある書籍の該当箇所を読んで理解し、自分なりに整理することがより深い理解につながります。何か質問があれば、メールやオフィスアワーで随時対応します。
成績評価方法・基準	①期末レポート（60%）：100点満点×0.6で算出。レポートの概要については第12回の授業で発表します。 ②確認テスト（10%）：方法）授業レジュメを見ながら、確認テストに解答する。評価）減点式＝初回：10点（11回実施。1回行わないごとにマイナス1点。正解が10問中5問以下の場合はマイナス0.5点） ③リアクション・ペーパー（30%）：1回10点（最大）×3回（第5回、第9回、第12回で課題発表） 以上、期末レポート、確認テスト、リアクション・ペーパーを合計して総合的に評価します。
教科書・指定図書	（教科書） 使用せず。事前にmanabaにアップするレジュメを使用します。 （指定図書） 川島真・小嶋華津子編著『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年 園田茂人編『はじめて出会う中国〔改訂版〕』有斐閣、2022年 （参考図書：授業のレジュメを作成する際に主に参考にする書籍です） 藤野彰編著『現代中国を知るための52章【第6版】』明石書店、2016年 毛里和子・園田茂人編『中国問題―キーワードで読み解く―』東京大学出版会、2012年
履修上の留意点	①レジュメを事前にmanabaにアップするので、受講生は印刷して持参してください。 ②スクリーンの写真撮影は厳禁。 ③授業日の翌日までに受講が難しい合理的な理由（病気、忌引き、就活（研修は含まない）、教育実習など）があり、欠席する／したという連絡があれば、公欠扱いにするかどうか検討します（必ず公欠扱いになるわけではありません）。なお、公欠扱いになったとしても、確認テストの代替課題を提出しない場合は減点となります。 ④課題提出は時間厳守です。直前にアップしようとすると、回線が混み合ったりして提出ができないことがあります。時間に余裕をもって提出してください。 ⑤何かわからないことがあれば質問してください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZA110
講義コード	2FA001200
講義名	中国研究Ⅱ
担当者名	小池　求
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/U/D
備考	

科目の趣旨	「中国研究」は、中国に関心を抱き、中国をもっと知りたい学生を対象とする案内コースである。現在の中国を理解するには、中国の現代史を知ることが必要となる。なぜなら現在の中国は国際環境や国内情勢の変化に対して講じられたさまざまな試行錯誤の結果、歴史的に形成されたと考えられるからである。「中国研究Ⅱ」では、1945年以降の政治・外交を中心に、中国の歴史的な歩みを学ぶ。
授業の内容	本講義における主要な問題関心は、アジア太平洋戦争が終結した1945年以降の中国と台湾の歴史的な歩みを学びながら、今日の中国や台湾の政治・経済・社会体制がどのように形成されてきたのかを理解することである。具体的には、①中国が建国後社会主義化を選んだ理由と1980年代以降市場経済化を選択した国内・対外要因がどのようなものであったのか。②台湾の戦後政治の特徴である国民党の一党支配から民主化に至る過程がどのようなものであり、その変化に国内・対外要因がどのように関わっていたのか。この2つの問題について考えることで、中国と台湾の現代史における特徴を理解し、そのうえで両者の共通点や相違点についても考えてみたい。
科目の到達目標（理解のレベル）	本講義では、受講生が中国および台湾の現代史（1945年から2000年ごろまで）を学ぶことを通じて、中国の社会主義化と市場経済化、台湾における国民党の一党支配から民主化への流れについて、それぞれの展開過程と特徴を理解できるようになることを目的とする。その学びを通じて、現在の中国および台湾について歴史的な観点から考えるための知識と分析視角を習得し、自分の言葉で説明できるようになることである。また、中国と台湾情勢を比較して考えることができるようになることを目指す。
授業形態	講義
授業方法	授業は講義形式で行われます。講義ではパワーポイントを利用します。受講生にmanabaにアップされるレジュメを印刷して持ってきてもらい、授業中にレジュメにある空欄を埋める作業を行ってもらいます。授業中には関連する資料を分析したり、respon を使ったクイズを実施したりしたいと考えています。また、授業後にmanabaを利用した確認テストなどを行います。これらを通じて、受講生が学んだことに対する理解度のチェックと振り返りをする機会を設けるつもりです。
授業計画	【第1回】 ガイダンス：中国と台湾の戦後の状況を確認する。 内容：授業運営や評価方法などを確認したうえで、アジア太平洋戦争後の中国・台湾に関する基本情報を確認する。 【第2回】 国共内戦と「2つの中国」 内容：なぜ国共内戦が起き、分裂国家となったのかを理解する。 第1部　中国の社会主義化の歴史 【第3回】 朝鮮戦争と中国の社会主義化 内容：中国が社会主義を選択した理由を考える。 【第4回】 中ソ対立：急進化する中国と国際情勢 内容：中ソ対立が中国の国内政治・対外関係にどのような影響を与えたのかを考える。 【第5回】 文化大革命：孤立する中国 内容：なぜ文化大革命が起きたのかを中国の国内・国際情勢から考える。 ＊第1回リアクション・ペーパーの課題を発表します。 第2部　改革開放と中国 【第6回】 日中国交正常化の過程：民間関係から国交樹立へ 内容：日中国交正常化において何が問題となったのかを考えながら、そのプロセスを理解する。 【第7回】 改革開放政策：社会主義と市場経済化との関係 内容：改革開放と計画経済との関係がどのように調整されて、経済成長が目指されたのかを考える。 【第8回】 天安門事件：民主化の挫折と国際社会からの制裁 内容：中国における政治改革の特徴と天安門事件が起きたメカニズムを理解する。 【第9回】 進む市場経済化：WTO加盟に向けた動きと共産党の変容 内容：天安門事件後、中国の市場経済化における論点が何であり、また市場経済化が共産党にどのような影響を与えたのかを考える。 ＊第2回リアクション・ペーパーの課題を発表します。 第3部　台湾：中国化から台湾化へ 【第10回】 開発独裁の時代：継続する「内戦」と台湾の「中国」化 内容：国民党が台湾に逃れて以降、どのような政治体制を構築し、台湾社会を治めたのかを理解する。 【第11回】 米中和解の衝撃：正統性の動揺と党外勢力の登場 内容：なぜ民主化運動が起きたのか、その原因と特徴を考える。 【第12回】 民主化の先：台湾アイデンティティと中台関係 内容：台湾において民主主義が定着する中で、政権交代と中台関係がどのように関連しているのかを理解する。 ＊第3回リアクション・ペーパーの課題を発表します。

	【第13回】 まとめ:中国と台湾の現代史を振り返る。 内容:授業全体を総括しながら、中国と台湾の現代史の特徴を考える。
事前・事後学修	事前学修:①事前にmanabaにアップされるレジュメを読み、わからない用語などを書籍やネットなどで調べてみましょう。②高校の歴史教科書や指定図書の該当箇所などを読み、各回が対象とする時代背景と基本事項を把握しておくことが望ましいです。 事後学修:授業の内容の振り返りを行い、確認テストを受けること。確認テスト提出期限後、確認テストの解説動画をアップするので、視聴して解答を確認すること。わからなかった箇所などがあれば、指定図書や各回で示す参考文献リストにある書籍の該当箇所を読んで理解し、自分なりに整理することがより深い理解につながります。何か質問があれば、メールやオフィスアワーで随時対応します。
成績評価方法・基準	①期末レポート(60%):100点満点×0.6で算出。レポートの概要については第12回の授業で発表します。 ②確認テスト(10%):方法)授業レジュメを見ながら、確認テストに解答する。評価)減点式=初回:10点(11回実施。1回行わないごとにマイナス1点。正解が10問中5問以下の場合はマイナス0.5点) ③リアクション・ペーパー(30%):1回10点(最大)×3回(第5回、第9回、第12回で課題発表) 以上、期末レポート、確認テスト、リアクション・ペーパーを合計して総合的に評価します。
教科書・指定図書	(教科書) 使用せず。事前にmanabaにアップするレジュメを利用します。 (指定図書) 久保亨著『社会主義への挑戦―1945-1971』(シリーズ中国近現代史④)岩波書店、2011年 高原明生・前田宏子著『開発主義の時代―1972-2014』(シリーズ中国近現代史⑤)岩波書店、2014年 川島真・小嶋華津子編著『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年 (参考図書) 若林正丈『台湾―変容し躊躇するアイデンティティ―』筑摩書房、2001年
履修上の留意点	①2000年代以降の中国に関心がある学生は「中国研究I」を履修してください。 ②レジュメを事前にmanabaにアップするので、受講生は印刷して持参してください。 ③スクリーンの写真撮影は厳禁。 ④授業日の翌日までに受講が難しい合理的な理由(病気、忌引き、就活(研修は含まない)、教育実習など)があり、欠席する/したという連絡があれば、公欠扱いにするかどうか検討します(必ず公欠扱いになるわけではありません)。なお、公欠扱いになったとしても、確認テストの代替課題を提出しなければ、減点となります。 ⑤課題提出は時間厳守です。直前にアップしようとすると、回線が混み合ったりして提出ができないことがあります。時間に余裕をもって提出してください。 ⑥何かわからないことがあれば質問してください。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZD107
講義コード	2HA000200
講義名	心とからだの健康学A組
担当者名	東浦　拓郎
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	心身の状態が良好で充実した日常生活を送ることは、大学生活における勉学やクラブ活動などで各人の可能性を最大限に伸ばすための必須条件である。また、卒業後の社会生活でも、個人の能力や特性を最大限に発揮して活躍するための基盤となるものである。「心とからだの健康学」では食事と栄養、健康的な睡眠法、身体活動の重要性、肥満の予防法、生活習慣病の予防法、メンタルケアなど幅広い内容からいくつかを取り上げて、健康に暮らすために必要な知識を、実学として科学的・体系的に理解する。
授業の内容	現代社会は生活の快適性、利便性と引き換えに、身体活動量の減少、食生活や生活リズムの乱れ、人間関係の希薄化など、心身の健康を損なうリスクが増加した。その結果、生活習慣病や精神疾患が急増している。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、身体的健康被害はもちろんのこと、閉塞感や孤立感、社会的分断という空気が漂っている。これらは本人のみならず、周りの家族、さらには社会にとっても大きな負担を強いられる社会問題である。本講義は、日本における健康問題の現状や心身の健康の保持増進に必要な「運動、栄養、休養」についての基礎知識を学び、自己の健康観について考える。また、実生活において応用できる実践例を紹介し、体験を通じて講義内容の理解を深める。
科目の到達目標 (理解のレベル)	1)現代社会における日本人の健康問題について、五大疾病(がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、精神疾患)を中心に理解する。 2)日本における健康づくり政策の歴史を学び、自己の健康づくりに必要な素養を修得する。 3)「運動・栄養・休養」が有機的に融合したスポーツ科学や健康科学を体系的に学び、自己の健康観を確立する。 4) 生活の質的充実の基盤となる「心とからだの健康」を保持増進させるための基本的な知識と実践力を修得する。
授業形態	講義
授業方法	授業の概ね1週間前に授業支援システム(manaba)で講義・解説資料の配布、事前学修課題(授業テーマに関連する用語調べ等)の提示を行う。受講者は指定期日まで(※授業前日17時)に事前学修課題を行い、授業に臨む。講義・解説資料はポイントとなる箇所が空欄となっており(虫食い状態)、授業時のスライドと口頭説明をもとに適宜メモを取り、自ら講義・解説資料の完成版を作成する。また、事後学修課題として、毎時の振り返りと理解度の確認を授業支援システム(manabaの小テスト機能、respon等)で行う。
授業計画	【第1回】 オリエンテーション(受講上の諸注意、現代の大学生だからこそ「心とからだの健康」を学ぶべき理由) 【第2回】 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)からヘルスリテラシーを考える 【第3回】 日本における健康問題と健康づくり 【第4回】 メタボリックシンドロームと生活習慣病 【第5回】 生活習慣病の予防・改善とダイエット 【第6回】 がん予防と生活習慣 【第7回】 現代社会と心の健康 【第8回】 心の健康づくりと身体活動・運動 【第9回】 少子高齢化と医療技術の進歩がもたらす認知症の問題 【第10回】 脳科学研究の最前線「身体活動・運動は認知症予防や学業成績の向上に効果的？！」 【第11回】 睡眠と心の健康、からだの健康 【第12回】 運動・スポーツと睡眠 【第13回】 授業のまとめ(自己の健康観や心とからだの健康のために今やるべきことを考える)及び確認テスト
事前・事後学修	事前・事後学修課題は授業支援システム(manaba、respon)を通じて提示・提出を行う。事前学修は授業テーマに関連する用語調べや討論のためのフレームワーク作りなどに取り組む。事後学修は授業内容の振り返りと理解度の確認を小テスト形式で行う。授業内容の理解と定着を図るため、必ず各自で取り組むこと。なお、事前・事後学修課題は成績評価方法・基準の欄に示す通り、評価の30%を占める。 質問等がある場合はメールで問い合わせること。
成績評価方法・基準	以下の4点から総合的に評価する。 1)平常点(50%):授業への取り組み(発言や受講態度、グループワークへの積極性、授業内課題及び確認テストによる授業内容の理解度)を評価。 2)事前学修課題(10%):授業支援システム(manaba、respon)を通じて提示される課題への取り組みを評価。 3)事後学修課題(20%):授業支援システム(manaba、respon)を通じて提示される課題への取り組みを評価。 4)学期末レポート(20%):学期末に提示されるレポート課題への取り組みを評価。

教科書・指定図書	指定の教科書はない。授業内容に関連する参考図書、ウェブサイトは授業支援システム（manaba）を通じて適宜紹介する。
履修上の留意点	1）履修希望者が多い場合は機械抽選による受講者数の制限を行うため、履修登録期間内に必ず登録をすること。また、抽選が実施された場合、ポータルから抽選結果の確認をすること。 2）「manaba」のコンテンツに「受講ガイダンス」資料を掲載するため、前期授業始業前に必ず確認しておくこと。 3）新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては対面授業を中止し、Zoomを利用したハイブリッド授業、あるいはオンライン授業へ移行する場合がある。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZD107
講義コード	2HA000210
講義名	心とからだの健康学B組
担当者名	鹿内　菜穂
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	心身の状態が良好で充実した日常生活を送ることは、大学生活における勉学やクラブ活動などで各人の可能性を最大限に伸ばすための必須条件である。また、卒業後の社会生活でも、個人の能力や特性を最大限に発揮して活躍するための基盤となるものである。「心とからだの健康学」では食事と栄養、健康的な睡眠法、身体活動の重要性、肥満の予防法、生活習慣病の予防法、メンタルケアなど幅広い内容からいくつかを取り上げて、健康に暮らすために必要な知識を、実学として科学的・体系的に理解する。
授業の内容	日本人の大きな関心事の一つが健康である。社会環境の変化に伴い、健康問題の様相は変化し、健康ブームまで叫ばれるようになった。何となく健康に対する不安を抱き、様々な健康情報に翻弄されるか、何となく健康が維持できていると考える人が大半ではないだろうか。しかし、私たちの日常生活における行動やライフスタイル、生活環境が、主要な健康問題とされる生活習慣病や心の病気に影響を及ぼしている。食事、運動、ストレス解消、休養、睡眠などの生活習慣を見直し、健康の維持・増進や疾病とその予防について考える。積極的に健康を獲得していこうとする姿勢は、自己実現を果たすチャンスも高める。心とからだの基礎知識を身につけ、健康との関わり方と自己管理について学んでいく。
科目の到達目標（理解のレベル）	1. 健康の維持・増進に必要な基礎知識と理論を幅広く身につけることができる。 2. 厚生労働省が発表している健康に関する日本の統計調査のデータを読み取り、社会における健康の問題点や課題を発見することができる。 3. 受講者自身のこれまでの生活習慣を見直し、改善するための方法を説明することができる。 4. 心身の状態が良好で健やかでいるために必要なことを、自分の言葉で説明することができる。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システム（manaba）より事前に配付した授業資料をもとに講義を行う。授業中は、各テーマに関する問いやアンケートを授業支援システム（respon）等を用いて行っていく。なお、回によっては、事前学修および課題をもとにグループディスカッションを行う。質問やわからないことがある場合は授業中に問い合わせること。また、課題は、授業担当者より伝えられた期日（授業時間中/指定日）までに提出すること。
授業計画	【第1回】 健康の概念 内容：ガイダンス、健康とは何か 【第2回】 健康づくりの施策 内容：現代社会の特徴と健康の現状、健康施策の変遷、健康日本21 【第3回】（グループディスカッション） 生活習慣病 内容：生活習慣病および関連する病気の判断基準、その予防と改善策 【第4回】 生活習慣に対する見直し 内容：第3回のグループディスカッションに対して補足説明 【第5回】 食と健康① 内容：栄養・食事の基本とからだの関係、食事の取り方・選び方 【第6回】 食と健康② 内容：肥満とやせ、メタボリックシンドローム 【第7回】 運動とからだの健康 内容：運動不足による心身の影響、運動継続の効果、体力向上による効果 【第8回】 睡眠と健康 内容：睡眠と生体リズム、睡眠の質、睡眠障害 【第9回】 心の健康① 内容：ストレス（反応）とストレッサー、ストレスコーピング 【第10回】 心の健康② 内容：心の回復と向上、精神障害と精神疾患の現状、うつ病の理解 【第11回】 健康と加齢の関係 内容：加齢による心身の変化、高齢者の体力、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、認知症

	【第12回】(グループディスカッション) ウイルス感染症 内容:主なウイルス感染症、その治療と予防 【第13回】 心とからだの関係 内容:授業の振り返りとまとめ、「健康」とは何かを考察する
事前・事後学修	各授業において、授業支援システム(manaba)より配付する授業資料を次回の授業までに読んでくること。 授業後は、課題に取り組むとともに、自身の日常生活を振り返りながら講義内容を整理すること。 得られた知識を生活習慣の改善に活かすために、シラバスに記載されているテーマに関する雑誌や書籍、テレビ番組、Webサイト、新聞記事など積極的に読み、情報の発信元および内容を精査・吟味しながら、日頃より健康に関心をもって授業に臨むこと。
成績評価方法・基準	平常点、中間課題、期末課題を総合的に評価する。 - 平常点(50%):授業中の問いやアンケートに対する取り組み、毎回のレポート課題、グループディスカッションへの参加度 - 中間課題(グループディスカッションのためのレポート)(20%):レポート課題(毎回の課題とは別に、レポート課題を2種類出す。内容および詳細は授業中に説明する。) - 期末課題(30%):最終課題としてのレポート(内容および詳細は授業中に説明する。)
教科書・指定図書	指定の教科書はない。manabaを通じて資料を配付する。
履修上の留意点	受講希望者が定員以上になった場合は、機械抽選により受講者数の制限を行う。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZD107
講義コード	2HA000220
講義名	心とからだの健康学C組
担当者名	鹿内　菜穂
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	心身の状態が良好で充実した日常生活を送ることは、大学生活における勉学やクラブ活動などで各人の可能性を最大限に伸ばすための必須条件である。また、卒業後の社会生活でも、個人の能力や特性を最大限に発揮して活躍するための基盤となるものである。「心とからだの健康学」では食事と栄養、健康的な睡眠法、身体活動の重要性、肥満の予防法、生活習慣病の予防法、メンタルケアなど幅広い内容からいくつかを取り上げて、健康に暮らすために必要な知識を、実学として科学的・体系的に理解する。
授業の内容	日本人の大きな関心事の一つが健康である。社会環境の変化に伴い、健康問題の様相は変化し、健康ブームまで呼ばれるようになった。何となく健康に対する不安を抱き、様々な健康情報に翻弄されるか、何となく健康が維持できていると考える人が大半ではないだろうか。しかし、私たちの日常生活における行動やライフスタイル、生活環境が、主要な健康問題とされる生活習慣病や心の病気に影響を及ぼしている。食事、運動、ストレス解消、休養、睡眠などの生活習慣を見直し、健康の維持・増進や疾病とその予防について考える。積極的に健康を獲得していこうとする姿勢は、自己実現を果たすチャンスも高める。心とからだの基礎知識を身につけ、健康との関わり方と自己管理について学んでいく。
科目の到達目標（理解のレベル）	1. 健康の維持・増進に必要な基礎知識と理論を幅広く身につけることができる。 2. 厚生労働省が発表している健康に関する日本の統計調査のデータを読み取り、社会における健康の問題点や課題を発見することができる。 3. 受講者自身のこれまでの生活習慣を見直し、改善するための方法を説明することができる。 4. 心身の状態が良好で健やかでいるために必要なことを、自分の言葉で説明することができる。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システム（manaba）より事前に配付した授業資料をもとに講義を行う。授業中は、各テーマに関する問いやアンケートを授業支援システム（respon）等を用いて行っていく。なお、回によっては、事前学修および課題をもとにグループディスカッションを行う。質問やわからないことがある場合は授業中に問い合わせること。また、課題は、授業担当者より伝えられた期日（授業時間中/指定日）までに提出すること。
授業計画	【第1回】 健康の概念 内容：ガイダンス、健康とは何か 【第2回】 健康づくりの施策 内容：現代社会の特徴と健康の現状、健康施策の変遷、健康日本21 【第3回】（グループディスカッション） 生活習慣病 内容：生活習慣病および関連する病気の判断基準、その予防と改善策 【第4回】 生活習慣に対する見直し 内容：第3回のグループディスカッションに対して補足説明 【第5回】 食と健康① 内容：栄養・食事の基本とからだの関係、食事の取り方・選び方 【第6回】 食と健康② 内容：肥満とやせ、メタボリックシンドローム 【第7回】 運動とからだの健康 内容：運動不足による心身の影響、運動継続の効果、体力向上による効果 【第8回】 睡眠と健康 内容：睡眠と生体リズム、睡眠の質、睡眠障害 【第9回】 心の健康① 内容：ストレス（反応）とストレッサー、ストレスコーピング 【第10回】 心の健康② 内容：心の回復と向上、精神障害と精神疾患の現状、うつ病の理解 【第11回】 健康と加齢の関係 内容：加齢による心身の変化、高齢者の体力、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、認知症

	【第12回】(グループディスカッション) ウイルス感染症 内容:主なウイルス感染症、その治療と予防 【第13回】 心とからだの関係 内容:授業の振り返りとまとめ、「健康」とは何かを考察する
事前・事後学修	各授業において、授業支援システム(manaba)より配付する授業資料を次回の授業までに読んでくること。 授業後は、課題に取り組むとともに、自身の日常生活を振り返りながら講義内容を整理すること。 得られた知識を生活習慣の改善に活かすために、シラバスに記載されているテーマに関する雑誌や書籍、テレビ番組、Webサイト、新聞記事など積極的に読み、情報の発信元および内容を精査・吟味しながら、日頃より健康に関心をもって授業に臨むこと。
成績評価方法・基準	平常点、中間課題、期末課題を総合的に評価する。 - 平常点(50%):授業中の問いやアンケートに対する取り組み、毎回のレポート課題、グループディスカッションへの参加度 - 中間課題(グループディスカッションのためのレポート)(20%):レポート課題(毎回の課題とは別に、レポート課題を2種類出す。内容および詳細は授業中に説明する。) - 期末課題(30%):最終課題としてのレポート(内容および詳細は授業中に説明する。)
教科書・指定図書	指定の教科書はない。manabaを通じて資料を配付する。
履修上の留意点	受講希望者が定員以上になった場合は、機械抽選により受講者数の制限を行う。
更新日	2023/03/16

開設	全学共通科目
科目ナンバー	ZD121
講義コード	2HB001400
講義名	人体の構造と機能
担当者名	長浜　尚史
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/H/E/L/I/C/U/D
備考	

科目の趣旨	この科目は、人体の構造と機能の基礎的な内容を理解し、私たちの日常生活においてそれらを役立てることができる能力を育成するものである。この科目の学問的な基礎となるものは、「解剖学」と「生理学」である。これらが扱う基礎的事項を、日々暮らしている私たち自身に当てはめて関連付けながら理解することで、自身の健康状態を正しく観察し、生活に科学的な視点を持つことができるようになる。
授業の内容	私たちのからだは、受精により誕生した受精卵が分裂を繰り返して増殖した約37兆個の「細胞」から構成される。それぞれの細胞は目的を持って集合し、上皮組織や神経組織といった「組織」となる。これらの組織は一定の配列のもと組み合わさり、特定の機能を営む小腸や肺といった「器官」を形成し、さらに、いくつかの器官が有機的に連携し消化器系や呼吸器系といった「器官系」を構成する。それぞれが独自の役割を持つこれらの器官系が協調して働くことにより、私たちは一つの「個体」として生命現象を営むことができる。 この授業では、私たち人間のからだが生物学的にどのような構造をしており、また、どのような機能を保持しているか理解するための学修をする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	1. 生理学や解剖学の基礎的な用語が説明できる。 2. 人体がどのような構造を持ち、またどのような機能を保持しているか説明できる。 3. 人体の構造と機能の知識が、日常生活を健康的に過ごすことに活用できることを説明できる。
授業形態	講義
授業方法	授業資料はmanabaで配布する。13回分の授業内容をまとめた「補助教材」は第1回目の授業までにダウンロードしておき、毎回の授業中及び授業外学修の際に活用する。毎回の「授業教材」は授業当日までにダウンロードして目を通しておく。 授業では「授業教材」をスライドで示しながら、人体の構造と機能に関する知識や考え方を深めるための講義を行う。そして、授業の最後にはresponによる小テストで知識の習得度を確認したり、学修の振り返りを行う。なお、効果的に授業を運営するため、Zoom等のオンラインツールを利用する場合がある。
授業計画	【第1回】ガイダンス、人体の構造と機能(全体像) 内容:一つの細胞が集まり、やがて個体が成立する多細胞の概念を理解する。そのほかに、履修上の注意点、課題の確認、成績評価の方法を説明する。 【第2回】恒常性の維持(体液、体温調節) 内容:体内の多くの細胞が生きられるように内部の環境を整える仕組みについて学ぶ。 復習問題:「塩分を摂りすぎると血圧が高くなりやすい理由をまとめなさい」。300字程度。 【第3回】生体の防御機構(免疫と抗体、アレルギー) 内容:自分以外のモノが体内に侵入してきたときに起こる反応、免疫系の仕組みについて学ぶ。 復習問題:「花粉症患者がくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの諸症状を起こす理由をまとめなさい」。300字程度。 【第4回】神経系の構成と機能(神経系の構成と機能、中枢神経系と末梢神経系) 内容:細胞間での情報伝達機能である神経系の仕組みについて学ぶ。 復習問題:「反射と反応の違いをまとめなさい」。300字程度。 【第5回】内分泌系のしくみと働き(ホルモンの特性、内分泌腺とホルモン) 内容:細胞間での情報伝達機能のもう一つの仕組みである内分泌系について学ぶ。 復習問題:「血糖値を調節するための内分泌系の働き(どのようなホルモンがどこから分泌され、どのように作用するのか)についてまとめなさい」。300字程度。 【第6回】血液の組成と機能(血液の成分と機能、血液凝固と線溶、血液型) 内容:細胞外液である血液が生体内で果たす役割と止血機能について学ぶ。 復習問題:「貧血の原因と診断基準、予防策についてまとめなさい」。300字程度。 【第7回】循環器系(心臓血管系の構造と機能、心臓と循環、血圧と血流) 内容:細胞外液である血液を体内に循環させる心臓や血管の働きなど、循環器系の仕組みについて学ぶ。 復習問題:「足が第二の心臓と言われる理由をまとめなさい」。300字程度。 【第8回】呼吸器系(呼吸器の構造、呼吸調節と制御) 内容:体外から酸素を取り込み、代謝産物である二酸化炭素を排出する呼吸器系の仕組みについて学ぶ。 復習問題:「呼吸(外呼吸)の仕組みをまとめなさい」。300字程度。 【第9回】運動器系(骨と関節、骨格筋の構造と機能、身体各部の骨と筋) 内容:運動の発現に必要な骨格、関節、筋肉や腱の構造や機能と、エネルギー供給系について学ぶ。 復習問題:「動き続けるためには呼吸が大事」と言われる理由を、エネルギー供給系の観点からまとめなさい」。300字程度。 【第10回】消化器系、代謝(消化管の構造と機能、肝臓、膵臓、胆のうの働き、栄養と代謝) 内容:摂取した飲食物が分解・消化され吸収されるまでの仕組みについて学ぶ。 復習問題:「内服薬よりも座薬のほうが、効き目が早くあらわれやすい理由をまとめなさい」。300字程度。 【第11回】泌尿器系(尿の生成と排泄) 内容:体内の水分量を調節したり、不要なものを体外に排泄したりする泌尿器系の仕組みについて学ぶ。 復習問題:「腎不全患者に人工透析(血液透析)が必要な理由をまとめなさい」。300字程度。 【第12回】感覚器系(感覚、感覚器の構造と機能)

	内容：からだの内外からの刺激が情報としてどこに集まり、どのような経路で認識されるのか、感覚器系の仕組みについて学ぶ。 復習問題：「コンタクトレンズの長時間着用が眼に好ましくない理由をまとめなさい」。300字程度。 【第13回】生殖と老化（生殖器の構造と機能、老化） 内容：種を後世に繋ぐという生物の基本について学ぶ。併せて老化に伴い変化する身体の諸機能についても学ぶ。 復習問題：「特に女性が骨粗しょう症になりやすい理由をまとめなさい」。300字程度。
事前・事後学修	事前学修として、毎回の授業でどのような内容を学ぶのか、配布されている資料をあらかじめ読んでおく。そして、重要と思われるキーワードをノートに50～100 字程度でまとめておく。また、十分に理解できないことについて、授業で確認できるように印をつけておく。 事後学修として、講義で学んだことを思い出し、補助教材、授業教材、参考図書、授業時に取ったメモをもう一度見直す。そして、授業計画に示した復習問題に取り組み、次の授業で発表できるようにしておくこと。
成績評価方法・基準	以下３点から、総合的に評価する。 1. 平常点（授業中の小テスト、コメントなど）：20% 2. 課題レポート：30% 3. 学期末試験：50% 具体的な「科目の到達目標」に対する評価方法・評価基準は以下の通りである。 到達目標1：平常点（10%）、学期末試験（20%） 到達目標2：平常点（10%）、課題レポート（10%）、学期末試験（30%） 到達目標3：課題レポート（20%） レポート評価の視点：内容が大切なことはもちろんだが、資料を利用した場合は引用箇所がわかるようにすること。そして、参考文献リスト（インターネットからの場合はURLと閲覧日）もつけること。参考文献リストを掲載しなかったり、引用した箇所を明確に示さずにコピー＆ペースト、あるいは言い回しを多少変えた程度のものは剽窃行為として評価対象外、もしくは著しく評価が低くなる場合がある。
教科書・指定図書	指定の教科書はない。配布資料のほか図書館やインターネット（正確な情報が示されているサイト）などから必要な情報を入手すること。
履修上の留意点	1. この科目はスポーツ科学副専攻の登録者を優先する。 2. 履修希望者が定員以上になった場合は、事前に機械抽選によって履修者を決定する。 3. 既習、履修を推奨する関連科目 ・スポーツ科学概論、スポーツ生理学、スポーツトレーニング論、スポーツの測定と評価
更新日	2023/03/16